

スペースデザイン ISSN 0563-0991
第421号1999年10月1日発行(毎月1回1日発行)
昭和40年2月5日第三種郵便物認可

Space Design

SD

9910
Monthly Journal of Art and Architecture

東京リノベーション

Tokyo Renovation

アーティスト、クリエイターのオフィス、アトリエ、ショップ
リノベート先駆者の哲学

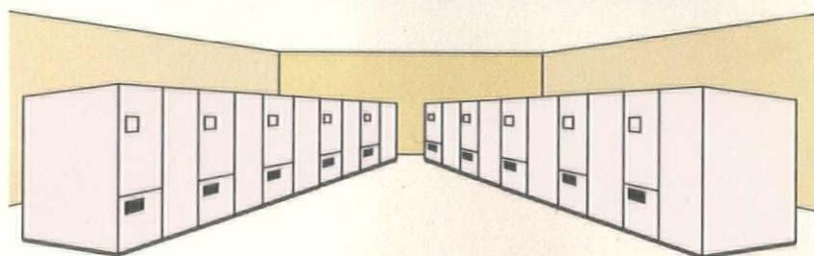
東京リノベーションマップ 東京空き倉庫／工場マップ
ガソリンスタンド再生計画

隅田川再生とリバーサイドスペース

Reviving the Sumida and Riverside Space

ビル空調機リニューアル 合理化委員会の評決です。

スーパーアロエースの ロッカー設置



YAZAKIの吸収冷温水機スーパーアロエースは、コンパクトなユニット設置タイプです。場所を取らず、ロッカーのように整然と並べて設置できます。エレベーターや階段から容易に搬入でき、工期の大幅な短縮が可能。ビル空調機のリニューアルに最適です。

ユニット形冷温水機のパイオニア

ロッカー設置に最適な スーパーアロエース

矢崎総業株式会社

Y-CITYワールドヘッドクォーターズ：〒410-1194 静岡県裾野市御宿1500 TEL0559(65)3002
空調機器事業部：〒435-8575 静岡県浜松市子安町1370 TEL053(461)5112

札幌支社 011 (852) 2914	仙台支社 022 (284) 9115	東京支社 03 (3298) 3140
名古屋支社 052 (833) 8415	北陸支社 0764 (41) 6516	大阪支社 06 (6458) 4825
中国支社 082 (923) 2115	四国支社 087 (833) 3336	九州支社 092 (411) 4835



快適さは…安全、確実が基本。

快適な環境づくりに、 豊かな経験。



●技術と伝統の…

内線工事 ■ 外線工事

東光電気工事株式会社

本社 〒101-8350 東京都千代田区西神田1-4-5 TEL.(03)3292-2111

支社所在地／札幌・仙台・大宮・千葉・丸の内(東京)・新宿(東京)・横浜・名古屋・大阪・広島・福岡

National/Panasonic

A

AUDIO
音響システム

V

VISUAL
映像システム

&C

COMMUNICATION
通信システム

C

COMPUTER
コンピューターシステム

F

FOOD
食品流通システム

L

LIGHT
照明システム

A

AIR & AQUA
空調・水管理システム

P

PASSAGE
搬送システム

S

SOFTWARE &
SYSTEM
ソフトウェア・システム

ここにはあります人と自然と技術の調和が

松下電器産業の建設エレクトロニクス技術は人に優しい環境創造を目指してシステム開発に取り組んでいます。そこには人と人・情報・空間をコンセプトに、明日の夢を描くまちづくりの思いがあります。

松下電器産業株式会社

建設システム営業本部	☎03-5460-2931
北海道支店	☎011-207-7722
東北支店	☎022-711-3551
新潟支店	☎025-246-1031
関東支店	☎0286-37-2241
神奈川支店	☎045-651-5051
建設システム営業本部中部支店	☎052-951-6010
長野支店	☎0262-26-3990
北陸支店	☎0762-23-1121
静岡支店	☎054-247-5155
建設システム営業本部関西支店	☎06-6949-2111
中国支店	☎082-247-5272
四国支店	☎0878-26-1711
九州支店	☎092-431-1100
沖縄支店	☎098-869-2926

より快適な
水環境を
めざして。



文明の栄えた土地には、必ずといっていいほど豊かな水がありました。
自然に恵みを与え、生命を育み、人々の暮らしをうるおしてくれる“水”。
地球規模の環境汚染が問題となっている今、
西原は、都市のより快適な水環境の創造を通して、
社会に貢献してまいります。

水と人のあいだに
NISHIHARA

株式会社 西原衛生工業所

東京都港区芝浦3-6-18 TEL.(03)3452-7441大代表 支店/札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋 事業内容/給排水衛生設備、冷暖房設備、消火設備の設計、施工

もう一つのカジマを知ってください。

高層のビルを建てる。巨大なダムを造る。長い海底トンネルを掘る。確かにカジマの仕事ですが、しかしそれは、

ほんの一面にすぎません。私たちが四六時中生活する住まいの、

ここにも、あそこにも、意外なところにカジマの仕事が隠れています。

毎日が健康で、安心で、しかも快適に暮らせるために、

マンションや住宅用につくられた沢山の建材や工法たち。環境に配慮しつつ、

これからの高齢化する社会に向けて、カジマは何ができるのか。

そんな気持ちで、住空間に役立つ商品を開発しています。



健康に暮らせる住まいづくりへ。

住まいは健康を大きく左右します。湿気や結露、カビなどの発生は住まいを損なうだけでなく、そこに暮らす

人々の健康にも影響を与えます。鹿島は、空気中の水分を吸ったり吐いたり、脱臭機能ももつ天然素材「ゼオライト」に注目。耐火性にも優れたこのゼオライト建材は、室内の湿度を一年中快適な状態に保ち、健康住宅を実現する夢の建材です。



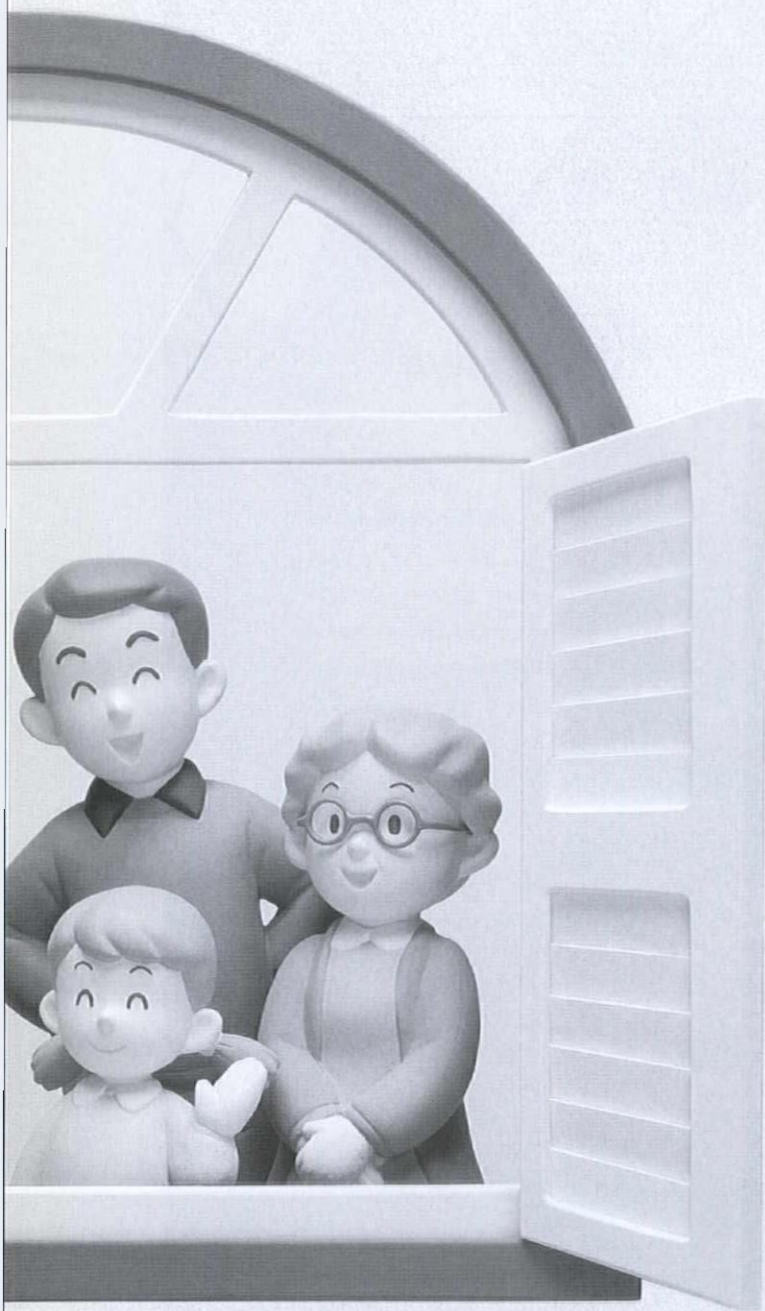
自然を身近に感じる快適環境づくりへ。

ガーデニングを楽しむ人がたいへんな勢いで増えています。庭やベランダで自然を楽しむの

はとて素晴らしいこと。鹿島の「ケイソイル」「草花名人」は、バルコニーや屋上庭園にぴったりの、軽くて保水性の高い人工土壌です。重さの条件が厳しい屋上やベランダ、バルコニーでも、緑豊かな自然を育てることができ、生活に潤いを与えます。



ひとのふだんへ。



地震や火災に負けない安心空間づくりへ。

住まいを考えるとき、地震への対策が不可欠です。壊れない住まいを目指すのであれば、構造を強くすれば解決します。しかし、家具の転倒などによる被害は防ぐことができません。鹿島の「戸建住宅免震システム」は、建物と基礎との間に設置するボールベアリングを活用。建物に伝わる地震エネルギーを1/5以下に減らし、安全で安心な住まいを実現します。



100年をつくる会社

鹿島

KAJIMA CORPORATION

本社:東京都港区元赤坂1-2-7 ☎107-8388

ホームページ <http://www.kajima.co.jp/>

四季宴会

KARUIZAWA
MEETING
& PARTY



軽井沢
ホテル 鹿島ノ森
ホテルオークラチェーン

ご予約お問い合わせ:
ホテル 鹿島ノ森 予約係
☎ 03(3478)6220
現地 ☎ 0267(42)3535(代)
FAX: 0267(42)5335



ロビーラウンジ

ようこそ、クラシカル・エレガントな世界へ。

19世紀初頭のヨーロッパ様式で統一された本格的都市型ホテル。

すべてのファシリティに調度品に、そしてきめ細やかなおもてなしに漂う欧州の美意識。

ドアマンに迎えられホテルに一步脚を踏み込めば、
あなたの新しい物語がはじまります。

(客室&施設)

●ビジネス向き、女性向き、観光、ファミリー、個人滞在用と、目的に応じて選べる全404室。
(シングル¥15,000～ ツイン¥25,000～) ●ジャグジー、ヒーティングルームなどを付帯した
2,000㎡の“ガーデンプール”。●クラシカルなインテリアや絵画で統一された趣のあるロビー。
●個性的なステンドグラス、パイプオルガンを配したチャペル(3F)。ガーデンプールの一角
に設けられたガーデンチャペル(5F屋外)。厳肅な神殿(八幡殿=やひろでん)(3F)。●最
大800名様まで可能な大宴会場(永代)、中、小、さまざまな8つの宴会場。●最新設備を完
備したビジネスセンター。●心身の健康管理と増進、心の交流を目的とした新しいタイプの
ヘルスクラブ“ジ・イースト”。●都内初のホテル直結型多目的ホール“イースト21ホール”。

(レストラン&バー)

●フランス料理を主としたコンチネンタル料理……………【プラスリー ハーモニー(2F)】
●本格的広東料理……………【中国料理 桃園(2F)】
●アフリカンムードのメインバー……………【バー エレファント(2F)】
●旬の素材が織りなす食の芸術……………【日本料理 さざんか(21F)】
●四季折々の味覚…【鉄板焼 木場(21F)】 ●心に残る夜景…【カクテルラウンジ パノラマ(21F)】



チャペル



地下鉄東西線「東陽町駅」より徒歩7分。
東陽町駅～ホテル間、ホテル専用シャトルバス運行。

株式会社 鹿島ホテルエンタプライズ
KAJIMA HOTEL ENTERPRISES, LTD.

ホテル イースト21東京

〒135-0016 東京都江東区東陽6-3-3
TEL 03(5683)5683代 FAX 03(5683)5775



大興物産の海外建材シリーズ

No.6 木製品(ツーバイフォー, 集成材)



大興蓼科山荘

大興物産は、米国ツーバイフォーシステム用各種部材をパッケージ輸入しており、企画段階から調達・施工段階までトータルなコーディネーションを致します。

お問い合わせは、大興物産株式会社・海外調達部まで。
〒107-8318 東京都港区元赤坂1-5-31(新井ビル) TEL 03-5474-6054 FAX 03-5474-6386

建設資機材の総合商社 鹿島グループ 大興物産株式会社

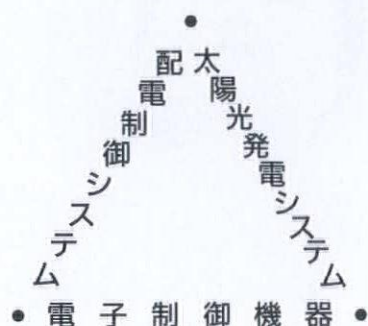
本 社 〒107-8307 東京都港区元赤坂1-6-4 安全ビル

本 社 ☎(03)5474-6060 FAX(03)5474-6076
東京支店 ☎(03)5474-6072 FAX(03)3423-1915
横浜支店 ☎(045)212-3925 FAX(045)212-3996
名古屋支店 ☎(052)961-6171 FAX(052)961-6179
大阪支店 ☎(06)6762-5661 FAX(06)6762-1074

札幌営業所 ☎(011)231-6841 FAX(011)222-4074
東北営業所 ☎(022)219-6861 FAX(022)219-6867
関東営業所 ☎(03)5632-6717 FAX(03)5632-6719
北陸営業所 ☎(025)247-2286 FAX(025)243-5248
広島営業所 ☎(082)249-9221 FAX(082)249-9270

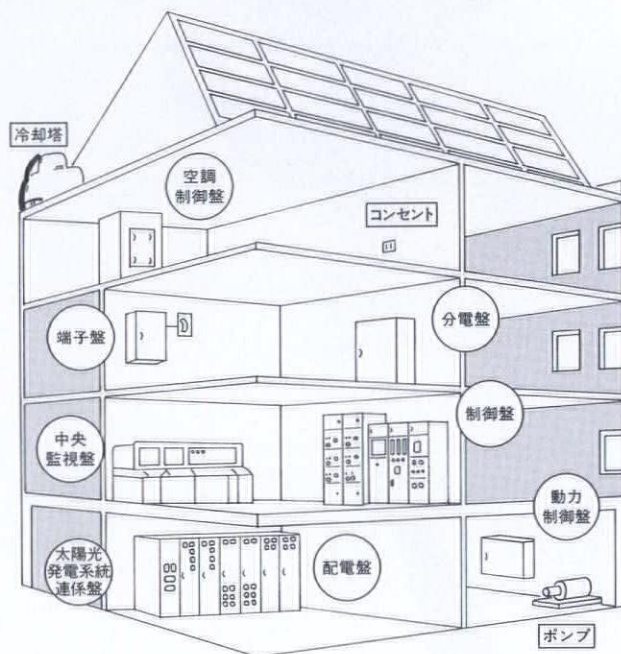
四国営業所 ☎(0878)39-3191 FAX(0878)35-4722
九州営業所 ☎(092)441-2624 FAX(092)471-7996
シンガポール
オフィス ☎65-3440590 FAX65-3446714

見えない電気を交通整理 それはKAWADEN



川崎電気株式会社

- 東京本社／東京都港区芝浦3-7-4
- 本社／山形県南陽市小岩沢225



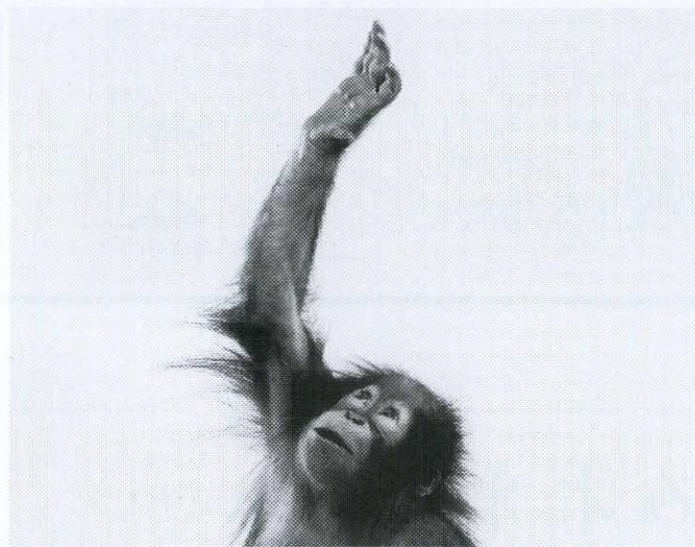
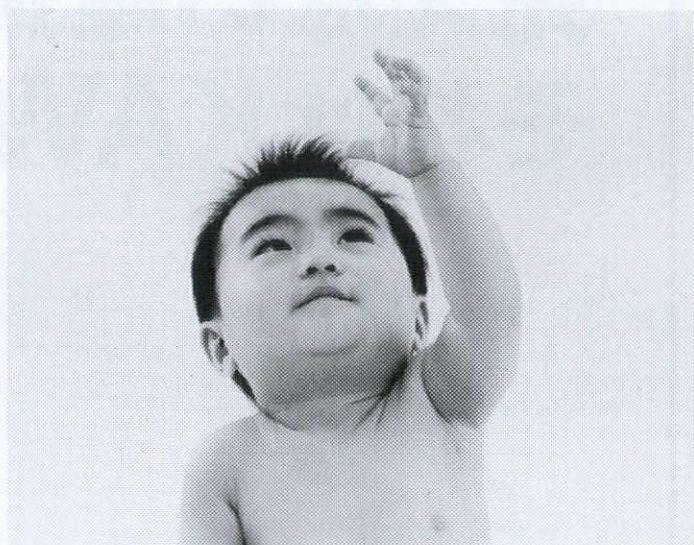
確かな歩み未来まで……



総合設備の設計施工 電気・情報通信・計装・空調・給排水・水道施設

株式会社 中電工

本店／広島市中区小網町6番12号 TEL (082) 291-7411
支店／広島・岡山・山口・島根・鳥取・東京・大阪



大切なのは、 何かをつかもうとする心。

電気は光・熱・情報・音響などに姿を変え、私たちの暮らしを支えています。関電工はこうした電気を、住宅で、オフィスで、劇場で、工場で、環境への配慮と安全性を第一に具体的なシステムや設備のカタチでお届けしています。そしてつねに、さらなる可能性を広げようと、新たな夢を描き、日夜さまざまな研究を続けています。今までも、これからも、関電工の技術はいつもあなたの近くにいます。

いつも、人に優しい技術で未来へ。

関電工

本社：〒108-8533 東京都港区芝浦4丁目8番33号
☎：NTT 03(5476)2111 TTN 03(4431)2111

9911

特集

ジャパニーズ・インディーズ

—家具／プロダクツ・デザイン'90s

自分が気持ちよくなる、好きになれるデザインを、自分でデザインする。そんな気分から生まれた現在の家具／プロダクツをフィーチャーする。

[Materiality] parabolart 黒田潤三

[Stranger——イメージのアプリケーション・ギャップ] まめ／とうふ／まんじゅうチェア：南雲勝志
ハンバーガーチェア／おむすびチェア：小泉誠

[No Design——システムがつくるデザイン] Lチェア：青山玲

[インターフェイスとしてのヒフ感覚] (1) Sensoreality 触感／Tokyo Minimal Life：EXIT

(2) Interactive 感応／36℃：Flask

[Re-Design/Re-Duce——ミニマルライフのリアリティと合理化感] 配水管の店舗什器：西堀晋

Sephora Candle：東海林小百合 KATO／紙管ダウンライト；スキーマ建築計画

[Fanatic——私的なこだわり感] スタンドライト：中村竜哉

他

■デザイナーズ・ファクトリー：自家生産・自家流通のデザイン——Ross McBride、原ななえ

■インディーズ・デザイン・ショップ

ショップを軸にインディーズ家具の生産から流通までの状況を俯瞰する：trico、E&Y、IDEE、Time & Style

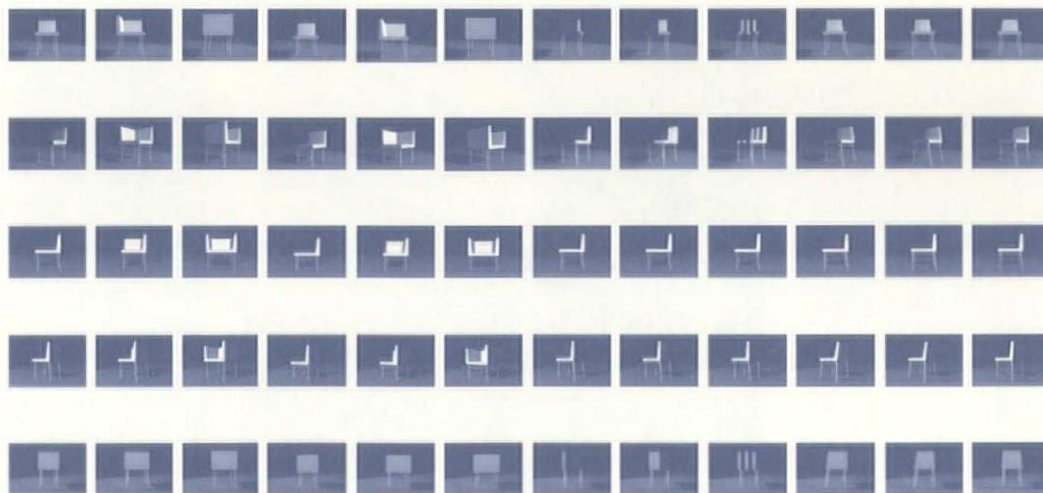
■インディーズ・デザイン・Web一覧

連載：

エントロピーの森——都市のインフラストラクチャ11 写真＝ハイナー・シリング 文＝山形浩生

カルチャー・カフェ——今月の舞踏・映画 文＝多木浩二、浜野保樹

Listed L：青山玲



9908

特集

階段

BEYOND FUNCTION

階段には、上下の階を繋ぐという機能を超えた何か詩的な雰囲気漂っている。そこには、明快な役割を担っているからこそ、逆に人々の心を惹きつけるたくさんの余白が存在しているのではないだろうか。本特集では、近年の国内の階段を「起伏」、「移ろい」、「軽み」、「天空」といった4つのキーワードで緩やかに分節しながら紹介する。

●作品＝新津市美術館／横山正＋アルセッド建築研究所、岐阜県営住宅ハイタウン北方南ブロック妹島棟／妹島和世建築設計事務所＋山清設計、木村邸／インテンショナルリーズ／大堀伸、F5／石田敏明建築設計事務所、White Echoes／米田明／アーキテクトン、清涼山雲源皇寺透静庵／山口隆建築研究所、梅ヶ丘の住宅／佐藤光彦建築設計事務所

●シネマの中の階段——ドラマの喚起装置 文＝渡辺武信

●階段をめぐるカメラ・アイ 文、写真＝下村純一

連載：

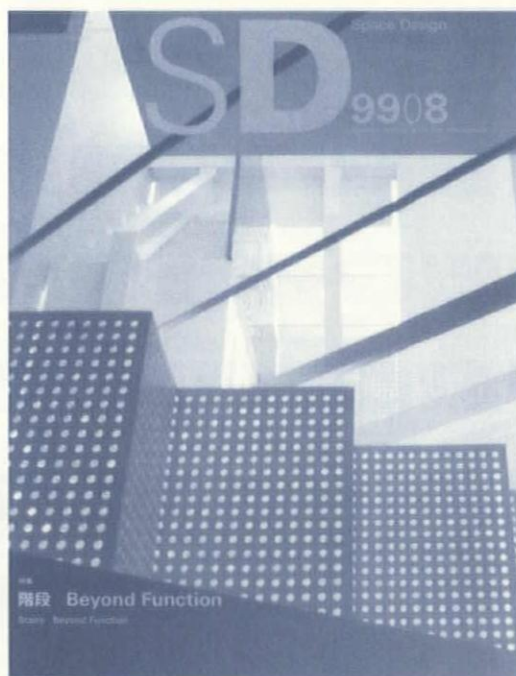
エントロピーの森——都市のインフラストラクチャ8

写真＝ハイナー・シリグ 文＝山形浩生

カルチャー・カフェ——今月の音楽・映画

文＝ピーター・バラカン、鶴沢隆

定価＝2000円／本体1905円



9909

特集1

ベルリン・トポグラフィ

Berlin Topography

今世紀最後の首都移転が展開されているベルリンの、ハイポテンシャルな状況をドキュメントする。

●解説文＝内山佳代子 ●写真＝アンナ・フェラー

●文＝杉本俊多、山下昌彦、飯島洋一

●インタビュー＝D.リベスキンド、K.ファイライス、J.クライフス、F.ノイマイヤー／インタビューア＝花田和幸

特集2

個性の彩る集住群

長野市今井ニュータウンの試み

建築家7グループが競演した今井ニュータウン。集住建築とまちづくり、建築家のコラボレーションの可能性を探る。

●設計＝新居千秋、長谷川逸子、内藤廣、富永譲、松永安光、元倉真琴、遠藤剛生、他

●文＝渡辺定夫、植田実 ●写真＝堀内広治

連載：

エントロピーの森——都市のインフラストラクチャ9

写真＝ハイナー・シリグ 文＝山形浩生

カルチャー・カフェ——今月の舞踊・演劇

文＝尼ヶ崎淋、清水裕之

定価＝2000円／本体1905円



鹿島出版会
東京都港区赤坂6-5-13
電話：03-5561-2550
振替：00160-2-180883
Home Page Address：
http://www.kajima-publishing.co.jp/group/publish/
index.htm
年間定期購読料
26,000円（特別定価号+消費税、送料込み）

SD

Space Design

SDバックナンバー常備店
東京
八重洲ブックセンター 03-8231-8203
三省堂本店（神田）03-3233-3314
書泉ブックマート 03-3294-0011
紀伊国屋本店 03-3354-0131
大盛堂書店 03-3463-0511
大阪
旭屋書店本店 99-999-9999

柳々堂 06-443-0167
札幌／旭屋書店 011-241-3007
横浜／有隣堂本店 045-261-1231
京都／大融堂書店 075-231-3036
大学生協内書店
東北工業大学 東京工業大学
法政大学工学部 早稲田大学理工学部
関東学院大学

9711 隈研吾 2800円
ポストモダン以降の建築における言説を続ける隈研吾。今年建築学会賞、ヴェネディクタス賞を受賞した近作を紹介する。野雲公園、他。文＝飯島洋一、グレッグ・リン、対談＝横文彦×隈研吾

9712 SDレビュー1997 2000円
第16回SDレビュー誌上発表。建築研究室高安重一事務所＋佐々間達也＋橋爪宏直＋重富博之、川人洋志、藤本壮介、松澤雅、他。[光と色が彩る空間——チェコのガラスアーティストたち] 写真＝鈴木豊

9801 SDレビューの15年 2800円
これまでのSDレビューを一挙に振り返る。出版作、建築界での意義などを再確認し、今後の方向性を探る。文＝横文彦、原広司、飯島洋一、中筋修、他。座談会＝元倉眞琴＋鈴木二＋栗生明＋小嶋一浩

9802 都市へ向かう透明性：
スイス・ドイツ語圏の建築 2200円
スイス建築の背景、建築の生まれる文脈を捉えながらその魅力を探る。文＝貝島桃代、ハンス・フライ、他。往復書簡＝篠原一男×ヘルツォーク&ド・ムロン

9803 表層革命再考：チェコ・キュビズム建築 2000円
現存するプラハのキュビズム建築を掘り下ろし写真により紹介する。撮影＝鈴木豊。[香山壽夫のドローイングと空間] 文＝香山壽夫、八木幸二、鈴木梅、青木淳

9804 次世代のマルチ・アーキテクトたち 2000円
30歳代の若手建築家たちの作品と創作活動を紹介し、時代性を浮かび上がらせる。インテンシオナリーズ、みかんぐみ、他。[デスクトップ・コミュニティ]

9805 空間演出の最前線 2000円
建築家とデザイナー、アーティストとのコラボレーションの具体例を紹介。藤江和子、中村綿平、新宮晋、他。[カーロとリベラの家] ファン・オゴルマンの建築とメキシカン・モダン

9806 風景創出の現在：
ランドスケープ・アーキテクトの挑戦 3000円
風景創出の現在：ランドスケープ・アーキテクトの挑戦
「公共的な価値」によって自然の風景と区別され、積極的な社会性が意図されている事例を紹介。佐々木葉二、ブレイスメディア、三谷徹、登坂誠、他。

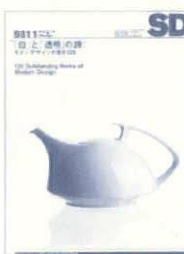
9807 シーラカンス 2600円
彼等の12年間の建築活動の軌跡を、作品紹介を中心に振り返る。作品＝吉備高原小学校、大阪市水上消防署、(仮称)外ヶ岡交流拠点施設、他。論文＝原広司、土居義典、インタビュー＝山本理顕

9808 光のデザイン・ヴォキャブラリー：
LPAの仕事1990-1998 2500円
LPAのデザイン言語を40に厳選して紹介する本書は、光が生み出す空間を全般的に考察する本格的な照明バイブルである。文＝磯崎新、面出薫

9809 ディテールが創る風景：
細部に宿る美と技巧 2000円
建築作品のディテールを写真と図面で紹介する。崎崎浩ノPlants Associates、渡辺明設計事務所、竹中工務店、谷口建築研究所、KAJIMA DESIGN、他。



9810
オフィス環境の近未来
最新のオフィス環境を、事例を中心に紹介する。作品＝電通インタラクティブ・ソリューション・センター、他。文＝仲隆介、他。
[京町屋再生の手法——時を超えて生きる空間を求めて]
2000円



9811
「白」と「透明」の詩：
モダンデザインの秀作135
白い陶磁器と透明ガラスで出来た日常生活の中の小モノたち135点を紹介する。カシ米尔・マレービッチ、ゲートルード・ヴェースガルト、柳宗理、他。
3000円



9812
SDレビュー1998
第17回SDレビュー誌上発表
小特集4題：[シャルロット・ベリアン] [「ハブニング」展] [アアルトの空間構成] [メタルシート・ストラクチャーによる遠藤秀平の近作]
2000円



9901
環境共生の現在
プロジェクトを紹介しながら近年の動向を俯瞰し、次世代のヴィジョンを示唆する。
エムシャーパーク、東京ガス（アースポート）、世田谷区環境共生住宅、2005年国際博覧会構想案、他。
2700円



9902
ダッチ・モデル：
建築・都市・ランドスケープ
オランダの都市・社会のシステムを5つのキーワードによって探る。OMA、MVRDV、West8、クーン・ファン・フェルゼン、メカノ、ケース・クリスティアーン、他。
2000円



9903
木の空間
木素材による快適建築
次世代スタンダードを示唆する木の使われ方を紹介する。趙海光、インテンシオナリーズ、河西立雄、葛西潔、みかんぐみ、H DESIGN、他。
2000円



9904
ガウディの愛弟子ジュジョールの夢
ジュジョールの選んだ作品を、写真とオリジナル・ドローイングで紹介する。撮影＝鈴木久雄、文＝丹下敏明、他。[ドナルド・ジャッド：空間と認識のコンシステンシー]
2000円



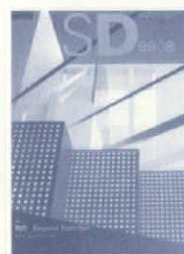
9905
挑発するマテリアリティ：
素材の進化とデザインの可能性
国内外における素材と技術のデザイン事例を取り上げながら、そのデザインに隠された素材の応用の「手法」、「技術」を分析する。
素材史年表、素材地図1999、他。
2500円



9906
小川晋一
Transbody / Super traffic
小川晋一の13年間の仕事を、実作、計画案、展覧会への出品作品を通して紹介する。作品＝キュビストの家、ミニマリストの家、他。文＝島沢隆、岡河貢、小川晋一、他。
2000円



9907
学校建築：
個性を育む環境創出へ向けて
学校建築設計の手引きとして、今後の学校建築に求められる事項を解説し、実例を現地リポートを交え紹介する。文＝上野淳、他。座談会＝堀昭代十佐藤学十船越徹十嶋一浩十上野淳。
2500円



9908
階段
Beyond Function
近年の国内の階段、21作品を、「起伏」、「移ろい」、「軽み」、「天空」といった4つのキーワードで緩やかに分類しながら、階段をめぐる詩集のような形で紹介する。文＝渡辺武信、下村純一。
2000円



9909
ベルリン・トポグラフィ
今世紀最後の首都移転が展開されている、ハイポテンシャルな状況をドキュメントする。文＝内山佳代子、杉本俊多、山下昌彦、飯島洋一、花田和幸、他。
個性の彩る集住群：長野市今井ニュートウンの試み
2000円



9806 Landscape Creation Today:

The Challenges for Landscape Architects Introduces landscaping set apart from the natural environment and purposefully designed to serve society. Architects introduced are Yoji Sasaki, PLACEMEDIA, Hiroki Hasegawa, Toru Mitani, Makoto Noborisaka, N. Finley+M. chiba, Ken Smith, Kyathryn Gustafson, Douglas Reed, etc. ¥3,000



9807 Coelacanth Architects:

Traces their activities over twelve years, mainly through introduction of their works. Kibikougen Elementary School, Suijo Fire Station of Osaka City, Sotogaoka Exchange Forum, etc. Text: Hiroshi Hara, Yoshitake Doi. Interview: Riken Yamamoto ¥2,600



9808 Design Vocabularies of Light:

LPA Works 1990-1998

Introducing a selected list of 40 concepts from LPA's design vocabulary, this book is a bible of illumination lore for the overall study of space created by light. Text: Arata Isozaki, Kaoru Mende ¥2,500



9809 The Landscape of Detail:

Its Art and Techniques

Introduces the details of architectural works with photos and drawings. Hiroshi Miyazaki, Akira Watanabe, Takenaka Corporation, Yoshio Taniguchi, Kajima Design, Shinichi Ogawa, Waro kishi, Fumihiko Maki, Yoshihiko Iida. ¥2,300



9810 Office Environments for the Near Future:

Introduces recent developments in office environment design through specific examples. Works: Dentsu Interactive Solution Center, etc. Text: Ryusuke Naka, etc. **Machiya Restored: The Future of Central Kyoto and The Development of Machiya Restoration** ¥2,000



9811 135 Outstanding Works of Modern Design:

Introduces 135 coffee and tea services, glassware, and other utensils made of white ceramic or clear glass. KasimirMalevich, Gertrud Vasegaard, Trude Putri, Wilhelm Wagenfeld, Josef Hoffman, Peter Schlumbohm, etc. Text: Sori Yanagi, Angelo Mangiarotti, Shukuro Habara, etc. ¥3,000



9812 SD Review 1998

The 17th Exhibition of Winning Architectural Models and Drawings. **Four Small Features:** Charlotte Perriand, Designer's Catalogue of "Happening", Aalto's Space Composition, Shuhei Endo's Recent Works in Metal Sheet Structure ¥2,000



9901 Sustainable and Ecological Design Today

Specific Projects that have achieved symbiosis with the environment provide a bird-eye view of recent trends and display the vision of the upcoming generation of architects. Emscher Park, Tokyo Gas "Earth Port", Setagaya-ku Fukazawa Symbiotic Housing, etc. ¥2,700



9902 The Dutch Model:

Architecture, Urban Design and Landscape

Explorations of Dutch cities and social systems in terms of five key words. OMA, MVRDV, West8, Koen van Velsen, mecanoo, Kees Christaanse, Wiel Arets, Benthem Crouwel, etc. ¥2,000



9903 Spaces of Wood:

The Elements of Comfortable Architecture

Introduces uses of wood construction materials that suggest next-generation standards. Cho Umihiko, Intentionallies, Tatsuo Kawanishi, Kiyoshi Kasai, MIKAN, H. DESIGN ASSOCIATES, etc. ¥2,000



9904 Josep Maria Jujol i Gibert's Vision:

Introduces the legacy of Jujol's work through photographs and original drawings.

Donald Judd: Consistency of Space and Cognition

¥2,000



9905 Alluring Materiality:

Evolution of Materials and Their Potential for Design

Takes up some examples of material and technical design from Japan and overseas and analyzes the applied methods and techniques hidden in the design. Also includes "A Chronology of Materials" and "The Map of Materials 1999." ¥2,500



9906 Sinichi Ogawa: Transbody / Super traffic:

Introduces 13 years of Sinichi Ogawa's achievements through Cubist House and Minimalist House and other completed works, plans, and works submitted to exhibitions. Text: Takashi Uzawa, Mitsugu Okagawa, Sinichi Ogawa, and others. ¥2,000



9907 School Architecture:

Toward Environments That Foster Individuality

Offered as a guide for the architectural design of schools, this issue comments on topics to be addressed in school architecture from now on, combined with on-site reports of specific examples. Text: Jun Ueno et al. ¥2,500



9908 Stairs: Beyond Function

Introduces 21 recent Japanese stair designs in the manner of a poetic anthology, dividing the works loosely in four categories: "undulation", "transition", "lightness", and "open above". Text by Takenobu Watanabe and Junichi Shimomura. ¥2,000



9909 Berlin Topography

The century's last transfer of a capital city is taking place. This issue documents the high potential of this move. Text: Kayoko Uchiyama, Toshimasa Sugimoto, Masahiko Yamashita, Youichi Iijima, Kazuyuki Hanada, and others. **Distinctive Housing Complexes: The Imai New Town Experiment in Nagano** ¥2,000



アルヴァ・アアルト

巨匠A.アアルトの全主要作品を掲載した総特集。A.アアルトのデザイン・ヴォキャブラリー：武蔵 章、アアルトの年表1899-1976、アアルト建築所在一覧。

3090円



高松 伸

高松 伸

88年度建築学会賞受賞作のキリンプラザ大阪を中心とし、1988年までの全主要作品を一挙掲載。精緻なる細部と大胆な素材の扱い、独特な造形により、磁き込まれた独自の作品を創り続ける高松伸の世界を紹介する。織澤 I、III、他。

3800円



機事務所のディテール/TEPIA

機械産業情報会館 (TEPIA) というハイテクの殿堂にふさわしいデザインを支える、精密かつダイナミックなディテールの仕組みを写真とドローイングの構成で解明する。横文彦のディテールとしては初の作品集。

6800円



菊竹清訓

メタボリスト菊竹清訓の初期から1980年までの作品集。第三世代の建築/とりかえ論1950-1960年/方法論の時代1960年-1970年/私の中の菊竹清訓の作品：内井昭雄、他/作品データ・主要作品分布図。年表、他。

3090円



早川邦彦

プロジェクト、商業施設、都市型複合建築、集合住宅、住宅、コンペ案まで、初期の作品から1988年までの全主要作品を一挙に紹介した早川邦彦の初作品集。SKY VILAGE、ラビリンズ、成城交差点の家、アトリウム、他。

4300円



磯崎新 ③ 1985-1991 part 1

キーワードを軸に自らの作品をいくつかの流れに分けて、つくばセンタービル以来、1985-1991年の作品群を紹介。水戸芸術館、サンジヨルディバレス、お茶の水スクエア、他。

4800円



白井 辰一

孤高の建築家・白井辰一の珠玉の作品集。懐疑館、ノアビル、聖アキラ館、昨宵軒、辰別山荘、虚白庵、他。論文＝磯崎新、計生一郎、浅野敏一郎、白井昌彦。座談＝大江宏＋藤井正一郎＋宮内嘉久。作品文献年表1935-1975年。

3605円



ドイツ表現主義の建築

1920年代のドイツを原爆した表現主義の嵐。そこにはレンガとガラスを素材とした自由奔放な造形と多様な表情をもった建築が生まれた。近代建築誕生の母体となり、現代にも影響を与える表現主義建築の全容を紹介。B.タウト、他。

3300円



磯崎新 ④ 1985-1991 part 2

part 1同様、自らの「自註」と共に作品を紹介してゆく。ティーム・ディズニー・ビルディング、北九州国際会議場、シュトゥットガルト現代美術館、バラディアム、[舞々夫人] 舞台美術、他。

4500円



象設計集団

独自の造形理念により常に新鮮な作品を生み出し続ける象設計集団の初めての作品集。そのユニークな建築群の生々しい姿を捉える。安佐町農協市民センター、名護市庁舎、宮代町立笠原小学校、進修館、他。論文＝荒俣宏、宇佐美圭司、他。

4000円



続・木造建築の現在

海外61作品、国内13作品の木造建築を紹介。豊かで暖か味のある空間を生み、またあらゆる空間構造に対応できる木構造を再評価する。インタビュー：坪井善勝、杉山英男、内田祥哉。対談：今川喜英×安村基。

3708円



カルロ・スカルパ図面集

ブリオン家墓地を始めとする主要作品のドローイング約150点を収蔵。ブリオン・ヴェガ墓地、フェルトレの遺跡博物館、ヴェネツィア大学文学・哲学部校舎増改築、他。文：豊田博之、カルロ・スカルパ、他。

3500円



横 文彦 ②

横文彦の80年代の活動を知る第2作品集。そこには増々精緻さと多彩さを加えた作品群が見て取れる。スパイラル、藤沢市秋葉台文化体育館、前沢ガーデンハウス、慶應義塾日吉図書館、電通大阪支社、京都国立近代美術館、他全21作品。

4326円



ブルー・ノ・タウト

1933-36年滞日期間の活動を中心に、没後40年を記念した特集。作品＝熱海の家、ボスボラス海峡に臨む自邸、グティネルト通りの集合住宅、グレル通りの集合住宅、他。タウトの工芸品と著書、他。

2575円



安藤忠雄 ① アンビルト・プロジェクト

70年代からの見逃せないアンビルト作品29点を紹介。JR京都駅改築設計競技案、岡本ハウジング、I計画、伊豆プロジェクト、氷の劇場、中之島プロジェクト I II、Iギャラリー、大淀の茶室、他。

3800円



伊東豊雄

風のように、光のように変化する建築。独自の感性で貫かれた作品群、その初期から1986年までの軌跡。中野本町の家、シルバー・ハット、レストラン・ノマド、馬込沢の家、風の塔、東京道牧少女の家具、ホンダクリオショールーム他。

3914円



ボザール：その栄光と歴史

ボザールの全貌を紹介。アカデミーの功罪：高階秀賢、ボザールーその歴史と思想：三宅理一編、ボザールの成立とネオ・グレコの形成、折衷主義の世界、近代の憂鬱、戦後のボザール、バリ・オペラ座の図面と写真、他。

2575円



都市デザイン | 横浜

横浜市の20年にわたる都市デザイン活動の足跡を辿り、これからのアーバンデザインの課題と展望を探る。座談会：都市づくりの新局面へ向けて、横 文彦×斎藤敬×小澤恵一、他。

5000円

Space Design published its first issue in 1965 as a monthly journal for a general readership introducing noteworthy achievements and leading works in the fields of architecture, urban problems, design, and the fine arts. The journal has established a solid reputation over the years in the fields of architecture and design. It enjoys the support of a broad readership in an age when up-to-date information on contemporary design, urban planning, and architecture is in heavy demand. **SD** endeavors to make its features and articles ever richer in content, focusing attention on the methodological, and aesthetic themes of modern architecture, the city, design, and the arts. The text of **SD** is mainly in Japanese, but in certain cases English translations or summaries are provided for feature articles.

Send your order for subscriptions to **Space Design** and/or for back issues or hardcover editions by:

Filling in the order card below and faxing it to:
Space Design: 81-3-5561-2551

Or mail the card to:

Subscriptions Department
Kajima Institute Publishing Co., Ltd.
6-5-13 Akasaka, Minato-ku,
Tokyo 107-8345, Japan
tel: 81-3-5561-2551

An invoice will be sent immediately. Upon receipt of the invoice, you may pay by check or international money order or bank check.

Order Card

Name (in block letters please):

Address:

Fax number (if available):

Occupation:

Please check one of the options below:

- ☐ Please enter my SUBSCRIPTION to **Space Design**, starting in

	sea mail	air mail
12 issues	¥30,000	¥55,000
24 issues	¥50,000	¥80,000

Price includes postage and bank charges.

- ☐ Please process my order for the following BACK ISSUES and/or HARDCOVER EDITIONS of **SD**:

The invoice includes:

1. Price of the publication
2. Bank charges (¥1,500 per order)
3. Postage (determined upon receipt of order)

Alvar Aalto

A special comprehensive collection of celebrated architect Alvar Aalto's major works. Aalto's Design Vocabulary, by Akira Mutoh / Chronological Review of A. Aalto's Life : 1898-1976 / Worldwide Distribution of Alvar Aalto's Works ¥3,090

Tadao Ando 2

His 21 works since 1981 including Church with the Light are classified into five categories and introduced at once here. The 10-meter long drawing of Nakanoshima Project lets the readers feel his vigorous approach to architecture. ¥4,800

Arata Isozaki 2

Introduces whole of Isozaki's major works, 1976-1984, especially his shocking work : Tsukuba Center Building. Ministry of Foreign Affairs of Saudi Arabia, MOCA, Blick of Flats, Berlin, Okanoyama Graphic Art Museum, ¥4,944

Kiyonori Kikutake

Collection of Metabolist Kiyonori Kikutake's works from the early years to 1980 : Architecture of The Third Generation, On the Notion of Replaceability, Phase of Methodological Search, Data, Location of Works ¥3,090

Kisho Kurokawa 2

13 major works for these 10 years, including Hiroshima City Museum of Contemporary Art which won 1990 The Prize of the Architectural Institute of Japan, and 2 other Museums are introduced. ¥4,300

Seiichi Shirai

Introduces a collection of the gem-like works by Seiichi Shirai, an architect of proud loneliness. Kaisetsu-kan, Noa Building, Sei-Akira-kan, Sasetsuken, Kohakuan, etc. Essays by Arata Isozaki, Ichiro Haryuu, Ikuma Shirai ¥ 3,605

Atelier Zo

Presents the first collection of the works by Atelier Zo who has continuously brought forth fresh works by their original formative ideas. Nago City Hall, Shinsyukan Community Center, etc. Essay by Hiroshi Aramata ¥4,000

Kenzo Tange 3

29 projects are introduced at a stroke so that his footwork in 1980's can be seen. Also, the noticeable new Tokyo City Hall is introduced through many drawings and photographs of new model. Full English text. ¥4,100

Fumihiko Maki 2

Presents the second collection of Maki's works which show his activities in 1980s. Spiral, Keio University Hiyoshi Library, Fujisawa Municipal Gymnasium, Hillside Plaza, Tokyo Metropolitan Gymnasium, etc. ¥4,326

Toyo Ito

9 projects of his semi-permeable architectures such as restaurant NOMAD and Silver Hut and 11 projects of Transformations by Light are introduced. The Shinorama Space by Kishin Shinoyama shows White U. ¥3,900

Shin Takamatsu

All of his major works including Kirin Plaza Osaka which won 1988 The Prize of the Architectural Institute of Japan are introduced. His working field in which he has continuously been creating his sharp works can be observed. ¥3,800

Kunihiko Hayakawa

His original pastel-colored works such as ATRIUM and STEPS give the architectures allegro rhythm and feast one's eyes. His works and projects for 10 years since 1978 show his world. ¥4,300

Kazuhiro Ishii

His Sukiya-village which won 1990 The Prize of the Architectural Institute of Japan and 51 other works introduce his method of composition. ¥4,300

The Expressionist Architecture of Germany

Meaning of the Expressionism which is the mother of the modern architectures and has influence on the contemporary ones is introduced by 12 architects' works. ¥3,300

Wooden Architecture Today 1989

Introduces works of Europe, mainly German, Swiss, and French, as well as of the United States, Australia, and Japan. Works in Japan include those by Shoji Yoh, TAKE-9, Hideaki Katsura and others. ¥3,708

Bruno Taut

Introduces his activities mostly while staying in Japan 1933-36. Features in memory of Taut in 40th year of his death. Architect's Own House Istanbul, Housing on Erich-Weinert Strasse, etc. Taut's Handicraft and Books ¥2,575

Ecole des Beaux-Arts and its Glorious Tradition

Updated: Essays: History and Credo, Thought Backbone/ On the Grand Prix : List of Recipients and their Presentations/ Genealogy of its Ateliers/ Collections : Notre-Dame at Lorette, Opera Theater, Paris, etc. ¥2,575

Details by Maki & Associates

Shows detail at Forum TEPIA, a showcase of high technology using a variety of new materials. The work features studies in surface, point, and line and develops numerous types of detail. ¥6,800

Kim, Swoo Geun

Introduces his 30 projects, mainly in Korea. Masan Cathedral, Korean Overseas Development Corporation Building, Art center of Korean Cultural and Arts Foundation, Seoul Sports Complex, Nam Dae Mun Market Redevelopment Plan, etc. ¥3,090

Architects Own Houses of the World

Introduces famous architects' own houses of the World. Architects: Richard Foster, Frank Gehry, Don Hisaka, Wilhelm Holzbauer, Michael Hopkins, Barton Myers, Christopher Owen, Arthur Erickson, Ulrick Franzen, Paul Gray, etc. ¥4,944

9910

都市・建築・芸術の総合誌

スペースデザイン 第421号
1999年10月号

SD

Space Design

編集長：相川幸二
副編集長：高木伸哉
編集スタッフ：
飯塚りえ 松口 龍
川崎 勝 田中晶子
制作協力：久世 健
株式会社シンクス
発行人：平田裕那
編集人：長谷川愛子
発行所：鹿島出版会
107-8345
東京都港区赤坂6丁目5番13号

電話：
03-5561-2551 営業
03-5561-2555 編集
FAX：
03-5561-2581 営業
03-5561-2565 編集
TELEX：
02422467 KAJIMA J
振替00160-2-180883番
URL：
http://www.
kajima-publishing.co.jp

005

特集

東京リノベーション

006

リノベーション・ムーヴメント90's
粕谷姫中

012

EXIT metal work supply

017

A-net

021

北山創造研究所

026

Deluxe

030

NDC グラフィックス ヨコハマ

034

オレゴンムーン

038

ギャラリー ef

042

現代美術製作所

045

スペース・エッジ

047

NOPE

050

コマンドN

053

TIME & STYLE

055

Baden Baden

057

清住蔵

059

仕掛人達の哲学
鈴江修至、小池一子、星指和幸

061

「東京リノベーション」される理由——土地の有効利用原則による建物の「目的」変更
安藤寿珠・稲島みちこ

062

東京リノベーションマップ
ギャラリー、ショップ、レストラン

068

東京空き倉庫／工場マップ

073

ガソリスタンド再生計画——GS Revolution ケーススタディその1：A activityの場合
ガソリスタンド再生計画実行委員会

077

大阪市築港地区のまちづくり
既存施設の有効利用を通じて

081

隅田川再生と リバーサイドスペース

081

写真構成：再生の進む隅田川
写真＝加藤嘉六

091

リバーサイド・スカイライン
写真＝加藤嘉六

095

魅力を取り戻す隅田川
陣内秀信

096

隅田川の整備
西野真介

097

リバーサイドスペース・ウォッチング
写真＝加藤嘉六

101

浮世絵と隅田川
藤澤 紫

104

「隅田川再生とリバーサイドスペース」をめぐって
長尾重武

105

連載 エントロピーの森：都市のインフラストラクチャー 10
写真＝ハイナール・シリリング 文＝山形浩生

110

連載 カルチャー・カフェ：今月の演劇「犬を使う女」
原 研哉

112

連載 カルチャー・カフェ：今月の音楽「プリトニー・スピアーズ」
服部のり子

114

展覧会レポート：「'99日本クラフト展」
河合俊和

117

書評
香山壽夫

118

新刊紹介

119

お知らせ

印刷・製本：凸版印刷株式会社
174-0056 東京都板橋区志村1丁目11番1号
電話：03-3968-5111 案内

取次店：トーハン・日販・大阪屋・大洋社・兼田出版販売・
誠光堂・鈴木書店・西村書店・中央社

定価：2,000円 [本体1,905円]
年間直接購読料：26,000円
特別定価号＋送料込み

表紙：EXIT metal work supply
表紙写真：村角創一
デザイン：山口デザイン事務所／山口信博＋齋藤亜季子

005

Special Feature

Tokyo Renovation

006

Renovation Movement 90's
Hijun Kasuya

012

EXIT metal work supply

017

A-net

021

Kitayama Company

026

Deluxe

030

NDC Graphics Yokohama

034

Oregon Moon

038

Galerie ef

042

Contemporary Art Factory

045

Space Edge

047

NOPE

050

Command N

053

TIME & STYLE

055

Baden Baden

057

Kiyosumikura

059

The Philosophy of Masterminds
Shuji Suzue, Ichiko Koike, Kazuyuki Hoshihisa

061

Reasons of the Renovation of Tokyo
Hisami Ando+Michiko Inahata

062

Tokyo Renovation Map
Gallery, Shop, Restaurant

068

Map of Tokyo Warehouses and Factories for Rent

073

Gas Station Revival Project — GS Revolution Case Study No.1: The Case of A activity
Gas Station Revival Project Executive Committee

077

Town Planning in Osaka's Bayfront District:
Effective Use of Existing Structures

081

Reviving the Sumida and
Riverside Space

081

The Sumida River in the Process of Rebirth
Photo=K Roku Kato

091

Riverside Skylines
Photo=K Roku Kato

095

The Sumida Regaining Its Charms
Hidenobu Jinnai

096

Improvement on the Sumida River
Shinsuke Nishino

097

Riverside Space-Watching
Photo=K Roku Kato

101

Ukiyo-e and the Sumida River
Murasaki Fujisawa

104

On Revival of the Sumida River and Riverside Space
Shigetake Nagao

105

The Entropic Forest: Urban Infrastructure 10
Photo: Heiner Schilling Text: Hiroo Yamagata

110

Culture Cafe: This Month: Play,
'The Trained-Dog Woman' Kenya Hara

112

Culture Cafe: This Month: Music,
'Britney Spears' Noriko Hattori

114

Exhibition Report: 1999 Japanese Craft Exhibition
Toshikazu Kawai

117

Book Review
Hisao Kohyama

118

Book Information

119

Announcement

Published by
Kajima Institute Publishing Co., Ltd.6-5-13 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-8345, Japan
TEL: 03-5561-2551 [Management], 03-5561-2555 [Editing]
FAX: 03-5561-2561 [Management], 03-5561-2565 [Editing]
TELEX: 02422467 KAJIMA J
URL: <http://www.kajima-publishing.co.jp>

Printed in Japan

This Copy: ¥ 2,000
¥ 30,000 a year
¥ 50,000 two years

Order Form: Page 2

Cover: EXIT metal work supply
Photo: Soichi Murazumi
Design: Nobuhiro Yamaguchi / Yamaguchi Design Office

かすや・ひじゅん

東京生まれ。米国留学、武蔵野美術短期大学生活デザイン科卒業後、アルフレックスジャパン勤務を経て1985年コンテンポラリーマーケット設立。収納家具「コンテナ」などのプロダクト、ハーマンミラー・ジャパン本社ショールーム、1邸、セバレステロス・ゴルフ倶楽部インテリアなどを手がける。月刊誌『FP』にて91年より連載「HIGH STYLING OFFICE」原稿執筆

元祖リノベーターとその背景

東京に続々と出没するメッセージ発信地を訪ねると、そこに70年代後半、80年代後半に次ぐ、リノベーションのムーブメントの兆しが見えてくる。60年代、ニューヨークのソーホー地区を中心に、ロフト文化が誕生した。きっかけは安い家賃を求めたアーティスト、デザイナー、フォトグラファー、キュレーターたちが、不況で廃墟同然となった建物に移り住み、そこで活動を始めたことだった。コンクリートや漆喰の壁に冷たいモルタルの床、配管が露出した天井といったスケルトン状態の空間は、彼らにとっては白いキャンバスそのものであった。そして、60年代ポップアートの発祥の地となり、アーティストのアトリエから始まりギャラリー、レストラン、ディスコティックとたちまち新しいウェーブを起こし発展していった。そのロフト文化は70年代に日本にも上陸し、空間は叶わなくともそのインテリアのディテールを切り取った「ハイテック」スタイルが大ヒットした。病院や商業施設などのバックヤードで使われる業務に適した耐久性の高い、機能重視のマテリアルやプロダクト製品である。無機質でデザインを切り捨てたクールなシルエットはヴィヴィッドでポップなアートと響き合う全く新しい「スタイルを超えたスタイル」であった。その頃入社したばかりの鈴江コーポレーションの鈴江修至氏はこの「ロフトスタイル」のムーブメントをビジネスチャンスとして、見逃さなかった。当時、物流システムの企業経費削減やコンテナ化の進捗中、都心部の倉庫事業主たちは厳しい経営状況に陥っていた。彼はニュースで、ニューヨークのソーホーで芸術家達が倉庫を利用したユニークな空間を作り出し、活動していることを知る。早速、日本での倉庫利用の可能性を探るため、あまり縁のなかったクリエイティブな業界の調査を行った。結果、日本でも実現が可能だと確信を得、竹芝の倉庫にアパレルメーカーのアトリエや広告会社、撮影用スタジオ等に空間を貸出す道を開いて行った。70年代の日本にロフト文化の道を開いた代表的仕掛人のひとりである。80年代には竹芝、芝浦方面の倉庫街に設計事務所、スタジオ、輸入家具のショールーム、ギャラリーなど家具、雑貨メーカーなどのオフィスが次々と生まれ、海岸通りの周辺に「タンゴ」、「インクスティック」、「ゴールド」、目黒川添いの大橋に「チェントコーゼ」など、レストランやクラブが出没、ニューヨークのソーホーの盛り上がりにも似たエキサイティングなシーンが生まれた。その頃、小池一子氏は墨田区の食糧ビルに佐賀町エキジビットスペースをオープンしている。念願だったこれまでの「ギャラリーの常識」を超えた独自のアートシーンの環境作りを始めた。「高井戸倶楽部」の星指和幸氏もやはり、同時期に「リビングパラダイス」をコンセプトにしたショールーム、レストラン、オフィスの複合施設を元倉庫ひとつまるごと借りきっての思いきった事業を立ち上げている。代表的な元

祖リノベーターたちのコンセプチュアルな環境作りのシンクロ現象が起こっていた80年代であった。

魅力ある空間とは

リノベーションの素材となる創造的環境とは一般の建物とどう違うのだろうか。生活文化、デザイン、アートを有形、無形で広く、多くの人達へ発信する場合、その媒体としては店舗やショールーム、ギャラリー、また雑誌、カタログ、ホームページまで多岐にわたる手段がある。だがそれらは必ずしも全てのデザイナーやアーティストたちに開かれた場ではない上に、事業者達の経営理念にコントロールされている。ほとんどの商品は単品として販売され、提案者のアイデアやメッセージは切り取られている。時に彼らは展覧会などで、「カタチ」だけでは伝え切れない「イメージ」をインスタレーションなどで表現する。そこに人は「生」の感触を求めて嬉々として集まってくる。クリエイターたちはこのようにユーザーと直接、コミュニケーションの取れる場をアトリエや工房と隣接して持ちたいと願っている。だが、現実には創作活動と併設の施設を都心部に自力で獲得し、運営することは厳しい。今日の社会的状況からも個人の資金力では非常に困難だ。そのうえ、既存の一般的なビルや住宅の空間では狭い、家賃は高い、内装、設備に制約が多過ぎる。絶対条件はプレゼンテーションの場として、ショーイングやイベント、展覧会、ギャラリー、パーティ会場など自在に使いこなせる空間があることだ。70年代に鈴江氏がクリエイター達の求める空間と倉庫というスペース利用の関係を調査した結果、6mはある天井高、1スパン8mという広い空間、にもかかわらず比較的都心にあること、また何にも増して家賃が安いことなどから、倉庫の転用はビジネスとしても成立するという結論に達している。クリエイター達にとって魅力的なのは、建築法、消防法をクリアすれば、用途に応じた設備や内装の工事が可能であること。現状復帰などの制約が少ないこと。以上だが、この条件は20年の時を経た今日も変わってない。

リノベーションの達人

「Deluxe」や「EXIT」「NOPE」のように複数のデザイナーたちや異業種で借りることで設計、インテリアなどの業種の枠をこえて、ファッション、アート、音楽、映像等の異なるジャンルとのセッションによる密度の濃い、リアルなメッセージを発信することができる。これは実生活では全て切り離せないことを、縦分けてきた売り手市場のマーケット作りに対するアンチテーゼでもあり、「好きなことをしても、こんなに楽しくビジネスできまっせ」的、社会へのアピールでもある。とにかく、「前例はなくて当然、好きな空間を作りたい」というパワーがここにある。家賃、設備の管理、運営も個々のスペースと共有スベ

特集

Special Feature

東京リノベーション

Tokyo Renovation

都市に浸入／再構築する逆転の思想

若手のユニット活動が増えている。

みんな都市に関心が高い。

都市のスキマに敏感だ。

もたざる彼らは使われなくなった建築を

市場では思いもつかない用途に転用することによって、

都心にアクセスできる。

これはひとつの逆転の思想。

ディベロッパーがすぐに食いつけない中途半端な不良資産。

新しい転用のアイディアで流動化が開始される。

これもひとつの逆転の思想。

東京の集積度はそんな動きを増幅させて目に見える現象にする。

そこでは都市のスキマと矛盾を逆手に取った、

90年代的リノベーションが胎動している。

企画編集協力：粕谷姫中



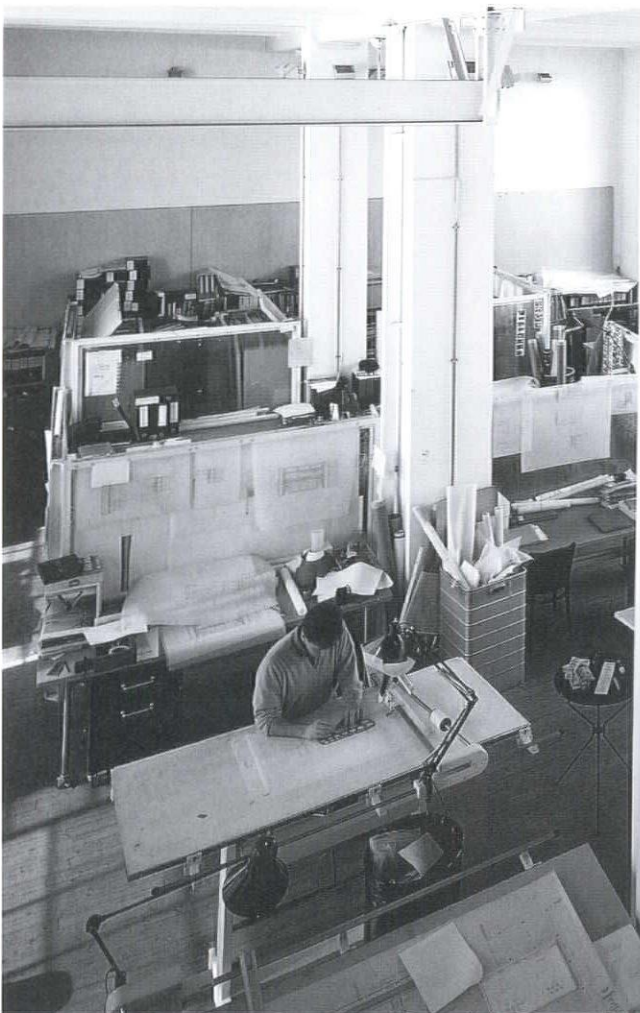
ソーホーを臨むスローパー氏のアーチ型の窓の部屋



自然光と間接照明の調和



スーザン・スローパー・デザインのロフトのアトリエ (写真=TOSHI+CHIKAWA)



90年代前半、アントニオ・チッテリオ氏による縫製工場→アトリエのリノベーション (写真=KINTA+KIMURA)

ースをバランス良く維持できる。「A-net」、「北山創造研究所」、「NDCグラフィックス」は、市場競争力の強いデザイン商品や企画を商品とする企業である。そのため、会社の顔となるロケーションやスタイルも企業戦略のうちである。デザイン、開発部門スタッフのための環境づくりもテーマのひとつである。また展示会、セミナー、パーティなどのフリースペースを社内に持てば、コストパフォーマンス、生産性共に高められる。それぞれ築40年以上の年輪を重ねた倉庫、住宅、オフィスビルの空間の再生利用に成功している。

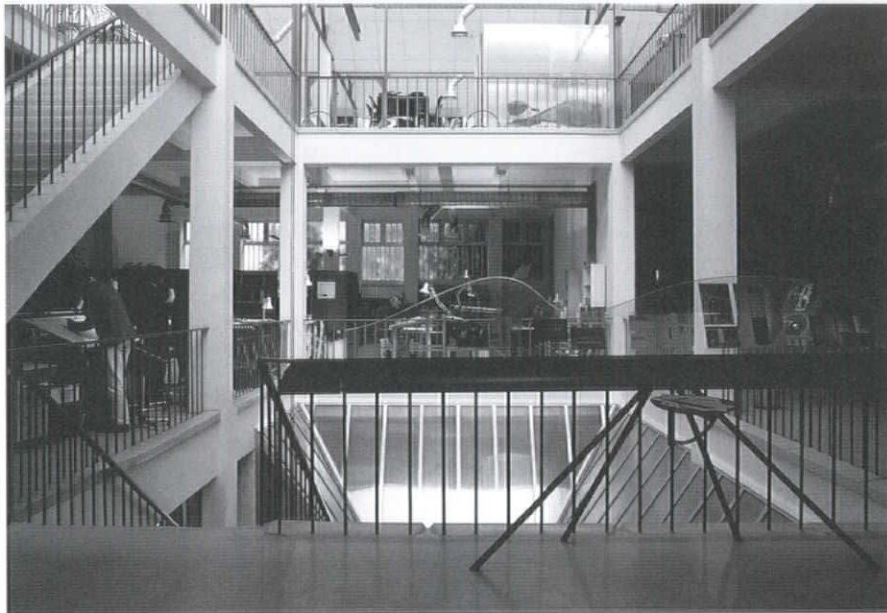
脱スクラップアンドビルド主義

転用候補物件として、倉庫やオフィスビル、住宅のほかに、工場や蔵、ガソリンスタンドまで多種の建築にバリエーションが広がってきているのが90年代の変化だ。リノベーションの専門家であるリボックス建築計画の清水博氏はこの現象について、「築40年以上の建物は経済的償却が終わり、機能的、設備的劣化に伴う更新の時期に来ている。低成長経済に移行し、社会的価値意識の変化による、スクラップアンドビルド方式から、リニューアル需要への変化の現れ」と見ている。さらに「日本人の社会的価値意識の変化が建物を社会的資本として捉え直しつつある。そのために耐久性のあるシェルターの構造物やフレキシブルな内装設備を具現化できる建物の時代がくることを望む」とリノベーション価値説を語ってくれた。「ギャラリーef」は元蔵、「現代美術製作所」は元工場、「オレゴンムーン」は元ガソリンスタンドでそれぞれ、親の代から受け継いだものを次世代がアイデアを出して新規の事業に転換しているケースが新しい。この場合、世代交代のために建築物を資産として維持、運営することが動機となったものであるが、なによりその建物事態に愛着をもつての大胆な挑戦の姿勢なくしては難しいことだ。「清住蔵」、「NOPE」、「Deluxe」、「EXIT」、「TIME & STYLE」のケースは蔵、オフィス、工場、倉庫がどれも、不況下でしばらく休眠していた町の資産を甦らせたものだ。「BadenBaden」のように一般住宅をまるごと店舗にするケースはいち早く、広まってきている。レンタルスペースの場として、脱サラを機にソーホーワーカーにパソコン設備のスペースを貸出している「清住蔵」や倉庫のテナントが絶えて、オーナー自ら多目的貸しスペースを運営するスペースエッジなども可能性を秘めたりノベーションである。

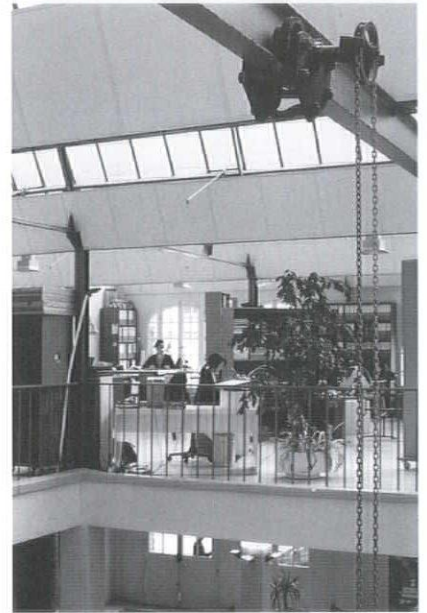
各都市のリノベーションから

私は70年代、80年代東京のロフトシーンをウォッチャーとして体験し、情報の少なかった世界各都市のシーンにも強く興味を持っていた。85年から始めたステーションナリーなどのプロダクトデザインの仕事が出発点となり、「LOFT」の開発プロジェ

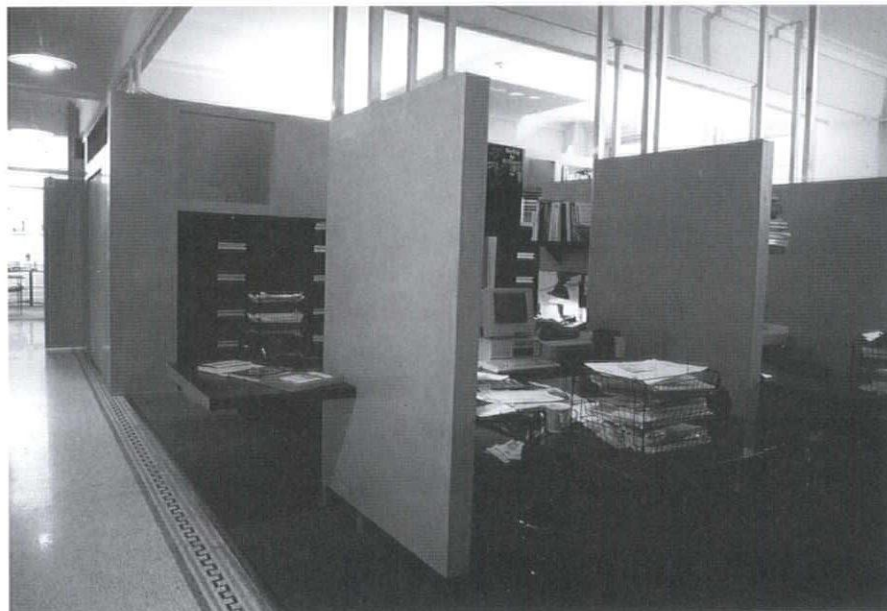
クトに参加するなど、クリエイターたちのオフィスやアトリエの環境提案の仕事に発展した。これを機に海外のアトリエ訪問ツアーを計画、89年から92年の3年間にわたり、集中して各都市のデザイナーや建築家たちの様々な規模やスタイルのアトリエやオフィスを訪問した。どの都市でも彼らは好んで歴史ある環境を選び、活動の場になっている。室内は天井が高く、内装の壁も漆喰のことが多い。躯体と内装が一体に仕上がっていて、床、壁、天井から歴史のにおいが漂っている。小池一子氏が1920年の建物に魅せられたのと同様にアーティストにとっての創造的な環境の条件は世界共通なのである。そのうえ、お金では買えないような、稀少の創造的空間は家賃が安いことも世界共通のようだ。お金をかけて、表面的に新しい服を着るような工事が社会の常識になっている今日である。形にとらわれず、着古したTシャツとジーンズで自然体の自分自身で生きる飾らないアーティストの生きる姿勢そのまが投影されているように思う。ソーホーにある「スーザン・スローパー・デザイン」はニーマンマーカスのグラフィックデザインなどで有名なスーザン・スローパー氏のスタジオである。ロフトスタイルのオフィスビルは、すっきりとモダンな構えで、エントランスや廊下のシンプルなエレベーターと象徴的な「円柱」にグレーとボルドーの2色を塗装し、各室のサインはステンレスのプレートを使うなど最小で最大の効果を出している。各室内は4mほどの高さの天井、アーチ型の大きな窓、大きな円柱といった、典型的なロフト空間である。「石の洞窟」をイメージしながらとした広い空間に、ガラスのパーティションを組み合わせたドラフターを配置している。窓側に設けた一室が主宰のスーザン氏のスペースだ。フレームにハロゲンの間接照明をつけたガラスのパーティションなどの什器には本物の材料を使い、内装の壁や、造作の棚、カウンター、オーナーのデスク部分には大理石のプリントの壁紙や銅プリントなどのイミテーションを使うなど、費用の使い分けが合理的。パーティも多いという「スペシャルリレーションシップ」がコンセプトの創造空間である。90年代の前半、アーキテクトのアントニオ・チッテリオ氏はミラノの元縫製工場を改修して、アトリエをつくった。中2階のある、巨大な窓から自然光の射す「オープンスペース」の設計事務所である。床、壁、天井を躯体そのままに補修をし、「オープンなフリースペース」を作った。キャスター付のパーティションやドラフター、キャビネット、ミーティングテーブルなどの家具は自由に移動して、レイアウトを手軽に変更できる。工場の名残の滑車は、この空間を見守ってきた存在への敬意の現れか。2階の顔となるエントランスへは、1階の裏口のような一枚の鉄扉を潜り、階段を上ると突然2m×3mほどの巨大なアルミの扉が現れ、「ようこそ、チッテリオワールドへ」と導かれるような安心感と期待を誘う。その後、この空間は全面的な改



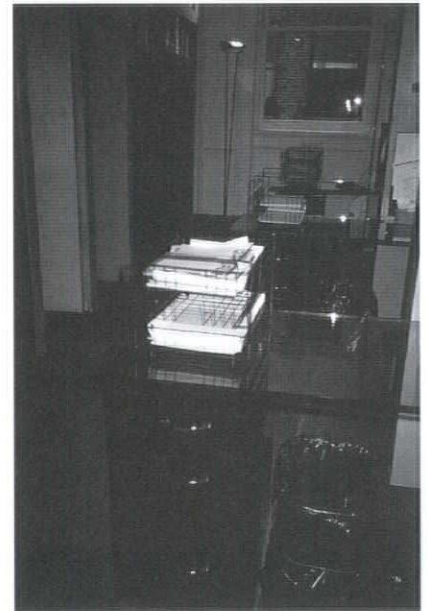
縫製工場だったビトラック・デザイン社 (写真=KEIICHI TSUJI)



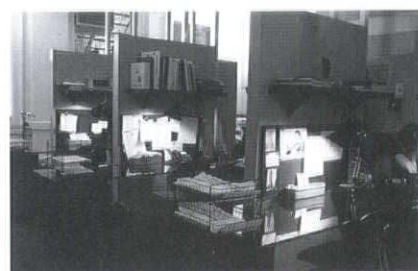
全スペースに自然光が降り注ぐ



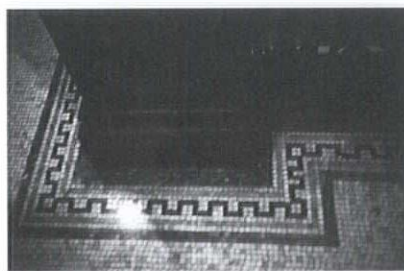
モザイクタイルの床を中心にデザインされたベギー・タリアーノ・プレス・リレーション・オフィス (写真=TOSHI-CHIKAWA)



テラコッタカラーにブラックの家具を合わせモダンに



各ブースを仕切るテラコッタカラーのオープンパネル



100年の時を刻むモザイクタイル

装が行われた。元工場の転用は「Deluxe」、「現代美術製作所」などが東京のリノベーションのなかでも大胆な挑戦をしているが、大きな採光と吹き抜けの空間を求める場合は、工場や倉庫跡が狙い目のようだ。もうひとつ、パリ、バスチユ広場の西に小規模の工場が並ぶ職人の住む町から。「ビトラック・デザイン」もやはり、地下1階地上2階の元縫製工場をプロダクトデザイン開発の自社のために改修していた。天窗と大きな窓のある開口部の広いこの建物は日中、照明が不要なほど明るい。模型製作室、撮影スタジオ、会議室、事務室を除いては、ビトラック氏他スタッフ全員が、オープンなスペースで仕事をし、プロジェクト毎にスタッフがデスクやキャビネットを移動するシステムである。レンガ作りのクラシックな外観とシンプルでモダンな内装とのミスマッチのバランスが良い。「空間もプロダクトである」と、ジャン・ピエール・ビトラック氏は語っていた。再びニューヨークに戻り、デザイン、広告関係の会社が集中している25丁目。築100年のオフィスビルに入居している「ベギー・タリアリーノ・プレス・リレーションズ」の場合、このビルの歴史と美しさの虜になったというタリアリーノ氏がインテリアデザイナーに依頼して改装を行った。元は一社のオフィスビルで、1階のエントランスフロア、エレベーター、階段、廊下に至る共有スペースはモザイクタイルの床、唐草模様の彫刻の手摺など当時のままに維持、管理されている。歴史ある美術館のような重厚さに感動する。各室内の改装は自由だが、「修復と再現」がコンセプトの彼女はこの床のモザイクタイルをきれいに修繕し、タイルに合わせたテラコッタカラーをプラスターボードに塗装したパネルで個々のブースをつくった。歴史的価値とモダンを掛け合わせた「音、光、空気そして活気が大事」という、プレスオフィスである。私の手がけた「NDCグラフィクス」の場合も、70年の時を超えた横浜の倉庫兼、オフィスビルをサテライトオフィスとして改装したものだ。天井を剥ぎ取り、床を張り、壁の修復だけの躯体をいじめない最小限のデザインで、建物が呼吸する時の流れを浮かびあがらせた。

さて、住宅を創造的環境に転換することは今後、SOHO環境も含めて、広い意味で需要が高まっていくことは必至であると予想できるが、元祖リノベーター的存在の「北山創造研究所」は72年にその道を開いている。ニューヨークの「スウィット・ボウエル社」は88年にインテリアデザイナーの個人住宅をオフィスビルに転換したスペースに入居した。49丁目にある住宅街の頃の名残がある摩天楼の谷間のエリアだ。世界の建築家たちのデザインするテーブルウェアを企画販売していた同社は、中庭やテラスに植栽の樹木が豊かで、端正な建築のこの場に決めた。ゲストへのプレゼンテーションの場としても、テーブルウェアを企画開発するスタッフにとっても家庭での演出を体験す

るのに理想的である。ダイニングルームをショールームに、暖炉のあるリビングルームをミーティングルームにして、家具も家庭用を使い「ハウススタイル」というコンセプトのオフィスを作った。さて、パリで「ハウススタイル」を極めているのは、「エカール社」である。インテリア関係の会社やギャラリー、デザイナーのアトリエも多いエリアにある。白い石作りの重厚な建物の中庭にオフィスの入り口がある。インテリアデザインと家具のプロダクトデザインを手がけるアンドレ・ブットマン氏のオフィスだ。この空間で「生活スタイルそのもの、価値観そのものを強く印象づけたい」という。「スウィット・ボウエル」同様、全くの元住宅の作りをそのままに1階はパブリックスペースとして、エントランスロビー、受付、ショールーム、ミーティングルームがあり、2階はブットマン氏の執務室とスタッフのデザインルーム等がある。「高価なものとチープなもの、歴史あるものと新しいものを組み合わせたバランスの美学」折衷主義を唱える女史の理想の空間がある。このように、時間差はあるにしてもクリエイティブな環境づくりのリノベーションは各都市のいくつかの例からも東京の場合と目的や用途、条件など共通項が多い。違いといえば、東京の例に手作り感が多いのは工事費が高いことや不況が背景にあることではないだろうか。

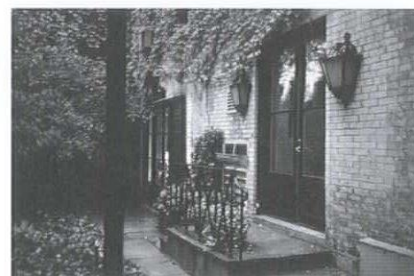
90'sリノベーターたちの挑戦

事例を見る限りは倉庫、工場、ビル、住宅、全て築30年以上のものである。それゆえの安い家賃である。また、流転の歴史もそれぞれに重ねてきている。設備、整備もさまざま。改修にあたっては、解体や「TIME & STYLE」のように先住者の残がいの廃棄からの出発もあり、補修だけの予定が、進めるうちに予期せぬトラブルが発生することもしばしばのようだ。「建物のライフラインを自力で整備することがカギ」というリノベーションの先駆者である星指氏は「転用には法規も含めて、ノウハウのある業者に依頼すべきだ」とも注意を促す。「自由に作れて、自由に使える広くて大きなスペースが欲しい」「お金をかけずに手作りで理想のスペースを作る」。これほど楽しくも、困難なことをスペースハンティングから、完成まで漕ぎ着けた新リノベーターたちに感動、脱帽の思いでのレポートであった。今、「一番モダンなものは手づくりのもの」とはファッションデザイナー、トム・フォードの弁。古き歴史に親しむ「バックトゥーベシック」に心が向かう今、温もりのあるたったひとつしかない創造空間がくすんだ都市で輝き、惹きつけている。

(かすや・ひじゅん/デザイナー)



スウィッド・ボウエル社のリビングルームにある執務スペース (写真=TOSHI ICHIKAWA)



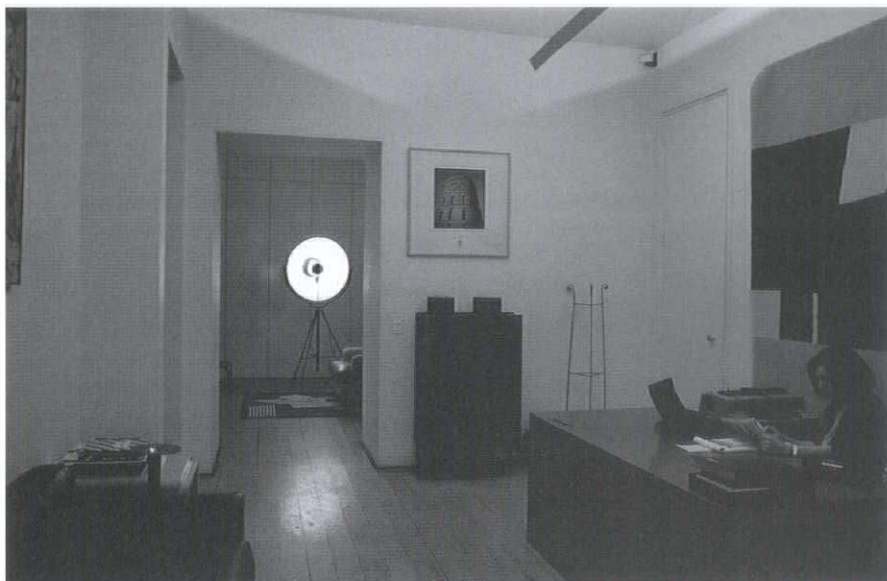
レンガの壁と豊かな緑の中庭



ツタのからまる緑豊かなテラス



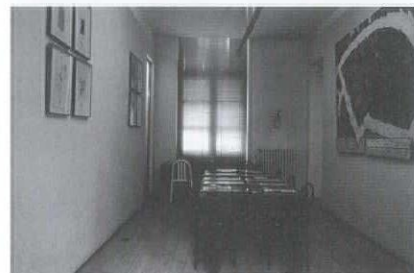
リビングルームをゲストルームとして使用



90年代「ハウスタイル」のエカール社の受付ロビー (写真=KEIICHI TSUJII)



重厚な構えのエントランス



アートコレクションの並ぶミーティングルーム

EXIT metal work supply

所在地：新宿区新小川町1-14

構造：RC

面積：120+30坪

建築竣工：1968年 リノベーション：1999年

インテリア設計：EXIT metal work supply

Before

倉庫

After

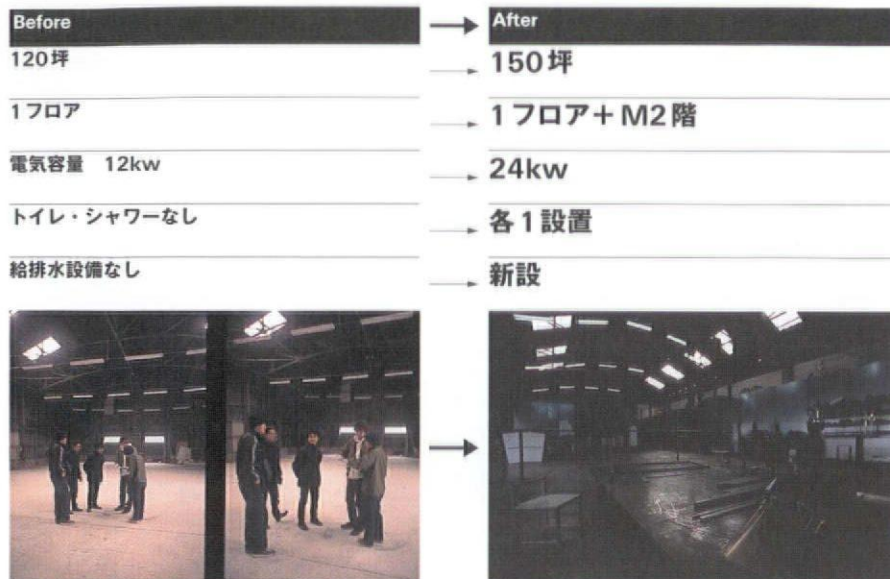
事務所

＋工場＋ギャラリー＋倉庫

総工費

850万円





硬質なメタルワークとポップなショールームが好対照

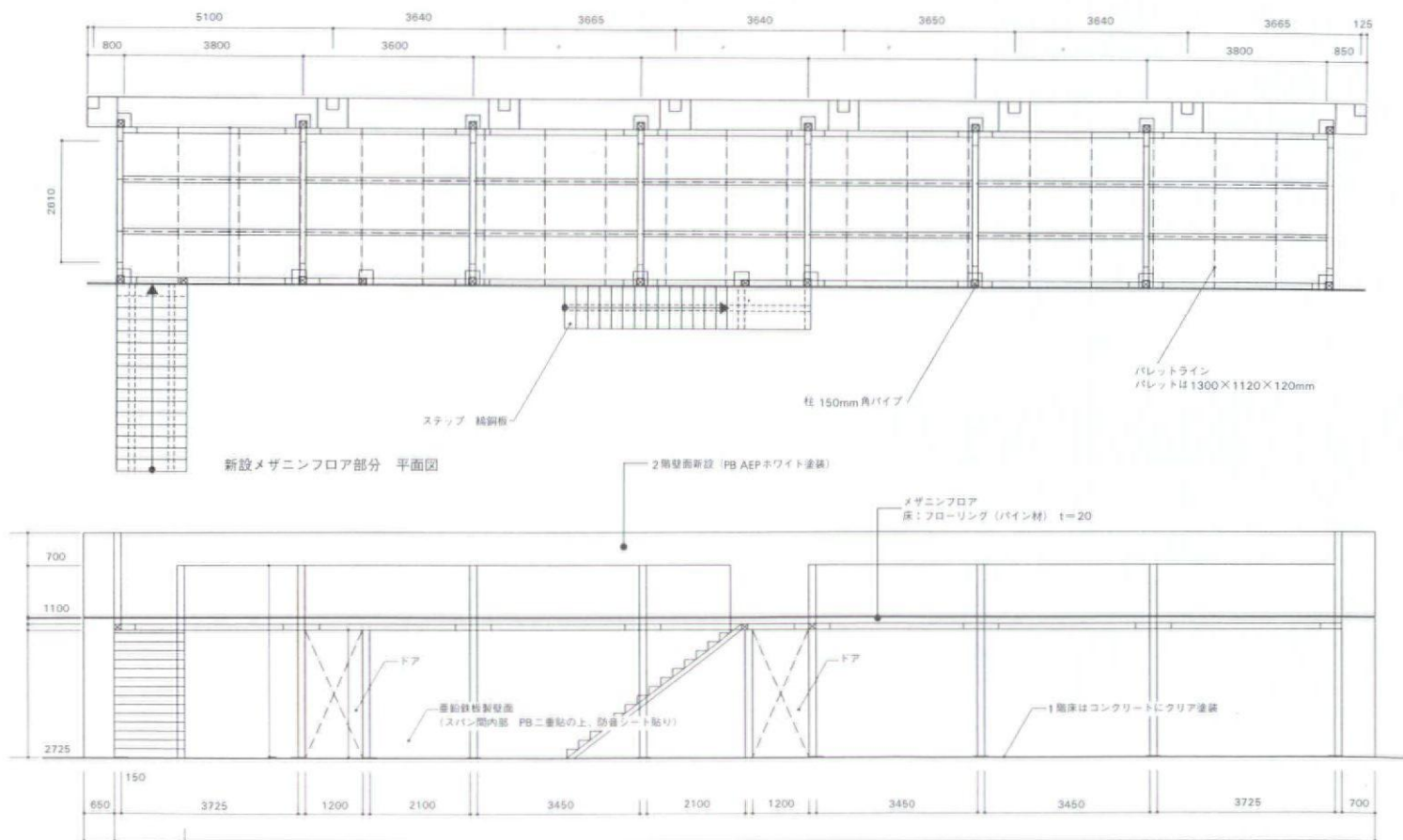
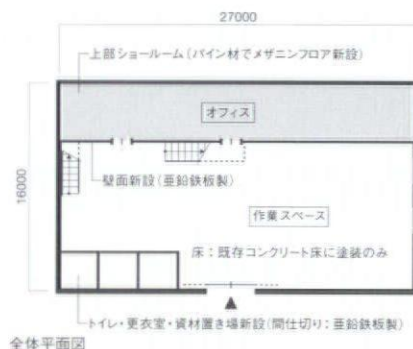
天井高約9mの酒樽製造会社の倉庫。120坪のこのスペースを見つけるまでに約4ヶ月かかっている。これ以前、彼らは東麻布が事務所兼作業場だったが、引っ越しにあたって、作品の制作上いくつかの条件があった。第一に安く広いこと。第二に準工業地域であること。音の問題や高圧の電気を必要とするためである。第三に作品はメタル中心でかなりの重量があるため1階であること。第四に銅材

やメッキの取り引き業者を変えずに済むところ。東麻布周辺地域に固まっていた業者とは信頼関係ができていたので、これを活かしたかったと言う。

こうした条件を携えて、白金、東麻布から始まり、次に芝浦などベイエリアに行ったが、大手のテレビ局が移転したため賃料が高騰したりと、適当な場所が見つからず、不動産業者は8～10軒は回ったという。希望の物件は倍率も高く、

1時間の差で他社に決まってしまうという経験もした。そこで、逆にテレビ局の退去した後に目をつけ、暇を見つけては新宿周辺の夜にも電気のついていない倉庫や工場を探し回ったという。こうして探し当てたのが現在入居する倉庫。

リノベートは、まず9mの天井高を活かしてメザニンを入れ2層にしたこと。壁をたち上げてメタルを張り、1階をオフィスに、2階を念願の展示スペースにしている。次に給排水の設備を整えトイレ、シャワー室をつくったこと。それに、シャッターだった入口にガラスを入れた。苦労した2階の展示スペースには、通常の仕事をこなしながら板張りに仕立て、2ヶ所にメタルの階段を取り付けた。プロの彼らは、ほとんどを自分達で仕上げ、苦労したものの、作業を開始してから1ヶ月という予想以上の早さで仕上がったと言う。





高感度インテリアを手作りで

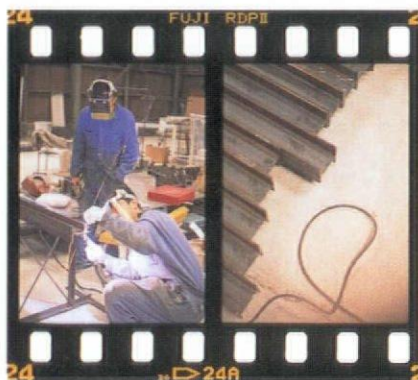
ショップのデザインを中心に家具を制作している、エグジット・メタルワーク・サプライ。清水薫、末松貴久、勝田隆夫、高橋紀人、吉高神卓弥、藤池匠吾の6人のメンバーで構成される。彼らは、デザインしたものはほとんど自分たちで製作している。清水氏がこのスペースを「作業場」というように、例えばインテリアの仕事では、階段の手摺までも自分達でつくってみる。家具のプロトタイプも同様だ。現在、彼らの家具は基本的に委託販売で、実験的なものは現在のスペースで見られるようになっている。取り引きをする店舗も最近かなり増えているし、各方面から注目されていることは間違いない。今後「自分たちが楽しめる大人の遊び場」のインテリアを手掛けたいそうだ。



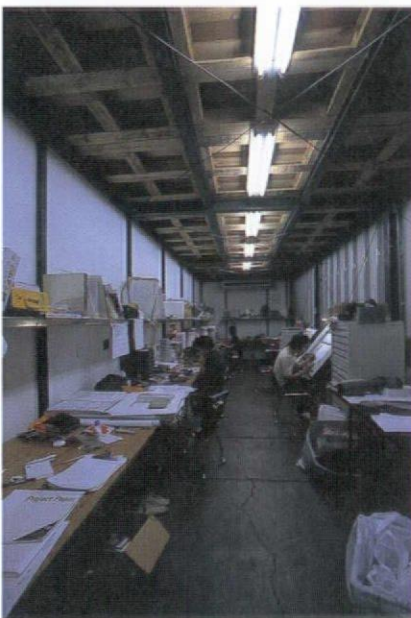
「作業場」を実感させる外観



2階展示スペースより



写真＝高山幸三



1階オフィス



手作りのトイレ

A-Net新大橋オフィス

所在地：江東区新大橋1-1-11

構造：RC

面積：197 (1階) + 172坪 (中2階) (旧館部分)

建築竣工：1963年 リノベーション：1997年

プロデュース：北山創造研究所

インテリア設計：

近藤康夫デザイン事務所 (一部外装含む)

Before

倉庫

After

アトリエ+工房

フリースペース+カフェ

Before

厨房なし

トイレなし

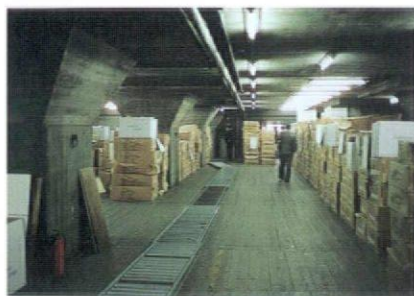
1フロア

After

新設

1、中2階新設

1フロア+M2階



*原則的に1、中2階とも壁は既存のまま

開口切り壁 デコラ仕上げ

EV

EV停止用に壁撤去

トイレ

階段ホール

吹抜

サッシュ

会議室

外壁パネル：スチールアングル組

アルミ t=1.6

デコラロン仕上げ

床撤去部分

増床部分

中2階平面図

パントリー

スクリーン

カフェテリア

開口部新設

引き戸

開口広げて引き戸を設置、構造補強

フリースペース

中2階平面図

センター室

トイレ

事務所

ホール

ロビー

エントランス

工場

1階平面図 S=1:400

壁 スチールパイプ 200mm

PB t=12

一部FP

階段：鉄板ボンスウェード吹付、段板 t=4.5 ボンスウェード

踏面は床と同材、手すりはスチールパイプ

風除室

スチールパイプ 100mm 角

クリアガラス t=12 及びテンパードア

壁 PB t=12、AEPローラー仕上げの上

スチールパイプ

防雪板（ビス止め）

FL 40W 内照式

川上から川下まで製品の流れを肌で感じる

遊覧船や小船が行き交い、はるか個大橋の向こうには超高層の住宅群が見える隅田河畔。さわやかな風の抜けるオープンエアのデッキでのコーヒブレイクもある。このリバーサイドカフェのような社員食堂はこの倉庫の改装計画を担当した北山創研の提案したテーマ「個性的な環

境」づくりのひとつである。

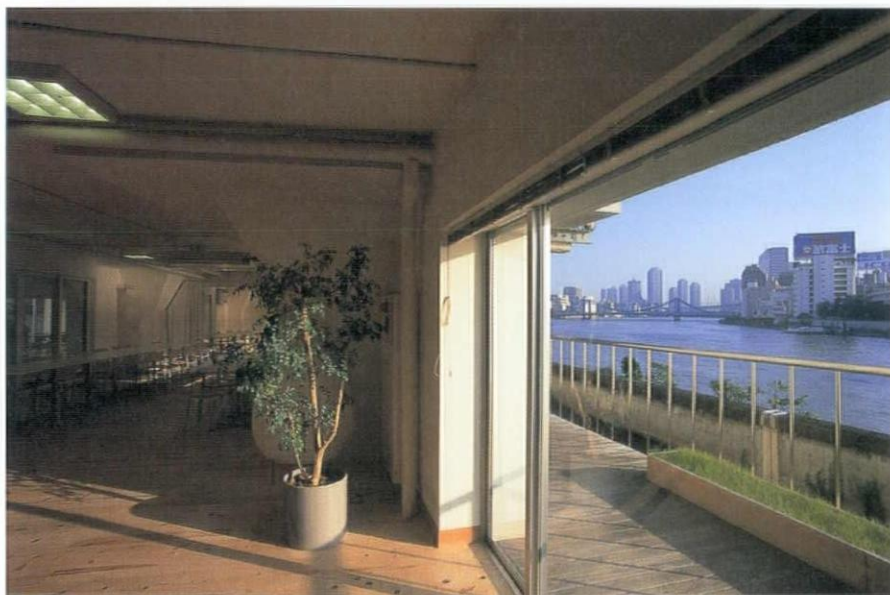
A-Netが入居した倉庫は地下1階地上6階建、1フロア420坪の水元陸両用搬出入可能な大型倉庫。近隣の倉庫の中でもひとときわ憐としたこの建物は荷役設備、金属物耐応の積載荷重の床、電気設備、防火、防潮、防鼠設備等の完備された上

質な物件。93年に3フロアと倉庫の1部をオフィスとして入居。97年に北山創研研究所に改装計画を依頼し、設計を近藤康夫が担当。眺めの良いウォーターフロントで都心であるという立地、倉庫としての機能と低家賃、外観の持つ魅力、これらすべての特性を最大限に活かした計画が実行された。なかでも最もドラスティックに行った改装は1階である。通常、トラックやクレーンの乗り入れが中心であるため、倉庫の場合「会社としての顔」が見えない。トレンドの服を来た若者たちがトラックの脇を抜けてゾロゾロと出入りするのは見る人によっては、不思議な光景でもあった。道路側の1階を天井高7m面積約90坪の吹き抜けのエントランスホールに、中心部の約250坪を中2階にして多目的ホールとミーティングルームに、残る58坪が社員食堂という大きな3分割の構成である。中2階の階下には大型の機械を設置した330坪の工房を設けている。会社の顔となったファサードからはエントランスから吹き抜けのホール、そして中2階に上る階段まで見通しの良いガラス張りで、ミュージアムやギャラリーのような佇まいだ。計画テーマの「豊かな空間構成」に基く、ダイナミックな設計でありながら、無機質な空間を、白い塗装と白木のフローリングという最小限のテクニックで、暖かく包容力ある空間に作り替えている。ホールの壁と社員食堂へと続くコリドーの壁の防雪板が、単調な広い壁面にリズムミカルな表情をつけ、ポスターやアートの展示にも利用されている。全執務フロアの照明はシンプルな蛍光灯が均等に延々と続く姿が美しい。6階は展示会場やファッションショーなどのイベントスペース。エレベーターは既存の貨物用のため、ハンガーラックや段ボール類の社内移動もスムーズで、各フロア毎のミーティングスペースのテーブルはすべてキャスター付の可動式でこのエレベーターでの移動が自在である。人も家具も荷物も楽々とタテ移動ができる。ストックスペースも工房もある生産の場である。アートからリラクゼーションまである明快な環境作りへの意志によって大型倉庫は変幻自在の可能性を持つ。





1階エントランスホールを中2階より見下ろす



社員食堂とデッキ



ミーティングスペース

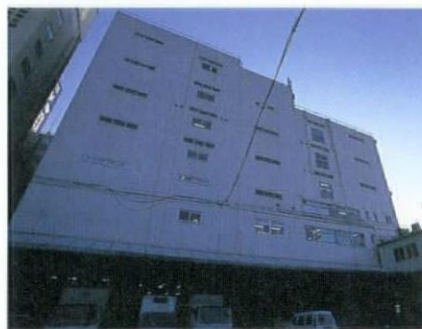


隅田川を臨むデッキ

Activity

自由度の高い開放された環境

A-Netはイッセイ・ミヤケグループの中の一社で各ブランドがそれぞれ自立するようにと96年に別会社として設立された。PLANTATION、ZUCCA、TSUMORI CHISATO等の8ブランドを扱うアパレルメーカーである。「社員ひとりひとりの活動が直接、業績に結びつく。すべてのスタッフがひろい視野にたつて、企業の活力が生まれる」と企業理念にうたわれているように、今回のオフィスのリニューアルにより、自由度の高い開放された環境で、スタッフはアクティブにスペースを使いこなしている。仮縫いは動き回れる広さのある多目的スペースで、打ち合わせは執務フロアに併設のミーティングスペースで行う。展示会やショーを社内で行う場合、商品を倉庫スペースから6階のイベントフロアへ運ぶ社内移動の手間だけで済む。ランチはウォーターフロントのカフェで、社食価格である。夕暮れ時にはスープや軽食のメニューもある。緊張度の高いクリエイティブな仕事ほど、開放的な気分転換は生産性を高めるものである。この業種にとってのもうひとつの大きな魅力は社内では撮影ができることである。地肌むき出しのコンクリートの壁や柱、業務用エレベーターがそのままファッションシーンのロケ地となる。この環境から高感度のファッションを発信している。



建物外観

北山創造研究所

所在地：港区西麻布1-9-7

構造：木造

総面積：97坪

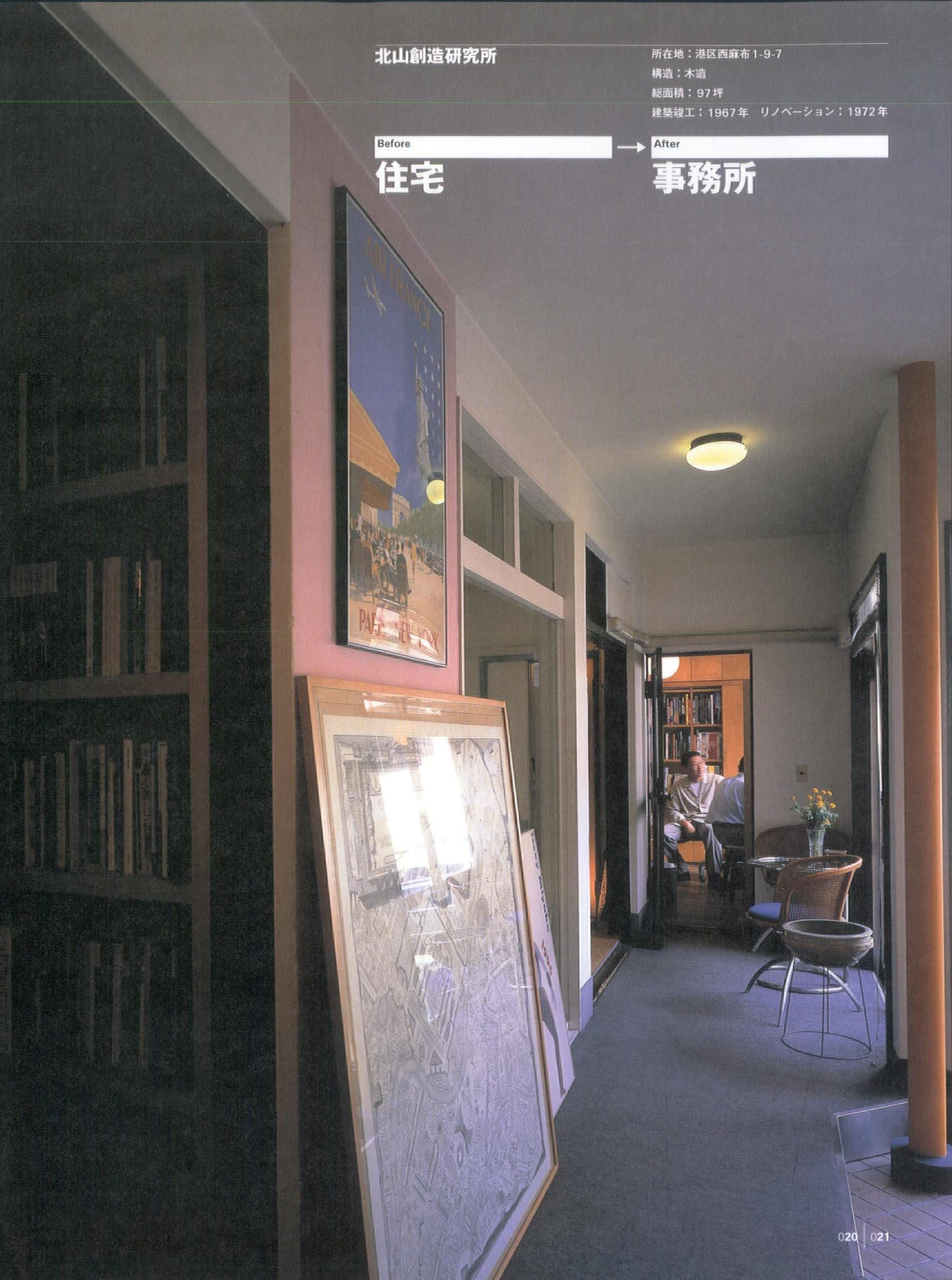
建築竣工：1967年 リノベーション：1972年

Before

住宅

After

事務所





1 階サロンと廊下
SD9910



1階執務室



アプローチから臨む階段と奥はトイレ

家庭を模した空間で 生活実感のあるプロデュース

Before

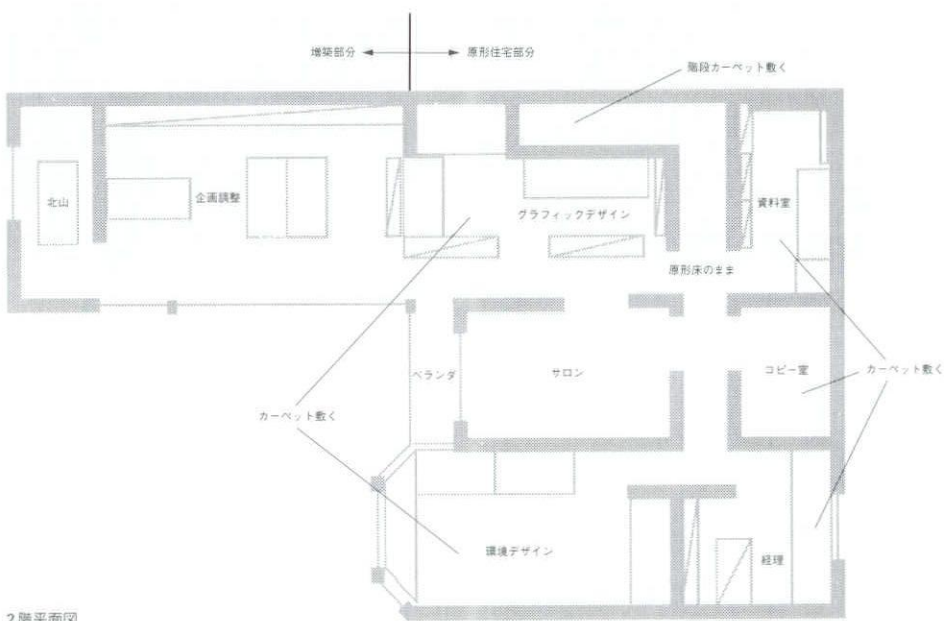
エントランス

バスルーム

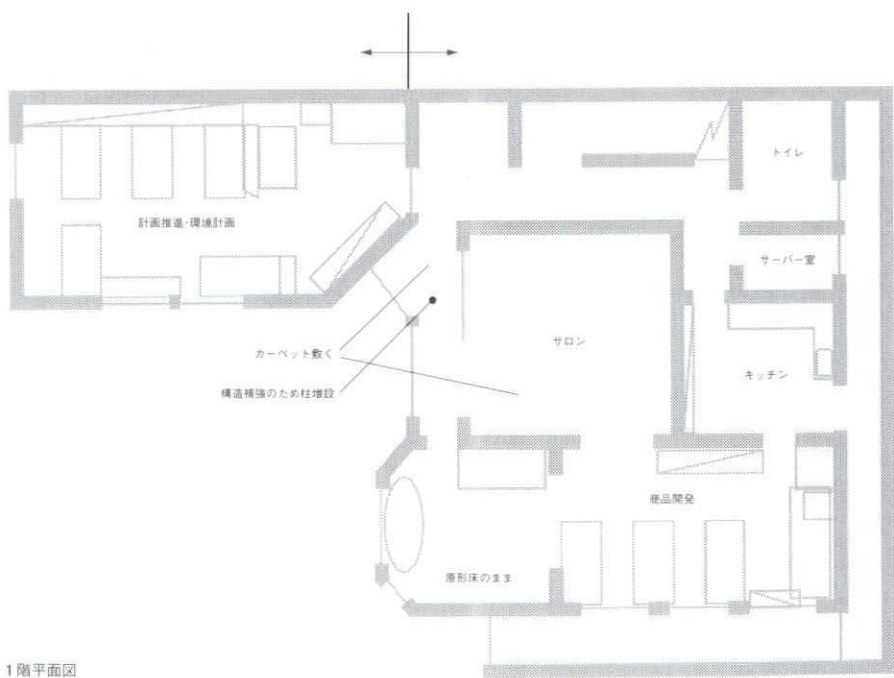
After

耐震補強のため柱増設

バスタブ撤去しトイレ増設



2階平面図



1階平面図

*床は原形では全て木製フローリング
*躯体は既存のまま

元外国人住宅であった2階建ての洋館は今、門柱にポップな北山創造研究所の看板が掛かり企画会社として使用されている。ここは西麻布の交差点からわずか5分圏内にある一般住宅と店舗、オフィスが混在するエリアである。もともとは住宅地だが時代とともに商業施設に侵食されてきた。同社は72年に入居以来、増改築を重ねて今日に至る。

1階55坪2階42坪の空間はこの館の家主と縦に2分され、全く独立した門と庭を持つ。1階のガラス張りのファサードから見えるゆったりとしたサロンや各個室には壁や天井にモールの装飾、シャンデリアをその時代のままに愛用して、住宅であった当時の名残を保っている。階段の手すり、踊り場の壁に残る鉄格子の装飾も維持していることが、改装の特徴のひとつである。入り口に耐震のために黄色の柱を立てアクセントにしている。同社の鈴木理恵氏は「1. 庭があること 2. 窓が開けられること 3. キッチンがあること 4. 掃除をみんなですること」が特徴であるという。「庭があることで花や草木を育てることができる。窓が開けられることで、高層ビルでは味わえない自然の力や風の心地よさ、日溜りの暖かさを実感できる。キッチンがあることで、食事を自分達でつくることができる。掃除をみんなですること、建築のメンテナンスについての知識がつく。生活プロデュースという仕事をする上で、スタッフたちが生活実感を持つことは大切なことである」と言う。オフィスでありながら、居住性や生活感を身につけるための、個人では得がたい居住空間である。同社の改装の基本のもうひとつは既存の各個室を生かしていることだ。1階、増築部分に計画推進環境計画室、既存のサロンをミーティングや食事等の多目的ルームに他の2室を商品開発室にしている。商品開発室の現在赤の壁は時にスタッフによって塗り替えられ、色による心理効果と手作り感の実体験の場になっている。

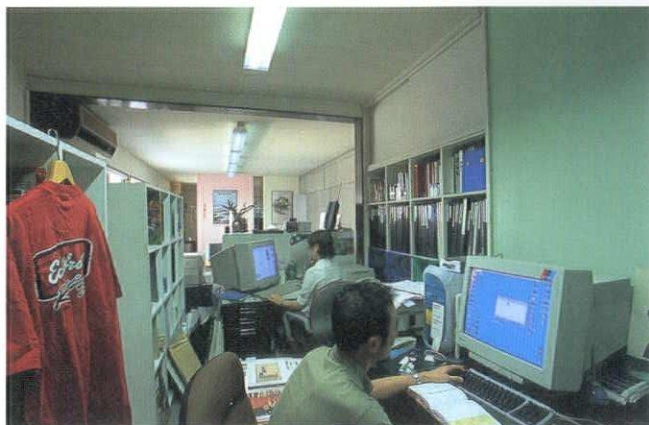
Activity

人から街作りをする一貫した姿勢

北山創造研究所はプロデューサーの北山孝雄が代表する企画プロデュース会社である。企業のありかた、商品、建物、界限、環境等のプロデュースを行っている。渋谷ON AIR、三宅デザイン事務所本社ビル、A-NET本社ビル（今号紹介）等多数のプロジェクトを手がけている。また、生活実感に基づいた視点で、人から商品、人から企業、人から街作りをする一貫した姿勢で、亀戸の「サンストリート」など複合施設開発の仕事でも良く知られている。



洋館らしさが漂う窓際の1階商品開発室



2階グラフィックデザイン部



建物外観

Deluxe

所在地：港区麻布十番

構造：S

建築竣工：1966年 リノベーション：1998年

インテリア設計：Deluxe

Before

修理工場 ＋倉庫

After

アジト

総工費

160万円

Before	→	After
メインエントランスなし	→	ガラスドア新設
1フロア	→	1フロア+M2階
スチールサッシ	→	窓枠新設



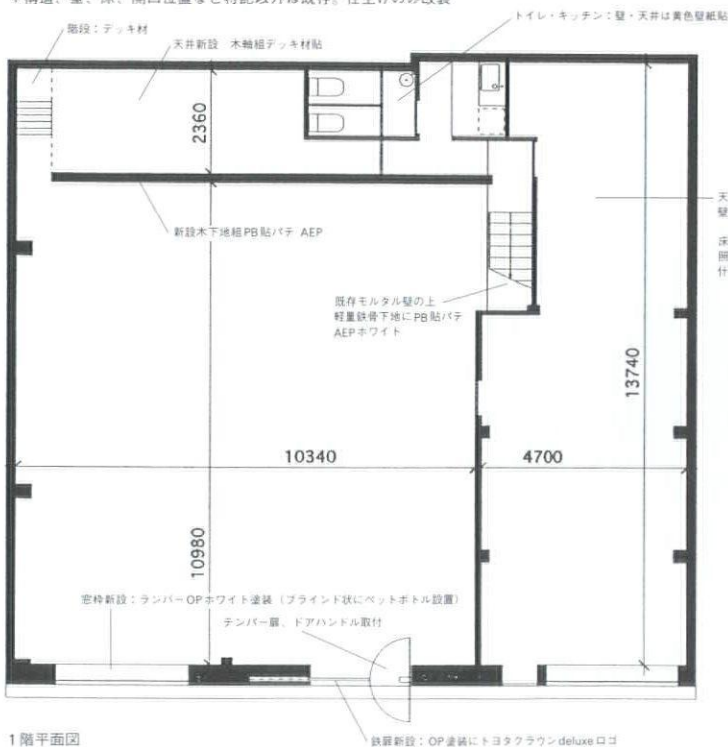
2階。「生意気」などの入居するスペース

空間的余裕が住人の多様な活動を包み込む

麻布十番から飯倉に向い高速道路脇を左に折れると、ペットボトルをモチーフにしたインスタレーションのガラスウィンドウが目に入って来る。この倉庫は裏道

の路面にある。彼らが理想の空間を探し求めながら、たまたま「こういうタイプが欲しい」と指差した物件が、貸作業所、貸事務所、貸倉庫として空いてい

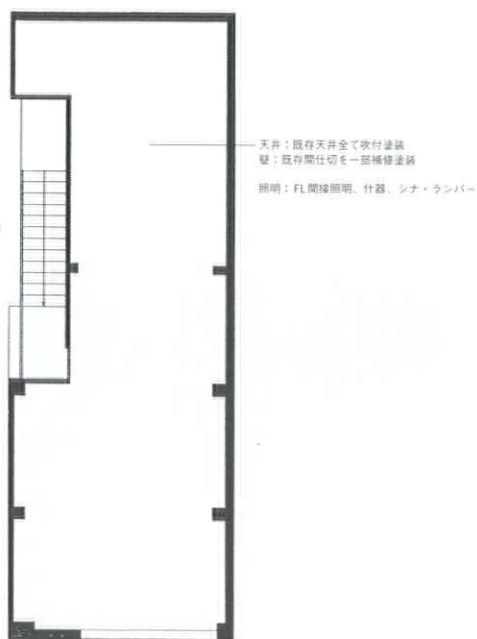
*構造、壁、床、開口位置など特記以外は既存。仕上げのみ改装



1階平面図

た。鉄骨造倉庫の一階は49.2坪、露出した鉄骨の梁に照明とフライングファンが設置されている。

天井高5.5mのガランとした吹き抜けのこの空間こそが理想の多目的の共有スペースだ。メゾネットの部分は1階が18.7坪、2階が18.1坪の天井高2.5mの事務所スペースである。熱意ある不動産業者の働きと、理解ある家主に恵まれて契約者が在日外国人であることや入居時、入居後の改装についての諸問題をクリアし、入居にこぎ付けた。家主にはクライダイサムら代表者の作品集まで持っていくなどして、「絶対にここに決めた」の思いを貫いた。「大きなひとつのスペースがあればいいんだ」というみんなの夢はこうして実現した。眠っていた倉庫と自動車修理工場が「デラックス」という名の「アジト」として蘇るまで約1ヶ月。レストランに改装を予定していたために倉庫としては例外的に十分な給排水と電気容量(240A)が完備されていた幸運も重なった。キッチン、トイレは壁の塗装まですべて自分達の手で作り上げた。エントランスの金物工事と、電気配線工事だけ専門の手を借りた。事務所スペースはワーキングデスクの天板、棚板の取り付けや天井の塗装もすべて手作りである。「まだ、全然完成していない」というクライダイサムたちは入居後も仕事の合間を縫っては改装を続けている。限りある時間とコストをにらみながらの挑戦である。



2階平面図



Activity

ファンクなプロジェクトをもくろむ 6つの異業種共同体

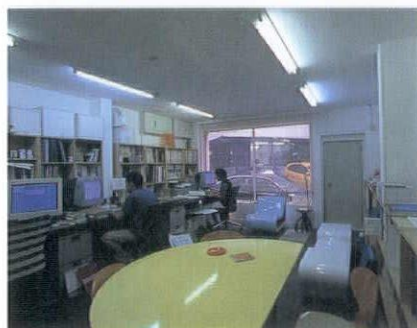
ウィンドウのインスタレーションは雑誌のために
クライン ダイサムがペットボトルを利用して作
った「ペットのれん」である。次々と面白いアイ
デアのデザインを生み出している彼らの仕事のベ
ースは建築設計。他にスピンオフ（インテリアデ
ザイン）、タナカノリュキ（現代アート作家）、生
意気デザイン（グラフィックデザイン）、中目黒
薬局（CG 製作）、東京ブルーイングカンパニー
（地ビール製造）という6つの異業種の共同体が
「デラックス」である。「ファンキービッグプロジ
ェクト」を目指すクライン ダイサムを中心にこ
のスペース基地として、「TOKYO ALE」という
地ビールの売り出し、アートエキジビション、フ
ァッションショー、フィルム映写会等々彼らの独自
の企画を次々に展開している。また、それぞれの
活動はデザイン、アート、音楽、映像に留まら
ず、あらゆるジャンルとのセッションの可能性を
楽しみながらビジネスにしている。共有空間は昼
間はこれも手作りのパーティションとテーブル、
ベンチの各ミーティングブースでの打ち合わせや、
インタビューに活用し、夜や週末には時にクラブ
シーンのようにクリエイター達の集まる場に変、
大型アンブやターンテーブルの設備が力を発揮す
る。十番まつりなどの地域との交流も視野に入れ
ている。



イベントの際にはDJやドリンクブースとなる



ショーやイベントで週末は賑う



Deluxeのオフィス



建物外観



NDCグラフィックスヨコハマ

所在地：横浜市中区北仲大通5-57 帝蚕ビル4階

構造：RC

面積：43坪

建築竣工：1928年 リノベーション：1994年

インテリア設計：中川憲造＋粕谷姫中

Before

倉庫＋事務所

SD9910

→ After

スタジオ

Before	→ After
Pタイル床	→ フローリング
照明レール	→ 設置
ドア	→ 付け替え



アクセントとなるエントランスの赤いドア

ハコとしてのオフィス空間を最大限に活用

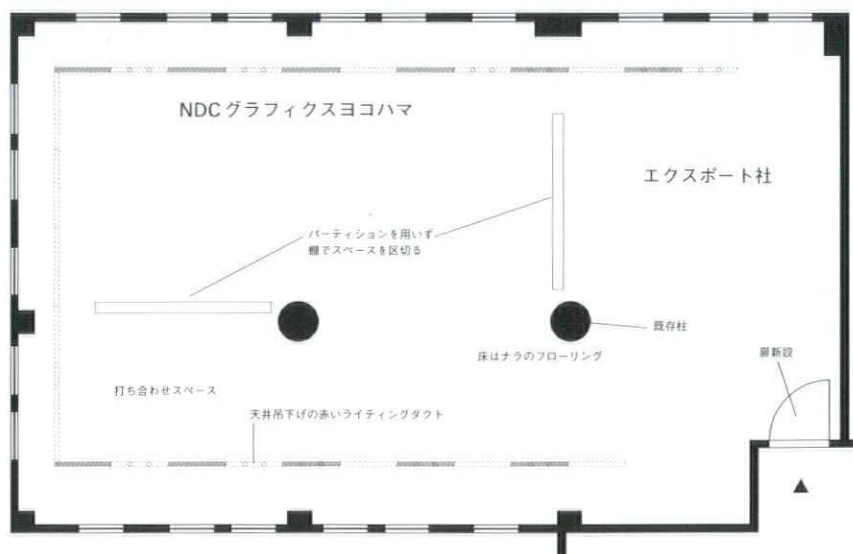
銀座にオフィスを構えるNDCグラフィックスの横浜オフィス。グラフィックデザイナー、中川憲造は横浜での仕事が増え、地元拠点に構える必要性を感じていたという。オフィスのコンセプトはネットワークシステムの活用、サテライトオフィス、支店機能の3点。また、スタッフに対して、2ヶ所で仕事をする訓練をさせたかったとも。

ビルは1928年築。当初、現在入居している隣の10坪程のスペースに案内された。その際偶然に空いていたこの場所を特に借りる気もなく見たところ、壁のない天井の高い大きな空間を一度で気に入ってしまった。ただし予算的にはかなりオーバーしていたため、自らが取締役を務めるエクスポート社との同居によって経費を折半し、現在の43坪の空間を手に入れた。

エレベーターを降りると、2200×1200mmの真っ赤なドアが目に入る。計画の段階ではビルのオーナーが難色を示したというが、「一度やってみて、それでも良くなかったら塗り変える」ことを条件に完成した。今ではオーナーにも気に入られているそうだ。この大きなドアの脇には150mmほどのガラスをはめ込み、中の雰囲気を外に伝えるようにしてドアの威圧感を緩和している。床は無垢のナラ。予算的にかなりの無理をしたというが、室内に落ち着きを与えている。数字にならない形でオフィスの生産性に貢献しているだろう。フロアはOA対応にせず、電気、電話にネットワーク用の3本の配線パイプを壁にはわせてアルミ塗装をし、あえて見せるデザインとしている。3面に巡らせたイタリア、フロス社の浮きのライティングダクトもCIカラーの赤で、白で統一されたオフィスにアクセントを与えている。電源は後付けで自由に変更できるため、レイアウトの変更を強いられるオフィスに対応する。現在取り付けられている蛍型のハロゲンランプは、オフィス開設時には予算がなく、この電球を買い足していくことで逆に仕事の完成の区切りにしていったという。今後の課題は「このスペースを使いこなすこと。このビルを建てた時の思いを活かしたい」。

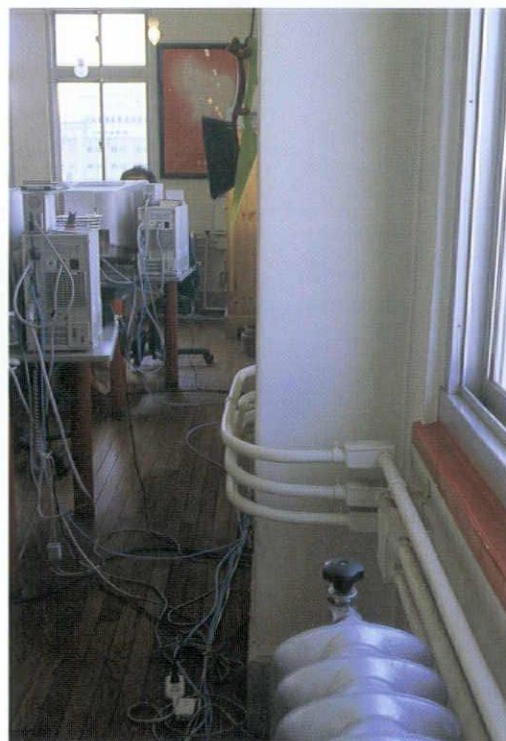


採光性の高い執務空間



入居時取付の蛍光灯

* 既存躯体には手を加えずインテリアのみのリノベート



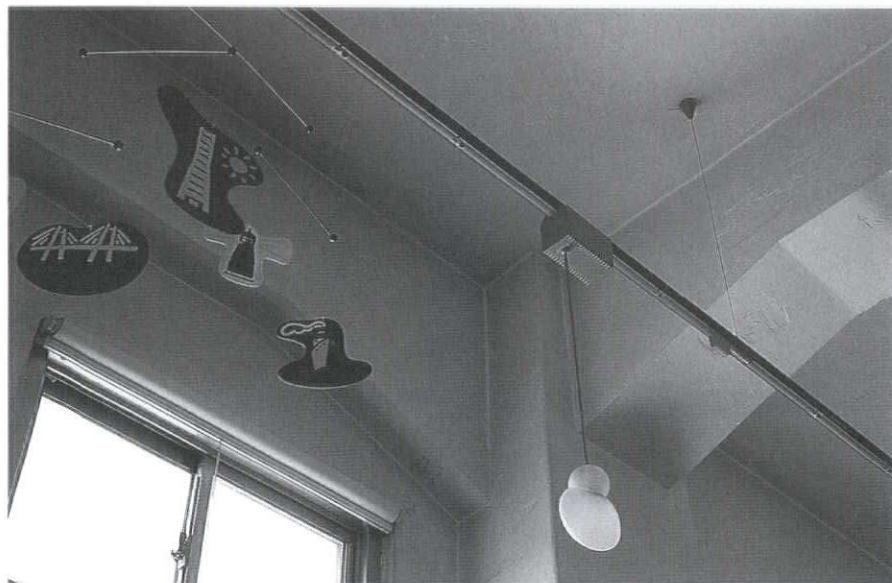
新設の電源ダクト

Activity

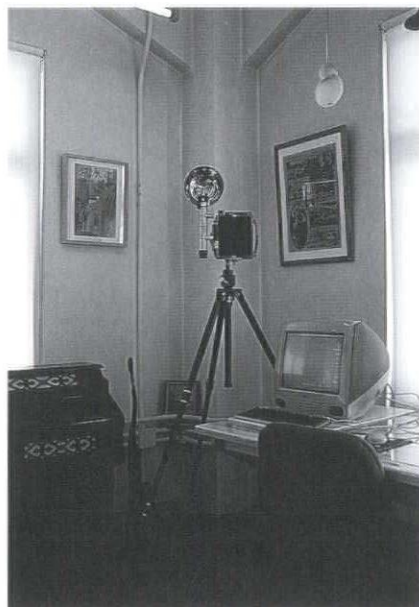
地元に着して活性化に貢献

NDCグラフィックスは日本デザインセンターのグラフィックデザイナーでもある中川憲造が、1986年に設立した社内ベンチャーの「総合グラフィックス研究所」を母体として、1994年1月に設立した。これまで、明治製菓の銀座カリー商品開発・パッケージデザイン、リビング・デザイン・センターの生活スタジオ年間展示ダイアグラムなど、幅広い仕事を展開している。横浜オフィスのメンバーはディレクターを除くと20代から30代前半の4人で運営されている。ここでの仕事はヨコハマ都市デザインフォーラムのデザイン監修や横浜ランドマークタワーのタワーショップの企画、プロデュース、商品開発、運営までを手掛ける。

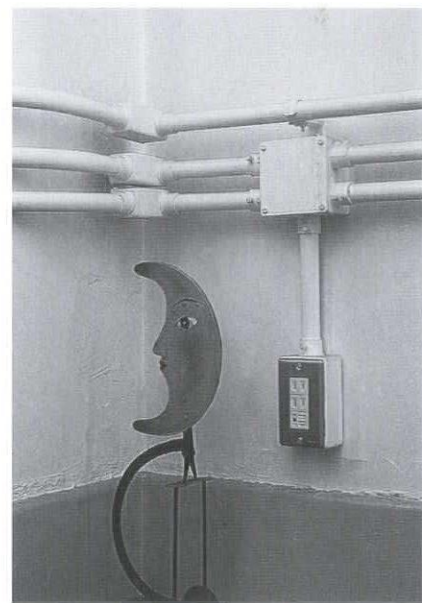
横浜グッズ「貯古糖」は、1859年の横浜開港で日本に紹介されたチョコレートを、世紀末の今、「温故知新」的に横浜土産として復活させた。また、横浜は市の方針として公共輸送に力を入れており、バスの交通網も充実している。NDCグラフィックスは横浜循環バス「Yループ」のポデイペインティングにも参加。みなとみらい地区の1台を担当している。各国の挨拶をそれぞれのこ
とばで書き入れ、大胆なデザインを施している。



自社作品のモビール



アンティークのインテリア



帝室ビル外観



オレゴンムーンギャラリー

所在地：江東区猿江1-18-4

構造：RC

面積：19坪

建築竣工：1968年 リノベーション：1993年

Before

→ After

ガソリンスタンド → ギャラリー

SD9910

次代リノベーションの 先駆者となるか——GS改修

もとガソリンスタンドという異色のリノベーション。1993年8月からギャラリーとして活動している。経営者である父が1990年に亡くなり、業務見直しを図る必要に迫られた。当時、2ヶ所の賃貸も含めて5ヶ所のスタンドを運営していたが、賃貸は契約を解消し、1ヶ所は売却した。ギャラリーとして再生したこのスタンドを閉める話も出たが、「父が残したこのスタンド。まだまだ使えるのに壊すのは申し訳ない気がした」と、ギャラリー経営の阿部利江氏。「場所に愛着があり、ここで地域のために何かできないかと思った」と言う。そこで思いついたのが現代アートのギャラリー。「とにかくなんて面白いアイデアだなんて、自分で思ってしまった、これを実行しなければ、絶対に後悔すると思った。そうやって自分なりのまちづくりをしたかった」。

改修は建物を再利用することを前提に、給油スペースなどスタンドとしての躯体部分はそのまま残し、外壁にグリーン塗装を施した。また、ガソリンスタンドのリノベーションは、地下のタンクが最大の課題だが、このギャラリーではタンクに水を入れてつぶすという方式を取り経費を抑えている。撤去となれば平均500～600万円は見込まなければならない。

内装はスタンド時代事務スペースだった部分とリフト室の間の壁を壊して、面を合わせるために事務室の途中からフローリングの床を張り、地面から一段高くしている。リフト室のシャッター部分には断熱材を用いた壁を立て、一部窓を穿った。全体に立てた壁とともに白で統一している。事務室側に見えるリノウムの床は触っていない。天井は剥きだしにして黒く塗装を施している。ファサードのガラス部分はそのままに、扉を付け替えた。一部に装飾として板を張っている。

事務所側の側壁に入っていたガラスは白く塗装した。給油量の電光掲示板を取り払った際に切り取ったパイプが露出しているなど所々にスタンドの面影が見え隠れする。特にスタンドそのままのキャノピーの照明が、名残を色濃く残している。夜になるとパーティスペースと化すこともしばしば。

Before

シャッター

天井

流し台

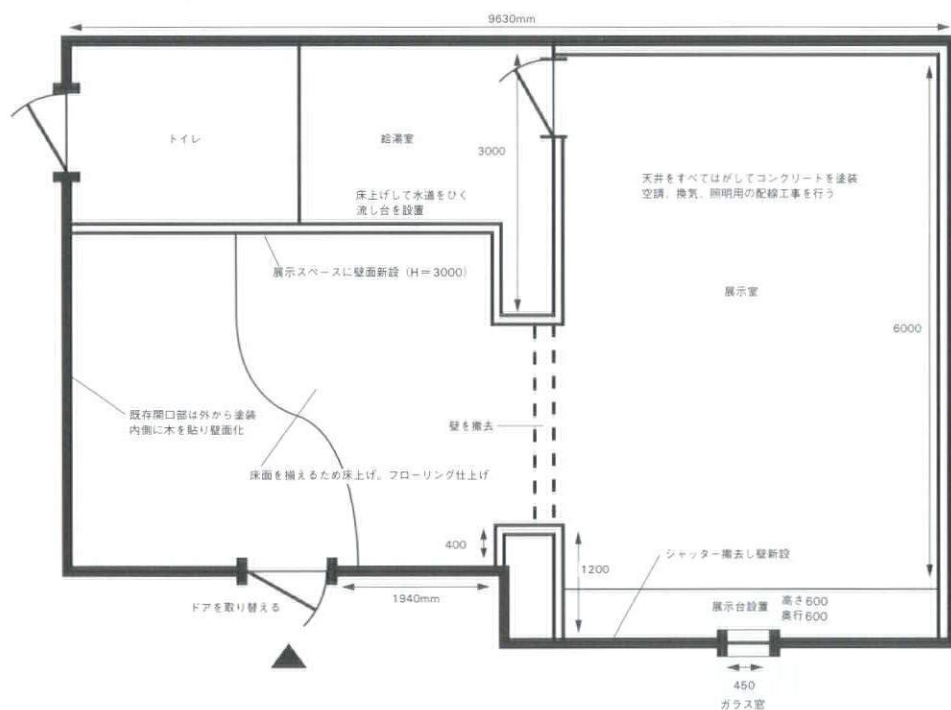


After

撤去して壁に

撤去

設置



リノベーション前のガソリンスタンド平面図



キャノピーやメーターを見ればガソリンスタンドそのもの



Activity

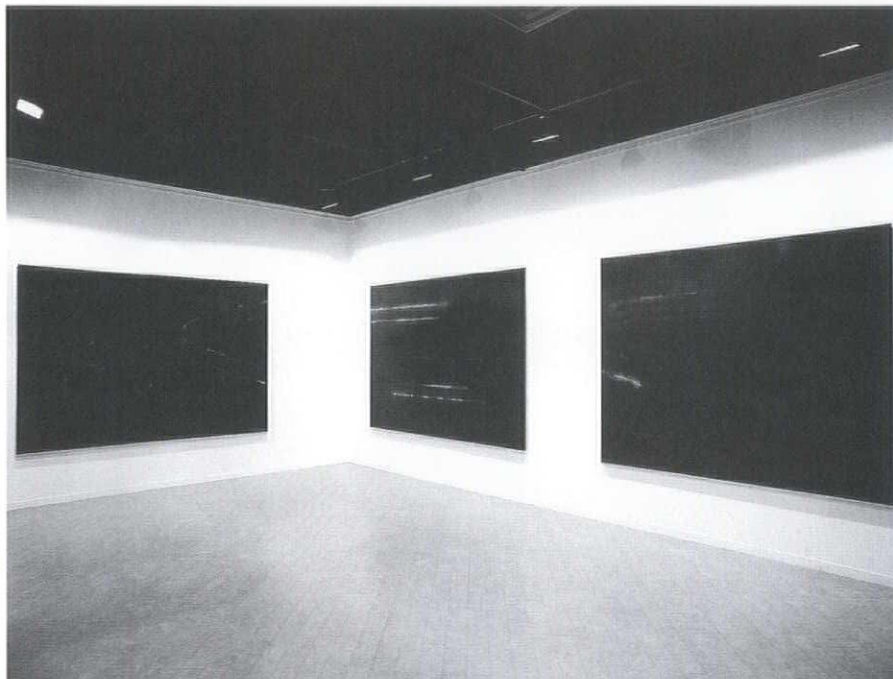
人との出会いを喚起する美術の力

「オレゴンムーン」の由来は、ギャラリー経営者阿部氏の姉が30年来滞在しているアメリカ、オレゴン州に由来。

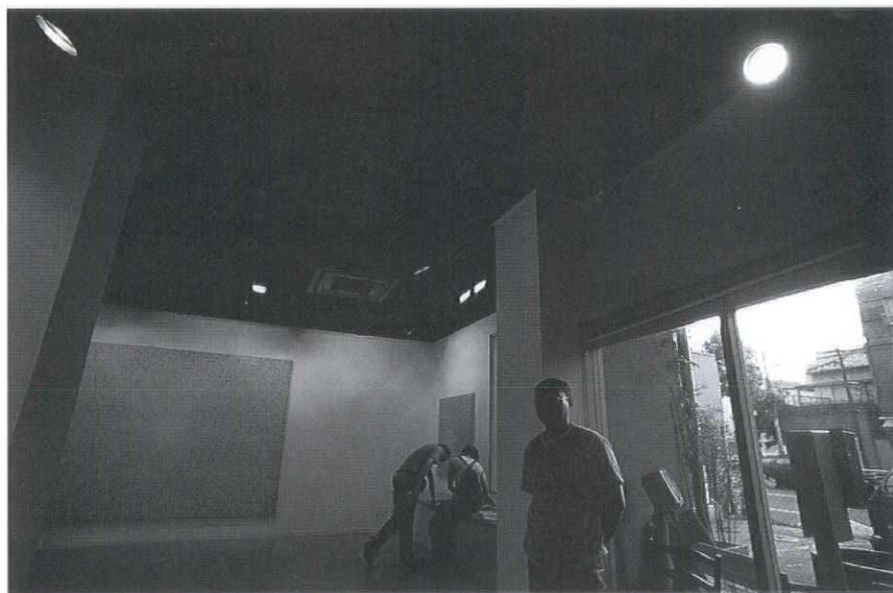
これまで美術に関する仕事に携わっていたわけでもなく、また美術館巡りが趣味というわけでもなかったが、たまたま亡くなった父が1956年に渡米した際お土産として買ってきたGE社のスチームアイロンが、巡り巡って現代美術のアーティストの展覧会に展示されていた。それを見て、人との出会いを喚起する美術の力に引かれたという。

素人だったので3年程は試行錯誤の時代だったが、それでもこれまでにタムラサトルの「スピンドロコダイルⅡ」展や馬場健太郎の「風に出会う」展などを開催している。また2階ではワークショップなどに利用され、現在は障害をもつ人たちのための創作活動に利用されている。

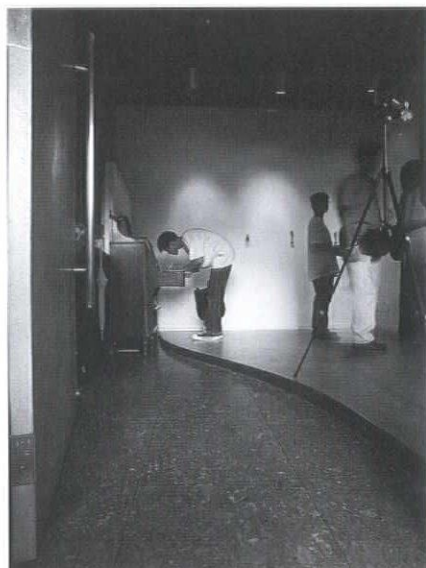
若い人々に作品の発表の場を低料金で提供したいという思いで続けてきた、と言う。ただ、残念なことに雨漏りがしたり、キャノピーの鉄板が剥がれるなどして建物の老朽化が進み、来年にはクローズする予定と言う。



展示スペース



同上



アプローチから



建物外観



ギャラリーéf

所在地：台東区雷門2-19-18

構造：木造+軽量鉄骨（1階カフェ）

面積：10坪

建築竣工：1868年 リノベーション：1997年

インテリア設計：鍋島次雄+藤澤町子

Before

内蔵

After

ギャラリー

総工費
450万円

Before	→	After
電気容量 100w 電球 1 ヶ	→	20A
床	→	撤去し新設
開口部無し	→	設置
吹き抜け	→	設置

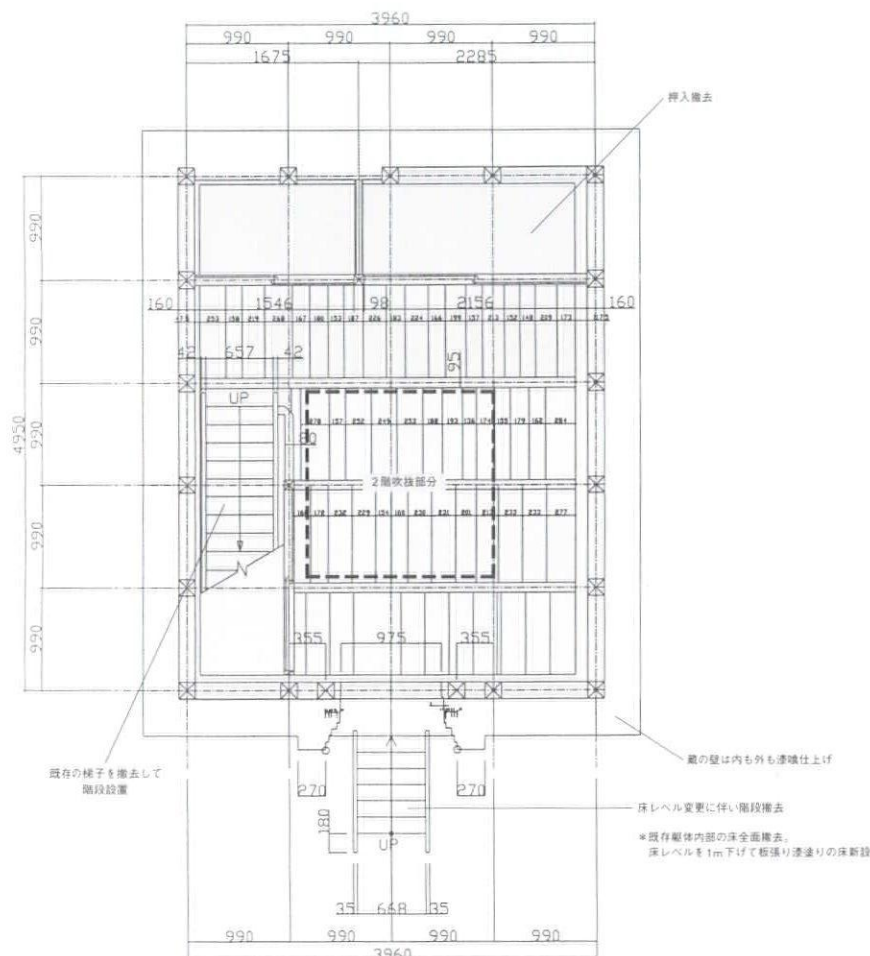
ボランティアの力で再生した蔵

慶應4年築の土蔵を使ったギャラリー。蔵は浅草の江戸通り沿いに建ち、東京大空襲も免れた歴史のあるもの。現在は文化庁の登録文化財に登録されている。

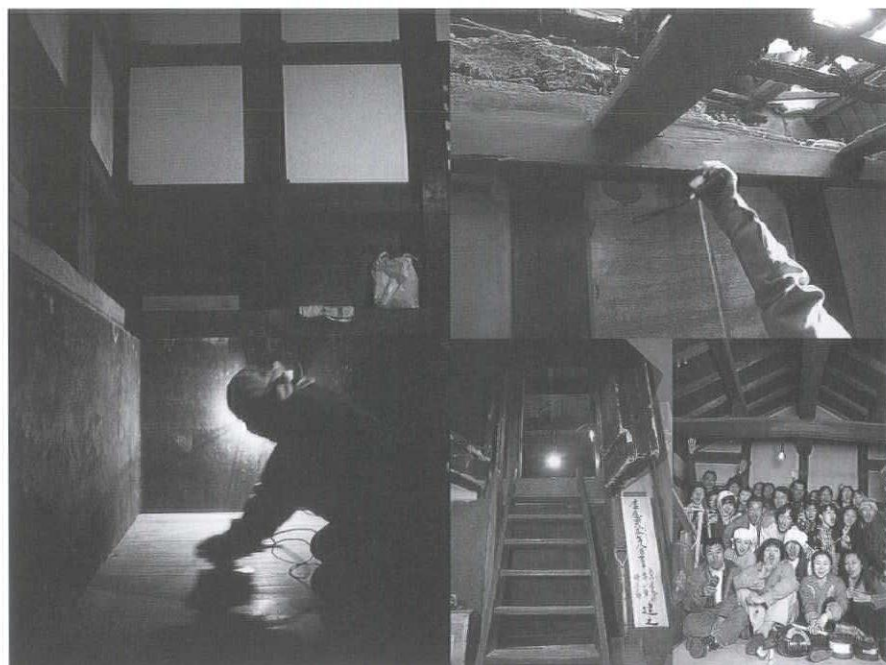
改修に際しては、日本で5本の指に入ろうかという左官職人の加藤信吾氏などの助力を得た上で、かなりの部分の改修を素人であるオーナー家族が行った。だが成功にはこれだけでなくこの蔵の再生を面白がってくれたボランティアの人々の手に依るところが大きい。ギャラリーのオープニングを飾ったイラストレーターから始まり、東京芸大に助手として勤めていた漆塗りのアーティストなど、のべ200人の輪が広がっていった。

作業は蔵内部天井高をとるため1.5m程上がっていた床を取り外す作業から始まった。基礎コンクリートを打ち、先のアーティストによって漆塗りの床が張られた。取り外し可能な木製の梯子だった階段は新たに釘を使わず、組み木で作っている。これもすべてアーティストの作業である。2階は通気を良くするために、西側に窓を穿ち、床中央に吹抜をつくり、同時期に解体された蔵の材木を渡している。

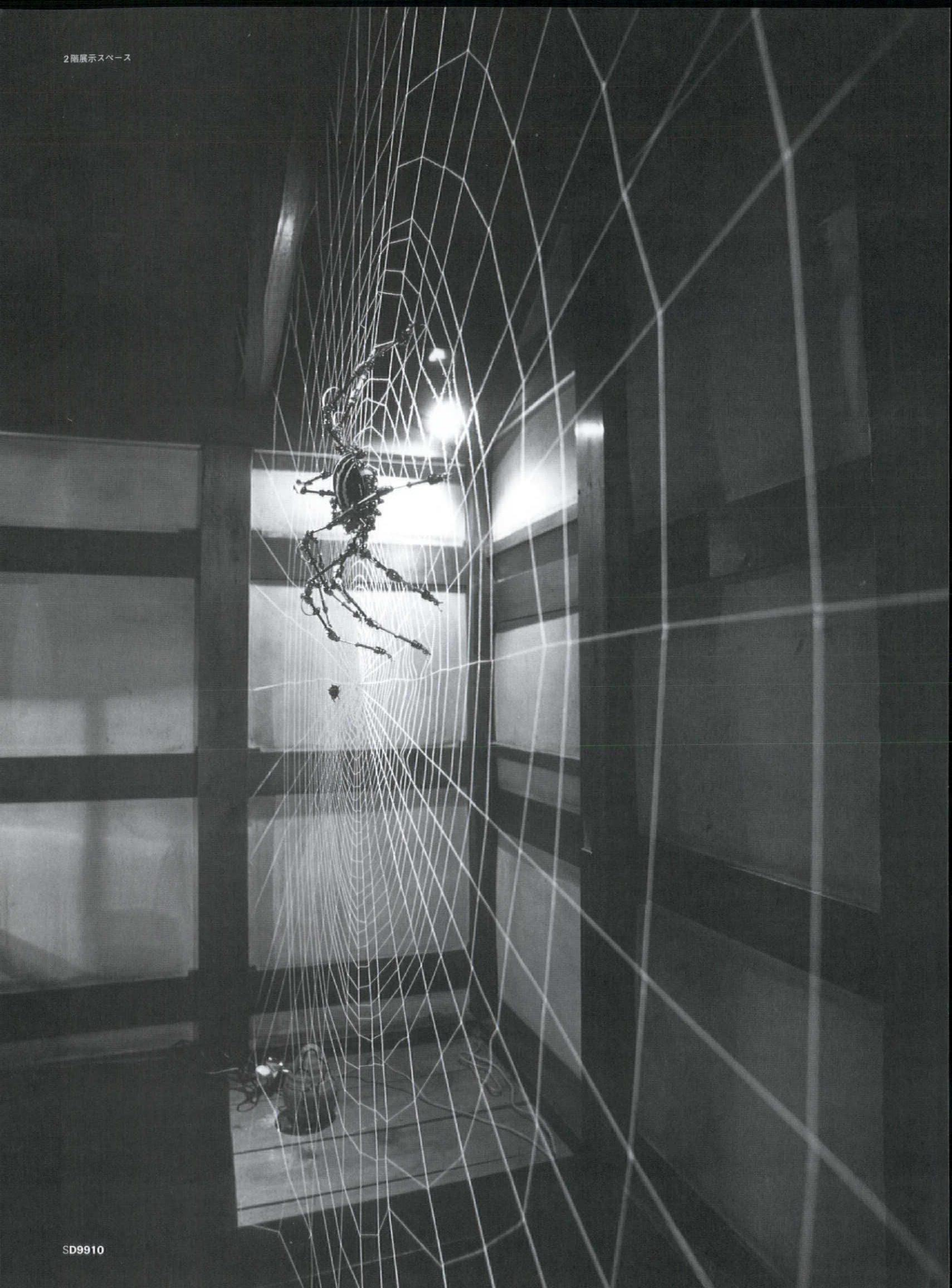
通りに面したカフェは、車庫として使用されていたので、表はシャッターだった。これを外して蛇腹のガラス窓にし、入り口ドアはアンティークのドアを取り付けた。天井は剥がして、C鉄骨を剥きだしにし、その下に補強の鉄骨を渡している。床はモルタルを塗って、ところどころにレンガを配している。波板だった壁の上には土と藁を混ぜた漆喰を塗った。下地のままで麻の繊維が見えるが、土と藁を混ぜた全体の雰囲気と調和している。2階は、1950年代のアメリカのヴィンテージ雑貨を扱うショップで、パーティスペースとして貸し出すこともある。床は蔵の1階部分を下げた際取り外した板を張り、壁は先の左官職人加藤氏のアイデアで発泡スチロールを混ぜた漆喰で仕上げ、並べられた雑貨のポップな印象に相まっている。



改修前1階平面図



ボランティアの支援で再生した蔵。柱や貫はヒノキ、床には松が使われた立派なもの。(写真提供ギャラリーe1)



Activity

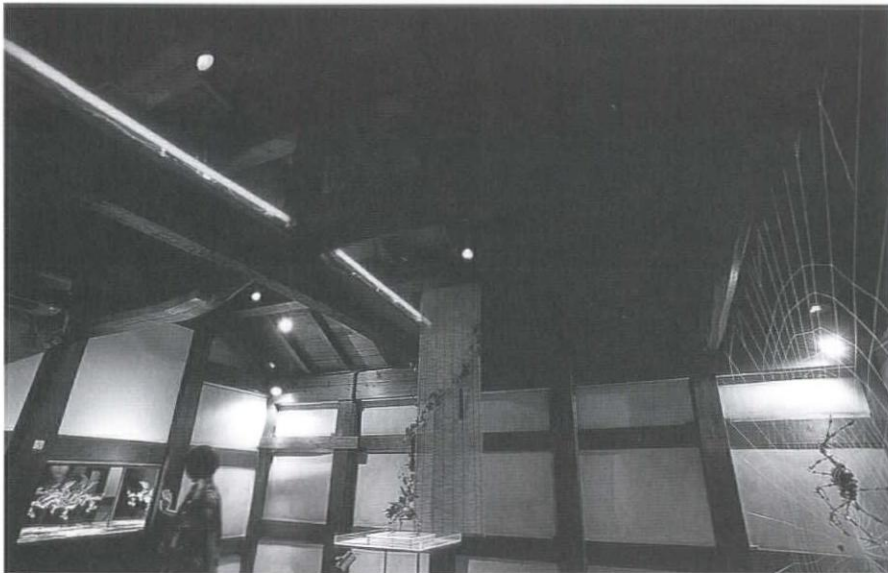
下町に溶け込む土蔵のギャラリー

この蔵はそれまでオーナーの村守恵子氏の父が経営する特殊金属の卸会社の倉庫として使用されていた。経営者の死去に伴って残務処理をするにあたり、一旦は会社を清算し、蔵は壊してすべて売却することになっていた。だが、蔵の整理を進めるうちに内部の構造体や壁がほとんど傷んでおらず、また歴史的建築として価値の高いことも判明した。そこで村守氏は、蔵を残し会社の経営もそのまま続けることを決意、この蔵の利用を考え始めたという。場所ありきのケースである。

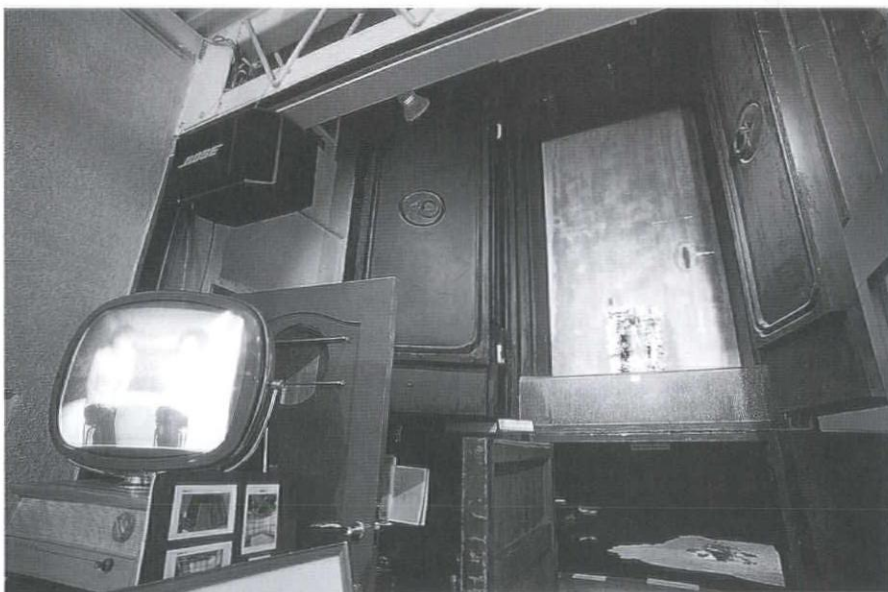
ギャラリーとカフェという発想は、娘夫婦によるところが大きい。ギャラリーのキュレーションの担当する桜井裕一郎氏は、このプランは時間の流れを表わしていると言う。現代から足を踏み入れると、無国籍風のカフェ、その向こうには和の世界が広がる。

ギャラリーの企画は多彩。古着で空間を埋めつくし、来場者が自分の洋服や持ち物と交換していく時間と空間の遊びや、元建築家は、河童や竜といった想像上の動物を精緻なメタルのオブジェに仕上げている。

浅草という地域で格好をつけた「ギャラリー」は似合わない。それよりも地域や来てくれた人々とのコミュニケーションを目指して身近なアートのかけら提示したいという。良質のアートを紹介する一方今後手掛けたいのは「有名人のMac」展やレゴの作品を扱った展示。特に、機能という意味のあるデザインという点でIDの企画に力をいれていく。アーティストによって甦ったこのスペースをアーティストとともに遊び、楽しんで利用していくことこそ、この建物の残り方なのだろう。



2階展示スペース



ギャラリー入口に残る土蔵の扉



カフェ2階のアンティークショップ



路上に縁台を置いて、和みのある空間に

現代美術製作所

所在地：墨田区墨田1-15-3

構造：RC

面積：30坪

建築竣工：1955年位 リノベーション：1997年

Before

工場

After

ギャラリー

総工事費

400万円

美術展示に最適の「白いハコ」空間を提供

自らが経営する城東製作所内にある、築40年以上の建物の一部を現代美術などの展示会場として使用している。もとは電設工事用の絶縁テープ工場でその後改造して耐電圧試験を行う場として使用されていた。だが、90年代後半にはそういった作業も減り、現代美術に関心のあったオーナーが97年10月にギャラリーとして再生させた。

当初は山の手方面で適当なスペースを探していたが、「家賃は高いし、空間としても魅力もない」。だが、足元を見てみると格好のスペースがあるということになった。以前から知り合いだった日系ブラジル人のアーティスト、大岩・オスカール・幸男に相談したところ、サンパウロ大学で建築を専攻していたという彼は1週間後には改装の模型を見せてくれ

たという。仮設の間仕切りや機械類を総て撤去し約30坪、天井高3.7mのオープンスペースが完成した。元々のブロック壁に材木で下地を組み、厚さ12mmのコンパネを張った。レールからワイヤーで吊るすのではなく、ボルトや釘などを自由に使って展示できるようにという配慮である。コンパネに白いペンキ塗り、建設当初からの鉄の扉やモダンな窓枠は

Before

照明レール無し

玄関扉

After

設置

オートロック設置

99年5月三田村光士里のパーマネント・ルーム展



そのままに、展示を邪魔しないグレーのペイントを施している。北側の窓は一部塞いで大きな壁面を作った。南側からの採光では古い擦りガラスがディフューザーの役割を果たしている。重い鉄扉には電子ロックを組み込み、天井には新たにスポット照明用のレールを取り付けた。また事務所が隣接していたため、トイレ等水廻りの基本的な設備は整っていたが、

ギャラリースペースにあった手洗い用の蛇口は床下に埋めた。床は塗装だけで特に手を加えていない。「汚れたら塗り直せば」という気持ちでいたが、オープニングの展示では、大岩オスカル幸男が白い床にサインペンでどんどんライブでペインティングをしてしまった驚いたとも。以前の工場の業種から、電気容量の工事は当然不要。経費削減のため空調を

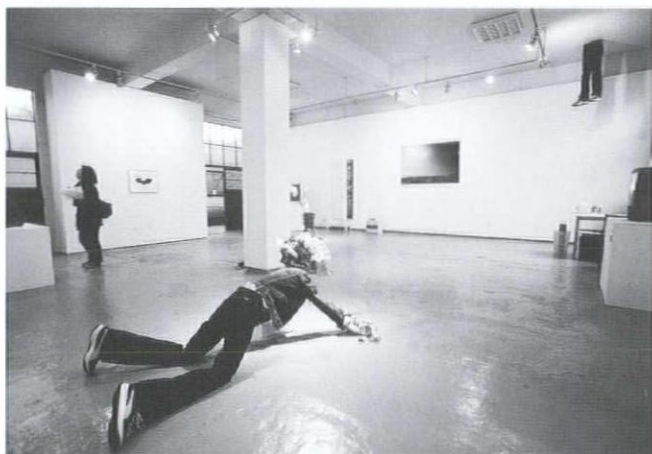
入れていないので、夏冬は原則として休廊している。

写真提供＝現代美術製作所

美術史を専攻していたオーナーの曾我高明氏。ギャラリーの空間設計にも力を貸した先の大岩オスカル幸男、2.5mという大きな熊がレール上をスライドするインスタレーションを制作したタムラサトルなど多くの若手アーティストの展覧会が開かれている。企画は基本的に高明氏と妹の友美子氏。繁華な都心のギャラリーとは異なり、近隣の住人が覗きにきたり学校帰りの子供が遊びにくることもしばしば。アーティストとの交流を自然な形で提案する場である。98年7月には「木造密集市街地の将来像を考える向島デザインワークショップ」に参加するなど、地域に根ざした活動も行っている。



大岩オスカル幸男のペインティング

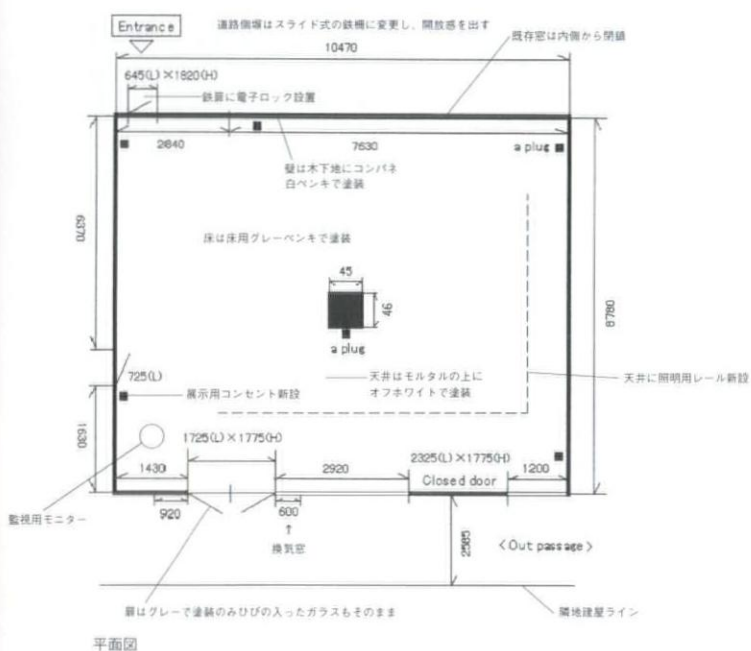


99年2月「NEW LIFE」展

以上2点 写真提供=現代美術製作所



「美」のロゴが印象的な建物外観



スペースエッジ

所在地：渋谷区渋谷3-26-17

構造：RC

総面積：110坪

建築竣工：1961年 リノベーション：1993年～

Before

倉庫＋事務所

防音設備

照明用レール



After

貸スタジオ

＋展示場

設置

設置



30～40代のアーティストの応援をしたい

写真＝木田新一



オープンスタジオ NOPE

所在地：港区三田2-12-6

構造：木造

面積：約70坪

建築竣工：1970年頃 リノベーション：1996年

インテリア設計：田島則行

Before

事務所

After

スタジオ

総工費
700万円



明快な空間割は活動形態とリンク

禅寺の門柱の前に立って、「まさかこの中に」というところに Open Studio NOPE はある。境内を横切った先には、寺とは無関係の建物があって、いくつかの事務所・集会所が混在している。その一番奥の一室が NOPE のエリア。

建築家・田島則行氏は自分の建築事務所を新設するにあたり、クリエイターが集い各自の制作活動が可能なくらい広いスペースが欲しかった。そこには AA スクール時代に見た Open Studio のイメージがある。ロンドンでは年に数度アトリエを公開することで、人の交流や情報交換が行われる。結果的に NOPE は東京でその先鞭を付ける場所となった。

96 年 7 月、超掘出し物が見つかったが、それは願った以上に広がった。急遽知人に声をかけたところ、アーティスト、キュレーター、建築家など、20 数名が集まる。建物は賃貸。借主は田島則行、キャサリン・パウエル。他のメンバーはサブ・テナントとして 1 坪あたり 1 万 3 千円の賃料を借主に支払い、賃料に応じたフロア面積を線引きして使用する。

Before

電気配線

天井

給排水設備

After

変更

撤去

増設



各ブースと中央ミーティングスペース

SD9910

とてもシンプルなNOPEのフレーム。

96年10月、オーナーサイドの改装。初期状態は、間仕切りが既に撤去され、天井が破れて落ちかけていた。田島氏の指示で天井を取り払い、小屋の傾斜に沿って断熱材とプラスターボードを屋根裏に張る。11月、入居、NOPEサイドの改装。屋根裏・壁面のペンキ塗り、エアコンを中古で入手し、蛍光灯を小屋にアッパーに付けなおして間接照明にした。電気工事以外はすべてメンバーの手作り。サブ・テナントのフロア線引きは仮設パイプ、コンパネ、カーテンでなされる。これらの間仕切りは個々の制作上の機能を満たすためのもの。互いの気配が感じられるくらいゆるやかに、必ずしも天井高まで届かずに設置される。それらはメンバーの移動、変更に応じて随時改装される。

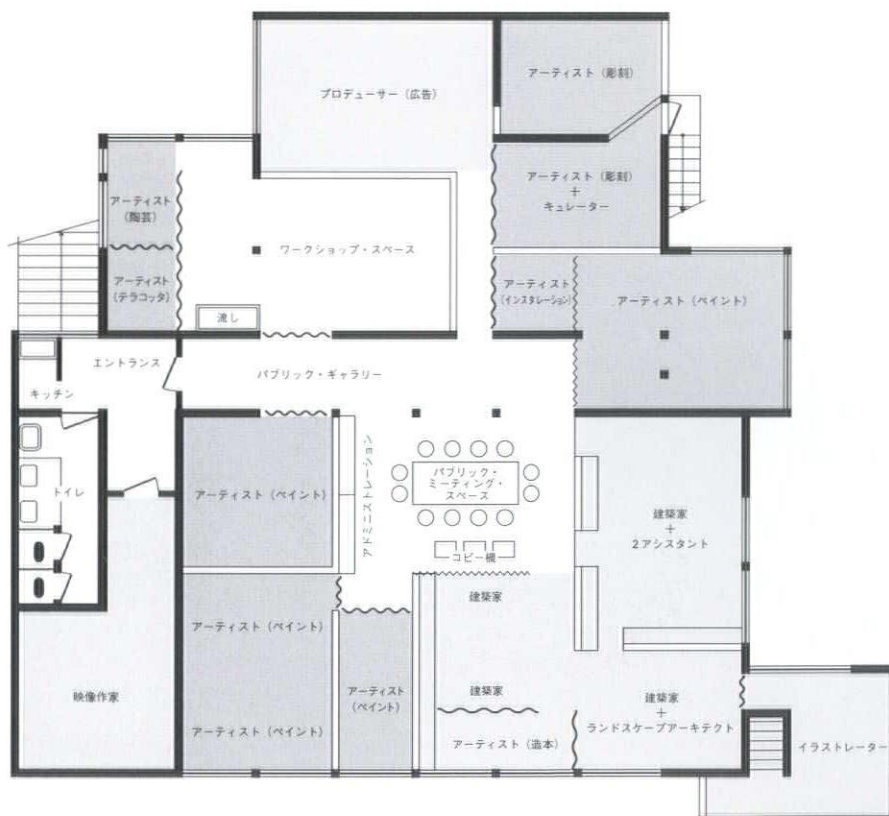


展示に使われる手作りの壁面

メンバーは幅広く異分野の人たちを集めるように考えられた。リーダーである田島氏と夫人で陶芸家のキャサリン、建築家、画家、映像作家、デザイナー等々のクリエイターたちで構成され、現在25人。

NOPEは固定したマニフェストを持たず、メンバーは自分のエリアで個々の活動を完結させる。一方でひとつのアクティビティのもとにつながりが発生する。それは、ワークショップ、セミナー、レクチャー、イベント、パーティなど様々なかたちをとる。「動態都市ワークショップ」、「ブリティッシュ・アート・ナウ」などの国際的なイベント、「子供ワークショップ」、アートにまつわる議論の場としての「トーキング・アート」、都市の研究会「ソシオ・ランドスケープ」、「テレデザイン」という新たな設計デザインネットワークも発生している。アクティビティにまつわるつながりに強制力はなく、とてもゆるやか。しかし、互いの距離が近いことで、より頻繁にもより強力にもなり得る。

メンバー毎のフロアの地割りには、仮設パイプとコンパネとカーテンでゆるやかに実体化されているが、このリノベーションのカタチがまさしくNOPEを象徴している。



アーティストたちの部屋



スタジオからの眺め

- 壁
- パーティション (高さ=約2.5m)
- 〰 半透明波板
- 〰 カーテン
- デスクワーク系
- 制作系

command N

所在地：台東区上野1-2-3 犬塚ビル

構造：RC

面積：14+3坪

建築竣工：1964年 リノベーション：1998年

Before

倉庫+車庫

After

展示スペース

インディペンデントアートスペース+事務所

総工費 59000円



Before	→	After
1階給排水設備なし	→	新設
カウンターバーなし	→	新設
収納なし	→	新設



1階展示スペース。コマンドN（キューブ）。展示に応じた自在なペイントができる



上2点は改修作業風景。下左は98年8月キム・ナヨン展（写真＝木奥恵三）。下右は98年9月モイ・カフェ（写真＝中村政人）

都市のスキマに侵入する 仕掛人の基地

事務所ビルの地下倉庫を改修して、活動拠点としている。サンドイッチ店だった1階車庫も借り受け展示スペースを確保した。1階3坪、地下14坪の計17坪。秋葉原近辺に限定して活動の拠点を求めている彼等は、やはりいくつもの不動産業者をまわり、当初、このビルの3階に案内された。地下はアメ横で魚店を営む貸し主の荷物が置いてあった。

1階、地下とも壁は白く塗っているが、1階の展示スペースは展示に応じて頻繁に塗り替えられる。両階とも9mm厚のシナベニヤを立てて壁をつくり、コンクリート用ペンキを上塗りしている。展示の際には釘を打つなども可能だ。作家がつくるスペースらしく、可能な限り作家やクリエイターの自由な活動を支援できるような場を提供している。現状復帰の契約は残っているが、壁は中村政人が以前のインスタレーションで使用したものをそのまま利用した簡易なもので、いつでも外せるような仕様になっているとのこと。これらの壁の裏は収納スペースとしてやはり手作り棚が置かれる。

床も「汚れたら塗り直すだけのこと」と、すでに何度も塗装をやり直している。地下の倉庫は、鮮魚を保存していたこともあって、塩が激しく、この掃除にはかなり苦労したとのこと。水をかけては洗いという作業をスタッフが繰り返し行っている。元からあった蛍光灯の照明に加え、やはり手作りの間接照明。天井もコンプレッサーで白く塗った。こうしたアートスペースは、常にニュートラルな場所をを良しとすることから、装飾的なものは一切排している。1階では「モイ・カフェ」といった期間限定の企画もあり1階にも給排水設備が必要になったため、既存の地下設備から水を上げて簡易キッチンを設置している。

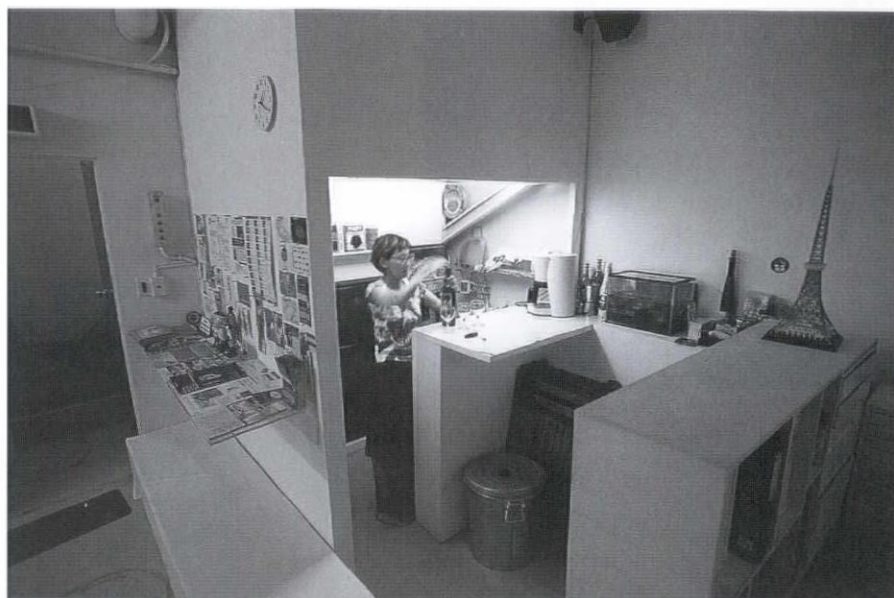
ダクトの取り付け、空調設備などは貸し主の負担で工事が行われている。

地域のエネルギーを吸収して 新しいアートの現場を創出

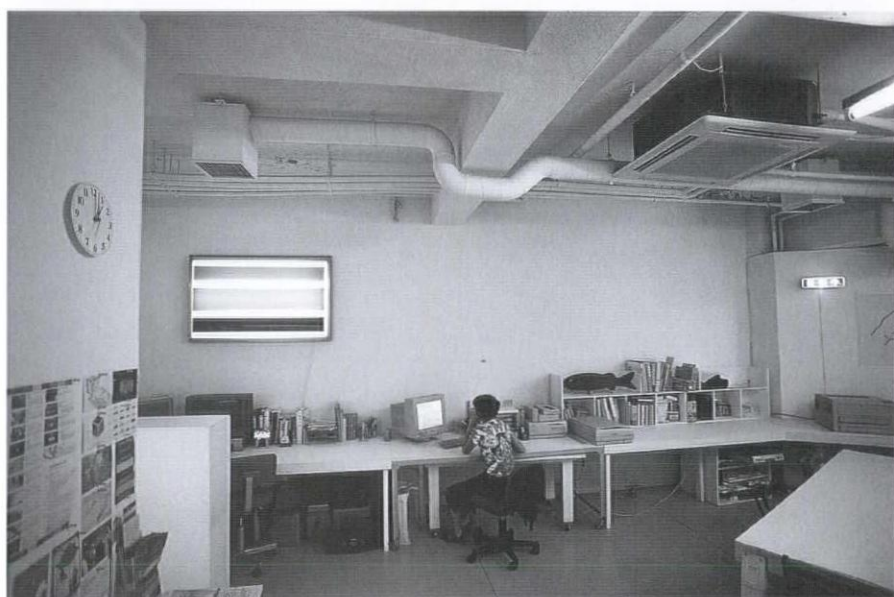
コマンドNは、アーティスト、編集者、アートアドミニストレーターを核とした、現代美術の活動団体である。それぞれの仕事を持ちながらスペースとネットワークを共有している。コンピュータの「新規ファイル作成」動作に由来する団体名が示す通り、「新しいことは何でもやってみよう」という意識が通底し、アートを通じて新しいコミュニケーションを創出することを目的としている。従来型のスペースに依存する芸術活動ではなく、アートの社会的機能を通じて地域や人のネットワークをベースに都市の再生を図るもの。

立ち上げのメンバーである中村政人は作品制作において場の影響を強く感じたことから、逆にその影響を自分でコントロールできるのではないかという思いがこのスペース作りのきっかけになっている。秋葉原はモノが生まれる場所であり、「ダイナミックなエネルギーを持つ地域。そのエネルギーの影響を受けたい」と中村氏。

これまでにキム・ナヨン展などの展覧会、秋葉原TVといった地域を巻き込んだ企画展、あるいはダムタイプの小山田徹、美術評論家の針生一郎などを招いたテーブルトーク「powwow」の開催など精力的な活動を展開している。「まだ規模が小さくてもそれが実現すれば大きなことができる」と中村氏。



地下事務所のコーナーにはキッチンバーがある



地下。天井高のある事務所スペース



階段にも作品が展示される。トコヤマークは中村政人、電飾カモフラージュは鈴木真悟の作品



コマンドNのファサード

TIME & STYLE

所在地：目黒区八雲3-23-20

構造：RC

面積：150坪

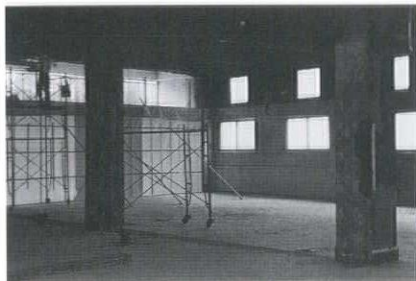
建築竣工：1964年 リノベーション：1997年

Before

倉庫

電気容量 20kw

受電電圧 1000V



After

ショップ^o

+ギャラリー

75kw

6000V



総工費 4000万円



最小限のスケルトンでショーアップ

目黒区八雲の閑静な住宅街の一角にN.Y.、L.A.、パリ、ロンドンではよく見かける佇まいのインテリアショップが、忽然と姿を現す。スガーホワイトのスクエアな建物の屋上からは植栽がのぞき青々とトリミングされている。ファサードには大きなガラス張りのウィンドウが3面あり、入り口、カフェテラス、ギャラリーのそれぞれの顔を持つ。この建物は1964年に建てられた倉庫でコンクリート作りの空間は面積150坪、天井高5mである。この倉庫を発見するまで、青山、代官山、自由が丘等の候補地を店舗物件から探していたが、家賃も高く制約も多い狭い選択肢からは納得のいくものに出会えなかった。そこで、発想を転換し倉庫専門の不動産会社に相談したことによって、計画を実現する道を開くことができた。

97年入居時に、店舗スペースを100坪にギャラリースペースを40坪に他をオフィスとストックスペースに大きく分割した。契約は現状復帰を除く代償として、タイヤの倉庫や住宅メーカーの資材置き場であった時代に残されたものの一部解体、撤去から始まった。内装工事は空調（設備は中古を1000万円で購入）電気（照明、電圧）、水道工事に、床壁の補修と塗装。外装工事はファサードの開口部を広げて外光を取り入れるための大きなウィンドウを作り、塗装を掛けた。こうして、最大限に「素のままの空間を生かした最小限の工事」によって、眠れる街のひとつの資産が甦った。秋には再度の改装を行い2層にし、さらなるスケールアップを目指す。

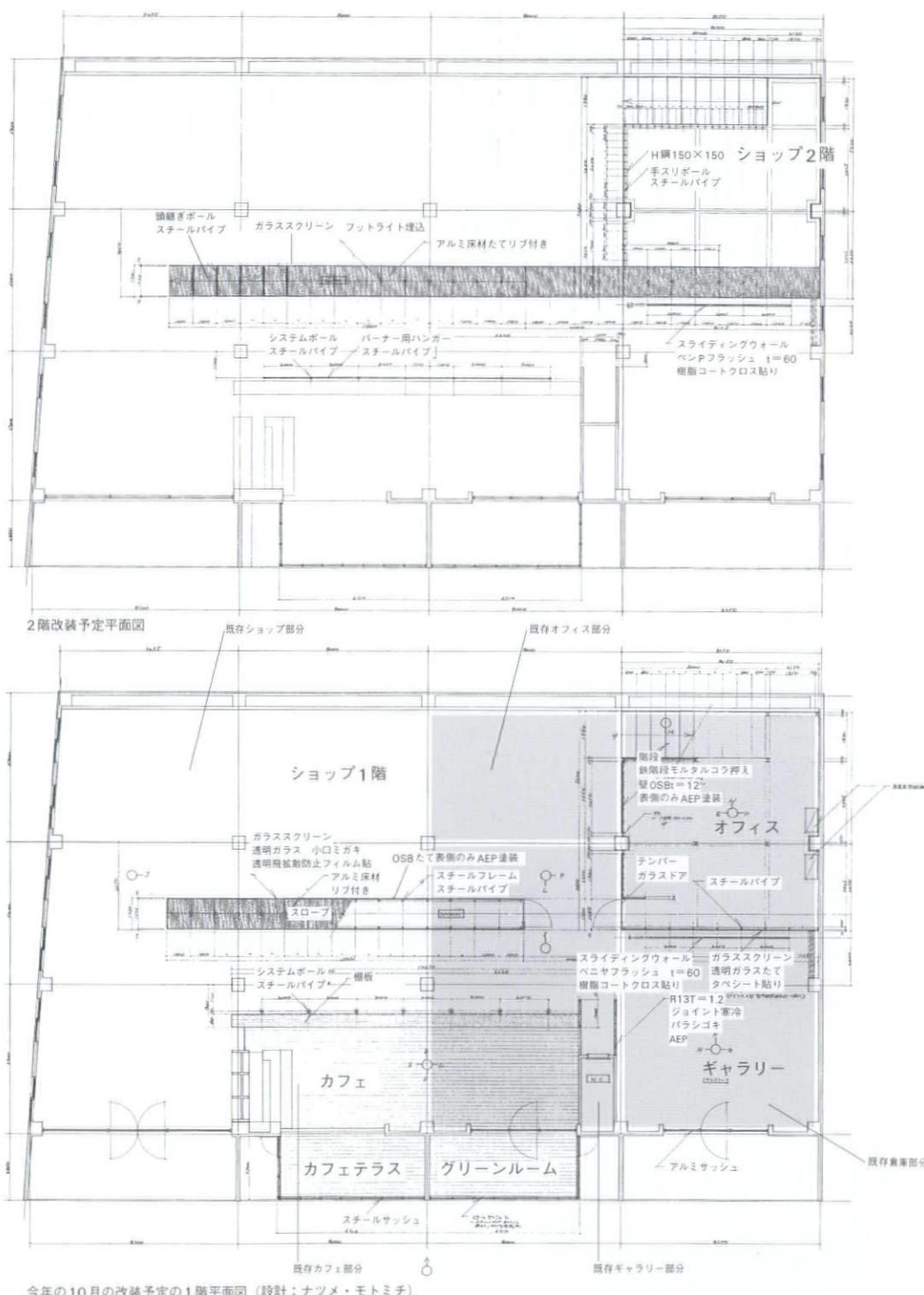


Activity

ユーザーと対話する場を持ちたい

家具の輸入行うプレステージジャパンは95年から「自社の製品を展示し、直接ユーザーと対話する場を持ちたい」と理想の場を求めていた。97年、10月にインテリア、インテリアオブジェのショップ、ショールームとしてオープン、現在、ヨ-

ロッパのモダンファニチュア、インテリアオブジェをはじめ、オリジナルの日本、アジアのインテリア家具、雑貨類の商品構成を展開している。また、40坪のギャラリースペースではH Designとのコラボレートにより、彼らの商品の展示販売を常設している。このギャラリーの目的を自社のための多目的なイベントスペースと位置付け、年4〜5回の自社企画のアートコレクション、自社製品の撮影、時に貸スタジオ等に活用している。「時代や環境の変化と共にタイムアンドスタイルも独自のスタイルを成熟させ、普遍的なデザインや素材の価値観とのバランスの中で、よりクオリティーの高いインテリアを創造して行きたいと思います」とは吉田店長の弁。



Baden Baden

所在地：目黒区中央町 2-31-7

構造：木造

総面積：約30坪

建築竣工：1955年頃 リノベーション：1998年

インテリア+ガーデン設計：井出綾

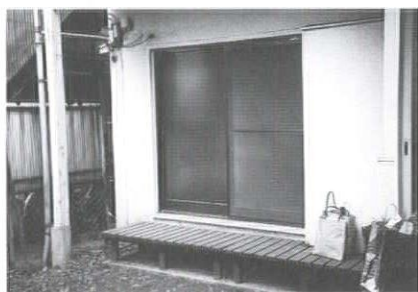
総工費 550万円

Before

一般住宅

電気容量 15A

ブロック塀



After

事務所+店舗

100A

撤去



敷地境界線沿いのブロック塀が残る改修前



入ってすぐのショップ

054 | 055

住空間で具体的に商品を見せる

学芸大学から徒歩5分強の住宅街にある。築40年は経っているという1階2部屋2階2部屋の住宅を改修した。アーティストらのプロデュースを行っていたオーナーの森千鶴子氏は、作品を展示販売するための拠点を探していたという。親戚がこの住宅の持ち主で、以前の入居者が退去してから、新しい入居者を探すには改修の費用もかかり「扱いに困っていた」とのこと。そこで、好きなように改修してもいい、現状復帰も不要という条件で借り受けた。

当初はやはり傷みが激しく、天井はすべて白く塗り直し、床を張り替えた。台所はPタイルを使用し古い住宅の雰囲気を活かしている。居室部分は畳をはがしてベイマツに張り替え。ブロック塀に囲まれて暗かったので、それらはすべて撤去し、それまでにあった雑木を目隠しにしている。また、古くからある住宅地で、近隣の木造住宅はどれも建て替えが行われていないため白アリの被害がみられ、その対策も行っている。住宅だったので基本的に水廻りとガスの工事は不要だったが、電気容量はまったく足りずコンセントを増設して、電気容量も15Aを100Aに増やした。天井にはライティングレールを付けた。古い窓枠はノスタルジックな雰囲気を色濃く残している部分で「一番気に入っている」。掃き出し窓だった開口部に扉を新設し、アプローチとするプランに変更、以前の玄関ドアはスタッフ用の出入り口とした。そこに小さな前庭をつくっている。押入は外した部分と白いクラッチドアに付け替えた部分がある。予算を抑えるためにできる限り自分達で作業をし、また材料の選択にも時間がかかったため入居から完成まで半年かかった。だが、「住宅をショップにしているので、客は商品を自宅に置いたときのイメージを持ちやすい」という利点が活かされている。2階は現在グラフィックデザイナーとフードコーディネーターに一部屋ずつに事務所として貸している。確かに550万円と思いのほか改修費はかかったが、それでも満足のいくスペースが手に入ったという。

Activity

生活の各シーンをプロデュース

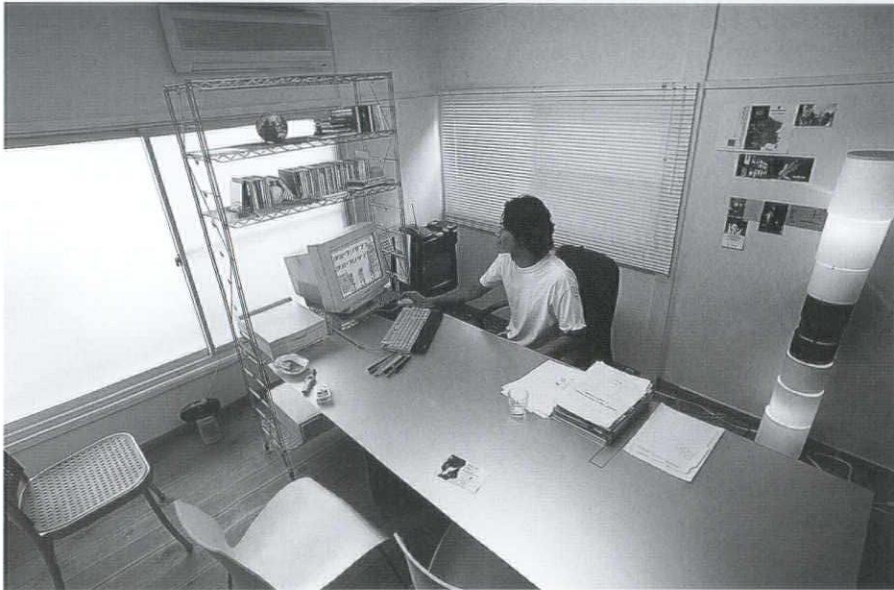
1998年11月にオープン。「A NEW JAPANESE STANDARD」をテーマに扱う商品は家具やガーデニングのコンテナから、ポストカード、バッグと幅広い。生活全般にわたる商品を提供するショップである。次世代のクリエイターを中心に海外の商品も揃えている。オーナーは、生活デザインプロデュースという日本ではまだ馴染みのない分野を開拓している。ガーデニング、ウェディング、ショップのトータルインテリアなど、生活の各シーンをプロデュースする。



緑に囲まれたアプローチ



ロゴデザインは2階の住人、グラフィックデザイナーのジュリアーノ・ナカニシ



2階。ナカニシ氏のオフィス

所在地：宇都宮市清住

構造：木造

面積：40坪

建築竣工：1890年頃 リノベーション：1999年

Before

大谷石蔵店舗

電気容量 30A

トイレ

トイレ1

After

スタジオ

60A

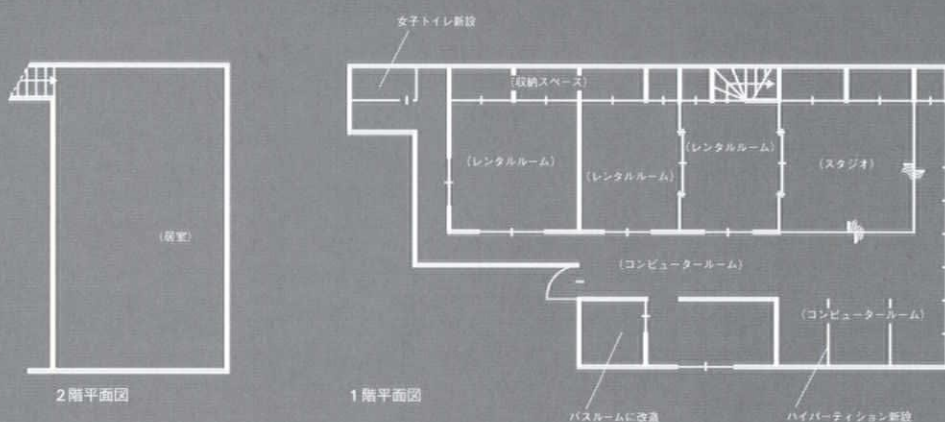
バスルームに改造

女子用増設

都心を離れ築100年の蔵をベースにベンチャービジネス

築100年になるという商家を改装したSOHOスタジオ。5年前まで設備会社の事務所に使用されていたが、それ以降空き家になっていた。この清住という地域自体、宇都宮の中でも古い町で、明治時代、この蔵の前を通る道は国道だった。近隣に軍の施設ができ蔵の前の道は国道から県道、そして今は市道になっている。屋根裏からは、明治時代に当時の所有者が撮影したガラス乾版が多数見つかり、それを使用した簡単な展覧会なども行った。

主催の高山氏は「蔵でSOHOスタジオというインパクトや家賃の安さでこの場所に決めた」と言う。ITを利用することで場所から解放された展開も今後見込めるだろう。地価の高い都心を離れても可能なビジネスである。スペースは建坪で約40坪。屋根裏もあり使い方ができる。リノベートはまず、畳をすべて剥がして、また床の基礎も腐っていたので、その補修をしてフローリングに仕立て、照



和40年代のものだったトイレと風呂を外し、バスルームに改造。事務所として使用されていたので、壁などの改修は不要だったが、パソコン、スキャナーなど本格的な機器を導入するため、電気容量を30Aから60Aに変更。天井は梁の見える建築当時の姿で残っており、パソコンが並ぶフロアとのミスマッチが楽しめる。

賃貸契約の際、貸主との交渉によって、改装の許可（ただし神棚、大国柱、庭の稲荷は触らないことを条件に）と退出時の現状復帰、それに又貸しの禁止条項を削除してもらったという。又貸し条項は、現在会員制の会社を、将来共同出資という形に移行するために気になる点だったという。



2階屋根裏から見つかった建築主の家族の写真

Activity

清住蔵スタジオの仕事 会員同士の共同制作の拠点

経営者、高山哲三氏は、役員まで勤めた印刷会社を辞め、この清住蔵スタジオを設立した。以前の会社では印刷だけでなく、コンピュータを導入し、写真撮影の内省化を推進して経費の削減を実現した。そのシステムが軌道に乗ったことを契機にこのスタジオを始動させた。スタジオには、Mac9台、Windows1台にスキャナー、プリンター等の機器を揃えている。入会金が3万円、保証敷金が3万円、年会費が3万円を支払えば機材を自由に使用できるシステム。「コンピュータを使って何かをやってみたいという程度では、パソコンからスキャナー、プリンターまでを個人で用意するのはかなりの負担だが、このスタジオで気軽に経験してもらえれば」と言う。さらに、会員同士の交流を図り共同制作の拠点とできればとも。「ひとりの感性ではできなくても、何人かが集まることで、思いも寄らないことができる。それにこれからはモノを売るのではなく価値を売る時代。その拠点とするべくこのスタジオを始めた」という高山氏。あるいは潜在的な才能を見出すこともあるかもしれない。





すずえ・しゅうじ

1977年慶應大学卒業、鈴江コーポレーション入社。社長室長、近未来事業室長、物流事業本部長、管理本部長などを経て、今年6月社長に就任

鈴江修至

1980年代、芝浦周辺の倉庫を利用したディスコやレストランがブームになったことがある。飲食店然としない、むき出しのトラスや、コンクリート打ち放しのある種殺伐としたスペースだ。こうしたいわゆる「ロフト文化」を提案した先駆者の人物が鈴江コーポレーションの鈴江修至社長。

大量輸出、大量輸入の時代だった高度経済成長期、倉庫業の経営も安定していたが、その後第1次、第2次のオイルショックを経て日本は安定経済成長期に入る。このときメーカーや商社は綿密なマーケットリサーチによって在庫を削減、物流システムにも変化が訪れ、メーカーが自社倉庫を持ち始めたり、コンテナ化が進んだりといった物流コストの合理化が進み出した。その流れのなかで、倉庫に部分的に空きが出始め、当時社長だった鈴江強氏はこのスペースの解消を修至氏に命じたと言う。この命を受けた修至氏は、当時入社して2年目だったが、偶然テレビで観たN.Y.のソーホーをヒントに、これを取り入れることを決めた。

倉庫の特殊利用で最も障害になるのが、関税法や港湾法といった法規上の問題。先駆者としてはこの点が最も苦労したようだが、手を尽くしてこれをクリアした。そこで従来の利用では全く縁のない業界に倉庫の利用を提案。ファッション業界、スタジオ業界、ギャラリー、メディアといった業界にアプローチ。営業方針として、物の保管場所としてではなく、ひとつの空間としての倉庫の魅力を

説いた。天井高は最低でも5mという無機質なコンクリートの塊だから、内装の変更が容易で、クリエイターの自己主張には格好の空間である。また、退出時の現状復帰も契約条項から外し、法に抵触せず、建物本体に傷をつけるようなことがなければどんな内装の変更も自由に行えるようにした。海を見ながら作業ができるという精神的な利点もアピールした。

最も説得力があったのが、その経済性である。3ヶ月程度の保証金と賃料は坪約1万円という当時の平均的なオフィスの約半分。天井高を利用してメザンを入れるなどすれば、さらにスペースを活用できることなどを提案した。こうして横田茂ギャラリーや森英恵のスタジオV、10BANスタジオといった最初のテナントが決まり、その後日本のロフト文化の一時代を築いたのは周知のところである。

現在は最盛期に比べテナント数は少なくなっているが、今後、ある意味で閉鎖的である倉庫という場を逆手にとった新しい事業の計画もあり、輸入文化だった倉庫の転用はすっかり定着した。

小池一子

佐賀町エキジビットスペースがオープンしたのは1983年。江東区の食糧ビルという1920年代の建築はそれだけで十分に絵になる空間を生み出している。小池一子氏はアートとデザインの境界を行き来する企画を次々に生み出しているプロデューサー。その彼女のライフワークと言えるのが、佐賀町エキジビットスペースである。

このスペースを開いた小池氏は、当時美術やデザインの仕事に従事していたが、これらの仕事のほとんどが、言ってみれば人のための仕事。しかし仕事が順調に進めば進むほど、自分が世に出したい作品を発表できる自分の空間を持ちたい、という欲求が高まっていった。そんな思いが募っていた矢先にこの空間に出会ったのだ。

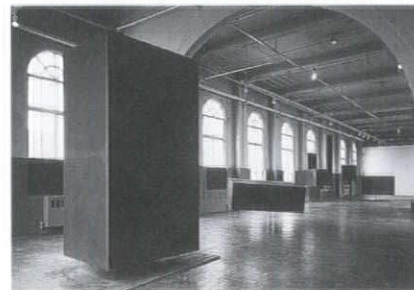
「ほとんど一目惚れ。私にとってここは恋人のようなもの」と言う。スペースを探していた頃は正にバブルのスクラップ&ビルドのとき。だが、それらの新築物件は「表面的なポストモダンで、設備は整っているが創作的な仕事を支え得る空間の魅力がない。大体、家賃があまりに高い。それに引き替え、ここには古い空間が持ちこたえてきた豊かな魅力があり、さまざまな表情を見せてくれる」。若いアーティストにとっては制作の上でも、無機質な空間ではなく空間が自分の身体の延長としてつかめるようであれば良い作品は作れない。「忘れられ、眠っていた空間には何かしら内包しているものがある」と言う。



現在まで続く横田茂ギャラリー



10BAN スタジオ



田中米吉展



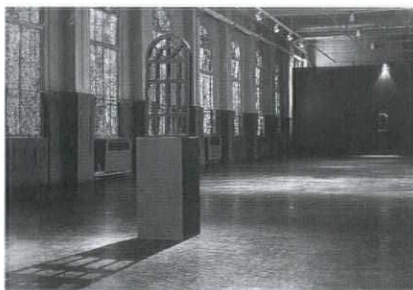
こいけ・かずこ

東京生まれ。早稲田大学文学部卒業。1975年、京都国立近代美術館における「現代衣服の源流展」以降、デザインとアートの境界領域に焦点をあてた企画展を実施。1979年「無印良品」の発足以来、企画監修に参画。武蔵野美術大学造形学部教授

入居時には80cm程度の上げ床があり痛みもひどかったが、両面が窓で外光がいっぱいに射し込む空間だった。現在、一方の窓は塞いでいるが、ギャラリーでこれだけ採光性の高いところは珍しい。展示によって全面に壁を立て自然光を排する場合もあれば、この窓を活かしたインスタレーションを行った作家も多い。また大きな立体にもびくともしない、酷使できる床が一番重要とも。時間を飲み込んだ床や壁や天井が持つ力に圧倒されないよう、アーティストにも非常なパワーを要求する。空間が強過ぎて、時に作家選別に苦勞することもあると言う。

また、美術の世界には「白い箱幻想」が厳然としてあり、特に日本ではその傾向が強い。だが本来は作品に合わせて作家が壁の色まで選べるようにすべき、とも。実際ここではドアを真黄色に塗装したこともある。

佐賀町の展覧会はすべて企画展。「貸し画廊をやるくらいなら。閉める」ときっぱり。改修には1500万円程度かかっているが、これまで展覧会には冠をまったくつけずに続けている。小池氏は、「美術の現場を持てる喜びと、場があればこそ出会える人々がいる。自分の場を持つことの素晴らしさは何にも代え難い」と語る。空間と自分が目指す活動と、このふたつがしっかりと結びつき、15年を経た今、その実が確実に次の世代に伝わっている。



元慶煥展「Inside Earth」
SD9910

星指和幸

甲州街道から路地に入ると住宅街の一角に2階建の倉庫がある。87年、星指氏は経営の仲間と共に、「高井戸倶楽部」をオープンし、92年には青山のオフィスも移転することに決めた。ロケーションやイメージは青山とは比較にならないが、誰も反対はしなかった。家具の好きな彼らはアンティークの家具業者が倉庫兼修理工場として利用していた頃からよく遊びに来ていた。その頃はちょうど、ニューヨークで盛り上がっていたソーホーのカフェバーシーンを見て来たばかり、「あんな空間が日本にあったらいいなあ」と日本の貧しい空間事情に落ちこんでいたところだった。だが現在入居する倉庫が空くというニュースで「高井戸倶楽部」のドラマは始まった。

星指氏は若くして不動産とインテリアの会社「メソッド」を設立し、「知的な刺激を受ける心地よい都会の暮らし（文化）を提供したい」と考えていた。「空間構成プランはオフィススペース、家具を展示するインテリアのショールーム、ヴィンテージカーのショールームにそのツールと修理スペース、その傍らで車を眺めながらグラスを傾けるレストランバーも作ろう」と夢は即計画に変わった。メソッドのコンセプトである「リビングパラダイス」のプレゼンテーションの場を持てば、仲間や人が集って来る。この倉庫は64年に駐車場として建てられ、鉄骨造、車のリフト付、天井高3.3m、1フロア180坪のスペースは十分に実現できる広さと基本的条件は備えていた。しか



ほしし・かずゆき

宮崎県生まれ。1979年より不動産業に従事。82年東高ハウス入社、高級マンションの走りであるベアシティの企画、営業を担当。86年メソッド設立。現在に至る

しそれは、給排水設備のないスケルトン空間に入居する場合以上の資金と労力を要する大胆なプロジェクトとなった。レストラン、トイレの設備のために給排水工事を行い、配管のパイプスペースを取るために壁をふかした。空調、防音のため壁に断熱材を床には板を張り、ブースにガラスブロックを使うなど最終的に6000万円の工事費をかけた。「飲食の許認可等、法規上の解決から近隣への細やかな配慮、営業上の注意などあらゆるハードとソフトの面にわたって、知識と熱意と行動力なくしてプロジェクトの成功はなかった」と語り、「当時、大胆だ、無謀だと言われたが若かったからできた。今なら事業計画としての視点で見てもうから、きっとできなかっただろう」と降り返る。「倉庫の転用の場合、まず、最初の計画が要でありノウハウのある業者に依頼することが大事。契約時は安くても設備面ではリスクだ。プロセスを乗り越えるために苦勞はつきものだが、そのための資金だけでなく、エネルギーやパワーがいる。また、トラブルに備える資金とメンテナンスのための費用もみておく必要がある」とは、これからのリノベーターへのアドバイスの弁。話題を呼んだ当クラブ名物、床、壁、天井3Dミラー張りのトイレやイングリッシュバブスタイルのバーカウンターは今も新鮮である。90年には企画展で小林マヤ、中山大介などのモダンアート作家を扱うギャラリー「アート倉庫」をオープンし、92年、97年とリニューアルを重ねている。元祖リノベーターは今も堂々の風格で文化を発信し、変貌し続けている。



小林マヤ展覧会



カフェの横に並ぶヴィンテージカー

「東京リノベーション」される理由 土地の有効利用原則による建物の「目的」変更

安藤寿珠・稲島みちこ

今現在の社会情勢の中で起っている不動産業界の流れ

マスメディアでさかんに話題になっている「不良債権処理」とはどのように行われているのか。金融機関側の意図はあるにせよ、とにかくにも生きた土地・建物にすること、使用効果のあるモノに替えることを目標にしているはずである。外国の、特に米国の投資会社がこういった不動産の流動化を進める上では、まずこのような投資効果が期待できるものを選別している。その時の価格の根拠は、収益還元法であったり、それ以外の経済的付加価値を見出せるかどうか、といったことなどである。それは、土地を所有すること＝資産をもつことであるから土地さえあればいい、という今まで日本に深く根付いていた概念が今後変わらざるを得ないということ、つまり土地は単に存在していればいいのではなく、その土地の上でいかに有効な利用が出来るかが求められる方向にむかうことを暗示する。

建物は「目的」をもって造られる。時代のニーズと建物の寿命の関係

90年代を振り返ってみると、バブル全盛から始まりそれが弾け、しばらくその收拾と虚無感がただようなかで方向性を見失ったままの状態がしばらく続き、そしてそこからやっと前に向かって行こうという過渡期にはいった。これはいろいろな意味での大変換の時代に突入したといえる。情勢の変化はゆっくりしていたりスピーディになったりするものであるが、今はとても早く動く。

建物は、当然目的を定めて設計され、建設される。欧米では数百年のレンジで存在する建物も多くある。それらと比較してスクラップ・アンド・ビルドといわれる日本の建物ではあるが、現在のように変化が急激に起りはじめた時、建物の寿命がまだまだ充分残された中で、当初の「目的」は変わらざるを得ないという必然が起る。

1980年代の「東京リノベーション」——その時代背景と特性

80年代、今とは少し違っているものの、業界には構造改革が求められていた。変化や刺激を求める時代の欲求が、重厚長大産業からの構造変化を強いられれた企業の動きとマッチングして、新しいエリアを生み出す「仕掛け」が起きた。例えば芝浦ウォーターフロントの開発など顕著な例であろう。都心の既成の遊び場に目新しさがなくなった時期に、それは爆発的な注目を浴びることになった。都心からの至近距離と、倉庫街のそれまでにはない大きな既成空間のリノベーションは、当

時とても鮮烈なものとして若い人たちに受け入れられた。その後もどんなにか面白くなるだろうと思われていたのに、そうはならなかった。なぜならバブルの時代が来たからである。過剰な投資意欲がおこり資金が投入され、土地は買い漁られ新しい建物が次々と造られていった。既にある建物の再利用よりももっともっと大きな収益が求められたからである。特に工場用地や倉庫用地などは比較的道路付きが良くまとまった広さがあるゆえに不動産業者の格好の開発の材料になった。膨大な量の資金攻撃は、芽生え始めたリノベーションの動きをあっという間に凌駕してしまったのである。

最近の「東京リノベーション」の特性——80年代との相違点

ところが、今不良資産が多く存在する理由は他にもない「バブル時代の投資は収益に見合ったものではなかった」ためなのである。なぜならその投資計画は、そこから生み出される収益そのものより土地の値上がり益を当然のように見込んだものがほとんどだったからだ。それらがその後「不良資産」となり、「不良債権」となり日本の経済社会を混乱させてしまった訳である。そして現在はいえ、そこから脱却するために産業界のいろいろなリストラクチャリングが始まった、というところであろうか。

不動産業界でも、痛みを伴いながら不良資産が償却されはじめ、政策的な後押しとして住宅取得減税が実施になったりと、不動産業者の住宅開発が活況になっていることは御承知の通りである。またおよそ2年くらい前から徐々に単なる建物用途の変更を含めた「リノベーション」の兆しが見られるようになってきた。建物の賃貸料が必要にあった価格に調整されはじめ、近頃の都心部では新規業態の出店もバブル期に優るとも劣らない早さと数である。こういった環境の中でおこりはじめた新たな「東京リノベーション」は、生産性に見合う投資、あるいは付加価値を生み出すに適したコスト、まさに今後期待されるべき土地建物の活用手法に即しているように見受けられる。使いたい人と使われたい建物、必然が生み出した需給の関係、つまり実需に基づいたリノベーションが見えてくる。

「東京リノベーション」今後の可能性

不動産の価値がそれ自体の生み出す収益に基づいて査定されるようになるということの要件には、建物の利用法とならび建物のメンテナンスが評価基準の一つに挙げられる。不動産業界の中でも証

券化を睨む不動産投資の世界では、メンテナンスというのは、一般的にいわれる経年変化に対応する改善、いわゆる修繕はもちろんのこと、時代に相応しいものとするための新たな投資による改善、すなわちリノベーションを意味している。情勢の変化に対応し、地に足のついた計画による、長く安定した収益を生み出すための取り組みが求められ、それこそが、建物がストックとなり長い寿命を保てるということにつながる。こういった現在進行中の不動産業界および産業界の流れのなかで、今の「東京リノベーション」が起こってきたのは、ごく自然な成り行きであるともいえる。

再び産業界の構造変化が始まった中では、「リノベーション」と思わずとも、建物の経済的・社会的に要求される機能の変化を求めるオーナーも出てきている。使い手と持ち主の、需給双方の思惑が合致するチャンスはこれから多くあるはずである。

最後に、リノベーションの持てる意味合いからすれば、今後さらに願わくは、今行われている「東京リノベーション」がスポット的なことに留まることなく、建築の専門知識と技術が他の業界と連繋し、街づくり、都市計画の領域に及ぶ社会的な基盤整備に活かされることを期待する。
(あんど・ひさみ／株式会社シー・ビー・ジャム CEO、いなはた・みちこ／株式会社シー・ビー・ジャム CEO)

安藤寿珠

1953年 神奈川県生まれ

1976年 上智大学理工学部数学科卒業

1981年 早稲田大学専門学校建築設計科卒業

1976-81年 上智大学理工学部数学科助手

1982-84年

株式会社 AUR 建築・都市・研究コンサルタント勤務

1985年 シー・ビー・ジャム設立

1986年 株式会社シー・ビー・ジャム設立 CEO

稲島みちこ

1955年 東京都生まれ

1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒業

1980-85年 株式会社西武百貨店勤務

1985年 シー・ビー・ジャム設立

1986年 株式会社シー・ビー・ジャム設立 CEO

Tokyo Renovation Map

Gallery, Shop, Restaurant

既存／新規の関係をいかにおさめるかが最大のテーマ。
商業建築リノベーションにみる最近の傾向を観察する。

住宅や倉庫を転用して商業施設にするプロジェクトはすでにスタンダード。中には意図的に、新築せずに既存建築の記憶を継承して顧客とのコミュニケーションをはかろうとする例すらある。そこでは、既存のカタチと新規のカタチの関係が目に見えてくるほど面白い。そんな人目を留める23例を、東京23区の中からピックアップした。

取材協力＝力安拓

渋谷・代官山エリア

P B Kids

所在地：渋谷区猿楽町6-2 /
Tel: 03-5459-3717 / 構造：木造モルタル2階建て /
リノベーション年：1996年 / 機能変化：アパートの1階倉庫部分→ショップ（子供服） / 面積：約18m² / メモ：●ごく普通の木造建物の一部に挿入された白い異物。既存部分とのコントラストが目を引き。●建物全体を貫通する細長いショップ空間は内外装共に白で統一され、天井には貫通を強調するかのように皮膜がウェーブ状に配されている。



渋谷・代官山エリア

CENTO COSE

チェント・コゼ

所在地：目黒区東山2-1-5 /
Tel: 03-3715-6911 / 構造：鉄筋コンクリート造3階建て / リノベーション年：1988年 / 機能変化：事務所ビル→1階 タイレストラン・事務所 2階 イベントスペース 3階 バー 屋上 ビアガーデン（夏期のみ） / 面積：1階 138m² 2階 138m² 3階 69m² / メモ：●外観には手を加えず、内部をドラスティックにリノベーションしたもの。●2-3階間のスラブを撤去して吹き抜け空間にすることでイベントに対応可能なヴォリュームをつくり出している。さらに3階レベルに鉄骨で組んだバルコニー状のバーを設け、空間に一体感を持たせている。

1



渋谷・代官山エリア

Chez Lui

シェ・リュイ

所在地：渋谷区猿楽町20-15 / Tel: 03-3461-0070 / 構造：木造2階建て / リノベーション年：1996年 / 機能変化：民家→レストラン（1階部分） / 面積：99m² → 165m² / メモ：●レストランの顔づくりとして、道路に面した外壁を部分的に撤去し、開口を大きくとっている。

3





渋谷・代官山エリア

4

暮らしの工房
and
ギャラリー
無垢里代官山

所在地：渋谷区猿楽町20-4 / Tel: 03-5458-6991 / 構造：木造2階建て / リノベーション年：1995年 / 機能変化：民家→ギャラリー / 面積：57.77m² / メモ：●昭和30年代に建てられた民家のリノベーションで、全田建築設計事務所の手によるもの。●母屋と離れのアパートをつなぐ形で全体をギャラリースペースとして機能させている。●内部に土間を新設し、土壁にするなどして、以前にはなかった日本的な趣を演出している。



渋谷・代官山エリア

5

CULTURE
COMPLEX

所在地：渋谷区代官山町14-11 / Tel: 03-3462-5210 / 構造：鉄筋コンクリート造2階建て / リノベーション年：1995年 / 機能変化：住居兼店舗（2軒長屋）→ショップ（洋服） / 面積：198m²（1階、2階合計） / メモ：●2軒長屋の一方だけのリノベーションで、双方のコントラストが特徴。●従来の長屋1階部分の「ミセ」空間をエントランスに、奥の住居空間を1階、2階共にショップに改修。



渋谷・代官山エリア

7

A.P.C.homme
アーペーセー・オム

所在地：渋谷区猿楽町25-2 / Tel: 03-3496-7570 / 構造：既存ガレージ部分 コンクリートブロック造平屋建て 増築部分 鉄骨造2階建て / リノベーション年：1999年（増築年） / 機能変化：ガレージ→ショップ（洋服）、さらに隣地に増築してショップ機能拡大 / 面積：既存ガレージ 39.47m² + 増築 69.27m²（1F: 41.40m² + 2F: 27.87m²） / メモ：●フランス人建築家ポール・シュメトフと匠明（設計事務所）の協同によるリノベーション。●古びたガレージをリノベーションして使用していたショップを増床するため、隣接するアパート（すでにA.P.C.の本社機能が入っていた）を取り壊して増築し両者をつないで全体を機能させている。●ガレージのイメージが増築部分のデザインに踏襲されているのが興味深い。●「新しいショップ展開は新築せずすべてリノベーション」というシュメトフのモットーには老練なヨーロッパ気質を感じる。



増築前のガレージショップ

渋谷・代官山エリア

6

scelta
セルタ

所在地：渋谷区代官山町14-10 / Tel: 03-3770-7410 / 構造：木造2階建て / リノベーション年：1999年 / 機能変化：アパート→1階 ショップ（洋服）2階 カフェ / 面積：82.5m²（1階、2階共） / メモ：●道路から4m程度セットバック（駐車スペース）した建物の空地を利用したリノベーション。●前面空地上部に広いバルコニーを2層にわたって張り出し、2階カフェのテラスとして内外空間の連続的な広がりをつくり出している。●バルコニー前面には木製手摺をルーバー状に設け、ファサードを際立たせている。



渋谷・代官山エリア

**MAGASIN
GENERAL
A.P.C.**

マガザン・
ジェネラル・
アパーセー

8



所在地：渋谷区猿楽町 27-3 / Tel: 03-5459-6510 / 構造：木造2階建て（一部鉄骨補強） / リノベーション年：1997年 / 機能変化：民家 → ショップ / 面積：85.28m²（1F：44.71m² + 2F：40.57m²） / メモ：●フランス人建築家ポール・シュメトフと匠明（設計事務所）の協同によるリノベーション。●外壁をすべてパネルで被い直し、民家の印象を一変させている。●既存の木造を残しながら適宜鉄骨補強を施し、ショップにふさわしい階段や吹き抜け空間をつくり出している。

青山・表参道エリア

翔 AKIZ

9



所在地：渋谷区神宮前 6-2-7 / Tel: 03-5466-5567 / 構造：木造2階建て / リノベーション年：1999年 / 機能変化：民家 → ショップ（洋服） / 面積：83.1m² / メモ：●既存の平入りの軒下部分を内部化したリノベーション。●既存の外壁を撤去し、軒下部分の増築によって路面に対して開放的なショップ空間を獲得している。

青山・表参道エリア

**GALLERY
CLOCK WORK
CLOCK WORK
MARKET
DESIGN FESTA
OFFICE**

10



所在地：渋谷区神宮前 3-20-18 / Tel: 03-3479-1433 / 構造：鉄骨造3階建て / リノベーション年：1998年 / 機能変化：外国人用アパート → 1階 ギャラリー・カフェ 2階 変更なし 3階 ショップ・事務所 / 面積：1階 約110m² 3階 約110m² / メモ：●既存アパートの小割りの空間を利用してユニークな商業施設に変貌させたリノベーション。●すべて白で統一された内部とは対照的に、外壁にはカラフルな壁画が施され、さらに単管で構成されたオブジェが取り付けられ、その表情は街の中で異彩を放っている。

青山・表参道エリア

**SAVOY
CLOTHING**

11



所在地：渋谷区神宮前 3-27-3 / Tel: 03-3405-6647 / 構造：鉄骨造2階建て / リノベーション年：1998年 / 機能変化：1階 ガレージ → ショップ（洋服） 2階 住居 → 住居 / 面積：30m² / メモ：●1階の既存ガレージ部分半分のショップへのリノベーション。●ガレージのシャッターケースの水平線がショップを他から分節するのに有効に働いている。

青山・表参道
エリアマップ

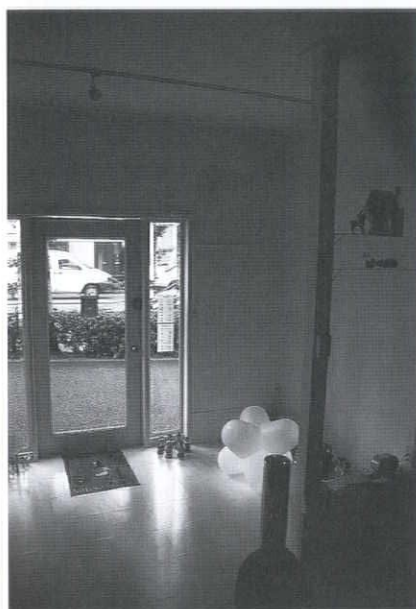


青山・表参道エリア

12

chocomel
TRAFFIC

所在地：渋谷区神宮前2-3-24 / Tel: 03-3402-5853 / 構造：木造モルタル2階建て / リノベーション年：1999年 / 機能変化：1階 店舗→カフェ 2階 アパート→スロットカーサーキット場 / 面積：約40m² (1、2階共) / メモ：●1、2階一体のモダンなアミューズメントスポットへのリノベーション。●内外装は共に白で統一され、小粋なスペースへと変貌している。



青山・表参道エリア

13

うつわ 楓

所在地：港区南青山3-5-5 / Tel: 03-3402-8110 / 構造：木造モルタル2階建て / リノベーション年：1998年 / 機能変化：新聞配達所→ショップ / 面積：16.5m² / メモ：●道路に面した1階の一部分のみのリノベーション。●ファサードにはショップ部分のみならず全面にモスグリーンの金属パネルを施し、ショップの存在を静かにアピールしている。●設計は「SHI-ZEN」によるもの。



青山・表参道エリア

15

岡本太郎記念館

所在地：港区南青山6-1-19 / Tel: 03-3406-0801 / 構造：既存部分 壁式コンクリートブロック造2階建て / 改築部分 鉄骨造2階建て / リノベーション年：1998年 / 機能変化：既存部分〈自宅兼アトリエ〉→記念館・事務所 改築部分 エントランス・カフェ・収蔵庫 / 面積：既存部分 1階 113.4m² 2階 約90m² 改築部分 218m² / メモ：●坂倉準三が手掛けた岡本太郎の旧住居兼アトリエの記念館へのリノベーション。●現代芸術研究所の設計によって、アトリエにはほとんど手を加えずに、改築によって記念館へと生まれ変わらせている。



青山・表参道エリア

14

風庵

所在地：渋谷区南青山3-14-4 / Tel: 03-5414-6088 / 構造：木造2階建て / リノベーション年：1998年 / 機能変化：民家→1階 ショップ (花) 2階 お花教室 / 面積：1階 30m² 2階 15m² / メモ：●シンプルな木造下見板張りの外観を残した。内部のみのリノベーション。●土間と床のレベル差をうまく利用してショップスペースを構成。



神楽坂
エリアマップ



青山・表参道エリア

16

栖み六

所在地：港区南青山6-6-22 / Tel: 03-3797-4369 / 構造：鉄筋コンクリート造4階建て / リノベーション年：1998年 / 機能変化：事務所→居酒屋（1・2階部分） / 面積：1階 101.94㎡→113.74㎡ 2階 100.00㎡→114.64㎡ / メモ：●築130年の民家の柱・梁・床板などの移築利用によるリノベーションで、設計は松田設計室によるもの。●1、2階部分を既存外壁面から1.8m張り出すことで2層の一体的使用を実現している（エントランス、階段等を新設）。



リノベーション前の外観

青山・表参道エリア

17

暮らしの工房
and
ギャラリー
無垢里西麻布

所在地：港区西麻布2-15-3 / Tel: 03-3406-0750 / 構造：木造2階建て / リノベーション年：1994年 / 機能変化：1階 店舗→ギャラリー 2階 住居→設計事務所 2階上部にロフト新設（資料スペースとして） / 面積：1階 17.94㎡ 2階 17.11㎡ ロフト 16.20㎡ / メモ：●約1層分の高低差のある2面道路に挟まれた敷地に建つ建物のリノベーション。●もともと1、2階は独立し、高低差により別々にアクセス。●構造補強を兼ねて新たな架構を加え、階段を新設、屋根を組み直すことでロフト空間を獲得。●設計事務所無垢里の金田正夫の手により、自身の事務所とギャラリーへ。



神楽坂エリア

19

珈琲 巴有吾有
パウワウ
ギャラリー
DO WELL
Powwow

所在地：新宿区神楽坂2-7 / Tel: 03-3267-8324 / 構造：木造モルタル2階建て / リノベーション年：1971年、1975年、1989年 / 機能変化：民家→1階 喫茶店 2階 作品のある空間 / 面積：184㎡（1階、2階共） / メモ：●戦後建てられた民家のリノベーション。●ファサードを全面的に改修し、エントランスを新設。●内部は古材を使用して仕上げている。



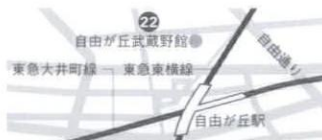
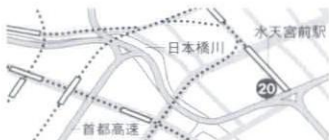
神楽坂エリア

18

AYUMI
GALLERY

所在地：新宿区矢来町114 / Tel: 03-3269-1202 / 構造：木造2階建て / リノベーション年：1984年 / 機能変化：住居・設計事務所→ギャラリー・工房 / 面積：1階 39.67㎡ 2階 33.88㎡ / メモ：●1947年に建てられた高橋博設計による住居兼設計事務所を、鈴木喜一がリノベーションしたもの。●取り壊しの気運の中、ハーフチンパーのコテージ風の外観や雲間気のあるインテリアへの愛着ゆえにリノベーションによって再生を実現。





日本橋エリア

20

ミューゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

所在地：中央区日本橋蛸船町1-35-7 / Tel: 03-3665-0251 / 構造：鉄筋コンクリート造地下1階地上4階建て / リノベーション年：1998年 / 機能変化：倉庫→美術館（地下1階・1階） / 面積：280m² / メモ：●1階と地下1階にあった醤油屋の倉庫を改修して美術館にしたもので、鈴木エドワードの手によるリノベーション。●1階の外壁は既存壁を木材でスノコ状に被い、異物感を表現。●倉庫の荷捌き用車寄せの段差、スロープを利用してエントランスを構成。●中央付近にあった運搬用リフトのシャフトを利用して、螺旋階段を挿入している。



幡ヶ谷エリア

21

ディー・サイン



所在地：渋谷区西原2-30-1 / Tel: 03-3467-4571 / 構造：木造平屋建て / リノベーション年：1983年 / 機能変化：農業用納屋→工場→ショールーム / 面積：100m² / メモ：●ハンス・ウェグナーの家具を生産するカール・ハンセン&サン（K&S）の日本法人が事務所近くに商品倉庫として賃

貸したのはじまり。2年後、ショールームに手作りで改装。●元蛍光灯生産工場で、柱だけが残っていた空間の壁と床を張り直している。

自由が丘エリア

22

ギャラリー茶房古桑庵



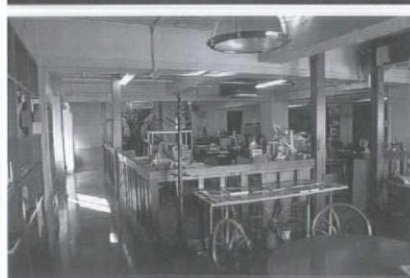
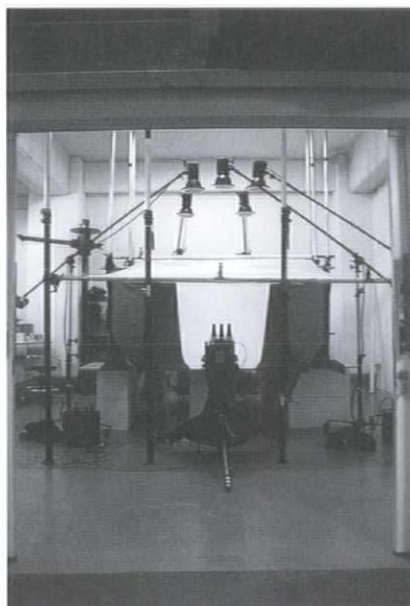
所在地：目黒区自由が丘1-24-23 / Tel: 03-3718-4203 / 構造：木造2階建て / リノベーション年：1999年 / 機能変化：民家の一部→1階 茶房・ギャラリー / 面積：茶房 30m² ギャラリー 13m² / メモ：●大正期に建てられた母屋を中心に庭を囲む形でコの字型に配された両翼の2棟のリノベーション。●地元の大工によるもので、主な木材に桑を使用。●茶房様には庭に面して広くエントランスをとり、売店を併設。●ギャラリー棟には縁側部分を改修してエントランスを新設。また、奥の住居部分との間の橋を壁にして独立性を確保している。

三田エリア

23

バイナッブルアソシエイツ

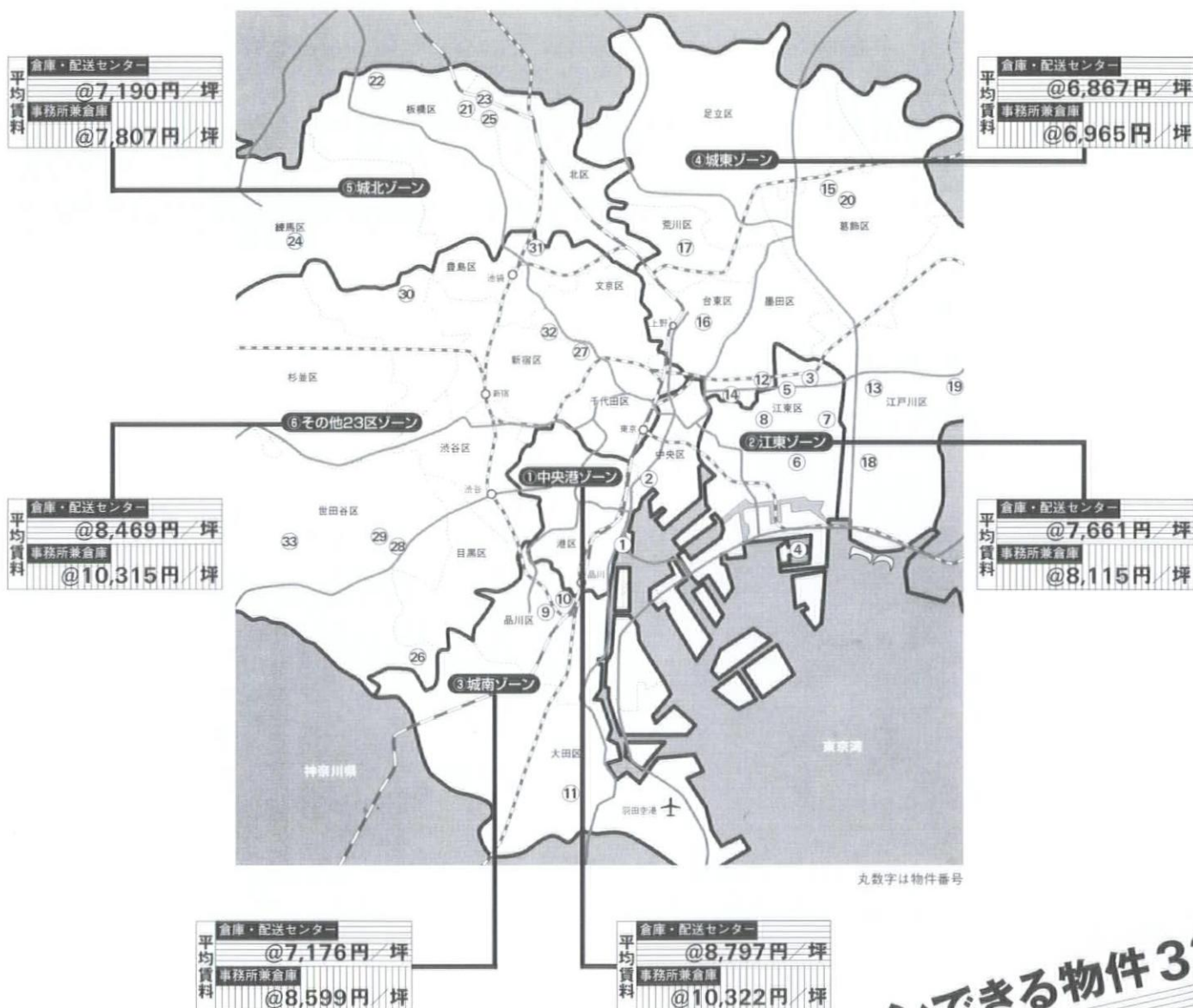
所在地：港区海岸3-7-19 大東芝浦ビル6A / Tel: 03-5442-2950 / 構造：鉄筋コンクリート造6階建て / リノベーション年：1996年 / 機能変化：4階 倉庫兼作業所→写真スタジオ 6階 事務所兼ダンスレッスンホール→事務所 / 面積：4階 215m² 6階 330m² / メモ：●湾岸倉庫街に建つ印象的なヴォリュームをもつ雑居ビルのインテリアのみのリノベーション。●4階は4m以上の天井高を利用して、壁を新設することで、写真スタジオとして使用。既存の巨大冷蔵庫を暗室に転用している。●6階は内装仕上げ程度の改修で事務所として使用。



まず、自分たちのアクティビティを実現する場を何処に求めるか？都心に容易にアクセスしたい、交通の便が良くなければいけない、でも賃料が安くなきゃ話にならない。住宅、古い民家、オフィス、…。でもやはり気になるのは倉庫と工場。面積、容積の割に安い。ザックリとした大きな空間が何しろ我々のリノベーション意欲を掻き立てる。そうは言っても、果たしてどれほどの倉庫、工場が空いているのだろうか？現在、東京23区で借りられる賃貸物件の中で、以下の条件で厳選したSDセレクト33物件を紹介する。

■厳選指標

- 東京23区を6エリア（中央港エリア・江東エリア・城南エリア・城東エリア・城北エリア・その他の23区エリア）に分割し、各エリアごとに選定。
- 賃料（@円/坪）が市況の平均値より安いこと。それによってリノベーション費用を捻出する。
- 数名から数十名程度の活動拠点を想定。
- 床面積は20～300坪を目安とする。
- 断面的魅力、空間的ボリュームを感じるもの。



今すぐリノベーションできる物件33

図面と現況が異なる場合は現況優先とします。

ここに掲載した物件情報は、本誌発売時にはすでに契約済みである場合があります。

掲載物件に関する問い合わせ先：

RITS INTERNATIONAL CO.,LTD. Tel : 03-5771-5715 Fax : 03-5771-5714

市況リサーチ情報提供：

生駒シービー・リチャードエリス株式会社 Tel : 03-5470-8771

株式会社生駒データサービスシステム Tel : 03-5470-8941 Fax : 03-5470-8760

株式会社オフィスジャパン OJ倶楽部事務局 Tel : 03-5470-8703 Fax : 03-5470-8710

倉庫／工場物件情報提供：

株式会社幸洋コーポレーション Tel : 0471-55-6541 Fax : 0471-55-1770

<物件1> 事務所付き貸倉庫

所在地：港区海岸3-21-35

アクセス：臨海交通ゆりかもめ線「芝浦埠頭」駅徒歩3分

構造：鉄骨造モルタル仕上げ平屋建て（一部2階建て）

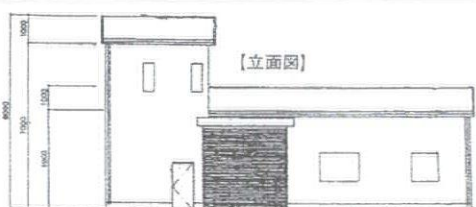
面積：219.5㎡（66.4坪）

1階 178.5㎡（54坪）、2階 41.0㎡（12.4坪）

賃料：@11,000円／坪（719,000円）

メモ：

- ・倉庫、工場、事業所等に最適な新築の岸壁貸建物
- ・天井高：1階4m、2階2.5m
- ・ミニキッチン、トイレ有り
- ・角地立地、前面道路幅6m
- ・駐車場3台分有り（別途料金）
- ・準工業地域
- ・諸条件相談可

**角地****<物件3> 貸倉庫**

所在地：江東区亀戸6-45-3、6

アクセス：JR総武線「亀戸」駅徒歩5分、

都営新宿線「西大島」駅徒歩8分

面積：308.6㎡（92.75坪）

賃料：@6,500円／坪（600,000円）

メモ：

- ・営業所、配送センター、リサイクルショップ等に最適
- ・2階建て事務所・倉庫棟と1階建て倉庫棟の2棟
- ・倉庫棟の天井高4m
- ・ミニキッチン、トイレ有り
- ・倉庫棟に荷捌きスペース有り（車2台駐車可）
- ・角地立地、前面道路幅8m

**<物件4> 貸倉庫**

所在地：江東区新木場2-9-7

アクセス：京葉線「新木場」駅徒歩14分、

首都高速湾岸線 新木場ランプ4分

構造：鉄骨造スレート仕上げ2階建て

敷地面積：640.3㎡（193.7坪）

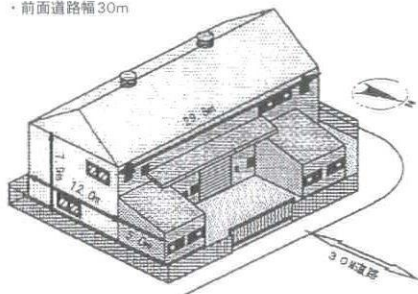
面積：655.9㎡（198.5坪）

1階 409.6㎡（123.9坪）、2階 246.3㎡（74.5坪）

賃料：@6,800円／坪（1,350,000円）

メモ：

- ・前面道路幅30m

**<物件6> 貸店舗・倉庫**

所在地：江東区南砂3-8-27

アクセス：東西線「南砂町」駅徒歩2分

構造：鉄骨造2階建て

面積：178.5㎡（54坪）

1階 89.25㎡（27坪）、

2階 89.25㎡（27坪）

賃料：@4,600円／坪（250,000円）

メモ：

- ・作業所、貸店舗、倉庫に最適
- ・トイレ有り
- ・第1種住居地域・準防火地域
- ・前面道路幅5m



5m 公道

<物件7> 貸工場・倉庫

所在地：江東区東砂5-13-12

アクセス：東西線「南砂町」駅徒歩20分、都営新宿線「東大島」駅徒歩20分

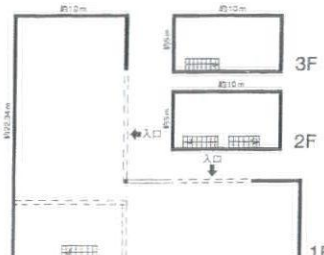
面積：353.7㎡（107坪）

1階 254.5㎡（77坪）、2・3階 各49.6㎡（15坪）

賃料：@7,500円／坪（800,000円）

メモ：

- ・1階(倉庫)の天井高10m
- ・動力有り
- ・クレーン有り
- ・前面道路幅20m
- ・駐車スペース有り

**<物件2> 貸事務所**

所在地：中央区銀座4-14-15-102

アクセス：都営浅草線、営団日比谷線「東銀座」駅徒歩1分

面積：40.0㎡（12.1坪）

賃料：@24,800円／坪（300,000円）

メモ：

- ・物販、ショールーム、スタジオに最適
- ・1～2階吹抜け、魅力の天井高5.8m
- ・ミニキッチン、トイレ有り
- ・電気（動力有り）、ガス、水道実費
- ・昭和57年築

**<物件5> 貸倉庫**

所在地：江東区北砂1-229-6、14

アクセス：都営新宿線「住吉」駅徒歩20分

構造：鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺き2階建て

敷地面積：1,498.99㎡（453.44坪）

面積：751.54㎡（227.34坪）

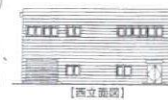
1階 370.30㎡（112.01坪）、

2階 381.24㎡（227.34坪）

賃料：@6,600円／坪（1,500,000円）

メモ：

- ・広い駐車スペース有り
- ・給湯スペース、トイレ、浴室等充実した諸室有り
- ・前面道路幅6m

**<物件8> 貸倉庫**

所在地：江東区東陽7-4-12

アクセス：東西線「東陽町」駅徒歩10分

構造：鉄骨造2階建て

面積：533.09㎡（161.26坪）

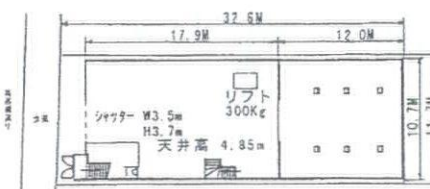
1階 329.82㎡（99.77坪）、

2階 203.27㎡（61.49坪）

賃料：@6,200円／坪（1,000,000円）

メモ：

- ・1階天井高4.85m
- ・リフト有り（300kg）
- ・テナントの要望に対応可



<物件9> 貸事務所・工場・軽作業所

所在地：品川区大崎2-11-11

アクセス：JR「大崎」駅徒歩6分

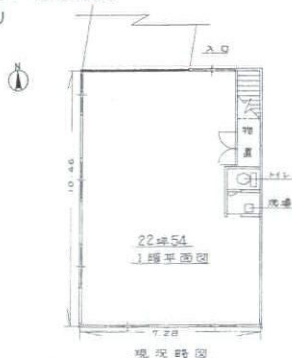
構造：木造2階建て1階部分

面積：74.51㎡ (22.54坪)

賃料：@9,000円/坪 (200,000円)

メモ：

- ・冷暖房空調設備有り (各階個別式)
- ・洗面・トイレ有り
- ・昭和61年築

**<物件12>** 貸倉庫

所在地：墨田区緑4-3-8

アクセス：JR総武線「錦糸町」駅徒歩12分、

都営新宿線「菊川」駅徒歩12分

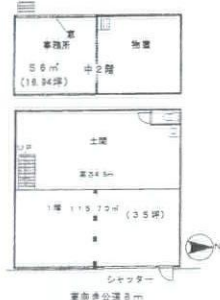
構造：木造モルタル一部鉄骨造スレート瓦1階建て1階部分
面積：171.70㎡ (51.94坪)

1階 115.70㎡ (35.00坪)、2階 56㎡ (16.94坪)

賃料：@5,800円/坪 (300,000円)

メモ：

- ・軽作業可・事務作業スペース有り
- ・1階天井高4.5m
- ・ガス・水道・トイレ有り
- ・前面道路幅8m

**<物件15>** 貸倉庫・作業所・営業所

所在地：葛飾区西亀有1-10-5

アクセス：JR常磐線「綾瀬」駅、「亀有」駅徒歩15分

構造：鉄骨造2階建て事務所棟1階部分

鉄骨造3階建て倉庫棟1階部分

面積：251.24㎡ (76.00坪)

事務所棟：158.68㎡ (48.00坪)、

倉庫棟：92.56㎡ (28坪)

賃料：@5,000円/坪 (380,000円)

メモ：

- ・営業所、倉庫、軽作業所に最適
- ・工場可
- ・充実した収納スペース
- ・天井高3.4m
- ・ミニキッチン・トイレ有り
- ・電気・水道有り
- ・前面道路幅6m
- ・第2種住居専用地域

**<物件10>** 貸倉庫

所在地：品川区北品川5-4-3

アクセス：JR山手線「大崎」駅徒歩4分

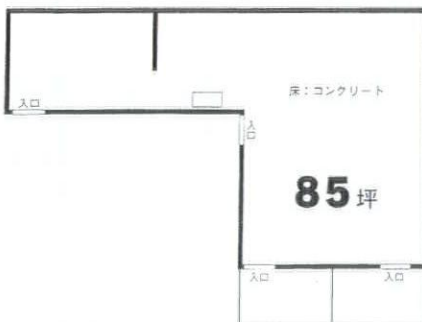
構造：鉄骨造 (一部木造) の1階部分

面積：280.99㎡ (85坪)

賃料：@3,300円/坪 (280,000円)

メモ：

- ・第1種市街地再開発地域 (施行時期未定)

**<物件13>** 貸工場・事務所

所在地：江戸川区東小松川4-18-20

アクセス：都営新宿線「船堀」駅徒歩7分

構造：鉄骨造スレート葺き1階建て (倉庫・作業所棟)、

鉄骨造プレハブ2階建て (事務所棟)

面積：208.28㎡ (63.00坪)

1階 170.00㎡ (51.42坪)、

2階 38.28㎡ (11.58坪)

賃料：@7,900円/坪 (498,000円)

メモ：

- ・事務所棟1階部分に
- ・ビロティ状の駐車スペース有り (40.00㎡/12.1坪)
- ・給湯室・トイレ・更衣室有り
- ・電気・水道・ガス有り
- ・クレーン有り
- ・前面道路幅6.36m

**<物件16>** 貸店舗・営業所・倉庫

所在地：台東区松が谷1-13-13

アクセス：銀座線「稲荷町」駅徒歩6分

構造：鉄骨造3階建て 1階、中2階、2階、3階 (一部) 部分

面積：505.25㎡ (152.84坪) /

1階 176.30㎡ (53.33坪)、

中2階 102.84㎡ (31.11坪)、

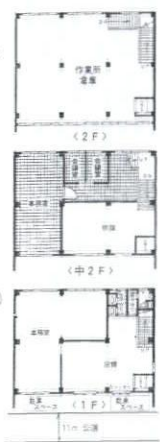
2階 166.61㎡ (50.40坪)、

3階 59.50㎡ (18坪)

賃料：@4,800円/坪 (733,630円)

メモ：

- ・ショールーム等にも最適
- ・1階店舗部分に
- ・吹抜けスペース有り
- ・2階作業所・倉庫部分の
- ・天井高3.5m以上
- ・リフト有り (重量物の運搬可能)
- ・トイレ有り
- ・前面空地に駐車スペース有り
- ・前面道路幅11m

**<物件11>** 貸工場・営業所

所在地：大田区北糀谷1-9-8

アクセス：京浜急行線「梅屋敷」駅より1.2km

面積：220.32㎡ (66.65坪)

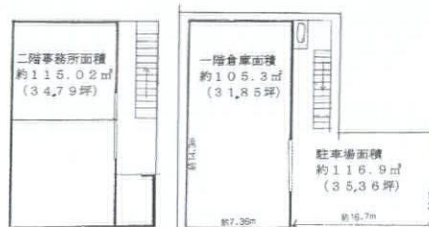
1階 105.30㎡ (31.85坪)、

2階 115.02㎡ (34.79坪)

賃料：@6,800円/坪 (450,000円)

メモ：

- ・前面空地に駐車スペース有り (116.9㎡/35.36坪)

**<物件14>** 貸倉庫・作業所

所在地：墨田区菊川1-16-7

アクセス：都営新宿線「森下」駅徒歩15分、

JR総武線「両国」駅徒歩15分

構造：鉄骨造2階建て

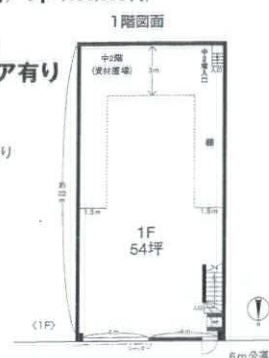
面積：241.32㎡ (73.00坪)

1階 178.51㎡ (54坪)、2階 62.81㎡ (19坪)

賃料：@6,600円/坪 (480,000円)

メモ：

- ・1階倉庫スペースに
- ・メザニンフロア有り (棚設置)
- ・2階に和室4室、
- ・トイレ、キッチン有り
- ・前面道路幅6m

**<物件17>** 貸工場・倉庫

所在地：荒川区荒川4-37-11

アクセス：千代田線「町屋」駅徒歩3分、

京成線「町屋」駅徒歩6分、

都電荒川線「町屋」駅徒歩7分、

JR常磐線「三河島」駅徒歩9分

構造：軽量鉄骨造1階建て一部2階

敷地面積：859.50㎡ (260.00坪)

面積：760.33㎡ (230.00坪)

賃料：@5,700円/坪 (1,300,000円)

メモ：

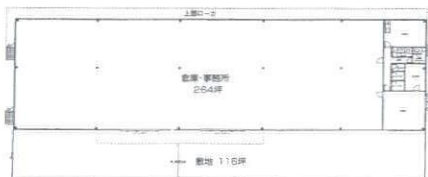
- ・1階に事務所スペース (冷暖房設備有り)
- ・2階に作業場、食堂 (冷暖房設備有り)、更衣室有り
- ・洗面・トイレ有り
- ・駐車スペース (4台分) 有り



<物件18> 貸倉庫

所在地：江戸川区西葛西1-11-25
 アクセス：東西線「西葛西」駅徒歩13分
 構造：鉄骨造2階建て1階部分
 面積：872.73㎡ (264.00坪)
 賃料：@5,000円/坪 (1,300,000円)
 メモ：

- ・前面空地に駐車スペース有り
 (383.47㎡/116坪)
- ・4t車両の駐車可
- ・キッチン、トイレ、更衣室、シャワー室、事務室有り
- ・第1種住居専用地域・住居地域



<物件21> 貸倉庫・工場

所在地：北区浮間5-10-1
 アクセス：JR埼京線「浮間舟渡」駅徒歩12分
 構造：鉄骨造サイディング仕上げ2階建て
 面積：439.67㎡ (133.00坪)
 1階 241.32㎡ (73.00坪)、
 2階 198.35㎡ (60.00坪)
 賃料：@6,100円/坪 (800,000円)
 メモ：

- ・1階天井高3.9m
- ・2階に荷物用フォークリフト有り (電動のみ可)
- ・各階にミニキッチン、トイレ有り
- ・前面道路幅11m
- ・工業地域



<物件23> 貸工場・倉庫・営業所

所在地：北区浮間3-16-10
 アクセス：JR埼京線「北赤羽」駅徒歩4分
 構造：鉄骨造陸屋根・スレート葺き3階建て
 面積：310.86㎡ (94.03坪)
 1階 147.69㎡ (44.67坪)、
 2階 149.04㎡ (45.08坪)、
 3階 14.13㎡ (4.27坪)
 賃料：@6,400円/坪 (600,000円)
 メモ：

- ・各階に洗面、トイレ有り
- ・2階に事務所、会議室有り
- ・天井高3m
- ・リフト有り
- ・駐車スペース2台分有り
- ・前面道路幅8m
- ・準工業地域
- ・諸条件相談可



<物件19> 貸倉庫

所在地：江戸川区南葛崎町4-22-1
 アクセス：都営新宿線「瑞江」駅徒歩15分
 構造：鉄骨ALC造2階建て
 敷地面積：718.65㎡ (217.39坪)
 面積：928.00㎡ (280.72坪)
 1階 464.00㎡ (140.36坪)、
 2階 464.00㎡ (140.36坪)
 賃料：@5,500円/坪 (1,540,000円)
 メモ：

- ・全館空調設備完備
- ・角地立地、前面道路幅8.0m・5.5m
- ・給湯施設、トイレ有り
- ・リフト有り
- ・前面空地に荷捌きスペース有り (庇付き)



<物件22> 貸倉庫・営業所

所在地：板橋区高島平7-36-5
 アクセス：都営三田線「新高島平」駅徒歩4分
 構造：鉄骨造亜鉛メッキ銅版葺き仕上げ2階建て
 敷地面積：817.87㎡ (247.40坪)
 面積：882.1㎡ (266.83坪)
 1階 394.45㎡ (119.32坪)、
 2階 487.65㎡ (147.51坪)
 賃料：@6,000円/坪 (1,600,000円)
 メモ：

- ・20m・8mの両面道路に接道
- ・営業所、配送センター等に最適
- ・前面駐車スペース大型トラック9台分、
 裏側駐車スペース普通車4台分有り (無料)
- ・前面空地に荷捌きスペース有り
 (庇有り、プラットフォーム有り)
- ・リフト (1.5t) 有り
- ・2階に事務所、給湯、洗面、トイレ有り
 (92.89㎡/28.1坪)
- ・2階床荷重は1t/㎡
- ・第1種中高層住居専用地域
- ・昭和61年築

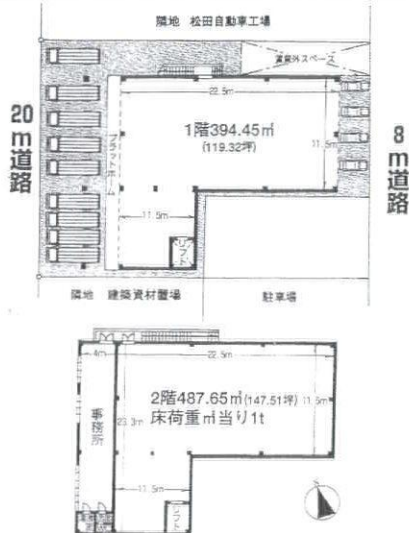
<物件20> 貸倉庫

所在地：葛飾区お花茶屋3-4-26
 アクセス：京成線「お花茶屋」駅徒歩13分
 面積：165.29㎡ (50.00坪)
 賃料：@6,000円/坪 (300,000円)
 メモ：

- ・天井高6.0m
- ・事務スペース、トイレ有り
- ・フォークリフト有り
- ・前面空地に駐車スペース有り
- ・前面道路は一方通行



公道 ← 一方通行



<物件24> 貸倉庫

所在地：練馬区高野台2-24-21
 アクセス：西武池袋線「練馬高野台」駅徒歩10分
 構造：鉄骨造2階建て
 面積：424.80㎡ (128.50坪)
 1階 359.40㎡ (108.72坪)、
 2階 65.40㎡ (19.78坪)
 賃料：@5,500円/坪 (700,000円)
 メモ：

- ・角地立地
- ・7.5m・6mの2面道路に接道
- ・1階はスキップフロア構成
- ・2階に事務所、ミニキッチン有り



<物件25> 貸工場・倉庫

所在地：板橋区小豆沢4-26-13
 アクセス：JR埼京線「北赤羽」駅徒歩10分、
 都営三田線「志村坂上」駅徒歩10分
 構造：鉄骨造3階建て
 面積：493.17㎡ (149.17坪)
 1階 181.44㎡ (54.88坪)、
 2階 111.60㎡ (33.75坪)、
 3階 200.16㎡ (60.54坪)
 賃料：@6,100円/坪 (900,000円)
 メモ：

- ・1、2階吹抜けの空間構成
- ・天井高5.6m
- ・大型製品工場等に最適
- ・大型クレーン (2.8t) 有り
- ・変電設備有り
- ・1階にトイレ、シャワー有り
- ・2階に事務所、応接室、食堂等有り
- ・環状8号線に接道
- ・工業地域 (第1種特別工業地区)



<物件26> 貸倉庫

所在地：世田谷区奥沢5-8-7

アクセス：東横線・大井町線「自由が丘」駅徒歩5分

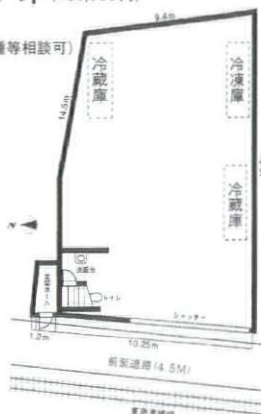
構造：木造・鉄骨造2階建て1階部分

面積：165.29m² (50.00坪)

賃料：@9,600円/坪 (480,000円)

メモ：

- ・事務所、店舗可（業種等相談可）
- ・洗面、トイレ有り
- ・前面道路幅4.5m



<物件27> 貸工場ビル

所在地：新宿区西五軒町11-7

アクセス：有楽町線「江戸川橋」駅徒歩5分、

東西線「神楽坂」駅徒歩7分、

首都高5号線飯田橋・護国寺IC至近

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根4階建て1、2階部分

面積：307.54m² (93.03坪)

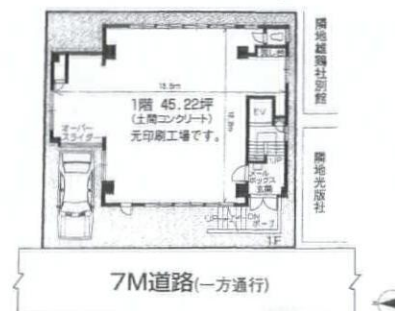
1階 149.49m² (45.22坪)、

2階 158.05m² (47.81坪)

賃料：@11,000円/坪 (1,000,000円)

メモ：

- ・元印刷工場
- ・1、2階共床は土間コンクリート（床荷重1t/m²）
- ・空調設備完備
- ・リフト設置可
- ・キュービクル有り
- ・流し、トイレ有り
- ・駐車スペース1台分有り
- ・前面道路幅7m
- ・昭和59年築



7M道路(一方通行)

<物件28> 貸倉庫

所在地：世田谷区上馬2-29-5

アクセス：新玉川線「三軒茶屋」駅徒歩8分

構造：鉄筋コンクリート造3階建て

面積：342.63m² (103.64坪)

1～3階 各階114.21m² (34.54坪)

賃料：@5,800円/坪 (600,000円)

メモ：

- ・交通アクセス至便
(国道246号線まで200m、環状7号線まで500m)
- ・リフト付き3階建て倉庫
- ・昭和41年築



<物件29> 貸事務所・倉庫

所在地：世田谷区若林1-22-2

アクセス：世田谷線「若林」駅徒歩4分、

新玉川線「三軒茶屋」駅徒歩13分

構造：木造モルタル2階建て1、2階部分

面積：85.94m² (26.00坪)

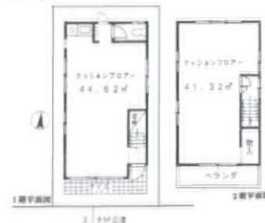
1階 44.62m² (13.50坪)、

2階 41.32m² (12.50坪)

賃料：@8,500円/坪 (220,000円)

メモ：

- ・ビジネス拠点としての**抜群の立地**
- ・空調設備完備（1階2基、2階2基設置）
- ・ミニキッチン、トイレ有り
- ・前面道路幅3.8m
- ・昭和63年築



<物件30> 貸倉庫・店舗

所在地：中野区沼袋2-20-12

アクセス：西武新宿線「沼袋」駅徒歩7分

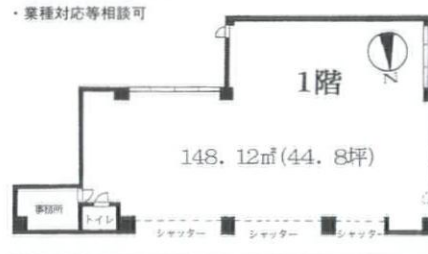
構造：鉄筋コンクリート造4階建て1階

面積：148.12m² (44.81坪)

賃料：@9,400円/坪 (420,000円)

メモ：

- ・事務所、トイレ有り
- ・新青梅街道に接道
- ・電気、水道、ガス有り
- ・業種対応等相談可



新青梅街道沿い

<物件31> 貸事務所・倉庫

所在地：豊島区上池袋4-14-2

アクセス：JR埼京線「板橋」駅徒歩8分、

東武東上線「北池袋」駅徒歩7分

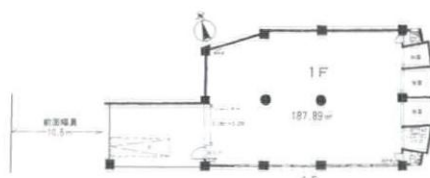
構造：鉄筋コンクリート造陸屋根5階建て1階部分

面積：187.89m² (56.83坪)

賃料：@6,600円/坪 (370,000円)

メモ：

- ・閑静な立地かつ都心へのアクセス良好
- ・天井高3.5m
- ・ミニキッチン、トイレ、物置スペース有り
- ・前面空地に駐車スペース3台分有り
- ・前面道路幅10.5m
- ・諸条件相談可



<物件32> 貸事務所

所在地：文京区関口1-27-2

アクセス：有楽町線「江戸川橋」駅徒歩6分

面積：93.21m² (28.20坪)

1階 61.82m² (18.70坪)、

中2階 31.39m² (9.5坪)

賃料：@11,000円/坪 (300,000円)

メモ：

- ・ショールーム、作業所等に最適
- ・1階天井高4.0m
- ・流し、トイレ、物置スペース、ポンプ室有り
- ・前面道路から建物内への車の出入り可



<物件33> 貸事務所・店舗

所在地：世田谷区砧2-20-7

アクセス：小田急線「千歳船橋」駅徒歩5分

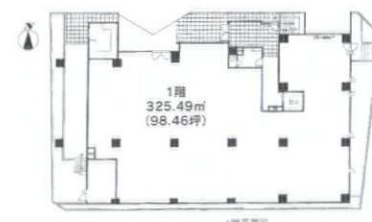
構造：鉄骨鉄筋コンクリート造8階建て1階部分

面積：325.49m² (98.46坪)

賃料：@9,200円/坪 (900,000円)

メモ：

- ・環状8号線に接道
- ・冷暖房設備完備
- ・洗面、トイレ有り
- ・店舗業種により諸条件相談可
- ・昭和61年築



GS Revolution

Gas Station Revival Project : GS Revolution

ガソリンスタンド再生計画

企画・監修：ガソリンスタンド再生計画実行委員会

GS Revolution

次世代リノベーションのニュータイプ

GS(ガソリンスタンド)を改造する・転用する

東京都心部のあちこちで、閉鎖されたGSの姿を目にする。侵入防止のための囲いで被われたままで**なぜだか放置されている**、その何とも寂しげな姿。GSの生存競争が激化し施設配置が再編されているためだ。

なぜ放置されているのか？ それは、目に見えない地下に設置されている巨大な給油タンクの存在にある。GSは「危険物施設：給油取扱所」。取り壊しには様々な制約があり、**特別な解体撤去予算が必要**なのだ。その他諸々の理由から、オーナーの事情で継続留置されているのが現状である。

しかしふと考えてみると、この施設は面白いカタチをしているのに気づく。上空に大きく張り出した**シンプルなキャノピー**（大屋根）、開放的な**前面空地**、最小限の**インフラ**を備えた事務所棟、最低10m以上はある前面の**接道**、防火のための**水平に伸びる壁面**。→→→改造するのにもってこいの素材。

た・と・え・ば、事務所棟の2階の床スラブを**ちょっと前面に延長してみよう**。防火用の隣地境界壁面をちょっと延長してみよう。好きに床を張って、好きに照明計画を立ててみよう。数人でコラボレーションするためのアトリエ、オフィスくらいすぐ出来てしまうかもしれない。もちろんガレージ付きで。コストは坪単価8万円でもイケるかもしれない。家賃はもしかしたら、既存の床面積だけで積算されるとしたら……なんてユメを見ながら楽しいひとときを過ごしてみよう。

ガソリンスタンド再生計画実行委員会（以下GS Committee）は、そんなGSの新しい利用法を継続的に提案してゆく。



ケーススタディその1

A activityの場合

課題

「もしも、リーズナブルな予算で地の利のいい所で、自分たちの動きに適した空間に改造可能な所を借りたいと考えていたところ、ふと廃業したGSを見つけ、思い立って賃貸契約し自分たちのアクティビティ拠点としてリノベーションするとしたら、A activityならどうデザインしますか？」

条件1

計画地は東京都内、国道沿いの某所。現在、オーナーサイドで売却検討中の現存する「GS」施設の改造計画を立てよ。

条件2

この既存施設を積極的に利用し、自由な増床を前提にして空間を再構成し、既存の空間的ポテンシャルを平面的、断面的に十分に引き出すこと。ただし、内部空間の増床については既存のキャノピー下のヴォリュームの中で展開すること。

条件3

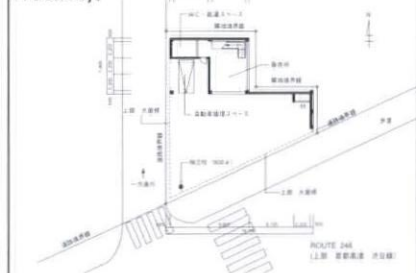
リノベーションの可能性を示唆するモノであること。

解答

A activityによる解答——p.74～p.75……………

（設計：A activity グラフィック・デザイン）

A activity)

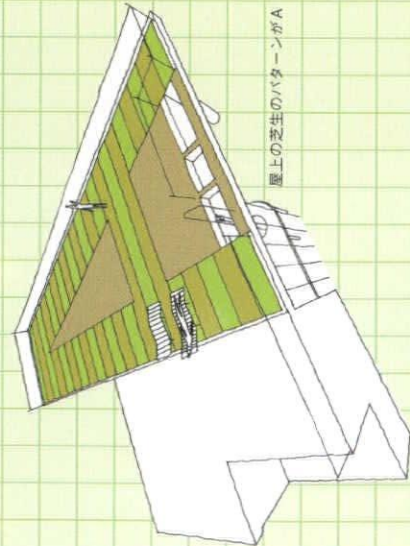


[A activity]

雑誌「A」の発刊をきっかけとして形成された制作者たちのネットワーク。建築家、デザイナー、写真家などによって構成される。各メンバーは独立した活動をベースとしているが、仕事の性質や規模（デザイン、建築設計、都市計画、イベントなど）に合わせて、プロジェクト単位でチームを組み立てコラボレーションを行う。CDジャケットデザイン、イベント計画から建築設計にいたる様々なアクティビティを、都市をつくる行為として等価にとらえて活動を続けている。1998年設立。本拠地東京。

A activityはコラボレーション集団(?)である。誰がメンバーなのかはつきりしない。雑誌を出したりもしている。場所はまだない。これはちょっと不便だ。今はまだない場所をこれから作るとしたら、どんな場所になるのだろうか。われわれは今、どんな場所が欲しいのだろうか。

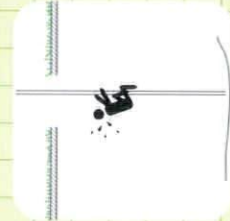
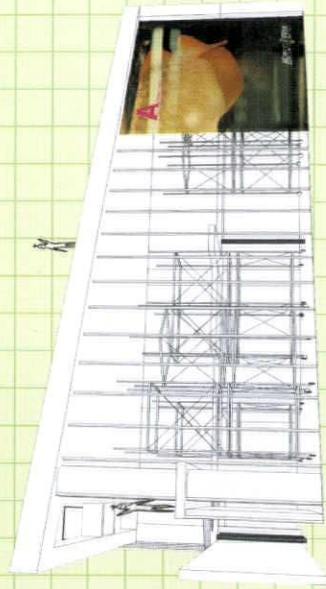
雑誌「A」の最新号の表紙がファカード。
5号 都市の野性 wild site- 発売中!



屋上の芝生のパターンがA

メンバーの誰かが仕事をA activityに持ってくる。それをみんなで共有し、プロジェクトを組み、アウトプットを出す。メンバーの誰かが人脈をつなげ、それをもみんなで共有し、また別の人脈につなげてゆく。そんなA activityの仕事の進め方やネットワークの組み立て方を空間に写してみると、どうなるだろうか。

そんなアイディアから始まった、これもA activityの一つのプロジェクトである。



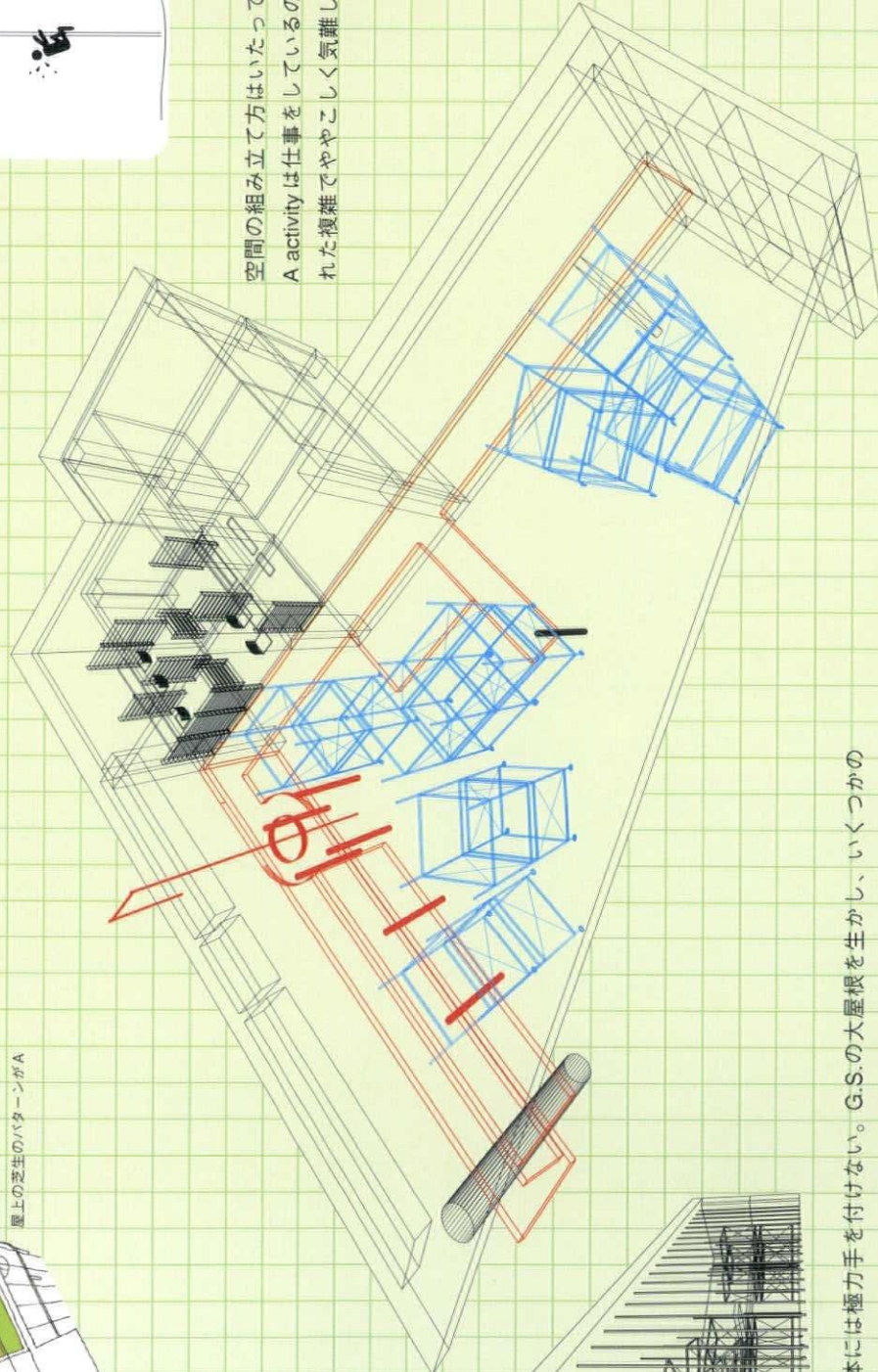
heaven's pool

屋上に上がるためのポール。
気持ちのいい空間に行くには、それなりに
汗をかかなければならない。



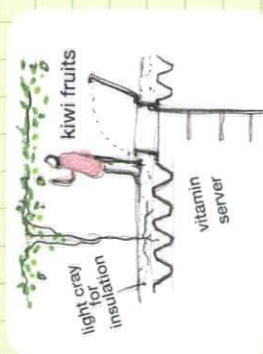
under the light

roof top working



既存G.S.の躯体には極力手を付けない。G.S.の大屋根を生かし、いくつかのエレメントを付け加えるだけで十分である。それだけでG.S.は全く異なる建物として生まれ変わる。

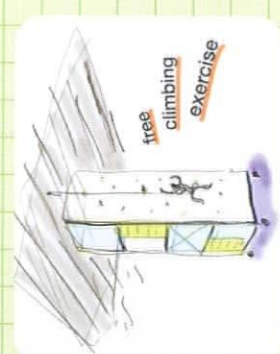
空間の組み立て方はいたってシンプルである。なにしろ場所がない今でもA activityは仕事をしているのである。そんなA activityに、前もって設定された複雑でややこしく気難しいプログラムや空間は、たぶん必要ない。



kiwi fruits

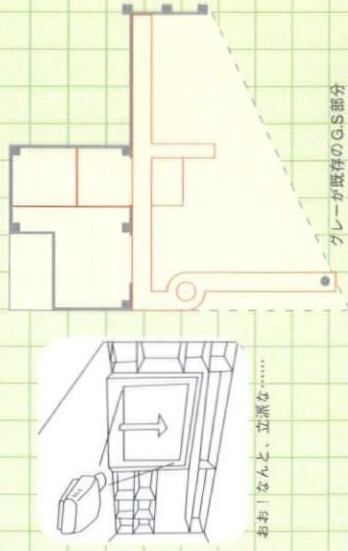
light clay for insulation

vitamin server



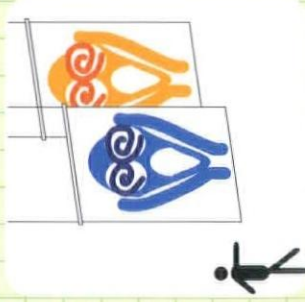
tree climbing exercise

2Fレベルにデッキを回す。A activityでは密室にこもってのブレインストーミングなど全くしない。したがって打ち合わせ用の「部屋」は必要ない。むしろスペースの「風通し」を良くしていろいろなものをなんとなく共有したほうがなにかと都合だ。というわけで、このデッキがみんなの共有スペースにもなる。打ち合わせなどはここで行われる。

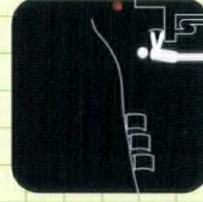


「お」なんと、立派な……

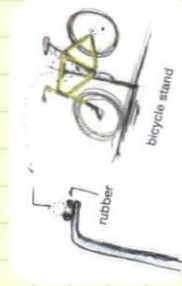
大きな空間を利用して時にはインスタレーションをやってみたり……



グレーが既存のG.S部分

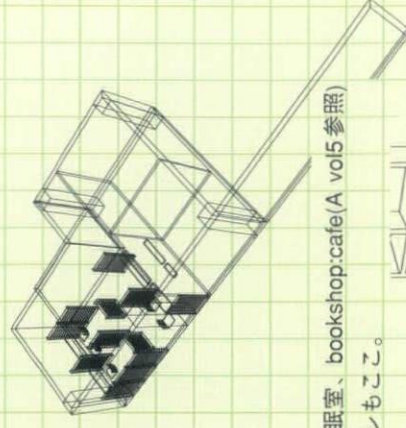


darkroom
写真家のために、暗室は必須アイテム。



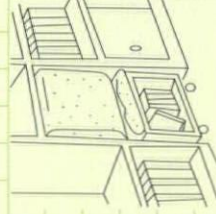
Aのスタップは自転車利用者が多い。

book shop cafe にはハジコで上がらなくてはならない。階段つくると高いからね。



G.S.に既存の部屋は、写真家のための暗室や仮眠室、bookshop:cafe(A vol5 参照)などのスペースになる。シャワールームやトイレもここ。

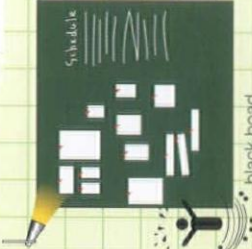
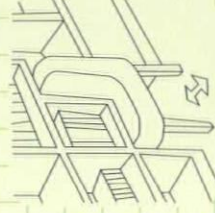
book wall
既存の丈夫なコンクリート
防火壁がそのまま利用に。



寝る。



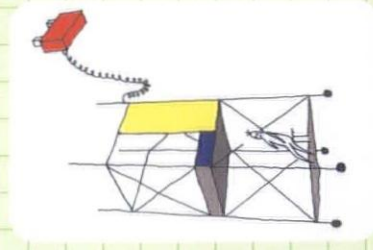
本棚に隠す収納家具。



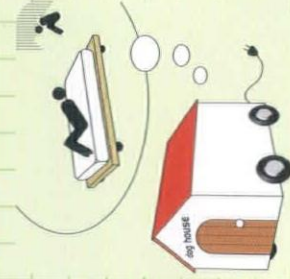
black board
情報を共有化するための巨大な黒板。

この建物に階段はない。2FレベルとG.L.との間の昇降には、手近にある誰かのイントレを利用する。お客さんもイントレを使って昇降する。リフト付のイントレがあると良いかもしれない。これはA activityの仕事やネットワークの構造を垂直方向の空間にあてはめてみたものである。やたらと人の通過が多い、とか、誰からも敬遠され昇降に使われることが減多にない、など、イントレによっていろいろな違いが生じてくるだろう。

こうしてA activityの抽象的なネットワークやアクティビティが可視化され、場を作ってゆく。すると今度はその場がネットワークやアクティビティを変化させ、再びそれが場に影響を与え、場がアクティビティに影響を与え、アクティビティが場を変化させ、場がアクティビティに……以下くり返し

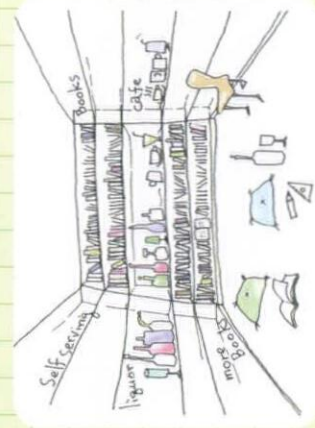


ユニットへのネットワークや電源の供給は
ガソリン補給器から



dog house
独りで落ち込みたい時や仮眠したい時はココにこもる。

healing dog
大型犬。心を癒す?大切な友達。



Introduction

GS Committeeはそんなガソリンスタンドの再生・改革を、全国的な規模で提案してゆく。
そんなガソリンスタンドって、どんなガソリンスタンド？

GS Revolution

ガソリンスタンド再生計画

閉鎖GSの現状

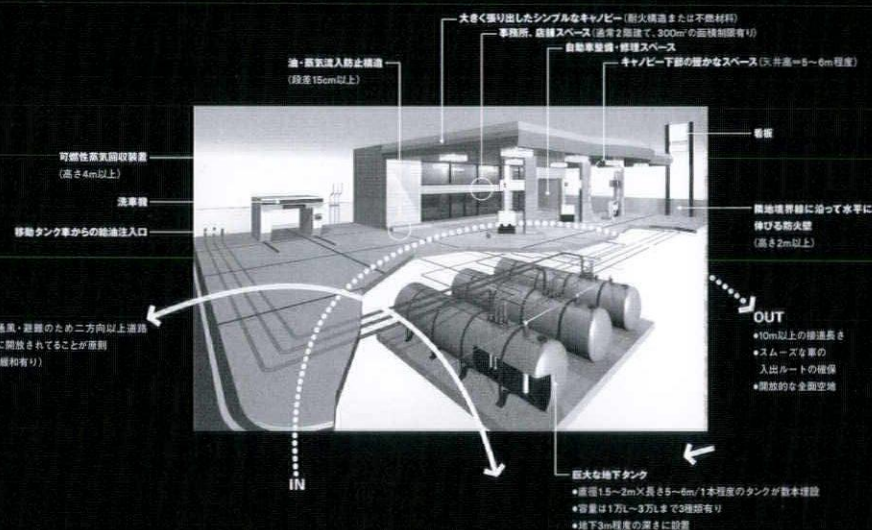
現在、日本全国のGSは約56,000カ所。1995年の約60,000をピークに、毎年平均1,000の割合で減り続けている。東京ではどうか？やはり1995年の約2,900をピークに、毎年平均約100の割合で減り続けている。この傾向は当分続くようだ。いつまでなのかは誰にも予想がつかないのだ。

では、閉鎖されたGSの行く末は？昨日までいつも通りに営業していたGSに、ある日突然工事用の囲いが巡らされ、いつもの煌々とした照明が消える。シーンとした空間への一瞬の変貌。建物はまだピンピンしているのに。そして、いきなり解体工事がスタートし一気に更地へと早変わりしてしまう。しかしそんな例はわずかなのである。ほとんどは囲いが巡らされたまま、1年、いや数年の間放置されたままなのである。そんな風景を僕はあちこちで目にする。

なぜ放置されたままなのだろうか？それは単純な理由からだ。GSという極めて特殊な施設建設に過大な先行投資をしているからだ。「まだ十分使えるのだからもう少し様子を見よう」。オーナーであれば当然の気持ちであろう。さらに、地下には巨大な給油タンクが埋設されている。この撤去には相当の費用がかかるし、決断はさらに鈍る。ピンピンしたGSは放置されたままなのだ。

消防法がつくるGSのカたち

GSのカたちは、「危険物施設——給油取扱所」ゆえに、主として「消防法」の厳しい制約によってそのフレームは規定されている。一般的な施設構成を概観しておこう。



GS問題に対する国の施策

このような状況下で、国も打開策として活性化支援措置の動きを見せてはいる。

1. 「地下タンク撤去補助事業」

1997年度からスタートした補助金制度。運営者交代などによる不採算GSの存続を絶ち、過当競争に歯止めをかけると共に危険物施設の放置を防止するのが狙い。地下タンク撤去費用は平均530万円程度で、その費用の1/2を国が補助するもの。実際1998年度には全国で約380カ所のGSがこの制度を利用して跡地の有効利用に乗り出している。残りの廃止GSは放置されたままなのだろうか。これらがGSとして再生する可能性はほとんど無いのだから。

2. 「地域事業多角化等共同実施モデル事業」

2000年度の石油流通新政策事業のひとつで、地域特性を活かし、地域に貢献するGSのサービス提供事業の支援を目的とするもの。GSのイメージアップが死活問題になっているのだ。

このような動きを含め、全国に膨大な数存在しているGSという危険物施設が、営業中のものも閉鎖されたものも含めて強い関心を集め、具体的な施策が展開し始めているのは確かだ。

ガソリンスタンド再生計画 volume 1

既存施設のウミをとことん再利用すること

何と言っても、「閉鎖GS」の既存施設の積極的利用が大前提。ザックリしてシンプルかつヴォリュームのあるその魅力溢れる空間は、まさに「次世代リノベーション」の格好のターゲットだ。地下タンクの問題は大丈夫か？空になったタンクに水を充填し密封した上で埋め戻せば、撤去せずに活用可能なのだ。だから機能に応じた床の自由な増設も大丈夫。その際肝心なのは、既存施設の耐用年数とのバランスを考え、増設部分の耐用年数をリーズナブルに設定することだ。状況に応じて2～3年、5年、10年といった具合に有期限的な発想で捉える必要性。現在その技術的フォローを含め具体的手法を検討中。

ガソリンスタンド再生計画 volume 2

プログラムと建築タイプの組み替え

ヴァリエーション溢れる「規模」「立地特性」をにらんだプログラムの可能性の検討。ネガティブなイメージがつきまとう「閉鎖GS」を「街のホットスポット」へと変貌させる仕掛けとは。オーナーの考えは？アクセシビリティは？周辺の施設配置構成は？地域社会が現在抱えている問題は？

例えば、こんな可能性はどうだろうか。

1. コラボレーションの活動拠点へのリノベーション
2. 街のキオスク的施設としての商業スペースへのリノベーション
3. 郵便局、銀行、派出所などのいわゆる「街施設」へのリノベーション
4. 「脱・箱もの建設」としての公共施設へのリノベーション
5. 環境問題に目を向けた施設へのリノベーション
6. イベントスペースへの仮設的リノベーション
7. それらの適切な複合化への展開等々。

ガソリンスタンド再生計画はつづく…

【ガソリンスタンド再生計画実行委員会】

略称：GS Committee

本委員会は、「リノベーション」の観点から「閉鎖したGS」の存在に光をあて、既存施設の積極的改造・転用によるドラスティックな再生、さらに、「GS」そのものの可能性の提案、実践を目的とし、1999年4月に発足。現在、調査・分析・検討を進めている。また国、自治体、石油業界関係者、個々のオーナー等への働きかけ、具体的なモデルの設定、ワークショップ、イベント等の開催を通じて全国規模の活動、具体的な再生計画の実現へと歩み出している。

その活動のプロセス・成果は、随時本誌上に広く展開してゆく。

問い合わせ：松口 龍（建築家／KAJIMA DESIGN）＋
高木伸哉（[SD]編集部）

〒107-8345 東京都港区赤坂6-5-13

鹿島出版会SD編集部内

Tel：03-5561-2555 Fax：03-5561-2565

建築単位のリノベーションが、まちづくりにつながる瞬間。



入居前内観

個々のリノベーションは時に地域全体のまちづくりにつながることがある。

本編では東京の事例を中心に構成しているが、ここで取り上げるAD&Aは大阪港築港地区の倉庫を拠点に独自の活動を展開している建築設計事務所。彼らのスペースや活動がまちづくりの中で小さくはあるが波を起こさんとしている。

AD&Aは、オフィス、ショールーム、ホテルなどのインテリアデザイン、神戸市西神ニュータウンサイン計画、ベネッセコーポレーション東京のインテリアデザイン、泉佐野総合文化センターのアート計画など多方面にわたる活動をしている。ベネッセの仕事では、日経ニューオフィスデザイン賞、泉佐野では大阪都市景観建築賞を受章するなど、評価も高い。

彼らのオフィスは、住友倉庫が1924年に建設した赤煉瓦の倉庫を利用している。天井高約8.5m。建設当時はさらに高かったが、地盤沈下を起こしたことで途中で床を上げた。空襲で爆撃を受けたらしく、崩壊するまでには至らなかったものの、その時の亀裂が煉瓦に残る、歴史を語る建造物である。木造トラス小屋組を露にしメザニンを入れて2層とし、1階部分を現代美術のギャラリーと打ち合わせスペースに、2階部分を事務所に使用している。ファサードは波板鉄板を使用し、ドアには「AD&A」のロゴ。ドア上部には人型のオブジェが飾られている。リノベーションとしては、かなり成功した例とみていいだろう。ちなみに彼らは以前の事務所も事務所ビル地下の機械室を再利用したもの。



入居前外観

現在彼らが入居する倉庫のある築港地区は大阪市港湾局の主導で再開発計画が進められ、倉庫も再利用される予定だが、問題は倉庫の耐震性。現状のままでは不特定多数の人間の利用は法的に難しい。耐震補強などの改修が必要になる点で、AD&Aは微妙な立場にあるが、港湾局では既存の施設の有効利用を念頭に計画を進めている。

大阪港築港地区南側は土地を大阪市が所有し、住友倉庫と賃貸契約を結んでいた。この地区が再開発の対象になるにあたり、市は住友倉庫から上物を取得し、文化発信基地として芸術家村にする構想を進めている。築港地区の北側はすでに海遊館を始め、マーケットプレイス、サントリー美術館といった施設を新規に建設しているが、南側の開発は当面既存施設の有効利用を進めていく考えだ。AD&Aの竹村楊子氏によると土地の開発利用について建築家や都市計画の専門家などが現場を視察した際、築75年の倉庫を巧みに再生させている彼等のスペースを見たことも発想の一端を担っていると言う。しかしこの土地を管理する大阪市港湾局では、計画が発案から5年以上を経て経済状況の低迷から、現在赤煉瓦倉庫の部分を具体的にどのような形で利用するかについては未定。ただし大阪市の芸術家村構想をにらんだ形で、その中で敷地の南東部では住友倉庫による既存倉庫の一部改修した現代美術のギャラリー(総面積約1,490m²)が計画されている。

一方、大阪市市民局でも、この地区の芸術家村構想を受けて、企画進行中の空いている期間を利用して前哨戦として何かできないかということで、9月15日から11月8日まで大阪野外演劇フェスティバルを企画している。この企画は2000年1月から始まる第2回大阪演劇祭との連携企画でもある。大阪市市民局の乾正一氏によると、「大阪市には府立でも市立でも公立の現代美術の展示スペースというものがない」と言う。文化発信をしようにも公的なスペースがないというわけである。乾氏は「芸術家村が本格稼働した際に、耐震等の面から建物内部に人を集めるのが無理でも、表の活用ができるのであれば、現代美術の催しなどやりたいと思うことはたくさんある。今回の演劇フェスティバルも、将来の芸術家村構想のじゃまにはならないと思う」と言う。

フェスティバルでは、AICT野外劇シンポジウム「シアター・クリティック・

ナウ99『野外劇の魅力』」の他、大阪で活発な活動をしている浪速グランドロマン、維新派などの演劇集団の公演を予定している。

再開発を進める大阪市港湾局では、地区の構想について、現在以下のようにまとめている。

築港地区再開発

築港地区は、明治の終わりから昭和30年代にかけて大阪港の港湾機能の中心地として発展し、船員や船客で大変賑わいのある様相を呈していた。だが、昭和40年前後に始まったコンテナ化などの輸送革新の進展により、この地区の港湾機能は相対的に低下し、施設の老朽化や遊休化が著しくなり、また近年天保山周辺においては既に、再開発が行われていたところである。一方、海岸通2丁目の主要な港湾施設である第1号岸壁、物揚場、上屋、民間倉庫等についても老朽化が進み、再整備が必要となっている。

また近接地では、新都心のコスモスクエアの整備が進められており、これらの地区の従業者の住宅ニーズの発生等に対応するとともに、大阪市の人口回復策における市内居住を促進するための住宅地整備、大阪市の文化創造、発信機能の強化への要請や、臨海地のアメニティ空間に対する市民のニーズの高まりを踏まえ、この地区の土地利用転換に合わせたウォーターフロント整備が必要となっている。さらに緑地等の広大な空間や公共施設等は災害時における市民の避難場所や緊急物資の搬出入路など、防災機能を兼ね備えた整備も求められている。

こうした要請を踏まえ、築港地区の整備コンセプトを次のように考えている。

大阪港の玄関口にふさわしい「みなとまち」の再生を目指すため、大阪に求められている文化創造、発信機能を高め、市民が手軽に親しめるウォーターフロントを整備する。

・市内居住を促進する住宅整備および防災拠点としての機能整備を合わせて「21

世紀に向けて新たな交流と創造の育まれるまち」を基本テーマとして文化、業務、居住が連携する文化的な賑わいのある空間を形成する。

整備の方針

・中央突堤地区

海を展望できる憩いの空間となるとともに、防災拠点としての機能を備えた緑地を整備し、またイベント船等に対応したターミナルを整備する。

・中央突堤基部地区

新たに創出されたコスモスクエアに対し、再生される「みなとまち」のシンボルとなる地区として、商業・業務等の複合機能から成る中核的な施設を整備するとともに、海からの眺望に対して、築港地区のシンボルとしてふさわしいデザインの建築物を整備することが望まれる。

・海岸通2丁目西地区

国際性のある芸術文化の創造発信基地や文化事業の拠点となる施設のニーズを勘案しつつ整備を図るとともに、施設周辺ではアメニティ豊かな商業、文化施設等を緑地と一体的に整備する。

・海岸通2丁目中地区

既存の土地利用との整合を図りつつ、臨海部の立地特性を活かし、アメニティの高い住宅を整備する。また南側水際線についてはプロムナードを整備する。

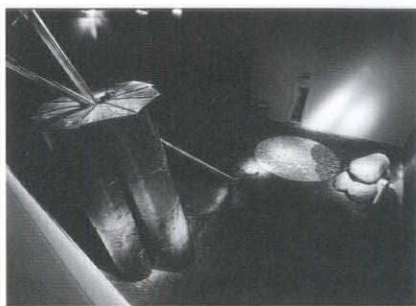
・海岸通2丁目東地区

築港地区の芸術文化の創造発信機能を強化するため、煉瓦倉庫をはじめとする既存施設を有効活用した文化関連施設の整備を図る。また南側水際線についてはプロムナードを整備する。

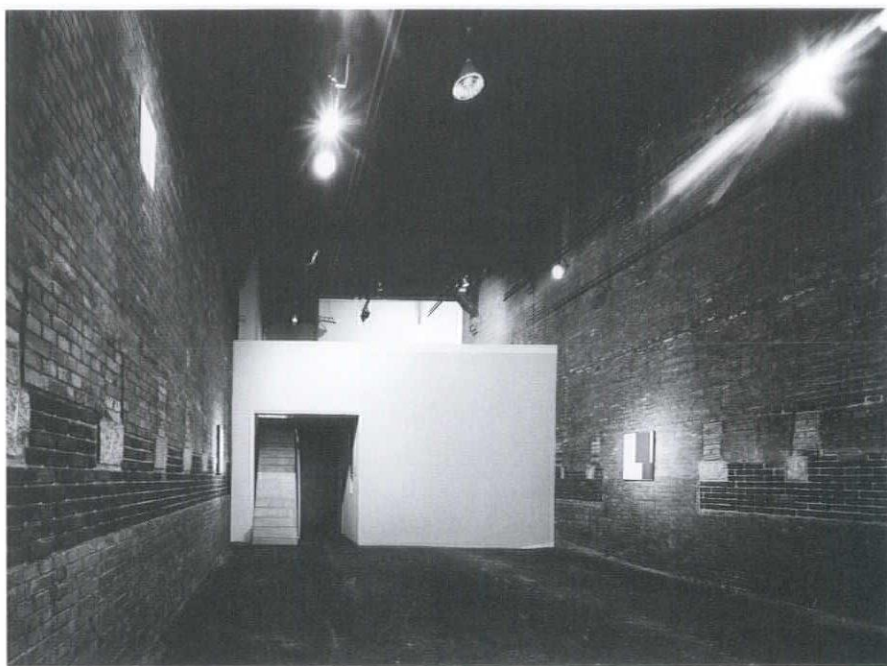
金沢の芸術家村の例もあるように、保存の価値のある既存の施設を活かして市民に密着したアートスペースを生みだし、まちの活気を取り戻すことは可能である。これまでのようなハードを作ることに囚われてソフトを忘れてしまうことのない、本来の有効利用を期待したい。



AD&Aのファサードを飾るオブジェ。FRP樹脂。作家は荒島智子

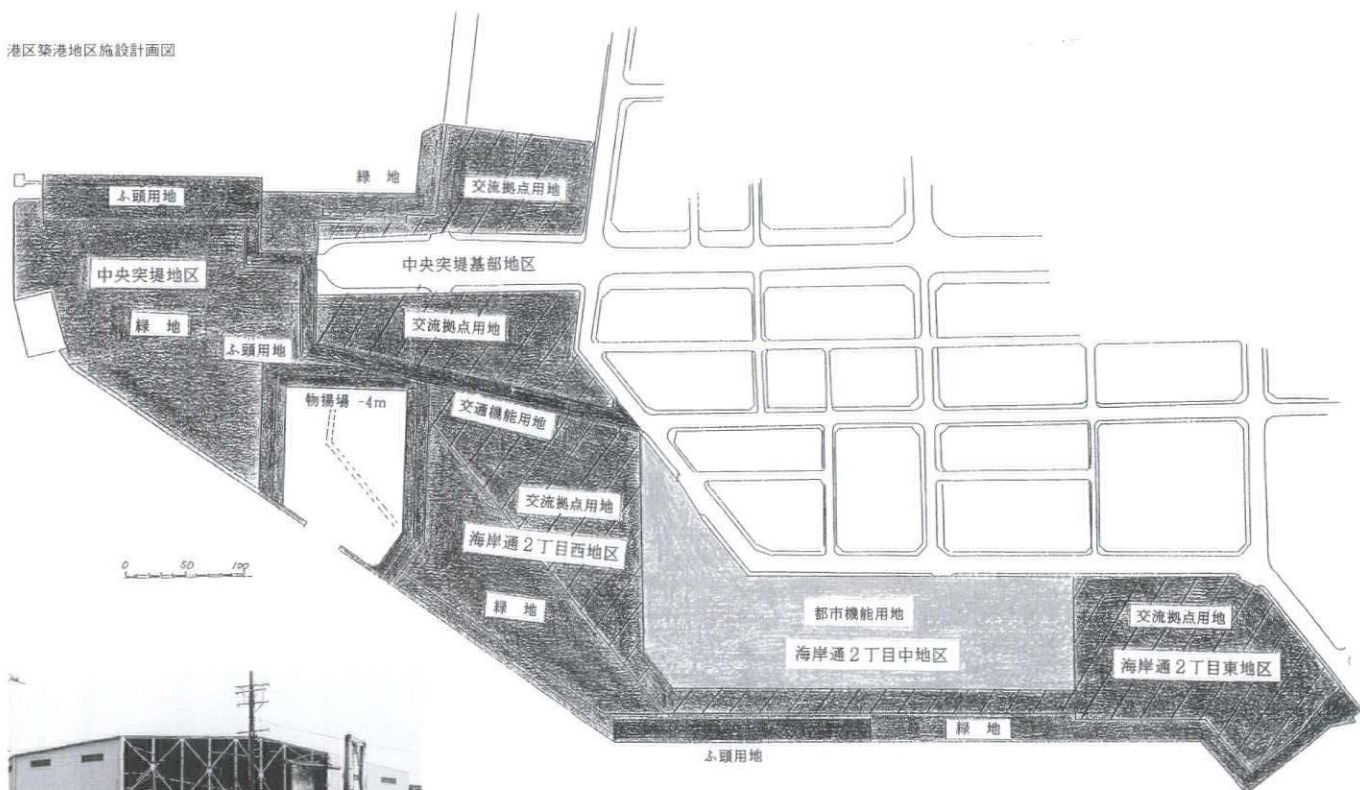


1997年10月山本哲三展。2階から

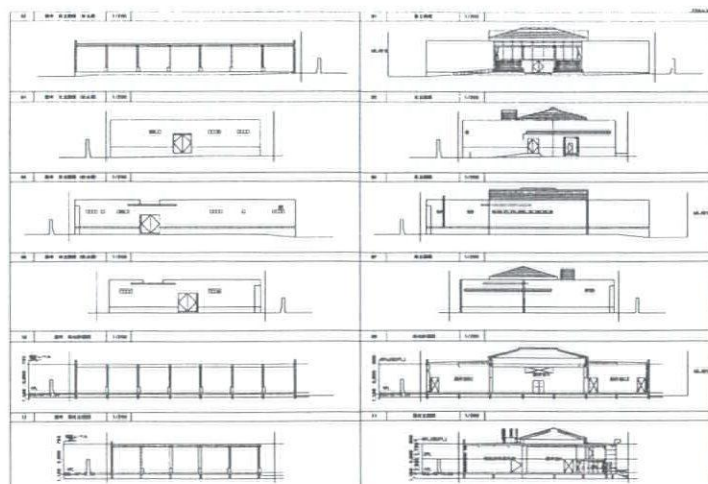
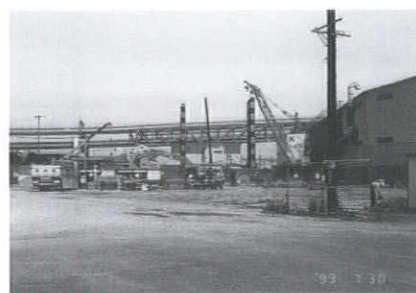


現在行われている日下部一司展。レンガ倉庫ギャラリーへのオマージュ

港区築港地区施設計画図



現在工事中の住友倉庫ギャラリーとUSJエンタティナー宿泊施設



住友倉庫海岸通ギャラリー（仮称）改修における立断面構成変化（既存→改修後） 資料提供：日建設計

写真（記載のないもの）

村角創一

協力

清水 博／リボックス建築環境計画

栄 俊貴／リッツインターナショナル

武田正昭／富士プラント

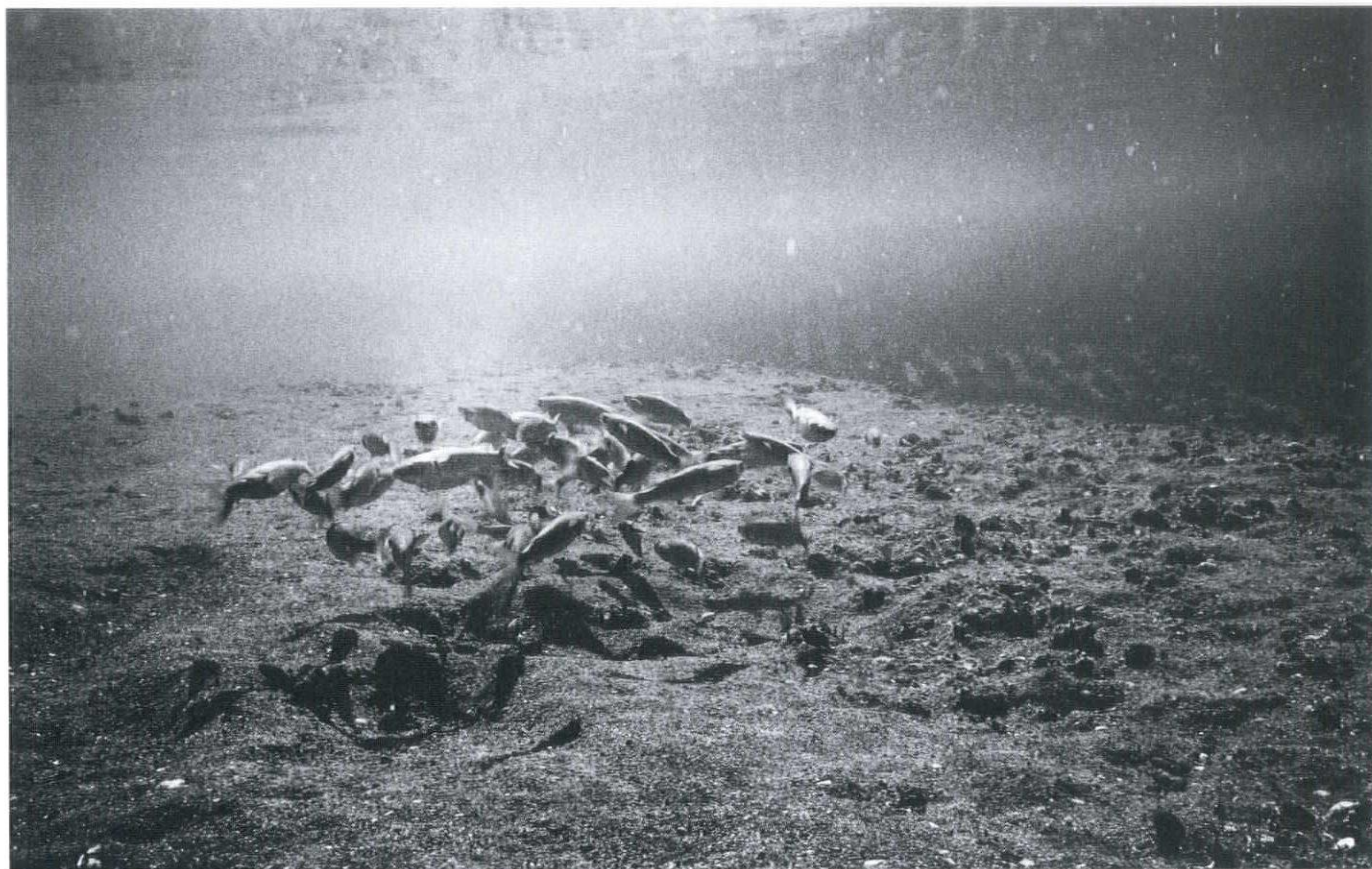
資料提供

玉田工業（p.76）

経済的な状況が良くないというのは、
意外に楽しいことかもしれない。
「お金を出せばなんでも買える」と楽だが、何となく空しい。
本特集で紹介した人々は誰もスーパーリッチではない、
でも進取の精神だけは豊富な人々である。
経済状況が良ければどんどん壊されてしまうような建物も、
彼らの手にかかると思のある豊かな空間として甦る。
これからもっとこういうスペースが出てくると
日本の建築の状況も変わってくる気がする。

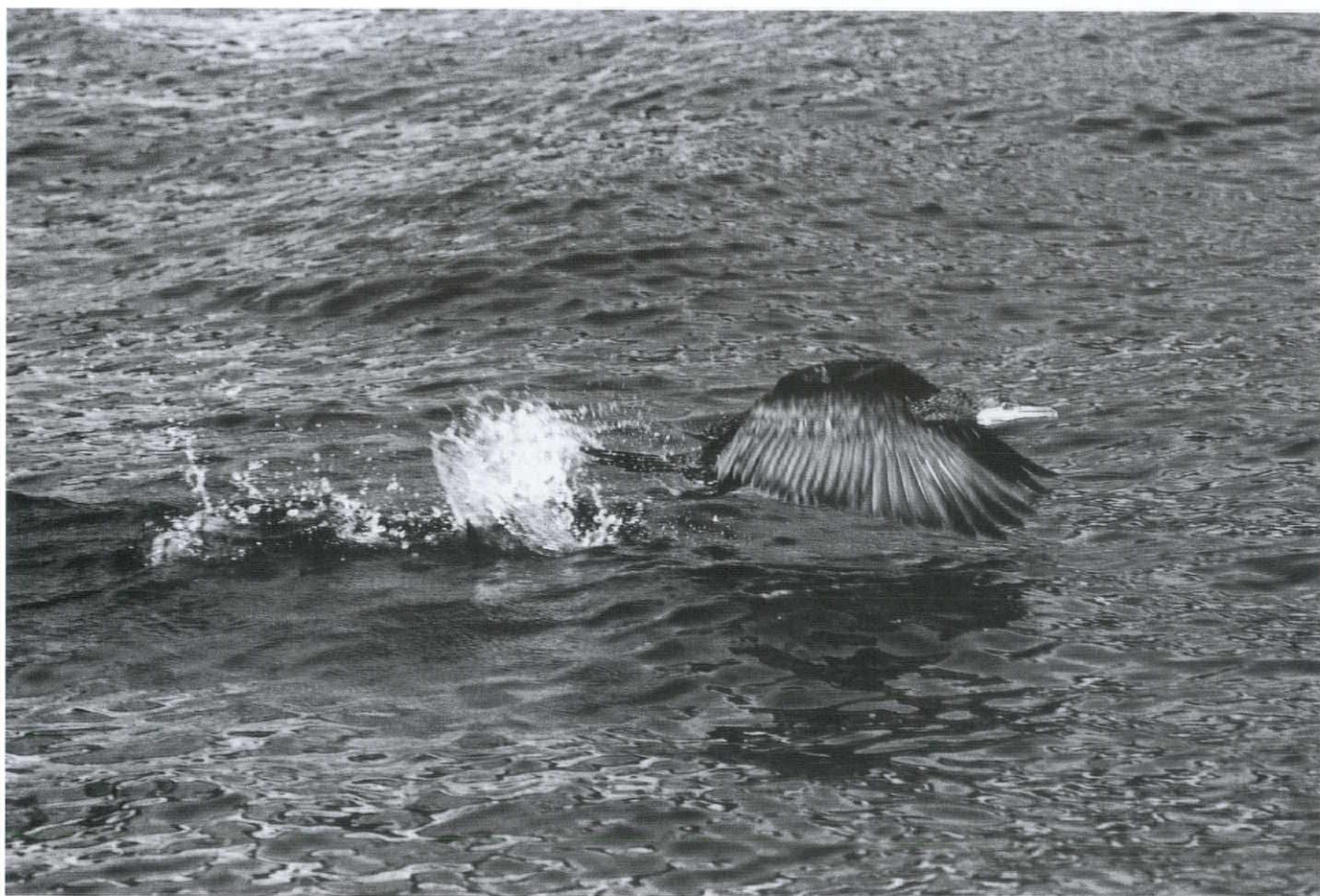
隅田川再生とリバーサイドスペース

写真＝加藤嘉六



透明度を増した水辺では、魚や蟹、クラゲなどの生物に出会える

「水澄む」
みずす



時折飛来して漁をする。飛び立つ姿はダイナミック

「川^{かわ}鵜^う」



親水テラスに植えられた葎などの水生植物。川の満潮時に水に浸かり保水する（1995年7月）

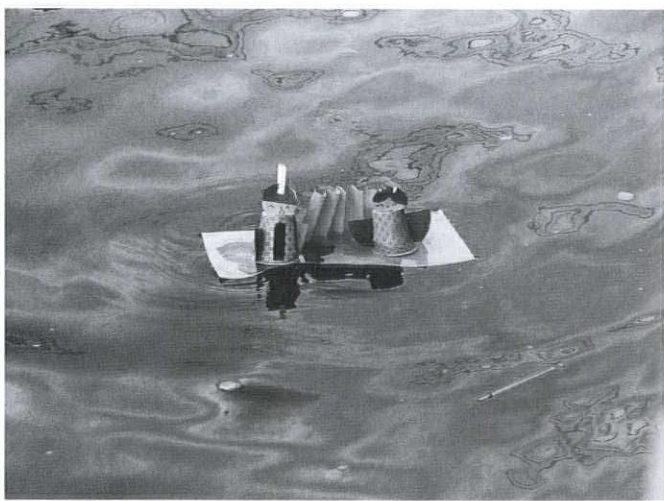


成長した葎（1996年9月）

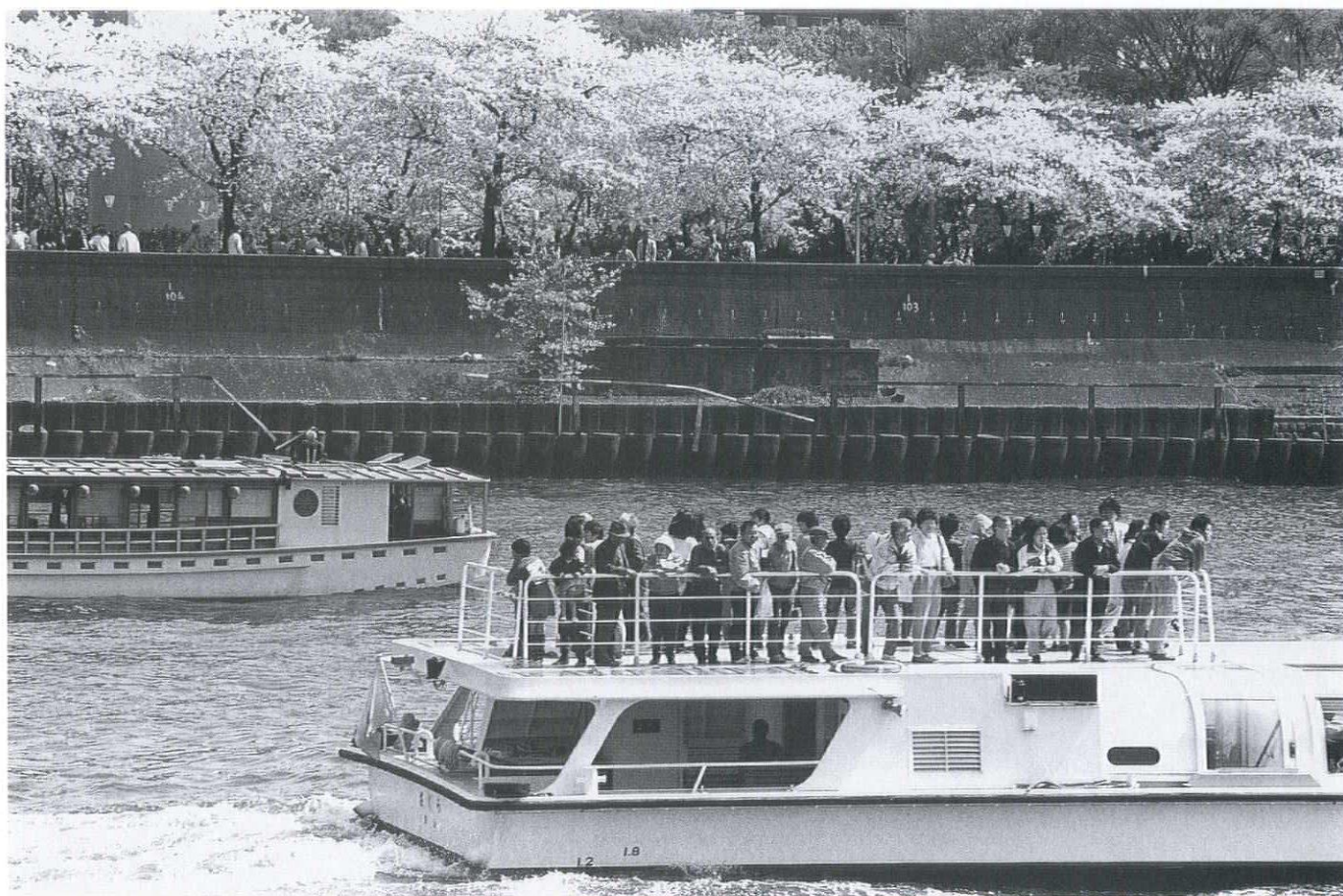
「葎」_{よもぎ}



春の訪れを告げる流し雛。願いを込めた雛人形はきらめく川面をゆらゆらと



「流し雛」

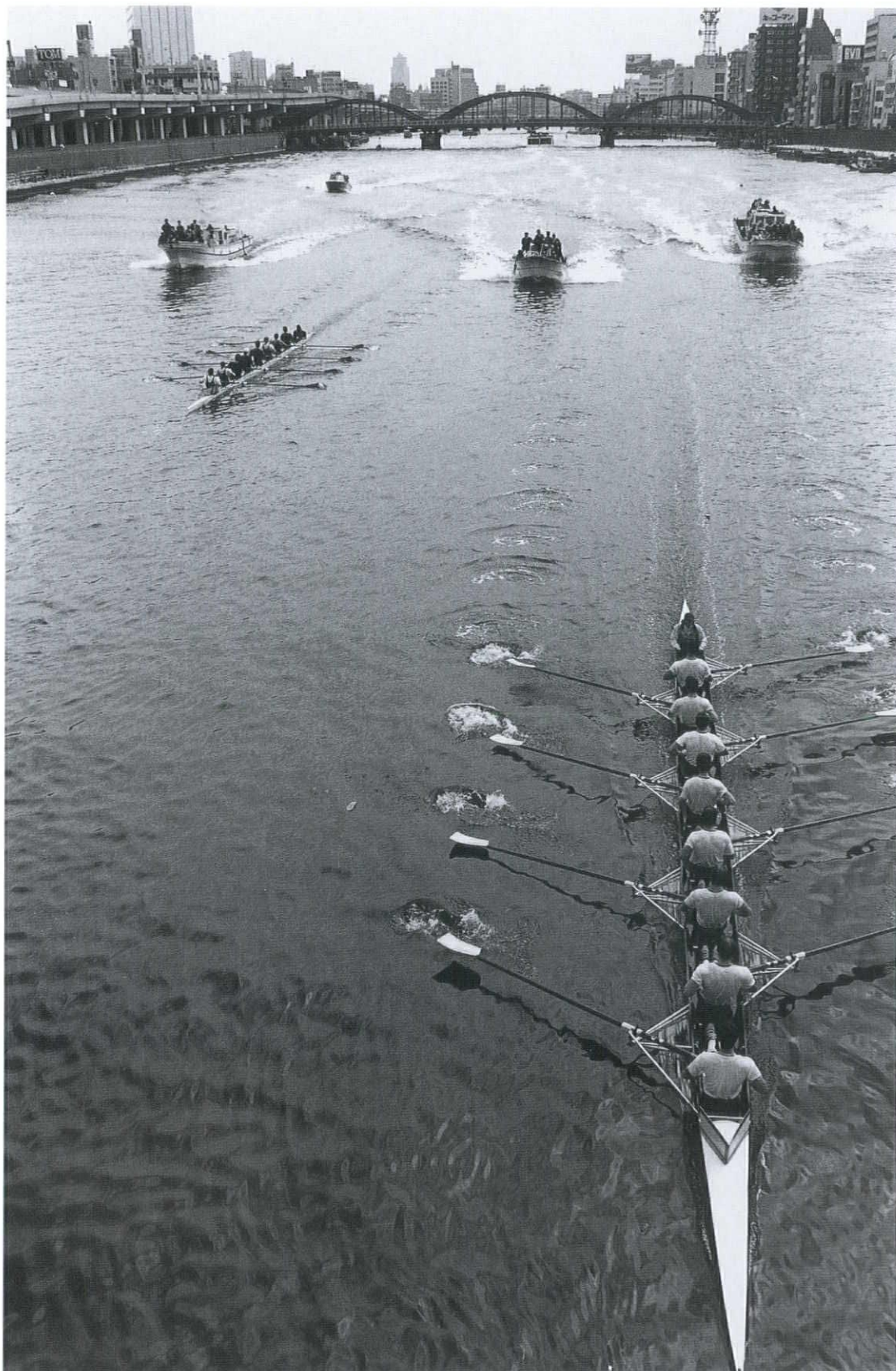


隅田川には桜の花がよく似合う。桜吹雪が川面に舞う



「花見」 はなみ

「レガッタ」



橋の上からの観戦はスピード感がある。伝統の早慶戦で有名



1978年に復活した伝統の花火大会。絢爛豪華な夏の夜の絵巻

「花火」はなび



住吉神社のお祭り、3年に1度の太祭がある。かつては隅田川に神輿を担ぎ出していたが、現在は神輿を船に乗せて佃島を1周する



「佃祭」 つくだまつり

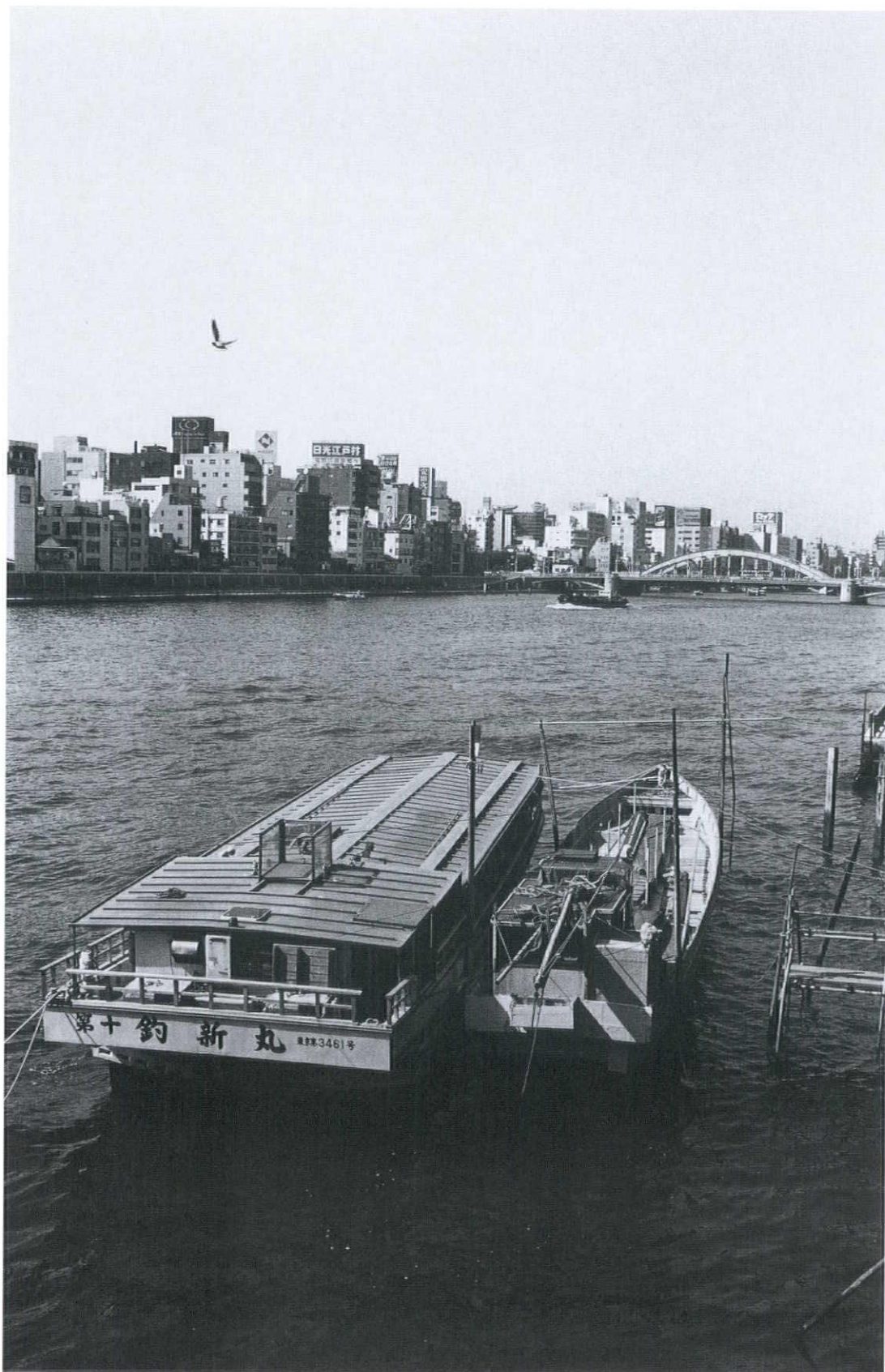


うらかな春、行き交う船を眺めながら昼休み

「春眠」

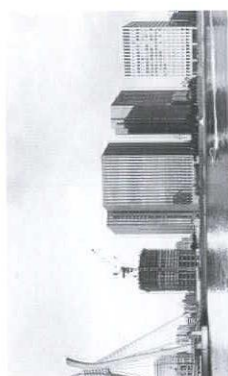
しゅん
みん

「薄暑」
はく
しょ

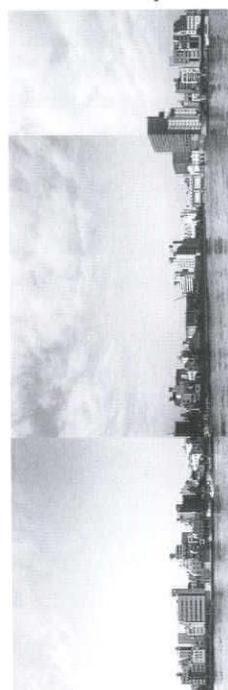


リバーサイド・スカイライン

街並——1993年12月撮影
橋——1994年撮影

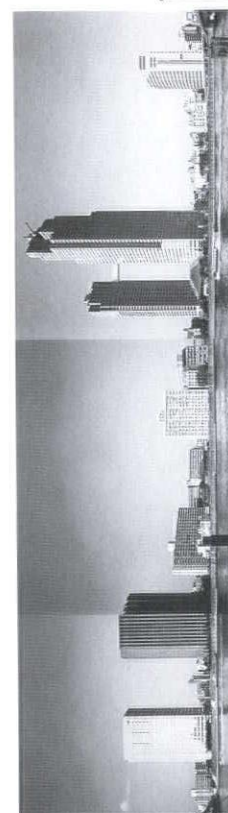


住友ライオンビル



●電岸島水位観測所／P100

電島川

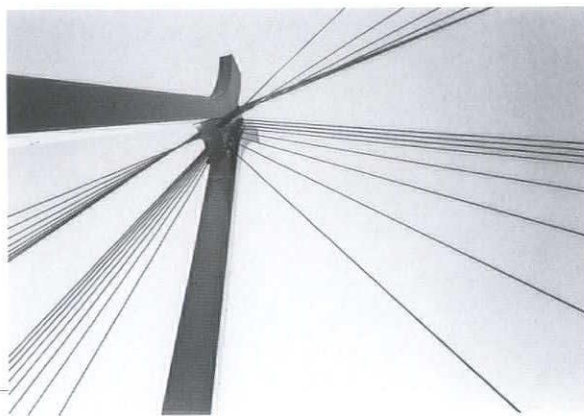


聖路加ガーデン

住友生命

ニチレイ

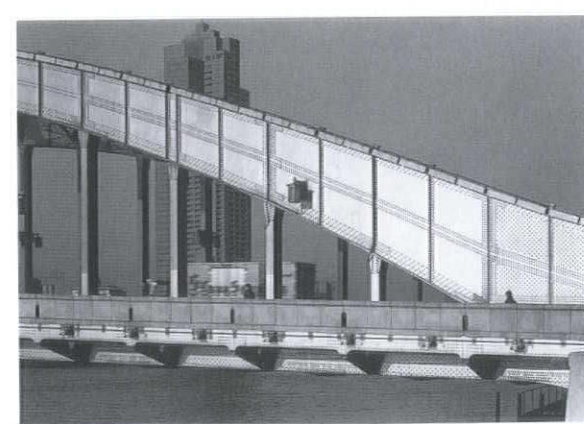
晴港通り



中央大橋



佃大橋



勝開橋

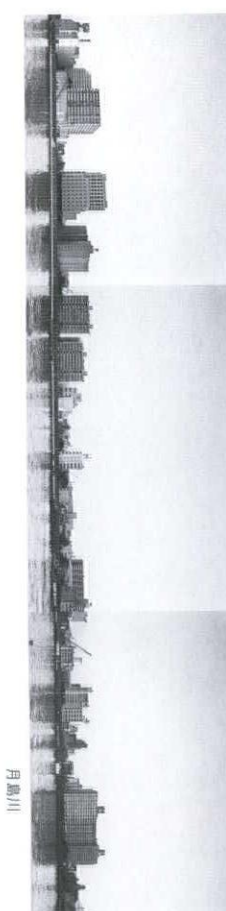


大橋川

晴海・豊洲運河

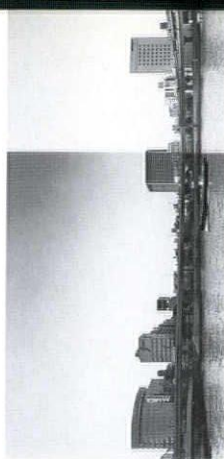


大川開リバーシティ21 石川島灯台 住吉神社

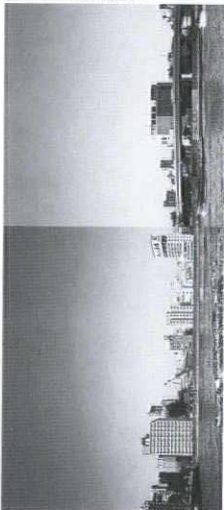


月島川

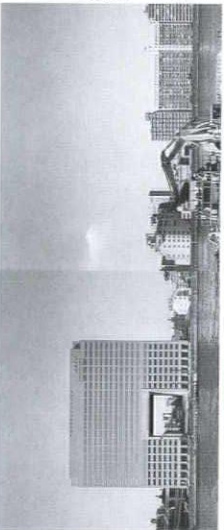
晴港通り



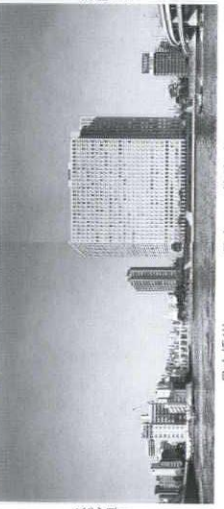
新大橋通り



日本橋



リバーサイド眺め



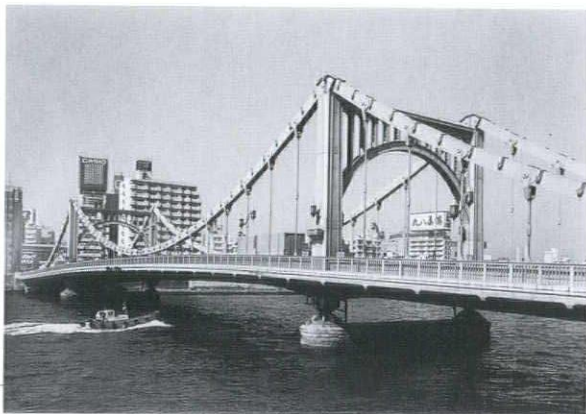
日本橋川



新大橋通り



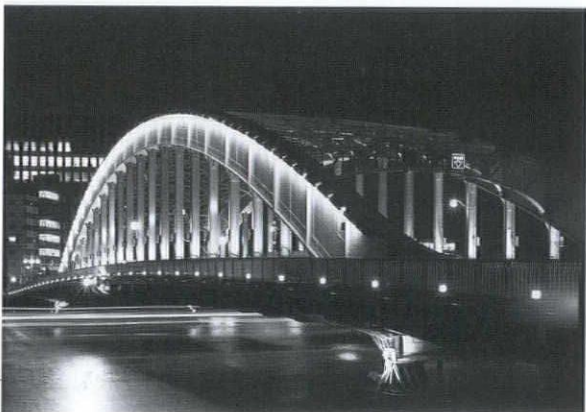
新大橋



清洲橋



隅田川大橋



永代橋

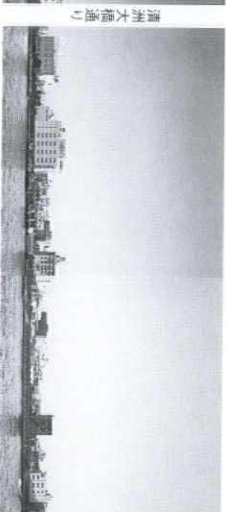


新大橋通り



金商物産センター 芭蕉記念館
●A Net 新大橋オフィス/P097

芭蕉歴史館・庭園 小名木川
●昭文社制作本部ビル/P098



仙台堀川



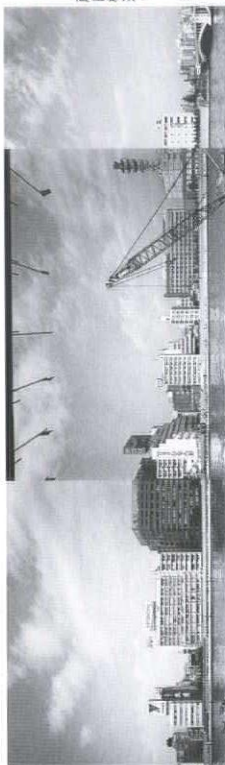
深川橋



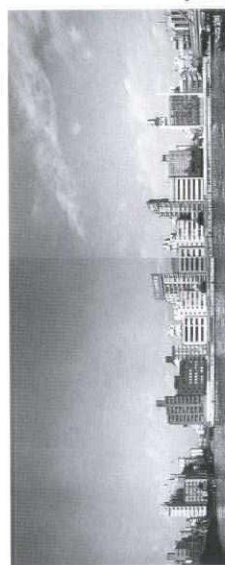
永代通り



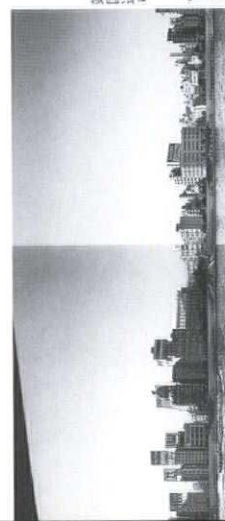
藏前橋通り



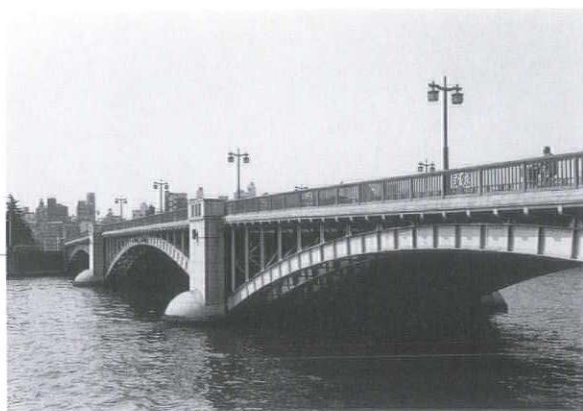
●ヤング産業東京支店ビル／P099
蔵前工高



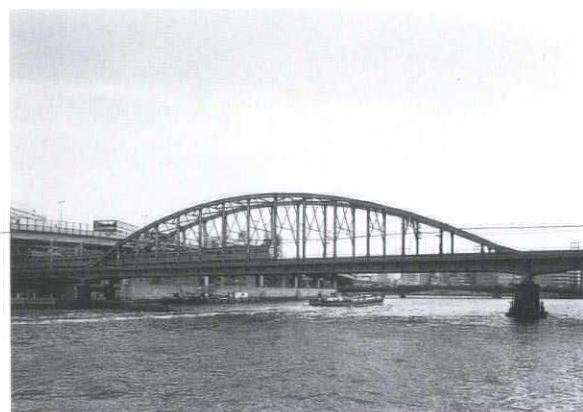
三田川



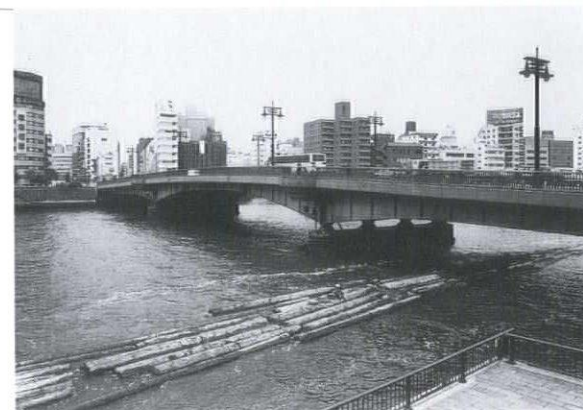
英國通(1)



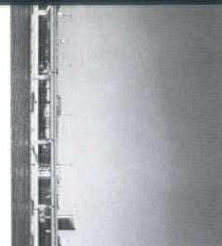
藏前橋



総武線



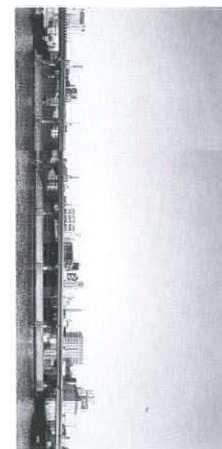
両国橋



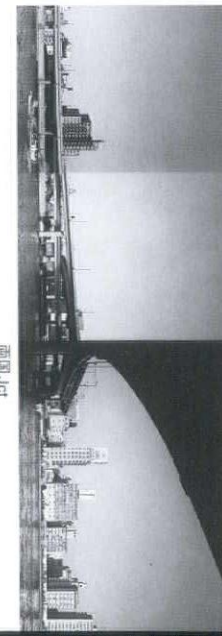
藏前橋通り



西国公会堂 旧安田庭園 江戸東京博物館 国技館

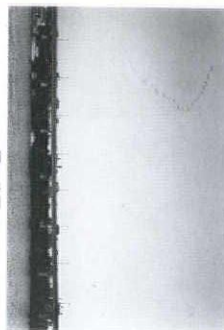


京葉道路



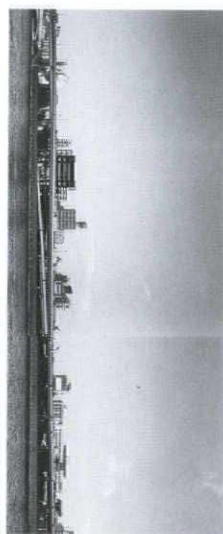
THE JET

河原町通り

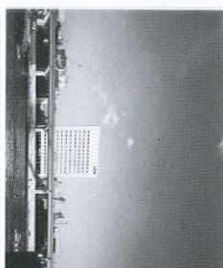


河原町通り

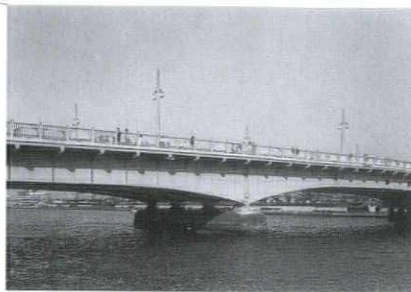
河原町通り



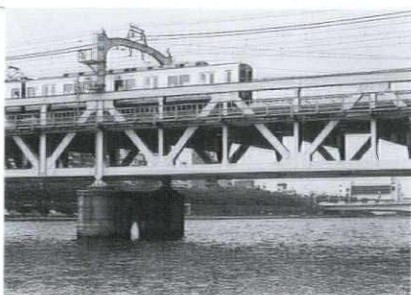
河原町通り



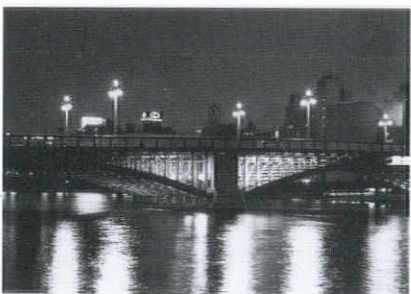
河原町通り



河原町橋



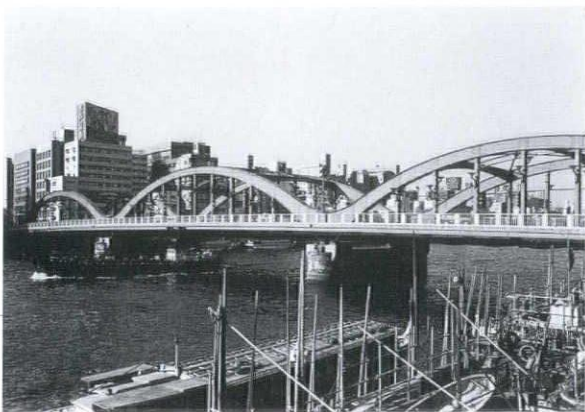
河原町橋



河原町橋



河原町橋

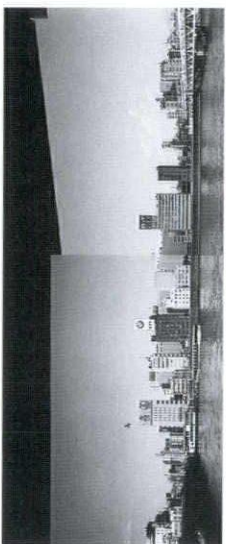


河原町橋



河原町通り

●台東区立隅田公園地下駐車場
リバーサイドギャラリー／P100

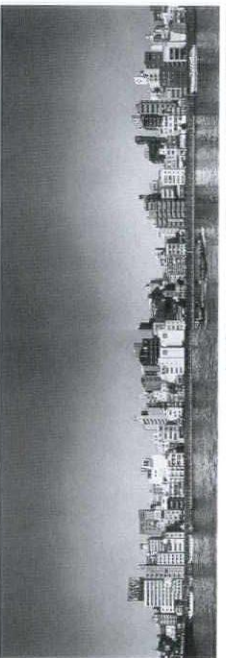


●清水ビル／
P097

河原町通り



河原町通り



河原町通り



河原町通り

魅力を取り戻す隅田川

陣内秀信

水辺は、時代の変化を映し出す鏡といえる。かつて川は、舟運を通して都市の流通経済を支えたばかりか、その情緒あふれる風景の魅力で人々を引きつけ、行楽や遊興の地としても大きな意味をもった。日本における市民の代表的な広場は、川沿いの、特に橋のたもとに成立したのである。隅田川中流の両国広小路は、江戸最大の盛り場として賑わったことで知られる。戦後も、数寄屋橋の水辺が、東京のまさに顔として人気を呼んだ。

だが、経済発展をめざす近代の都市開発は、川を軽視し、水辺の魅力を剥ぎ取りながら、実現されてきた。「水の東京」としての象徴軸、隅田川が、最も汚れ、悪臭を放ったのは、東京オリンピックが開催された1964年頃だったようだ。近代化のもっとも華やかな展開の影で、東京の水辺は受難の時代を経験したことになる。水上バスの乗客のほぼ全員がハンカチで顔を押さえている、今からするとちょっと滑稽な写真が残されている。隅田川の水の汚染は、かくもひどかった。

だが、時代は急速に変わる。経済的な豊かさをすでに獲得した人々は、自分の身の周りの環境や都市風景に関心を向け始めた。コンクリート・ジャングルと化した都市に真の豊かさはあり得ない。緑と並び、水の空間を取り戻したいという願望が、人々の間に強まったのも当然だ。

隅田川の復活も、案外、早かった。江戸・東京にとっての母なる川、隅田川だけに、市民や行政の思いが込められた様々な活動も繰り広げられ、1970年代の前半から、隅田川の水辺回復の兆候が見られるようになった。魚が戻ってきた喜びを伝える新聞記事が載る。レガッタや花火が復活する。屋形船が再び隅田川に浮かび、人気を博する。こうして、汚れた川というイメージの強かった隅田川のまわりに、人々がまた集まるようになってきた。江戸の墨堤を受け継ぐ隅田公園の花見も大いに盛り上がりを見せ始めた。

ちなみに、東京の花見の名所というのは、その多くが水辺にあるのが興味を引く。隅田川ばかりか、千鳥ヶ淵、外堀の土手、不忍の池、目黒川、井の頭公園、玉川上水など、枚挙にいとまがなく、しかもその大半は江戸時代に遡る。古来受け継がれた情緒溢れる水辺の空間は、人々が解放感に酔い、祝宴に興ずるのにぴったりの舞台なのだ。場所の力というのは、現代東京にも確かに生きている。

隅田川再生を象徴するものが、いくつも登場した。向島と浅草を結ぶ歩行者専用のユニークな橋、〈桜橋〉が実現したのが、まず大きい。その両側のたもとには、コンクリートの切り立った防潮堤を初めて取り去って、水際まで降りられる親水公園が実現し、話題を呼んだ。その後、この橋を中心として上流にも下流にも、兩岸に伸びる親水テラスが建設され、水辺が見違えるように生彩を取り戻しつつある（バブル崩壊後、この居心地のよい水際のテラスのある部分が、ホームレスの人々に占有される現象も起きている）。

大川端の三菱倉庫を始めとする様々なスポットで、ロフト文化が花開いたのも、記憶に新しい。水辺に並ぶ産業の時代の象徴、倉庫が、機能を終え、空洞化しつつあった。そこに目をつけ、ギャラリー、ライブハウス、レストランなど、文化的な機能に転用する動きが80年代前半に展開したのだ。

その頃、大川端の佃島も風景を一新した。石川島播磨の造船所の跡地に、21世紀に向けての新たな街、〈リバーシティ21〉が登場した。高層のマンション群が水辺に建ち並ぶ光景は、かつての日本にないものだった。都心から失われた夜間人口を取り戻す期待のプロジェクトでもあった。同時に実現したスーパー堤防のおかげで、漁師のコミュニティである佃島の住吉神社の祭礼に、自慢の八角神輿の水上渡御が実現できるようになったのが嬉しい。かつては、佃の沖で、神輿が海に入る海中渡御が行われていたのであり、そのスピリットがまた形を変えて現代に蘇ったといえる。

だが、東京の水辺は、80年代中頃のバブル経済への突入とともに、再び大きく動き始めた。大川端には高層のオフィスビルが続々と建設され、水辺のスカイラインも急速に変化してきた。世界の川の中でも、この1世紀の間にかくも激しく風景を変えてきたところはないだろう。

そして今、再び隅田川をゆったりと眺められる時期がやってきた。この水辺の価値については、もはや東京の人なら誰もが認めるところであろう。東京都は昨年、景観条例を制定したが、その中でも隅田川がもっとも重要な景観軸として位置づけられている。その景観の在り方についても考える必要がある。

世界には、パリやロンドン、ローマやフィレンツェなど、中心部を流れる川の美しい景観を誇る都市が多い。西欧では、壮麗なモニュメンタルな建築をいくつも配し、人工的な都市美が形づくられている。川沿いの統一感のあるプロムナードの存在も重要だ。

それに対し、日本の都市の川はだいたい表情が異なる。自然の要素がたっぷりと取り込まれ、季節によって表情を変える、情感あふれる水辺の環境が人々を魅せてきた。そこで営まれる四季折々の祭り、行事、祝祭も、人々の記憶や身体と結びつきながら、場所の意味を深めてきた。多様に使いこなされる水辺空間。そこで人々が演ずる。こうした姿が隅田川にはふさわしい。そのためには、この豊かで大きな水の流れのまわりに、もっと住民が増えてほしい。美しいスーパー堤防はできたけれど、そこに集まるのはオフィス勤めの人々だけというのは、あまりに寂しい。賑わいに満ちた隅田川を次世紀の初めには是非とも実現したいものだ。

（じんない・ひでのぶ／法政大学教授）

隅田川の整備

西野真介

東京の母なる川

世界の多くの都市がそうであるように、東京にも、文明・文化を育んだ流れがある。隅田川、その流れは、徳川家康の江戸入府以来、水運の中心として栄えただけでなく、江戸の人々にとっても絶好の行楽・娯楽の場であった。春の花見、夏の花火大会や舟遊びなどは、浮世絵のなかにも数多くとりあげられ、華やかな江戸文化は、隅田川とともに花開いたといっても過言ではない。

隅田川は、東京都北区岩淵水門において、荒川から分派し東京湾に注ぐ全長23.5km、荒川水系の一級河川である。東京の東部低地帯を流れ、人々の生活や文化に深く結びついている東京を代表する河川である。

戦後の隅田川の治水史

終戦直後、東京の東部低地帯（下町地域）は、1947年のカスリーン台風をはじめとして大きな台風が襲来するたび、浸水に見舞われた。また、この地帯は軟弱な地盤で構成されているうえ、明治期以降、工業地帯としての発展に伴い地下水の利用が盛んに行われた。その結果、地盤沈下を誘発し低地帯の範囲は徐々に拡大され、高潮、洪水、大地震等の自然災害に対して極めて脆弱な地域となっていた。

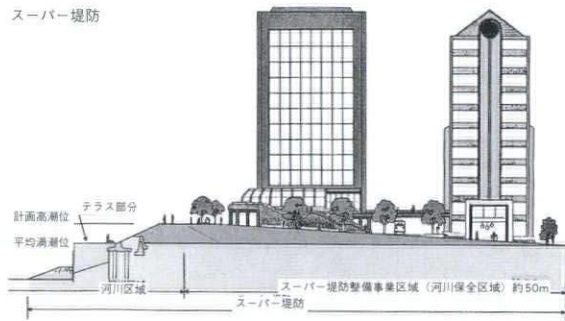
地盤沈下の進行によって高潮災害の危険が高まった低地帯を守るため、隅田川等の河川において、1957年から高潮対策事業（防潮堤の建設）に着手し、1975年に完成した。この事業の完成により低地帯の高潮に対する安全性は、飛躍的に向上した。しかし、この防潮堤は高いコンクリートの直立堤防として整備されたため、人々は隅田川の水面に近づくことができなくなってしまった。

また、隅田川も都内の中小河川と同様に、経済の高度成長時代に水質汚濁が進行し、河川環境が悪化していった。そして、ついに1962年には花火大会や早慶レガッタ等のイベントが中止された。その後、水質浄化に向け、ヘドロ浚渫、浄化用水の導入、下水道整備等の努力により昭和50年代になって隅田川の水質は改善の兆しがみられるようになり、1978年には、花火大会やレガッタが復活した。

水辺の再生

東京都は、1974年、低地防災対策委員会（委員長＝伊藤剛近畿大学教授）の提言に基づき、隅田川などの主要河川の防潮堤・護岸を、地震や洪水に対して、より安全で、水に親しめる堤防に改築することとし、1980年から「緩傾斜型堤防整備事業」に着手した。さらに、1985年から、緩傾斜型堤防よりも堤防幅が広い「スーパー堤防整備事業」を基本に整備を進めている。このスーパー堤防は、堤防幅が広いこと、治水上の安全性はさらに向上し、かつ市街地側と河川との一体的な整備によって、土地の有効利用が図られ、水と緑のあるまちづくりが可能となっている。こ

スーパー堤防



の事業は背後地の大規模な再開発事業等に合わせて、事業者の合意を得ながら進めている。

隅田川におけるスーパー堤防等の整備は、1998年度末まで約7kmが完成している。代表的な施工例は、以下のとおりである。

①地区名：吾妻橋地区

所在地：墨田区吾妻橋一丁目

事業者：アサヒビール株式会社、他

②地区名：新川・箱崎地区

所在地：中央区新川佃一・二丁目、日本橋箱崎町

事業者：株式会社読売新聞社、三井倉庫株式会社、三菱倉庫株式会社、株式会社住友倉庫、他

③地区名：明石地区

所在地：中央区明石町、築地六丁目

事業者：財団法人聖路加国際病院、株式会社ニチレイ

なお、1987年からは、将来のスーパー堤防の一部となる根固め部（テラス部）の空間を遊歩道として都民に開放する「テラス整備事業」に着手し、白鬚橋より下流部において、ほぼ両岸とも整備され、都民の貴重な親水空間として利用されている。

景観づくりにおける取組み

東京都では、1997年に「東京都景観条例」を制定した。この条例は、景観づくりに関する必要な事項を定め景観づくりを総合的かつ計画的に進め、潤いのある東京をつくることを目的としている。

隅田川については、景観に影響を与える建物の高さや人が建物を識別できる距離、景観を特徴付ける眺めなどを総合的に検討した結果、隅田川と隅田川の両側から50mの区域を「隅田川景観基本軸」として指定している。1999年8月から、この景観基本軸の中で一定規模以上の事業（特定行為）を行う事業者には、景観への配慮の状況などを知事に届け出ってもらうこととした。

この届出制度による景観づくりの誘導の考え方は、「一方的な規制という強制力によるのではなく、社会的に合意されたルールのもとに、関係者が自ら景観をつくっていく。」という考え方をとっている。「都民・事業者・行政の合意のもとに一定の基準をつくり、これに基づいて自主的・積極的に景観への配慮を促す。」という考え方である。

隅田川の未来にむけて

隅田川は、東京に残された水と緑の貴重なオープンスペースとして、これからもその役割はますます重要となる。この隅田川を都民が望むよりよい川としていくため、都民・事業者・行政の三者による合意形成を図りながら、今後とも、治水・環境・景観等のバランスのとれた川づくりを進めていく予定である。

（にしの・しんすけ／東京都建設局河川部）

リバーサイドスペース・ウォッチング

A Net 新大橋オフィス

プロデュース：北山創造研究所

設計：近藤康夫デザイン事務所

竣工：1998年



清水ビル

設計：スペースプロデュース 中澤王久東

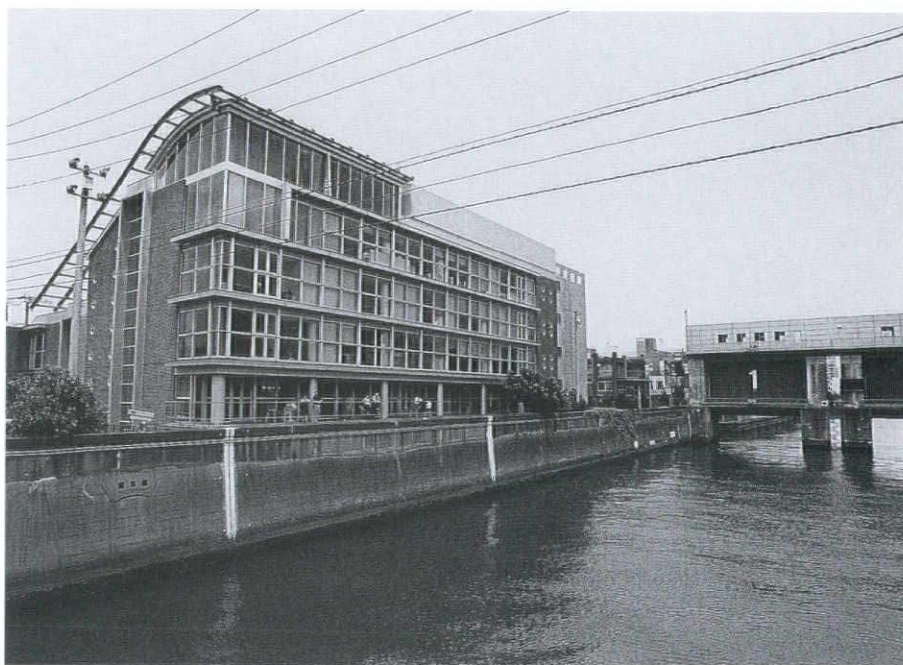
竣工：1989年



昭文社制作本部ビル

設計：K・O 総合計画事務所

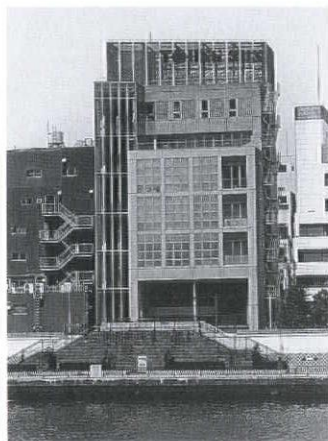
竣工：1998 年



ヤング産業東京支店ビル

設計：KAJIMA DESIGN

竣工：1997年

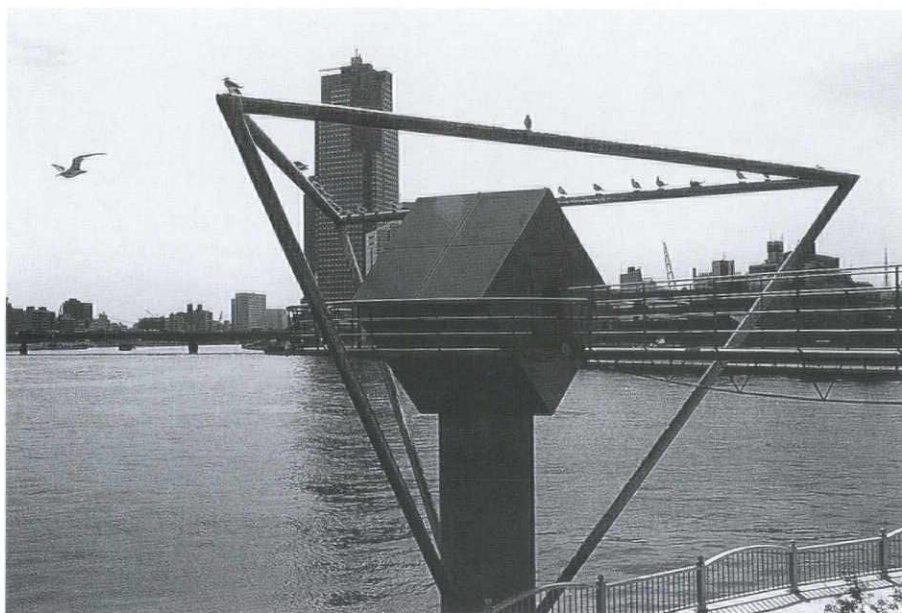


雲岸島水位観測所

設計：建設省荒川下流工事事務所+

リバーフロント整備センター+アーキテクトファイブ

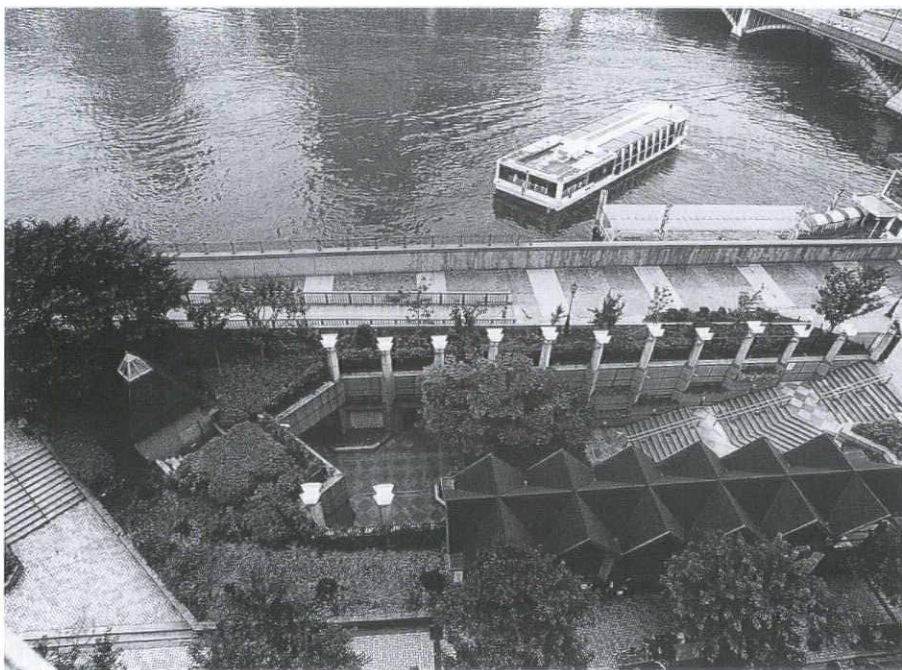
竣工：1994年



台東区立隅田公園地下駐輪場+リバーサイドギャラリー

設計：東京ランドスケープ研究所

竣工：1995年



浮世絵と隅田川

葛飾北斎画『絵本隅田川兩岸一覽』

藤澤 紫

「春のうららの隅田川……」唱歌『花』の一節も既に遠く聞こえる東京の情景だが、それでも目を凝らせば今もところどころに江戸の名残を見ることができる。江戸が東京へと改称して130余年、街を蛇行する隅田川は時に従い表情を変えながら、なお満々と水をたたえている。世紀末をむかえ新世紀へと心が動くいま、隅田川の流れとともにあえて時をさかのぼり、江戸の暮らしぶりを眺めてみるのもおもしろい。それでは江戸の人気浮世絵師、葛飾北斎（1760～1849年）の描く絵本の世界に添って、当時の隅田川を辿ってみよう。

今から200年ほどさかのぼる江戸時代後期、木版を用いた美しい多色摺の絵本『絵本隅田川兩岸一覽』（彩色摺美濃本3巻3冊）が刊行された。紹介する墨田区所蔵本は保存状況も良く、当時の色彩をよく伝えている（註1）。絵師の葛飾北斎の90年の生涯に関しては、実に数々の奇行や逸話が伝わる。新しい物好きで海外文化も貪欲に摂取した北斎の生み出す作品は、ユニークで刺激的で、時代や国境を超えて愛好者も多い。70歳代の秀作『富嶽三十六景』シリーズにみる斬新な構図は現代の我々をも魅了し、ポスターのデザインなどにもしばしば応用されている。

北斎40歳代の作と推定される『隅田川兩岸一覽』には、従来の絵本とは異なる一風変わった工夫がこらされている。この絵本は江戸の中心部を流れる隅田川とその兩岸の情景に取材しており、右の挿図①～④は両国橋周辺の景色を描く中巻の巻頭部にあたる。まず両国橋のたもとを描いた1図目（①）を見ると、その構図は実にすっきりと完結している。更に頁を進めると、鑑賞者はふと構造上の特徴に気付く。前後の頁が横につながるように工夫されており、イメージの中で絵本の各頁をつなげると、隅田川の全体像を把握することができる仕組みになっている。

そもそも隅田川をパノラマに捉える発

想は、天明元（1781）年の鶴岡蘆水画『兩岸一覽』などに先行する例が見られるが、要所要所で人物を大きく描き、特に庶民の暮らしぶりに着目した点は北斎のオリジナルである。時に広大な風景を写し、次に人物をクローズアップする、まさに変幻自在のカメラの視点がそこに確認される。

江戸後期には秋里離島編による名所図会の類が刊行されたり、十辺舎一九作の滑稽本『東海道中膝栗毛』が大流行するなど、国内の主な交通路が把握されるとともに一種の「旅」ブームが起こっていた。江戸を含む諸国名所に取材した絵画、例えば浮世絵版画や絵本は手軽に旅情を楽しむ手段として、また土産物として喜ばれた。北斎もこのような時流を受け、積極的に風景画を手がけて高い評判を得たのである。

さて隅田川といえば昭和40年の河川法により現在は北区岩淵水門より下流を指すが、江戸時代には綾瀬川との合流地点（現墨田区鐘ヶ淵）から下流を称した。『隅田川兩岸一覽』とほぼ同時代の『御江戸大地図』（文化2（1805）年刊）では、やや上流の江戸湾から千住大橋を指している。名称も現在の隅田川の表記の他に「墨田川」や「角田川」など複数の字をあてたり、エリアにより荒川、宮戸川、大川、永代川など細かに呼び分けた。こうした多様な呼称からも、江戸時代の生活に河川が大きく関わっていたことが伺える。

隅田川は文学とのつながりも深く、古くは平安時代文学の物語や和歌にも詠まれている。北斎以前の江戸出版界でも隅田川に因む古典和歌を集めた『絵本八千代草』（鈴木春信画、明和5（1768）年刊）（挿図⑤）などが刊行され、文学的主题として時代を超えて親しまれた様子が伝わる。

それでは改めて、北斎画『隅田川兩岸一覽』を通じて、隅田川と共に暮らす人々の生活ぶりを覗いてみよう。ここでは全3巻を通じて隅田川を東岸から眺め

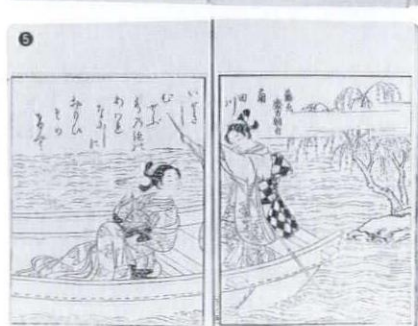
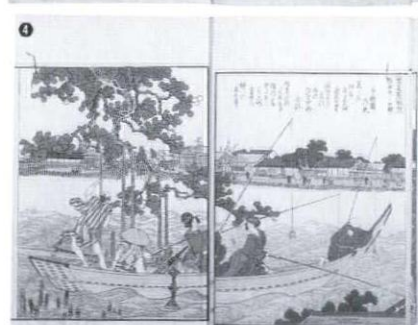
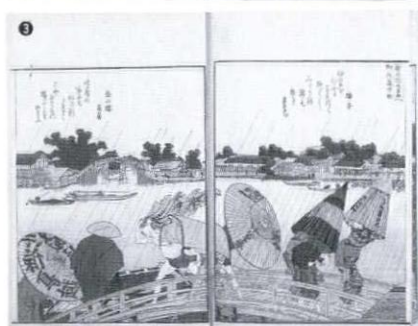
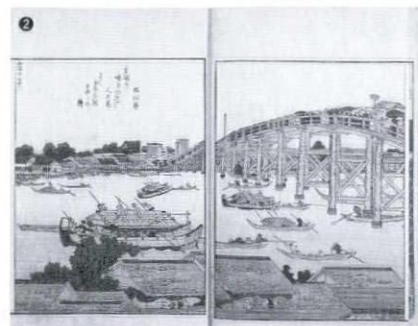
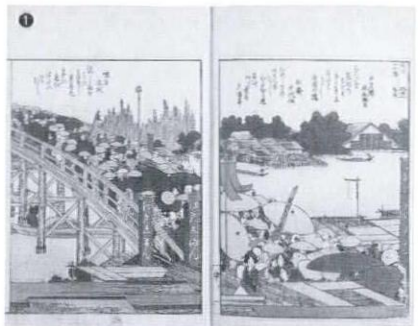
図①：「両国納涼 一の橋弁天」、葛飾北斎画『絵本隅田川兩岸一覽』、中巻1丁・2丁表、墨田区蔵

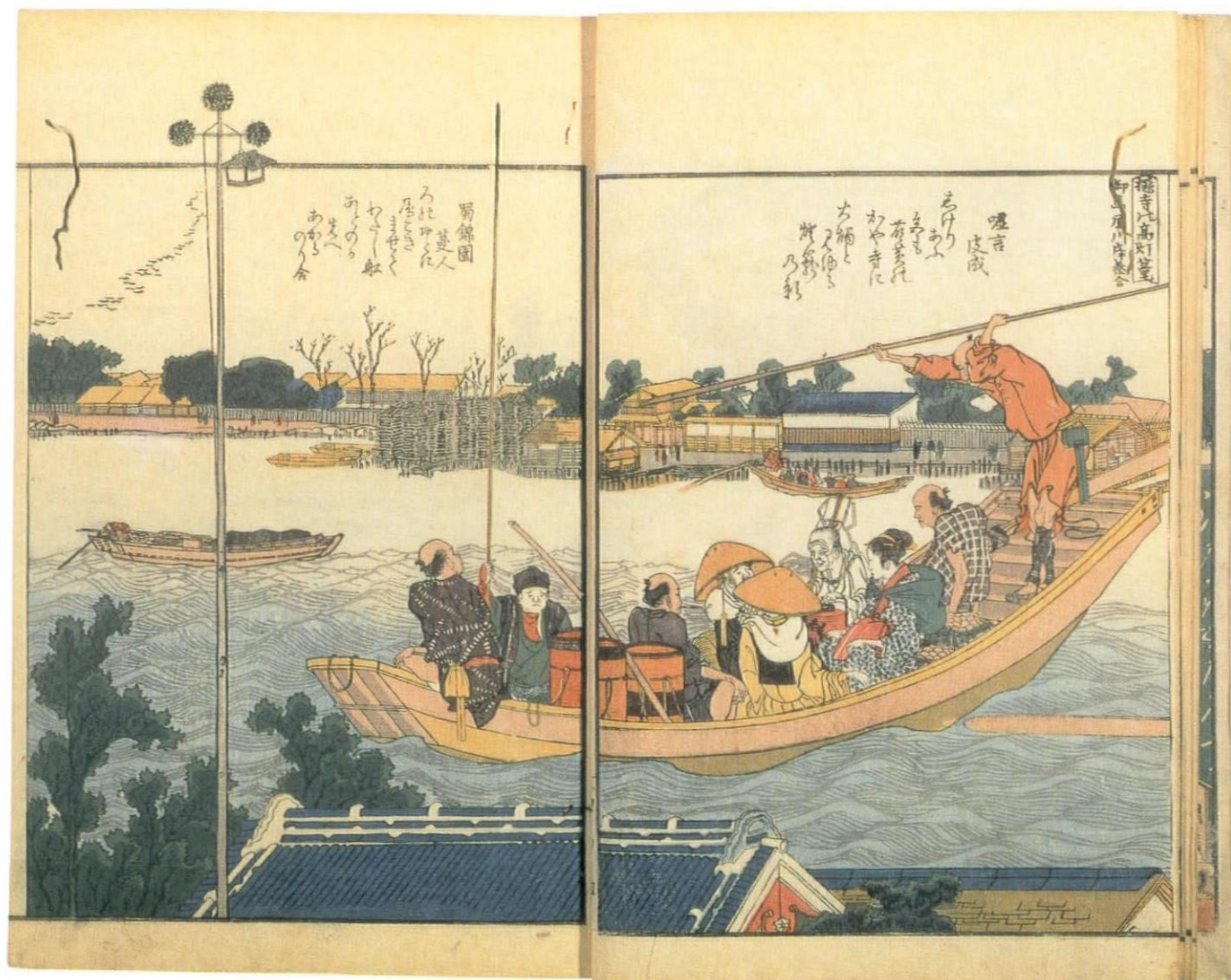
図②：「無緑の日中」、同上、中巻2丁裏・3丁表、同上

図③：「新柳橋の白雨 御竹蔵の虹」、同上、中巻3丁裏・4丁表、同上

図④：「首尾松の釣舟 椎木の夕蟬」、同上、中巻4丁裏・5丁表、同上

図⑤：鈴木春信画『絵本八千代草』、東北大学付属図書館狩野文庫蔵





図①：「榎寺の高燈籠 御馬屋川岸乗合」、葛飾北斎画「絵本隅田川両岸一覽」、中巻5丁裏・6丁表、墨田区蔵

つつ、兩岸の情景を把握しながら上流へとさかのぼる構成をとっている。上巻には初春の高輪から初夏の御船蔵まで、中巻には夏の両国から初秋の大川の景、下巻には秋の浅草寺から暮れの吉原まで、総計24図を載せている。景色と共に季節の移りかわりも意識されており、日本絵画の四季絵の伝統をも汲んでいる。

今回は中巻より、賑わいを見せる両国橋から御馬屋河岸（現在の厩橋辺り）までを網羅した数図を選んで掲載する。前頁の挿図は中巻の巻頭部分で、第1図（挿図①）で東岸から見た活気あふれる両国橋のたもとを描き、続く第2図（挿図②）では対岸にかかる橋を遠近感を強調して配し、広い川面に季節感あふれる納涼の屋形船を浮かばせている。第3図（挿図③）では一転して雨天の新柳橋をぐっとクローズアップして、第4図（挿図④）では首尾の松の傍らで釣りを楽しむ男女に焦点をあてている。首尾の松は吉原通いの目印で、一説に乗船客が今宵

の首尾を語ったことからこの名称が付いたとされる。

中でも特に右頁に挙げた「新柳橋の白雨 御竹橋の虹」（中巻3丁裏・4丁表）（挿図⑥・⑦）には、かわらぬ庶民の生き生きとした暮らしぶりが伺われる。当時隅田川には河口から順に永代橋、新大橋、両国橋、大川橋（吾妻橋）、千住大橋の5つの橋が架っていた。新柳橋は神田川が隅田川に注ぐところに架かる橋で、辺りには船宿や料理茶屋が密集していた。生涯なんと90回以上も転居したという逸話を持つ北斎であるが、そのスタートとなる出生の地はこの向こう岸にあたる本所割下水であった。

手前に大きく描かれるのは、雨中を駆ける橋上の人々。雨の跳ねあげを嫌ってか、男も女もほとんどが裸足である。よく見れば1本の傘に2人が入ったり、衣やむしろといった手近な品で雨をしのいでおり、これが突然の雨であることを知る。中央の番号が墨書された傘は貸傘屋

のものである。右端の傘からちらりと覗く女性の容貌が、画面に華やぎを与えている。

このような「日常の情景を切り取る」浮世絵の視点は、西欧諸国の芸術家たちにも少なからぬ影響を与えた。これより約50年後の作で、同じく雨中を急ぐ橋上の人に取材した歌川広重（1797～1858年）の版画「名所江戸百景 大橋あたけの夕立」（挿図⑦）が、印象派の画家ヴィンセント・ヴァン・ゴッホにより模写されたことはよく知られている。

さて、都市の中心部を流れる隅田川には、もちろん交通路としての重要な役割もあった。1～2人の客を乗せる小さな、しかし速度の早い猪牙舟や、大人数で乗る中型の乗合船など用途によって複数の手段があり、柳橋周辺も深川や新吉原へと向かう猪牙船が多く見受けられた。挿図④に続く中巻の「榎寺の高燈籠 御馬屋川岸乗合」（中巻5丁裏・6丁表）（挿図⑧）には、乗合船の様子がおもしろ



図6：「新柳橋の白雨 御竹蔵の虹」葛飾北斎画「絵本隅田川兩岸一覽」中巻3丁裏・4丁表、墨田区蔵

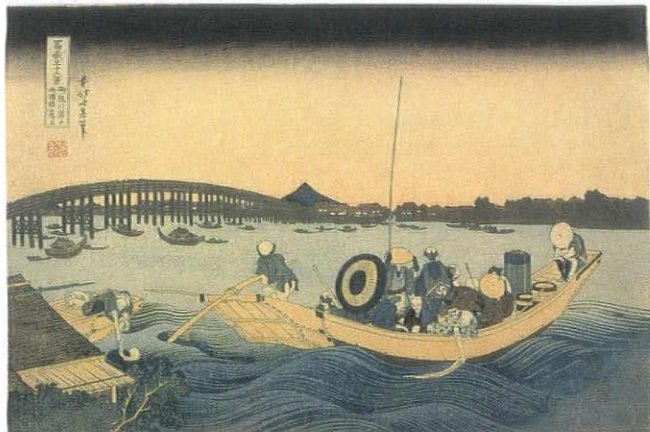


図9：葛飾北斎画「富嶽三十六景 御厩河岸より両国橋夕日見」、江戸東京博物館蔵

註1：「隅田川兩岸一覽」の成立については享和元年（1801）から文化3（1806）年頃と推定されるが、吉原関連の風俗を多く取り上げた事などから近年、新吉原開闢150年の記念出版（すなわち文化3年刊）の可能性が示唆されている（河野元昭著『日本の美術』367号、至文堂、1996年）。

ろく描かれている。

現在厩橋が架かる台東区蔵前辺りにかつては乗合船があり、身近な交通手段としての役割を果たしていた。船の右端で竿を操っているのが船頭で、男女の客はそれぞれ年令も職業も個性的に描き分けられている。乗船客の中でも一際目立つのは船の中央、お祓いの祭具である大きな幣束を持った白衣の人物で、茨城県鹿嶋市にある鹿島大明神の神託に触れる「鹿島の事触れ」である。本来は正月三が日に新年の吉凶を全国に触れ回るものだが、後にそれを模した門付（演芸）となった。また左から2番目の頭巾の男性は鳥刺で、小鳥を捉えるトリモチを塗った長い竿を手にしている。船の左側、画面を突き出して描かれた榎寺（正覚寺）の燈籠は、お盆の時期を迎えたことを示している。

本図左上部には「ろ（櫓）のおとに雁こきまぜてわたし船 あと（後）のが先へあがるのり合」とあり、その滑稽味あ

ふれる狂歌からは、雑多人々が乗り合う船の様子が手に取るように伝わってくる。歌を添えるのは先行する北斎の狂歌絵本に關与した壺側の狂歌師たち（浅草庵市人を中心とする狂歌のグループ）で、絵はおおよそこれらの狂歌に因んで描かれている（註2）。狂歌を載せたこのような豪華本は、彼らの支援のもとに刊行されたと推察される。なおこの図様は約30年の時を経て、北斎の代表作となる「富嶽三十六景」の1図、「御厩河岸より両国橋夕陽見」（挿図9）に転用されており、北斎にとっても印象深い情景であったようだ。

江戸の人口は経済の発達と共に増加し、享保（1716～36年）頃には10万人を超えたと伝わる。隅田川の流れを通じて賑わう市中を描きだした絵師の視線はあくまでも穏やかで、そこには人気絵師となっても変わらず長屋暮らしを好んだ北斎の、ざっくばらんな性質を感じることができる。



図7：歌川広重画「名所江戸百景 大橋あたけの夕立」、江戸東京博物館蔵

註2：狂歌師の詳細は、伊藤めぐみ「摺物『春興五十三駄之内』と北斎前期狂歌絵本との関連について」（『北斎研究』第17号、東洋書院、1994年）に詳しい。

浮世絵は海外諸機関にも多く所蔵されており、1987年には米国ボストン美術館のビゲロー・コレクションから、北斎の狂歌絵本を主とする江戸時代後期の版木（彫り板）一式が里帰りして話題となった。その中には『絵本隅田川兩岸一覽』の版木も含まれており、墨板と色板、計204枚の版木を用い、アダチ伝統木版画技術保存財団（当時はアダチ版画研究所）の協力により見事に再現された。版画の場合、保存の程度にもよるが基盤となる版木さえ伝われば、200年の時を経た現代においてもその世界を再現することが可能なのだ。本誌今月号には「隅田川の再生」をテーマに、生命の水をたたえる河川の最新状況が報告されている。川もまたその流れが続く限り、時代に応じて幾度も再生を繰り返すことができるのだ。

（ふじさわ・むらさき／美術史家）

「隅田川再生とリバーサイドスペース」をめぐって

長尾重武

この小特集は、カメラマン加藤嘉六氏の隅田川に寄せる熱い想いが結実したものである。隅田川兩岸の建築と橋の記録写真の撮影がはじまりだった。加えて、隅田川の歳時記や再生したこの川の生き物、人々の活動を活写しつづけた。あっという間に数年が過ぎた。

首都東京を貫流する隅田川。戦後の高度成長期に、この川の佇まいは一変した。というのも、隅田川は、異臭を放ち、汚水の流れる川になり下がってしまったからである。いかがわしい工場排水や生活排水が大量に流れ込む川は、みんなから忌避されるものとなった。

1960年代後半になってようやく浄化への試みが開始された。いわゆる公害Gメンの活躍が想起される。また流域の下水道整備と相まって、水質は徐々によくなっていった。ついで、スーパー堤防や遊歩道、橋や広場によって、人間のために憩いの場がつけられた。

今日、水生植物や魚たち、カニやクラゲの生息が確認され、ボラやハゼの大群が蘇り、コイやメダカにいたるまで、魚の種類が著しく増えている。また、小規模ではあれ人工の干潟をつ

くることによって生物のための工夫がほどこされ、ささやかだが、自浄作用が回復しつつある。水鳥や渡り鳥の飛来する場所、月見草が咲き、葦原が生い茂る岸辺。ようやく見直されたあるべき姿、人間生活に不可欠なゆとりや潤い。

都心の河川のあるべき姿が、今まさに隅田川で回復・再生しはじめた。今の隅田川を見ると、60年代の汚濁はまったく嘘のようにさえ想われる。行政の力強い活動の賜物である。川に面して開かれた新しい建築の姿も以前には考えられなかったことだ。この大きなうねりは隅田川だけに留まるべきではないだろう。その周辺にもっと緑を、というのが次のテーマだろうか。ともあれ、川に対しても「複眼的に見る」という視点がようやく定着してきたということか。江戸時代の隅田川を取り戻すことは無理だとしても、それと重ねることによって、何かが見えてくるはずである。

それぞれの立場からエッセイを寄せて下さった藤澤紫さん、陣内秀信氏、西野真介氏（氏を紹介してくださった上野晴雄氏にも）に心より感謝します。

（ながお・しげたけ／武蔵野美術大学長）

著書略歴

陣内秀信（じんない・ひでのぶ）
1947年 福岡県生まれ
東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
現在、法政大学工学部建築学科教授
専門は、イタリア建築・都市史
主な著書に、『東京の空間人類学』（筑摩書房）、『南イタリアへ！』（講談社現代新書）など

西野真介（にしのみ・しんすけ）
1964年 東京都生まれ
1988年 中央大学理工学部土木工学科卒業
協和電設（現協和エクシオ）入社
1990年 東京都入都
現在、東京都建設局河川部計画課低地対策係主任（隅田川担当）

藤澤紫（ふじさわ・むらさき）
1967年 東京都生まれ
1996年 学習院大学大学院人文科学研究科
博士後期課程単位取得
1999年 博士号取得（文学博士）
現在、武蔵野美術大学、杉野女子大学、東洋大学非常勤講師。国際浮世絵学会編集委員
著書に、『浮世絵鑑賞の基礎知識』（共著、至文堂）

長尾重武（ながお・しげたけ）
1944年 東京都生まれ
1967年 東京大学工学部建築学科卒業
1989年 武蔵野美術大学建築学科教授
現在、同大学長
主な著書に、『ヴィニョーラ建築の五つのオーダー』（中央公論美術出版）、『建築家レオナルド・ダヴィンチ』（中公新書）など



photograph 2

The Entropic Forest

Urban Infrastructure

photographs Heiner Schilling text Hiroo Yamagata

連載 10

エントロピーの森:都市のインフラストラクチャー

写真ハイナー・シリング 文 山形浩生



photograph 1

Infradream.

Words by Strain
Music by Core Dump

This road, this light
I've seen it before
Screaming cars without life
Underneath is our darker world
A different sight, a different smell

The infrastructure we maintained
Our simplex dream in a simplex world

Kebabs and the noodles
multiple tongues
But there's silence in the air
Beyond is yet another world
a separate class, that don't even see us

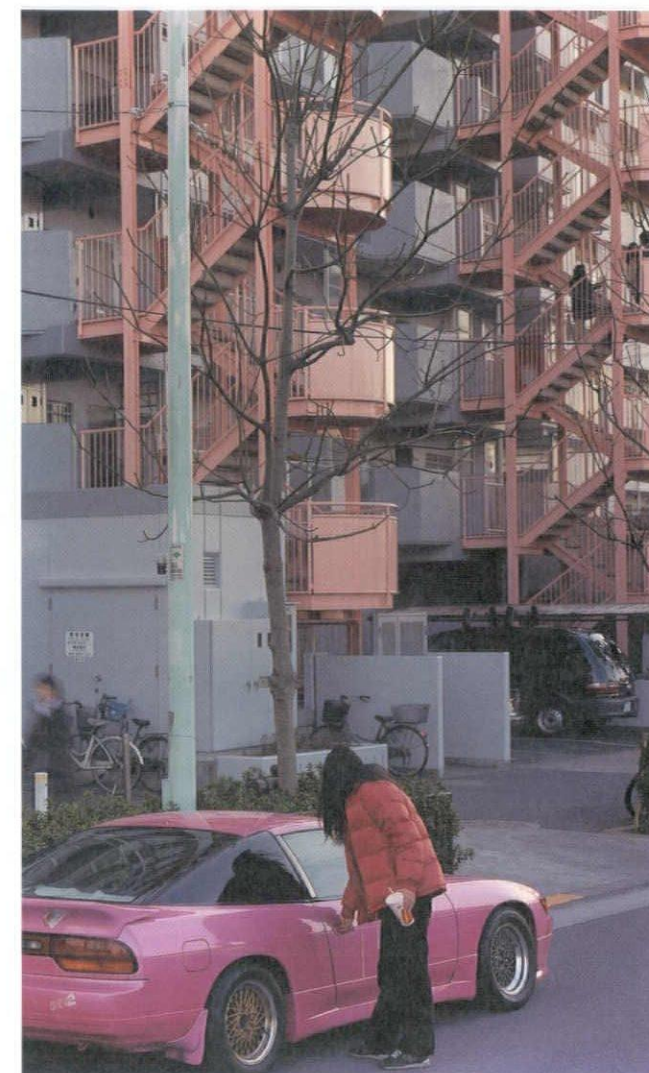
The infrastructure we maintained
Our simplex dream and the multiplex world

the structure that you inspected
with infrared sensors
Couldn't sense the decay that
Smashed your utility trucks
crushing you and our dream

The infrastructure we maintained
Our simplex dream with the complex road

Of course there is no justice
And I don't believe in destiny
And here I am
Without you

I'll take your ugly pink car there
underlooking the overworld
the multiplex world
alone



photograph 3

photograph 1:
JR山手線大崎駅付近ベデストリアンデッキ

photograph 2:
首都高中央環状線江北付近

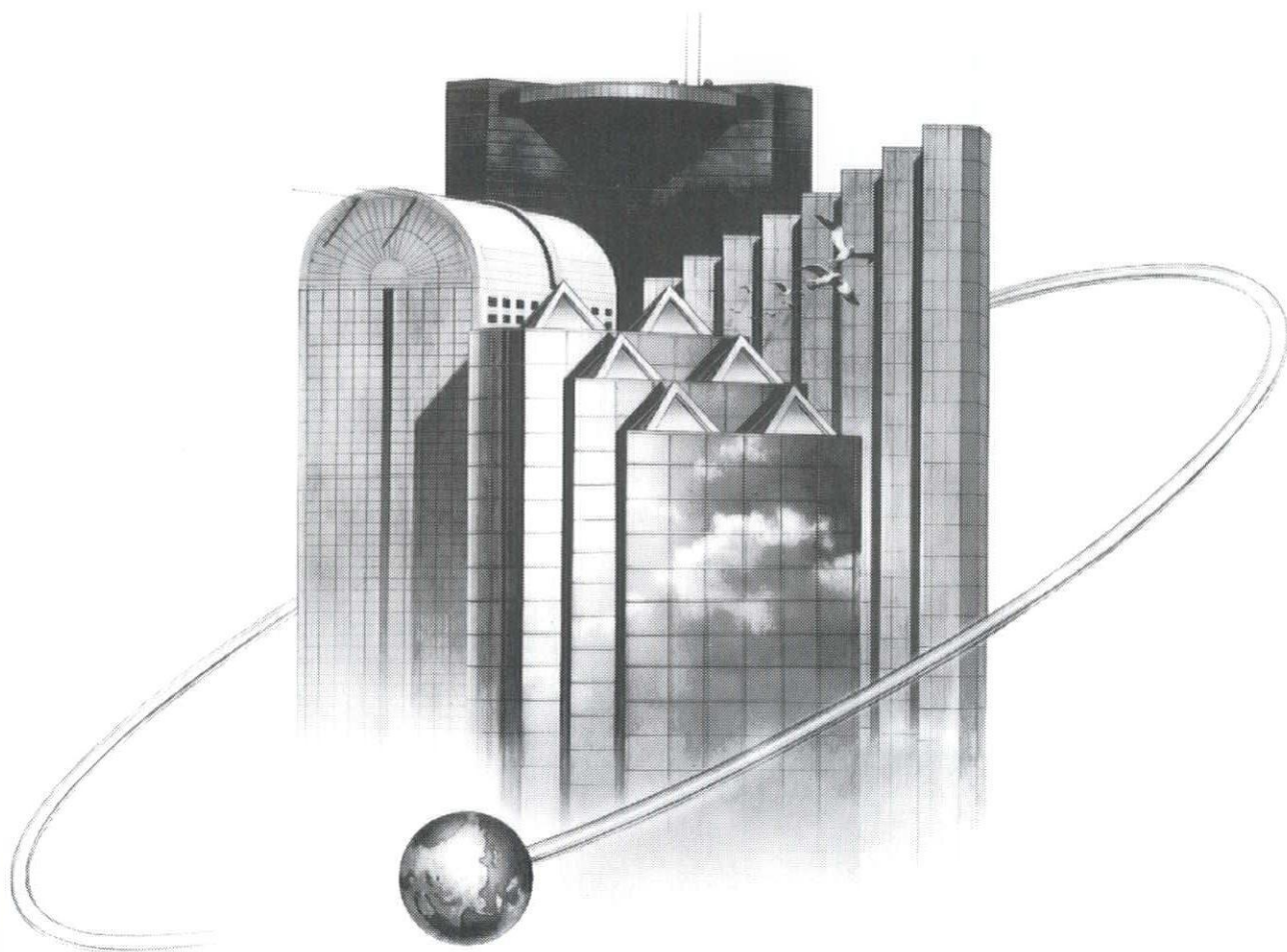
photograph 3:
本郷付近の集合住宅「シル・エイティ」
(前部がニッサン・シルヴィア、後部がニッサン・180EXのハイブリッド・カー)

インフラドリーム。詞:ストレイン 曲:コア・ダンプ

この道、この光/前にも見た/命なく絶叫する車たち/その下にあるわれらの暗い世界/ちがう光景、ちがう匂い
われらの維持したインフラ/シンプレックス世界のシンプレックス夢
ケバブと麺類/複数言語/だがたちこめる沈黙/向こうには別世界/われらを見もせぬ別の階級
われらの維持したインフラ/マルチプレックス界とシンプレックス夢
おまえの検査した構造/赤外線センサも/検知できない腐食が/作業用トラックをつぶし/おまえとわれらの夢を砕く
われらの維持したインフラ/コンプレックス路とともにシンプレックス夢
もちろん正義などなく/運命も信じない/かくしてわたしは/おまえを失う
おまえの醜いピンクの車で行こう/階上世界を見下し/マルチプレックス界を/一人で

[対訳:山形浩生] (GNU GPL 著作権管理連盟 承認番号06123)

快適創造



人と自然と機能が調和した理想の快適環境を。

人と自然、そして機能が調和した新しい快適環境を創造する。

それが三機工業のめざす総合エンジニアリングです。

都市、コミュニティ、産業施設…人を取りまくさまざまな環境について考え、

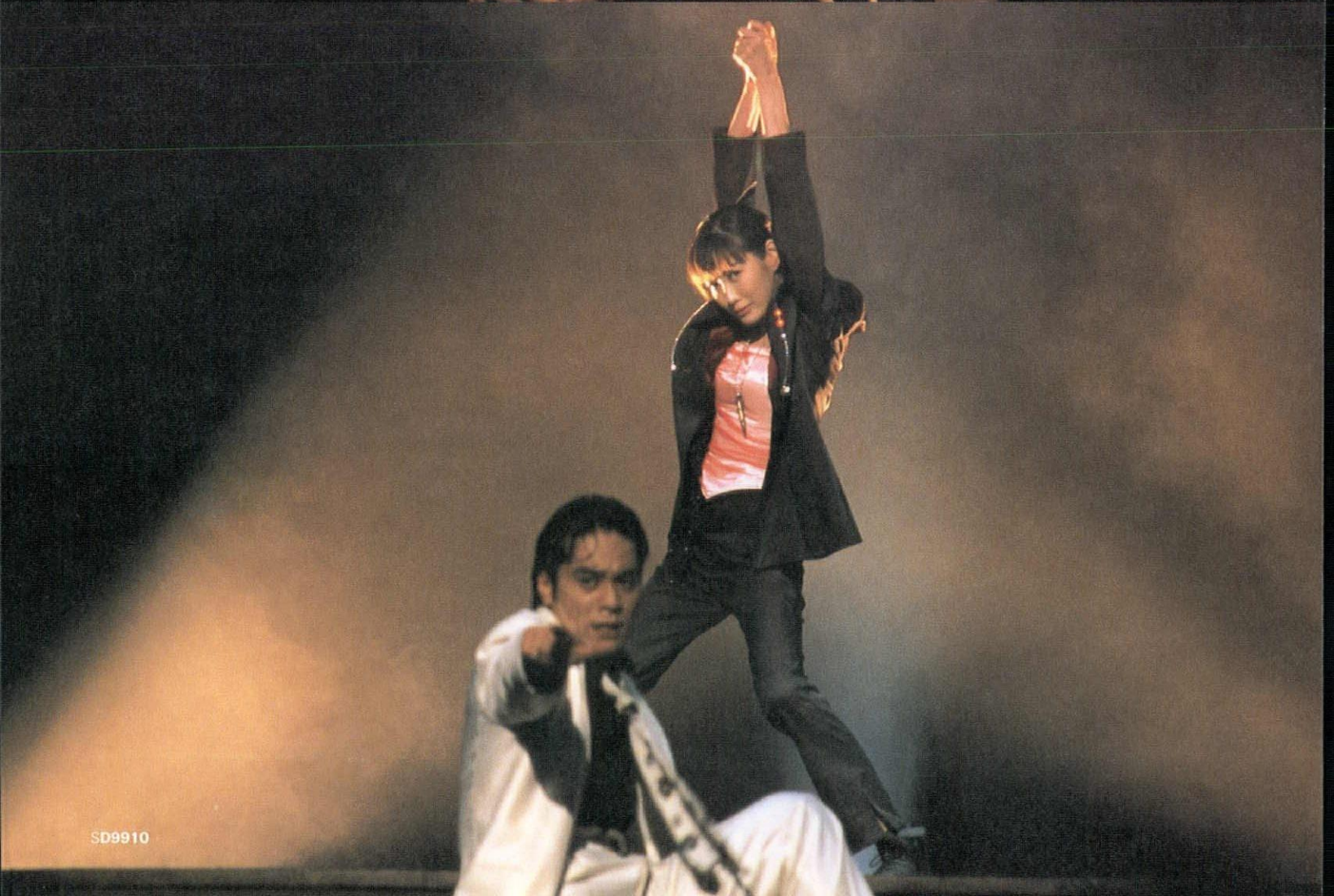
その理想を追いつづけている三機工業は、

いま、地球環境という視点にたって、すばらしい未来にむけての新しい環境のかたちを提案しています。



三機工業株式会社

〒100-8484 東京都千代田区有楽町1-4-1 TEL.03(3502)6111



確かに必要なのは「女優だ」

日本が本気で意地を取り戻すならば、アメリカにあっかんぺーをし、ズボンを下ろしてお尻ペンペンをしなくてはならないが、もはや今日の日本ではそんなことは望むべくもない。世界の戦場に兵士を派遣できないのなら、女を送るしかないんだこの国は……。

つかこうへいのそんなメッセージが通奏低音して淡々と芝居の中を流れていく。しかしその女は兵士たちの慰安婦じゃないよ。そう、かのJ.F.ケネディも一目惚れするほどのとびきりいい女を日本は戦場に送り込んだ。

ベトナム戦争中のハノイで「ハノイのバラ」と兵士が憧れた女性は、かつて満州に迫り来るロシア戦車部隊を阻止するべく首に爆薬を巻き付けて戦車に突っ込んでいく特攻犬たちを操った「犬使い」の一族の末裔であった。「ハノイのバラ」が口笛を吹くと、あわれ犬たちはジャングルの中のベトコンの集落へと突入していく。この戦場の華と化した女に一目惚れした男がJ.F.ケネディ。国務省の反対を押し切り1週間を超えるハノイ滞在を断行した大統領の異常な行動の背景には美しい犬使いの女との切実なロマンスが隠されていた。やがてハノイのバラも戦場で銃弾に倒れ、J.F.ケネディもダラスでオズワルドの凶弾に倒れるけれども、ハノイのロマンスは美しい忘れ形見を日本にもたせていたのであった……。

さて、場面は突然変わって大島の三原山の火口。ここで二度も友人の投身自殺に遭遇した謎の少女玲子。この少女こそ「ハノイのバラ」とJ.F.K.の娘。犬使いの末裔としての不思議な能

力が、あるいは偶然的仕業か、投身自殺と玲子の関係を取り調べるうちに、警察官も、検察庁の検事も、そして火口に身を投げた女学生の兄の映画監督も、玲子の不思議な魅力とその輝きに取り込まれていく。ああ、おそらく僕らニッポンジンの希望はもうこの娘にしかない。この娘の輝きをもってすれば、地下鉄にサリンを撒いたり、カレーに砒素なんか入れなくても、きっとニッポンはやっていけるに違いない。かつてオードリー・ヘップバーンが「ローマの休日」で僕らに投げかけた希望と同じものをこの娘ならば僕らに与えてくれるかもしれない……。

ここで冒頭で述べたつかこうへいのメッセージの通奏低音が主旋律に変わる。

今の日本の男どもに義理や信条を求めるのは無駄である。なくしてしまった正義と信条を背負って立つのは他でもない女だ。もちろん、そんじょそこらの女ではない。たった一人で世界中のスポットライトを浴びても動じない、スター女優のこの一瞬の才能の輝きなのである。

久しぶりに、というか15年ぶりにつかこうへいの芝居（ここでは作のみ）を見た。しかし戯作者の女優好きは健在だ。たとえば小劇場の、たとえば小劇団の規模ですら、スポットを受けて輝く女優の生み出すカタルシスを前にしては世界もアメリカもオウムも沈黙すべし、と、相変わらず戯作者は言っている。

さて、そうなると問題は女優である。長台詞、早台詞を熟演しつつ文字通り出づっぱりで舞台と世界を背負って立つのはともさかりえ。女優を取り巻く舞台上の男たちと同じ気持ちになれたらそりゃ幸せだ、と思いつつ、できるだけ好意的に観た。プライドを全部預けられるニッポンの女優を夢想しながら。

c u l t u r e c a f e

PLAY
今月の演劇

犬を使う女——スター誕生より

作：つかこうへい

演出：河毛俊作

出演：ともさかりえ、山崎銀之丞、京晋佑

於：シアターコクーン

日時：1999年8月15～29日

原 研哉

はら・けんや／グラフィック・デザイナー

1958年生まれ。1977～83年武蔵野美術大学及び同大学院でデザインを学ぶ。83年石岡瑛子デザイン室を経て日本デザインセンターに入社。93年同社内に原デザイン研究所を設立。商品デザインから空間デザインまでを幅広く横断する領域で活躍している。長野オリンピック、2005年国際博覧会など公的なプロジェクトにもアートディレクターとして参画。著書に随筆集「ポスターを盗んでください」（95年、新潮社刊）





好景気映すティーンアイドル

8月10日テネシー州メンフィスで、今、全米で1番人気のある女の子、ブリトニー・スピアーズのコンサートを観た。会場はミシシッピの中州にあるマッド・アイランド・アンフィシアター。夕陽が川の向こうに沈む頃になっても、川から吹く風はネットリとした湿気を運び、野外会場で南部特有のムシ暑さの洗礼を受けることとなった。

ブリトニー・スピアーズは、昨年17歳でデビューし、今年の1月にアルバムとシングルが全米チャートで同時1位獲得の快挙を成し遂げた。子供の頃からショウビズ界入りを目指し、11歳からディズニー・チャンネルの人気番組「ミッキー・マウス・クラブ」にレギュラー出演し、歌や、踊り、演技を披露してきた。

今回の全米ツアーは、彼女がヘッドライナーを務め、4組もの前座を従えてのもので、ステージ構成は、彼女自身のアイデアを基にしている。ダンサー8人をバックに、デビュー・アルバムからのヒット曲を歌うその姿は、華やかで、人々を魅了するという点においては完璧にプロフェッショナル。ステージを動き回るダンスが激しいため、半分ぐらいは口パクだが、マライア・キャリーのカバーで有名なバラード『オープン・アームス』の熱唱では、その確かな歌唱力と表現力を示すこととな

った。コンサート中盤ではマドンナのカバーなどを披露。そのパフォーマンスに、バーブラ・ストライサンドやアレサ・フランクリンではなく、マドンナやマライア、そしてジャネット・ジャクソン聴いて育った世代であることを実感した。

パフォーマンスは1時間強だが、その間に衣装替えが6回以上。だからこそか、歌って、踊ってのステージは、さらにファンタジックなショーとなり、それはまさに彼女の夢を叶えているようだった。そして、そのステージに子供達は夢を見ていた。

当日会場に押し寄せたファンは、幼稚園児から中学生までの少女が中心。家族連れもいるが、4、5人のグループに保護者が一人付いてくるというのが大半。もちろん、観客のほぼ全員が白人。米国でのライブを観るたびに感じるのは、音楽、特にコンサートに関しては人種の境界線が敷かれてるということだ。

ブリトニーの人気は、今の米国の好景気をそのまま反映させていると思う。不満をマントラのように繰り返す、暗いオルタナティブ・ロックに替わり、昨年あたりからメインストリームを制覇するようになった明るく弾けるポップ・ソング。特にティーンのシンガーは、子供達が待ち望んだアイドルの登場で、ブリトニーのデビュー作『ベイビー・ワン・モア・タイム』にいたっては、全米で500万枚以上のセールスを記録。コンサートもソールドアウトで、チケットは25ドル前後。家族4、5人で来ているケースも多く、会場ではTシャツなどキャラクター・グッズが飛ぶように売れていた。好景気の際は、子供関連がヒットする。今の全米音楽シーンは、まさにその象徴である。

C u l t u r e C a f e

MUSIC

今月の音楽

ブリトニー・スピアーズ

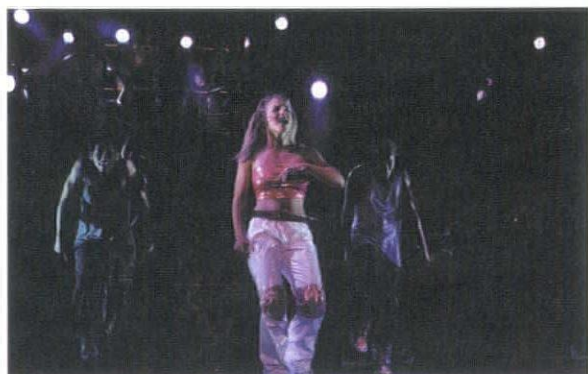
日時：1999年8月10日

於：メンフィス、マッド・アイランド・シアター

服部のり子

はっとり・のりこ/音楽ライター

東京都出身。レコード会社勤務を経て、フリーのライターとなる。現在は「GINZA」「レタスクラブ」(ともにマガジンハウス)、「FM fan」(共同通信社)に執筆中。



写真=William Hames



「...Baby One More Time」 AVCZ-95114

Exhibition Report

展覧会レポート

'99日本クラフト展

主催：
日本クラフトデザイン協会

後援：
通商産業省

東京展：
1999年9月1日～6日／松屋銀座

大阪展：
1999年10月21日～27日／阪神百貨店

福岡展：
2000年1月27日～2月1日／大丸・福岡天神

河合俊和

記憶・継承・持続のイメージの認識

9月1日より6日まで、社団法人日本クラフトデザイン協会の主宰による「'99日本クラフト展」(東京展)が松屋銀座において開催された。

この展覧会は、今回で40回目を迎え、年々充実した内容となってきた。主催者によると、2000年を目前にして日本クラフト展が終始、堅持してきた眼目は、「暮らしのなりふりをかまう」ということであり、ものづくりを通してクラフトの社会性を主張するものである。出品された作品の中から日本クラフト賞、テーマ別の部門賞、優秀賞がそれぞれ選定された。

日本クラフト賞に輝いた高喜淑の作品である「WHITE VESSEL」は、白い身をまとい、その内部に青磁の釉を入れた非常にエレガントで、磁器の歴史の流れを予感させるものである。その形態はモダンで、技術的にも成型型を用いた合理性と手仕事の両方の魅力をもつ作品であると言っていいだろう。会場内には、土、木、竹、布、紙、漆、銀などの様々な素材が並び、その豊かさを改めて考えさせられる。

素材が変われば、形は変わる。素材のもつ力を感じとることができれば、必要とする形はおのずと形自身が語ってくれる。そこに不良な考えをいけば、その形は、不思議とその不良さを語る。素材のもつそんな魅力に、私自身とりつかれているのであるが、会場を見渡すと、同じような思考する人の作品が多いことに気づく。一方、日本では、つくるものによって名前が変わる。同じ陶磁をつくっても「クラフト」と呼ばれたり、「工芸」、「民芸」、「陶芸」などと呼ばれたりする。ものづくりの次元では、全てのものは同じはずなのであるが、枠組みをつくりそこにはめるといったシステムが現存するのである。作品の一つひとつは、素晴らしい世界観をもち、例えば民芸と名づけられたもの、古来より陶の世界も、銀や竹、紙や布も、全てが賞賛されるべき伝統や技をもっている。先人の培ったものをもう一度、凝視してもよいのではないだろうか。それが価値の基本として見えるのかどうか、人によって見え方、考え方が変われども、何か文化の共通認識が生まれてくるに違いない。それは、単なる歴史上からの模倣的思考とは異にする。大きな視点で日本文化の価値を思考する時間が必要だ。

ひとつの文化のひとつの要素が消滅することは、時代性をもって簡単に裏づけ

されてしまうのだが、新しいものが生まれる予感を歴史の持続性を予期しながら私たちが果たして今、イメージできるだろうか。あるいは、そんな共通の認識を時代の中に見出すことができるだろうか。歴史の敷石の上を歩けるほど、各個人は自ら敷石をしっかりと敷いているかどうか、疑問は残る。世紀末の今、終末思想ではなく、来るべき千年紀のために考える機会を与えられている。まずは枠組みをはずし、文化が持続するイメージをいだいたとき、その根底に存在する価値が浮かび上がってくると思っている。言葉では稀薄なものに聞こえてしまうが、ものづくりの中で思考してみれば、その重要性に各自が気づくはずである。

この展覧会に、ものづくりの力を感じるし、枠にはまらない、境界のない自由さと創造性を見出すことができる。なぜなら、作品の全てが、その考え方の基本を人間に、あるいは、人間の生活においているからである。

この展覧会のますますの発展を期待したい。

(かわい・としかず／建築家)

資料提供＝日本クラフトデザイン協会



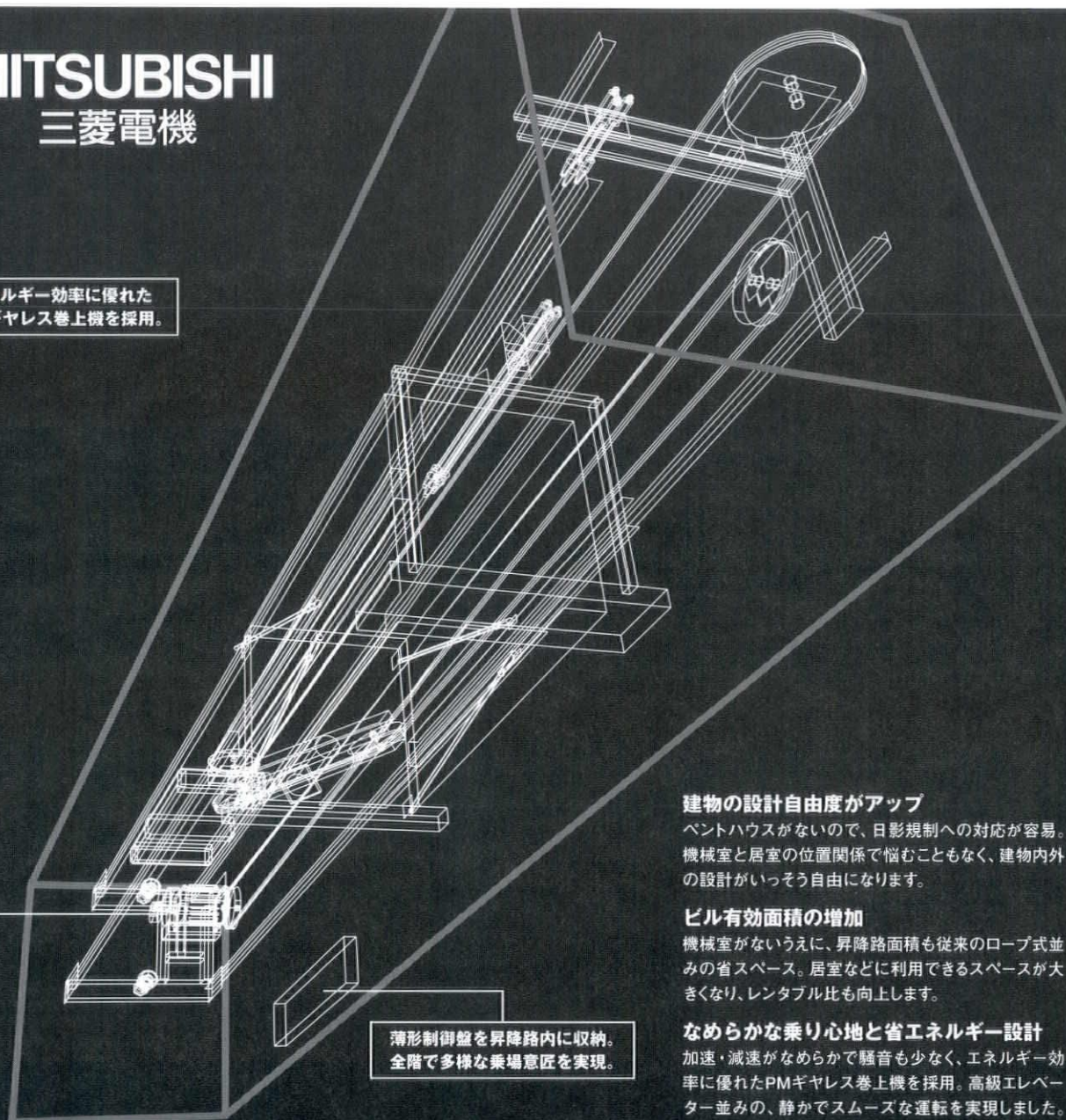
日本クラフト大賞：高喜淑、「WHITE VESSEL」、白磁、
φ 255×70mm



優秀賞：富士原文隆、「刃紋の器」、イタヤ・漆、
400×380×30mm

MITSUBISHI
三菱電機

エネルギー効率に優れた
PMギヤレス巻上機を採用。



薄形制御盤を昇降路内に収納。
全階で多様な乗場意匠を実現。

昇降路だけの エレベーター 三菱〈エレパック〉誕生。

新登場

エレパック

ELEPAQ

三菱エレベーター
機械室レスタイプ／乗用・住宅用・寝台用

機械室にあったすべての機器を昇降路内にすっきり収納しました。もちろん制御盤も昇降路内に設置。エレベーター乗場の出入口わきなどに置く必要はありません。昇降路だけのエレベーターですから、設計の自由度がアップ、すべての階で多様な乗場デザインを可能にします。

建物の設計自由度がアップ

ベントハウスがないので、日影規制への対応が容易。機械室と居室の位置関係で悩むこともなく、建物内外の設計がいっそう自由になります。

ビル有効面積の増加

機械室がないうえに、昇降路面積も従来のロープ式並みの省スペース。居室などに利用できるスペースが大きくなり、レントラブル比も向上します。

なめらかな乗り心地と省エネルギー設計

加速・減速がなめらかで騒音も少なく、エネルギー効率に優れたPMギヤレス巻上機を採用。高級エレベーター並みの、静かでスムーズな運転を実現しました。また、油圧式エレベーターに比べて電力消費量はおよそ1/3になります。

環境に配慮

油圧式エレベーターでは避けることのできなかった廃油処理の必要もありません。「環境にやさしいエレベーター」、これも〈エレパック〉の優れた特長です。

Efficient, Reliable & Comfortable
Vertical Transportation Systems
All Over The World

効率がよく (Efficient)

信頼性に優れ (Reliable)

快適な移動空間の創造 (Comfortable)

エレベーターの3つのキーワードを基に
そのすべてにおいて、世界トップクラスの製品を
全世界に向けて提供します。

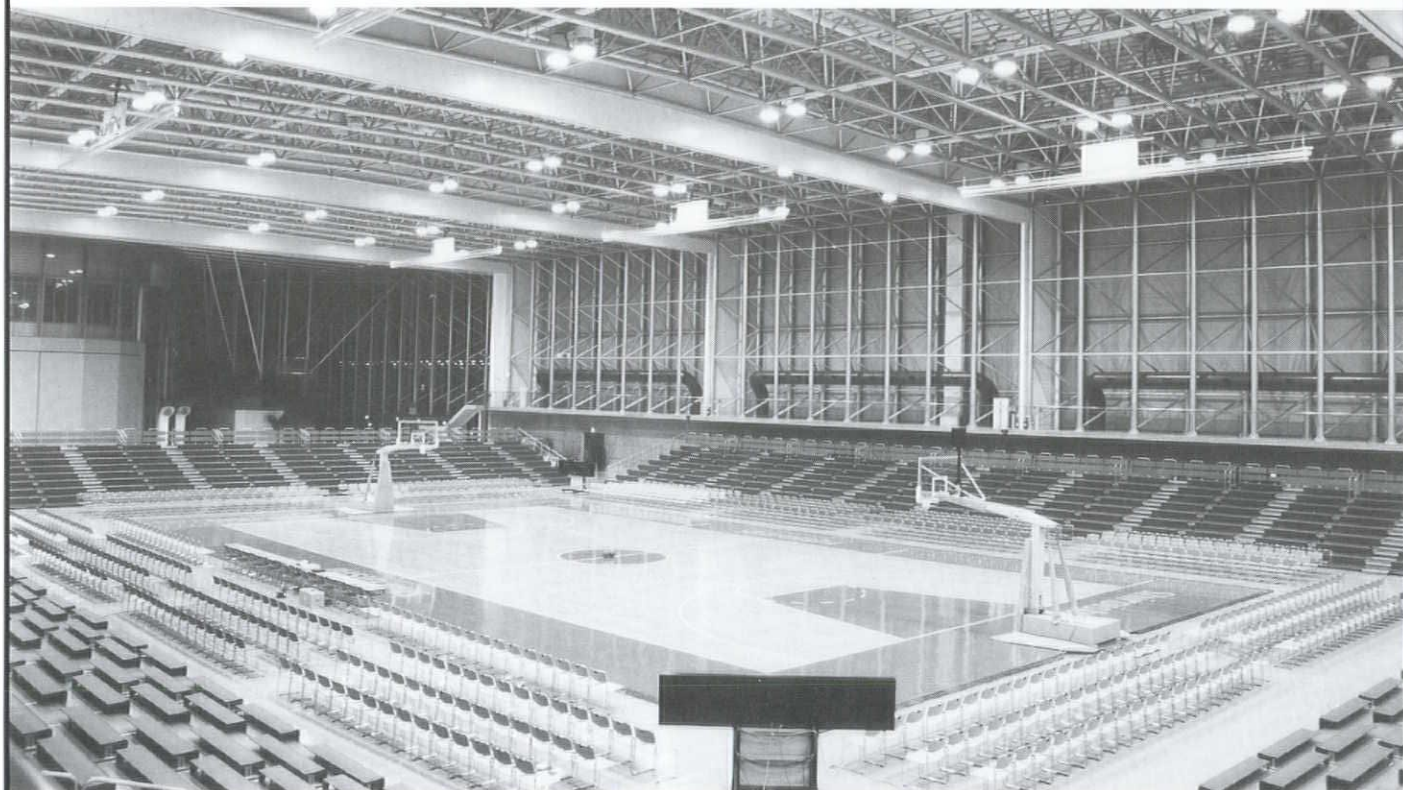
三菱電機株式会社

お問合せ・資料のご請求は……三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-2-3 (三菱電機ビル)

本社ビル事業部 TEL. (03) 3218-4544

いま開幕、 スポーツ ニューステージ。

多目的スペースがスポーツアリーナに一変！



ロビンズ・オールスターは、シカゴブルズなどのNBA公式戦やアトランタオリンピックのメイン会場など、世界中で広く使われている本格的なフローリングによるポータブル・スポーツ・フロアシステムです。

- プレーヤーへの衝撃を吸収する弾力性に加え、永年の使用にも反りや狂いを起こさない高品質設計。
- 独特のジョイント・ロッキング方式により、短時間で組立て・取外しが可能で、しかも優れた収納性。

コンベンション施設、インドアスタジアムを短時間でバスケットボールやバレーボール、バドミントンなどに最適なスポーツアリーナに変身させることができるフローリングシステムです。

ロビンズ FIBA・JBA・NBA公認コート

オールスター

ポータブル スポーツフロア システム

good new days
人間らしい美しい未来を

ヤナセ

総輸入元 株式会社 ヤナセ
商事事業部

東京都港区芝浦一丁目6-38 千105-0023
TEL. (03) 3452-4311

本社 03(3452)4311 大阪支店 06(6488)9801 名古屋支店 052(241)2531 福岡支店 092(522)1331 札幌支店 011(231)2313 ヤナセ東北 022(221)4171 ヤナセ静岡 054(261)4105

詳しい資料を差しあげます。ハガキに資料請求券を貼付のうえ、ヤナセ 商事事業部までお送りください。

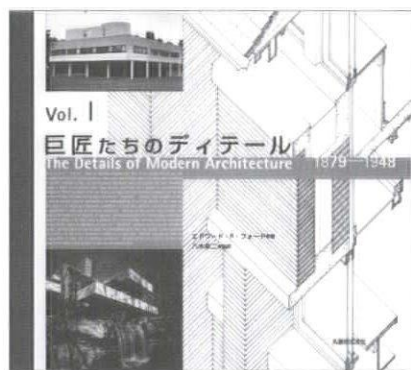
Book Review

書評

ディテールの用と美と強

「細部に宿る神」を見てみたい

評者 香山壽夫



「巨匠たちのディテール Vol. I, Vol. II」

エドワード・R. フォード＝著

八木幸二＝監訳

B4変型 390頁、460頁

丸善 17000円、18000円

歴史に残る名建築が、実際どういう材料と構法によって造られているのか、建築の設計にたずさわっている者なら、誰も、詳しく知りたく思ったことがあるに違いない。ところが、歴史の本や作品集で、同じアングルからの美しい写真を、うんざりするほど目にすることがあっても、ディテールが実際どうなっているのか、教えてくれるものは、ほとんどない。この本は、私の知る限り初めて、建築のディテールを、デザインと技術の両方から統一的にとらえた、画期的な本である。

何よりもまず、ページからページへと繰り上げられる精密なアクソメによるディテールの図が素晴らしい。そしてそれぞれに、的確な説明が付されている。それを見ているだけで、時の経つのを忘れる。取り上げられている建物は、ほとんど全て、近代建築史の中でおなじみのものだ。H. H. リチャードソンのトリニティ教会にはじまり、マッキム・ミード&ホワイト、E. ラッチェンスと続いて、ル・コルビュジエの古典期を経て、F. L. ライトのユーソニアンで第1巻は終わる。これだけでも圧巻なのだが、続く第2巻（これは、1990年に出された第1巻の好評を受けて、6年後に出されたものだが）は、エリエル・サーリネンにはじまり、E. G. アスプルンド、A. アアルトやM. プロイヤーを経て、L. カーン、R. ヴェンチュリそして、ハイテク、デコンまでを扱って終わる。この膨大な作品を、原図にあたり、ひとつずつ自分で図を起こし、そして実際の作品にあたって考証しているのだから、その熱意と持続力には脱帽する他ない。日本人なら手分けしてやりそうだが、それではこの本の持つような圧倒的迫力が出ないだろう。ひとりの人間の情熱が、作品の選定にも、考証にも、そして何よりアクソメの表現とその説明に、みなぎっているのである。

この本の成功の最大の理由は、矩計図をアクソメ図として、全て自分で描き直す決意したことにある。著者はそのことについて、こう書いている。「私は、ほとんど全ての図面を引き直すことにした。多くの学者が原図を研究する方がよいと考えているのは分かっているが、それは合理的な選択ではない。（中略）アクソメトリックによりこれらの図面を引き直した意図は、より多くの読者に分かりやすい情報を提供するとともに、構造と見えがかりを同時に示すためである」と。

まさに、その通りである。このアクソ

メを見ていて、飽きることはない。教えられ、発見があり、そして想像力がかきたたえられる。例えば、カリフォルニア州パサデナにある〈ギャンブル邸〉について。この美しい、明らかに日本建築の影響下に生まれた建築は、訪れた人も多かろうが（私個人としては、南カリフォルニア大学のゲストとして数日ここに宿泊したことがあるので、とりわけ親しみを感ずるのだが）、私の驚いたことは、なめらかに磨かれて光るチークの柱や梁、と思ったものは全て貼り物であって、構造は全てその下に隠されており、そしてその構造はオレゴンパイン材による平凡なプラットフォーム構造だ、といったことが一目瞭然に示されているのである。

著者の考察はここで終わらず、さらに続き、それがラスキンの言う「構造の真実」あるいは「虚偽」というものとのどういう関係があるのか、といった議論が繰り上げられる。全体を貫く論考の視点は、「一枚岩的で厳格（原語は、monolithic and literal）な形式」と「層状で類推的（layerd and analogus）な形式」という対比である。しかし、この考えは、せっかくこれだけ具体的な例を挙げていることからすると、あまりにも一般的で面白くない、と私は感じた。また論述の仕方、もってまわった言いまわしで、くどい。しかしこれは欠点と言うよりは、むしろこの論の示しているさらなる論の広がりへの期待とすべきであろう。

本を読み終わって思うのは訳者の労苦である。これは通常の翻訳とは種類が違う。量が多いだけでなく、多種多様な用語がひきもきらず飛び出してくる。しかも、建築の用語は、植物の名や魚の名と同じように、文化によって微妙に食い違っていて厳密な対応はつけられないものだ。その間に橋をかけるには、よほどの知識と経験の蓄積がなければならない。八木幸二氏はそれを見事にやってのけた。

この本はずっしり重い本だ。手にとって重いだけでなく、その内容が。そしてまた、懐具合にとってもそうだが、それに間違いなく値するものだ。建築の学生が、本当に建築好きかどうかは、あり金をはたいてこの本を買って持っているかどうかで、判定されるようになるかもしれない。

（こうやま・ひさお／建築家、東京大学名誉教授、明治大学教授）

Books

新刊紹介

『建物のリサイクル』

青木 茂＝著

B6判 216頁

学芸出版社 2000円

「躯体再利用・新旧併置によるリファイン建築」を副題に謳う建築家が、その設計活動に基づいて理念と手法を説く。戦後増殖したRC造建築をターゲットに、「産業廃棄物」「税金泥棒」の悪名を解き放ち、環境共生型の建築活動の未来を照らす。



『建築バイリンガルノート』

堀池秀人＝著

A5変型 384頁

井上書院 3500円

建築界のグローバル化に対応すべく、専門英語を中心に和英対訳形式で約5800語を収録した事典。企画・設計から施工までの幅広い日常業務に役立つ実用的バイブルを目指した。建築家に必要な一般教養も包含し、学生や研究者にも適した好著。



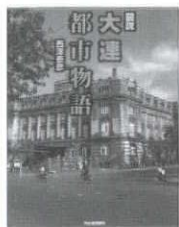
『図説 大連都市物語』

西澤泰彦＝著

A5変型 128頁

河出書房新社 1800円

建設100年を記念して、大連の誕生から現在までを豊富な写真で詳述した本書。激動する東アジアの今世紀を顧みるために、露日中3国の絡み合った大連をモデルに「20世紀都市」を分析する。文学、生活教育、軍事技術といったコラムも充実。



『リビング・ブリッジ | 居住橋』

——ひと住まい、集う都市の橋——

伊東 孝十P. マレーナJ. デティエール、他＝著

A4変型 156頁

デルファイ研究所＝邦版編集・発行 4762円

1996年から英仏や国内3ヶ所を巡回した展覧会のカタログの市販。ヴェッキオ橋に代表される「居住橋」をビルディング・タイプとして切開、中世から現代までを通観し、国際コンペの成果も掲載。



『建築巡礼42 イタリアの初期キリスト教聖堂』

香山壽夫＋香山玲子＝著

A5判 112頁

丸善 2600円

初期キリスト教聖堂建築の魅力は、空間の生成プロセスが鮮明に示されていることにありと語る。ローマ、ラヴェンナを中心に16聖堂を収録した本書は、著者夫妻の30年に渡る建築巡礼の中で、共に感じ、語り合い、思考を育んだ結晶でもある。



『現代デザイン論』

藤田治彦＝著

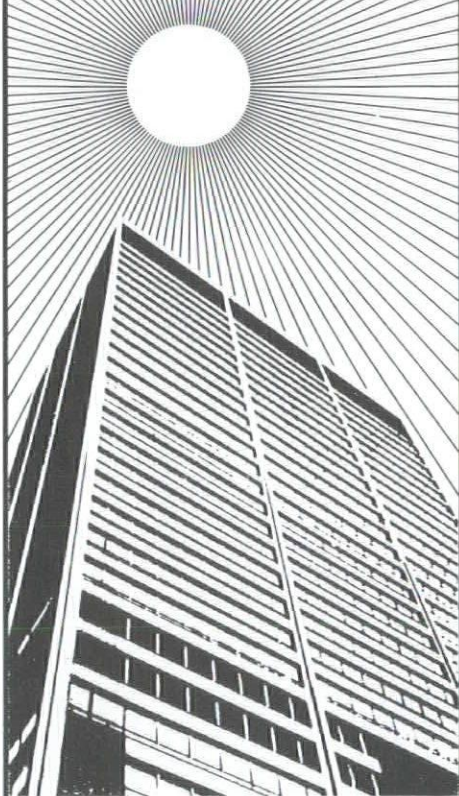
A5判 256頁

昭和堂 2400円

殖産興業から今日までの「現代」を論じた近代日本デザイン史。「産業」「生活」「情報」「環境」の視座から諸潮流を編年的に読み解く。グラフィックデザインから建築まで、広範かつ詳細な叙述は単著の域を超えており、資料的にも重宝する1冊。



建設を
アシストする
技術で貢献!!



- 一般電気設備工事＝設計施工
- 防爆電気設備工事＝設計施工
- 計装工事＝設計施工
- 電気加熱保温工事＝設計施工
- 静電気接地用リール＝販売

ASTEC
SHOWA ASTEC

昭和アステック株式会社

(旧社名 昭和電機工業株式会社)

取締役社長 浦 道 雄

- 本社／東京都港区東新橋2丁目7番3号
電話03(3437)3851(代表) 〒105-0021
- 支社＝関東・中部・関西・中国
- 営業所＝新潟・鹿島・千葉・四日市・堺
倉敷・岩国・徳山・坂出・松山
新居浜・大分・福岡
- 駐在事務所＝ジャカルタ・テヘラン・タイ
シンガポール・マレーシア

Information

お知らせ

GA JAPAN 1999 展

現代の日本を代表する15人の建築家たちによる最新プロジェクトを紹介する。

会期：9月11日(土)～10月24日(日)

時間：12：00～18：30 月曜日休館

会場：GA ギャラリー

東京都渋谷区千駄ヶ谷3-12-14

入場料：500円(前売券、団体10名以上400円)

出展建築家：安藤忠雄、磯崎新、伊東豊雄、岸和郎、小嶋一浩、妹島和世、長谷川逸子、他。

問い合わせ：GA ギャラリー(担当：若松)

東京都渋谷区千駄ヶ谷3-12-14

Tel: 03-3403-1581 Fax: 03-3497-0649

建築家たちの現代住宅論I 受講者募集

快適で、社会や家族同士の対話を促し、その場所に住み続けたいと自然に思えるような住宅をつくる具体的な手法を3つのテーマで解説する。

期間：10月2日(土)～10月23日(土)

時間：18：00～20：00 毎週土曜日 全3回

テーマ：「時間のかたち」(10/2)、「家族のかたち」(10/9)、「環境のかたち」(10/23)

講師：川向正人、内藤廣、藤本隆男、芦原太郎、北山恒、青木淳

受講料：会員 7,500円、一般 8,400円

場所：新宿住友ビル48F 朝日カルチャーセンター(申込は4F受付にて)

問い合わせ：朝日カルチャーセンター

東京都新宿区西新宿2-6-1

Tel: 03-3344-1941 Fax: 03-3344-1945

代官山インスタレーション'99 公募展

代官山の街をそのまま舞台として作品を設置し、都市とアートの新しい関係の構築と共存の可能性を引き出そうとする試み。

公募期間：9月1日(水)～10月7日(木)

作品展示期間：11月20日(土)～12月12日(日)

会場：代官山 ヒルサイドテラス周辺

審査員：横文彦(建築家)、中原祐介(美術評論家)、川俣正(アーティスト)

主催：代官山インスタレーション'99実行委員会

問い合わせ：代官山インスタレーション'99実行委員会事務局(アートフロントギャラリー内/担当：下倉)

東京都渋谷区猿楽町29-18 ヒルサイドテラスA棟

Tel: 03-3476-4795 Fax: 03-3476-4874

第6回国際コンテンポラリーアートフェスティバル'99 TOKYO： NICAF'99 TOKYO

現代美術の振興を目的に1992年にスタートしたNICAF(ニカフ)。世界各地に散在する美術関係機関や画廊が一堂に集まり、作品(約2,500点)を堪能できるアジアで唯一最大の現代美術の祭典。

会期：11月3日(水・祝)～11月7日(日)

時間：10：00～18：00

会場：東京国際フォーラム 展示ホール(有楽町)

入場料：一般1,500円(前売800円)、学生(大学生～中学生)500円、小学生以下無料(但し、大人同伴が必要)

関連企画：第1回アジア・ギャラリー・ミーティング——日韓文化交流会議

特別企画：セゾン現代美術館セゾンアートプログラム——「シヴォーン・ハバスカ」展

主催：国際コンテンポラリーアートフェスティバル実行委員会

問い合わせ：NICAF事務局広報分室(担当：関) 東京都台東区上野1-2-3犬塚ビルB1

Tel: 03-5816-1205 Fax: 03-5816-1206

'99 建築展

空間の質——イメージのモデル化

建築家は「空間」、「空間の質」をどのようにイメージし、何によって決定するのか？各建築家の作品の分析を通し、空間のイメージを仮想空間内でモデル化、検証を行い、展示するもの。

日程：10月1日(金)～10月2日(土)

時間：10：00～17：00

会場：建築会館1F展示コーナー

東京都港区芝5-26-20

入場料：無料

主催：芝浦工業大学建築研究会

問い合わせ：芝浦工業大学システム工学部環境システム学科衣袋研究室内・建築研究会(担当：牛込、菊田)

Tel: 048-687-5835 Fax: 048-687-5836

韓国 李朝の世界を訪ねる 参加者募集

日程：11月3日(水・祝)～11月7日(日)

費用：138,000円

視察地：ソウル、安東、慶州

視察先：河回民族村、利川陶器村、秘苑(昌徳宮)

企画：梅ヶ丘アートセンターフェロシップ

問い合わせ：トラベルプラン(担当：酒井)

Tel: 03-3403-8911 Fax: 03-3403-8395

渡辺明の家づくり物語「目白台の家」展

会期：1999年10月11日(月)～2000年1月31日(月)

時間：11：00～17：30 水曜日・祝祭日休館

会場：日本フクラ/K&Iインターナショナル2Fショールーム内

東京都世田谷区等々力7-19-21

入場料：無料

主催：「家づくり物語」実行委員会、K&Iインターナショナル、日本フクラ

問い合わせ：Tel: 03-3725-9393(担当：道面)

浜口陽三の女性画 ——その知られざる一面

会期：10月13日(水)～12月25日(土)

会場：ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7

時間：11：00～19：00 月曜日休館

入場料：一般600円、大学生・高校生400円、中学生・小学生200円(20名以上の団体割引有り)

問い合わせ：ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション(担当：浜中、徳村)

Tel: 03-3665-0251 Fax: 03-3665-0257

明治建築をつくった人々 コンドル先生と4人の弟子 映画上映会

日程：10月26日(火)

時間：13：00(上映のみ)、15：00(トークショー有り)、18：30(上映のみ)

会場：有楽町朝日ホール(有楽町マリオン11F)

東京都千代田区有楽町2-5-1

申込方法：往復ハガキに希望時間(第1、第2希望)、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、掲載誌名、返信用宛名を記入の上、10月5日(火)までに必着のこと。申込多数の場合は抽選。ハガキ1枚につき2名まで入場可。

主催：大成建設

宛先・問い合わせ：日本映画新社「明治建築をつくった人々」係

東京都品川区上大崎2-10-17

Tel: 03-5488-9798

AMカタログホームページ 「AM2000web」開設

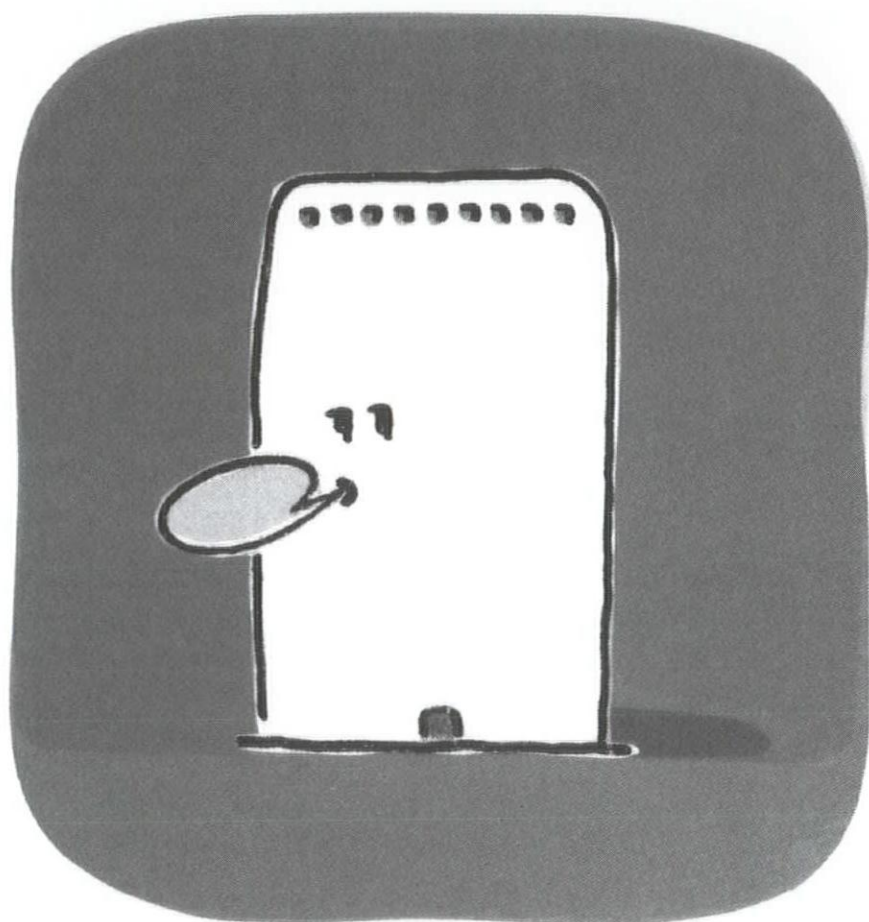
創刊以来30年、カタログ収録点数で国内最大規模の実績を誇る建材・設備カタログ「AMカタログ」のホームページ版が新登場。

問い合わせ：プラス・アルファ AM情報センター(担当：小黒)

東京都江東区東陽6-3-2 イースト21

Tel: 03-5632-9380 Fax: 03-5632-9381

人間すう、はく。ビルすう、はく。



私たちの呼吸は

自然の呼吸に

支えられています。

私たち人間が意識しないで呼吸しているように、人をとりまく環境も、知らないうちに呼吸しています。海も陸地も、動物も植物も。この地球全体が、ひとつの完成された空調システムとなり酸素をつくり、酸素を消費しています。

東熱のめざすひとつの頂点が、この自然の摂理を解明し、システム化することです。温度、湿度のコントロールによる環境を超えて、フィジカルな面から、メンタルな面の可能性のヒントが自然の中に隠されています。

ビルも呼吸しています。中にいる私たちのために。さまざまな分野のさまざまな建物が呼吸しています。だから東熱はいつも考えています。次に求められる環境とは何だろう。より私たちに優しく、より私たちに身近な環境の実現のために。山の朝のさわやかな空気や、冬の夜の透명한空気を東熱は忘れません。

宇宙センサーからスポーツドームまで、東熱のマインドはあなたのまわりに息づいています。

時代、呼吸、マインド
東洋熱工業

〒104-8324 東京都中央区京橋2-5-12 Tel.03(3562)1351 (大代表)

今月の新刊

建築図書の最新刊書と、それに関連した書籍を紹介しております。

当社の新刊すべてをご覧になりたい方は隔月で奇数月発行の「新刊案内」をご請求ください。

当社のホームページ上でも新刊書を紹介しておりますのでご覧ください。



●新宿パークタワー



●バティオス11番街

東京現代建築ガイドⅡ 2000's

松葉一清 著／四六判・256頁 本体2,800円+税

90年代に首都圏に建てられた名建築204選

90年代に首都圏に建てられた名建築204点を紹介、11の特色のある地域別にコースを作成。

首都圏の様々な地域とそこに分布する建物を見ることにより東京の90年代を様々な旅することができる。最新の現代建築に興味を持つ読者に必携の建築ガイド。

【主要目次】 A地区—新宿、B地区—渋谷周辺、青山、恵比寿、C地区—皇居周辺、D地区—臨海副都心、E地区—品川、太田、目黒、F地区—隅田川両岸、G地区—豊島、足立、板橋、H地区—杉並、世田谷、I地区—多摩、西郊、J地区—横浜、K地区—幕張、建築家索引、建物索引

●関連図書

東京現代建築ガイド

松葉一清 著／四六判・250頁 本体2,800円+税

1980年代以降建てられた現代建築200点を13コースで紹介。

近代建築ガイドブック〔関東編〕

東京建築探偵団 著 村松貞次郎、山口廣 顧問／四六判・276頁 本体2,300円+税

官庁街、オフィス街、看板建築群など特徴ある作品を24コースで紹介。



●カピングマランギーの舟小屋(ミクロネシア)

アジアの水辺空間

くらし／集落／住居／文化

中村茂樹、畔柳昭雄、石田卓也 著／四六判・268頁 本体2,800円+税

アジアの水辺空間の魅力を探る

アジアの水辺空間は自然環境と一体化している。自然環境との共生思考によるアジアの水辺空間の魅力をその生活、住居、文化を通して紹介する。事例は、タイ、ミクロネシア、ベトナム、ホンコン他

●関連図書

水の神ナーガ／アジアの水辺空間と文化

S.ジユムサイ 著 西村幸夫 訳／A5判・248頁 本体3,900円+税

アジア地域の文明が水を基盤に持つものであることを論じたもの。



●流枝の松—岡山市後楽園

風景の調律

景観体験の構築

小林亨 著／四六判・184頁 本体2,500円+税

風景・人間・時間の相関で景観文化を論ずる

『移ろいの風景論』『雨の景観』に続く新しい試み。風景の解釈力、創造力、構築力のおもしろさや伝統を、「食と風景」「辞世と風景」「景観デザイナーとしての画家」といった斬新かつ大胆な視点で読み解く。

●関連図書

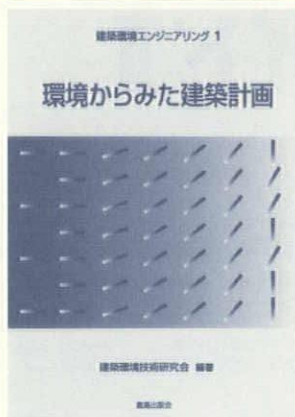
移ろいの風景論／五感・ことば・天気

小林亨 著／A5判・240頁 本体3,800円+税

五感、時間、気象を切り口に加えた、景観研究の新しい試み。

9月の新刊

9月に刊行した建築図書と、それに関連した書籍を紹介しております。
最近の新刊すべてをご覧になりたい方は、隔月で奇数月発行の「新刊案内」をご請求ください。
当社のホームページ上でも新刊書を紹介しておりますのでご覧ください。



建築環境エンジニアリング シリーズ

建築環境技術研究会 編著／全4巻(各巻A5判)

地球の規模の環境保全の動きは、建築計画においても重要な課題である。本シリーズは、新たな世紀の建築のために、建築設備・環境設計に関する基本的な実務知識を、建築や設備設計者向けに解説したものである。

① 環境からみた建築計画

188頁 本体3,400円+税

環境全般についての概説および建築が環境に及ぼす影響、人間が建築のもつ環境から受ける影響等について概説する。建築の環境設計では何が重要な課題なのか、幅広く記述する。

●目次 第1章 地球環境問題と建築とのかわり／第2章 省エネルギー建築計画／第3章 室内環境からみた建築計画／第4章 防災・安全環境からみた建築計画

●以下続刊

② 建築にかかわる設備計画

③ 電気設備計画

④ 空調・衛生設備



まちづくりの科学

佐藤滋 編著

A5判・384頁 本体3,500円+税

20世紀に到達したまちづくり理論の大系

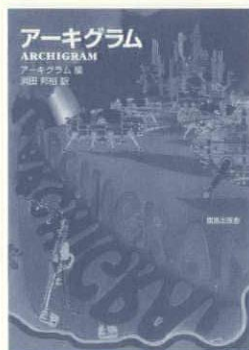
20世紀最後の30年、人々が地域で暮らす生活のあらゆるシーンが「まちづくり」として立ち現れた。今日までの各地での具体的な実践から抽出された、若手中堅の研究者と実務家による学問的まちづくり理論の最高到達点。

●目次 序章 まちづくりとは／第1章 まちづくりがめざしたもの／第2章 まちづくりが実現する世界／第3章 まちづくりのテクニック／第4章 まちづくりの展望／終章 まちづくりの科学

●関連図書

住み続けるための新まちづくり手法

佐藤 滋、新まちづくり研究会 編著／A5判・256頁 本体3,200円+税
まちに住み続けたい人必読の実録&手引書。



アーキグラム

アーキグラム 編 浜田邦裕 訳

B5判・148頁 本体3,400円+税

60年代の寵児「アーキグラム」を1冊に編集

ポップとサイケの60年代、めくるめくドローイングで世界中の建築ヤッピーをとりこにしたアーキグラムグループ。彼らのマニフェスト「アーキグラム」誌を1冊に編集。新鮮な衝撃は少しも減じない。詳しい解説つき。

●目次 1. 建築／2. 消耗品化と消費者／3. リビング・シティ／4. ズーム／5. プラグイン／6. カプセル／7. やぶれた殻／8. 制御と選択／9. 終わりのなきもの／10. インスタント・シティ／11. モンテ・カルロ計画／12. 庭師の雑記帳／13. マウンド、ないしょの宝物／14. 夢、そしてマニフェスト

●関連図書

建築の解体 一九六八年の建築情況

磯崎新 著／A5判・450頁 本体4,200円+税
後のポストモダンの到来を予告した衝撃の書。

好評既刊書

建築図書の既刊書を中心に、話題の本を紹介しております。

既刊書すべてを収録した年度版の図書目録も用意しておりますので、ご請求ください。

当社のホームページ上でも既刊書を紹介しておりますのでご覧ください。



エコテック | 21世紀の建築

キャサリン・スレッサー 著 難波和彦 監訳
B4変・192頁 本体7,300円+税

ハイテクを駆使した建築デザインの、ヨーロッパを中心とした最新事例のドキュメント。単なるファッションではなく、サステナブルでエコロジカルな環境を追求する、21世紀を志向する新しい建築をヴィジュアルに紹介。



巨匠 フランク・ロイド・ライト

D.ラーキン、B.ファイファー 編 大木順子 訳
B5変形・240頁 本体3,200円+税

コルビュジエ、ミースとならぶ近代建築の巨匠であり、アメリカン・スピリッツの象徴である建築家フランク・ロイド・ライトの全貌を美しいカラー写真と平易な解説で紹介。没後40年を経た今日でも新鮮な感動を呼び起こす。



自然共生建築を求めて

宿谷昌則 著
A5判・192頁 本体2,300円+税

厳しい自然から人間を護るための建築が、生活の依拠するその自然に逆に負荷を与えてしまっている現在、エコロジカルな建築を技術的解決に還元するのではなく、生活様式との関係から理念としての在り様を説き起こす。



建築のイコノグラフィーとエレクトロニクス

ロバート・ヴェンチュリ 著 安山宣之 訳
A5判・296頁 本体4,300円+税

二冊の建築理論書で知られる著者が、80年代から90年代半、建築家として、その理念の検証と実現に向けてなされたあくなきたかひの全貌が綴られた書。真摯な姿、率直な筆致、読者を深い感動に誘う。



ガラス建築

SD編集部 編
A4変形・186頁 本体3,200円+税

パートⅠ：ガラス建築の現在と今後を予見させる作品群、海外5、国内8、作品を紹介。
パートⅡ：過去の作品を通して発展してきたガラス建築のファサード表現と技術を11の有名作品を通して紹介。ガラス建築年表付。



安らぎと緑の公園づくり

ヒーリング・ランドスケープとホスピタリティ

三宅祥介・浅野房世 共著
A5判・228頁 本体3,200円+税

生活に身近な緑空間が「いやし」の場となる意味合い、さらに介護者や高齢にとって歩いて行ける公園とは何か。初めてのヒーリングランドスケープを、究極の癒し、具体的事例、ガイドライン、ホスピタリティで解説。



ルドルフ・シンドラー

カリフォルニアのモダンリビング

デヴィッド・ゲバード 著 末包伸吾 訳
B5変形・192頁 本体3,700円+税

ウィーンでワグナー、ロースに、渡米してライトに師事した建築家シンドラーは、1900年代前半のカリフォルニアのモダンリビングを確立した。21世紀をむかえようとしている今、アメリカでも再評価の気運が高まっている。



21世紀の地域劇場

パブリックシアターの理念・空間・組織・運営への提案

清水裕之 著
A5判・248頁 本体3,700円+税

本書は21世紀に求められる新たな地域と劇場との関係をパブリックシアターと位置づけ、そのあり方を探る。市民の手で創造する新たな舞台芸術への提案を地域、劇場との関係をふまえて述べるもの。劇場関係者必読の書。



マリオ・ボッタ | 構想と構築

マリオ・ボッタ 著 古谷誠章 訳
B5変形・160頁 本体2,700円+税

自らの論理を語ることの少ない建築家ボッタがここでは単体の建築、都市的なプロジェクト、そして家具・照明器具などのデザインについて平明な語り口で述べており、魅力あふれるドローイングとともに彼の全貌を伝えている。



時間のなかの建築

M.ムスタファヴィ 他共著 黒石いずみ 訳
B5変判・144頁 本体2,800円+税

建築は竣工した時を「完成した」「理想的な」姿だと思われがちだが、実はその後の時間的経過と環境の作用によって変貌してゆく過程—ウェザリング（風化）を経てますます豊かになるものこそが真の建築のあり方だと論ずるユニークなエッセイ。

SDライブラリー

21世紀を築くデザイン叢書

本シリーズは、建築史および建築文化全般に及ぶ内容を扱い、特に空間デザインにウェイトを置き、明日の生活文化の構築に寄与できる叢書づくりを目指しています。

A5判の特長を生かしたビジュアルで、瀟洒かつ斬新な内容を盛り込み、新世紀へのかけ橋として、読者に親しまれるよう編集されたものです。

1 アール・デコの摩天楼

小林弘 著
272頁 本体3,400円+税

1920-30年代のニューヨークの摩天楼を分析し、アール・デコの摩天楼のデザインとはどんなものか、またアール・デコの時代とはどんな時代であったのかを、今日の問題に引き付けて詳しくかつ興味深く紹介。

2 屋外空間の生活とデザイン

J.ゲール 著 北原理雄 訳
248頁 本体3,300円+税

本書は、住宅地域や市街地の公共空間―広場や街路などの屋外空間―のデザインを、そこで住む人々の生活やそこで繰り広げられる行為や行動を、社会心理学および行動科学の立場から分析・考察し提案をするもの。

3 近代建築の系譜(上)(下)

W.J.R.カーティス 著 五島朋子、澤村明、末廣香織 共訳
各400頁 本体各4,600円+税

長い間待ち望まれていた本書は、近代建築史の全貌を通読に堪えるようにバランスの取れたタッチで描き出している。著者は、実用面、美的面、そして社会性の諸次元を重ね合わせたアプローチを採っている。感動的概論書!

4 アーキテクト 建築家とは何か

R.ルイス 著 六鹿正治 訳
306頁 本体3,800円+税

本書は建築学科の学生および卒業したての人たちに向けて、建築家とはどういう職業か、何を期待すべきかを説き、指針を与えるとともに、すでに第一線で活躍している建築家が自己を見詰め直し再認識するテキストである。

5 デザインの思考過程

P.ロウ 著 奥山健二 訳
256頁 本体3,300円+税

本書はデザインの過程での思索や思考の普遍化を試みている。いわば、建築や都市を創造するために、デザイナーが「探し出す」という個人的な次元に直接関係する考察の構造や探求の焦点を明らかにすることが目的である。

6 ガウディの七つの主張

鳥居徳敏 著
224頁 本体2,900円+税

本書は、同著者による「アントニオ・ガウディ」「ガウディの建築」につく3作目でありそれぞれ独立しているが三部作を構成する。今回は豊富な語録を頼りにガウディ建築の不可解さの解明を7章に分けて試みている。

7 イタリア・ルネッサンスの建築

P.マレー 著 長尾重武 訳
280頁 本体3,700円+税

本書は、15-16世紀を中心にルネッサンス建築を時代と都市、そして建築家という3つの視点から論じている。各章とも、建築家の主要作品が見やすい図版・写真により解説されており、イタリア主要都市を巡る良き案内書でもある。

8 光と風と構造 建築デザインと構造のミステリー

R.マーク 著 飯田喜四郎 訳
192頁 本体2,900円+税

本書は、複雑な構造物の応用解析などに用いる現代の工学的方法を平易に紹介し、それを古代から近世までの石造天井を架けた大建造物に適用した研究をまとめたもの。SD選書183「ゴシック建築の構造」の姉妹編。

9 バタンランゲージによる住宅の建設

C.アレグザンダー 他 著 中埜博 監訳
288頁 本体3,600円+税

著者は、現代の住宅生産システムの中でも、バタンランゲージの精神とその理論の枠の中で住宅建設が可能であることを証明した。また手作り住宅の設計・施工の方法を原理化し、住宅が格安にできることを説いている。

10 デ・アーキテクチュア 脱建築としての建築

J.ワインズ 著 大島哲蔵、三好南隆 共訳
322頁 本体4,200円+税

本書は、ミケランジェロからピカンまでの美術の成果を踏まえ、建築への新しい視点を探るものである。著者は本書によって、現代人の心を捉える建築表現を展望する。現代芸術家のプロジェクト・ポートフォリオを収録。

11 コラージュ・シティ

C.ロウ、F.コッター 共著 渡辺真理 訳
288頁 本体3,800円+税

20世紀の都市デザインを支配してきた理想都市の2つの方向性―未来派的ファンタジーと伝統的な都市へのノスタルジアの概念が調和した都市が著者の追求する都市の理想である。C.ロウの注目の書。

12 ミース再考 その今日的意味

K.フランク 著 澤村明、EAT 訳
224頁 本体3,300円+税

K.フランク、P.アイゼンマンら、現在第一線で活躍中の建築家・史家によるヴァラエティに富んだ評論集。従来のモダニズム賛否という二元論の視点から解き放ち、多角的にミースをとらえた親しみやすい一書。

13 ルイス・カーン建築論集

L.カーン 著 前田忠直 編訳
258頁 本体3,600円+税

「沈黙と光」という言葉に象徴される近代建築の巨匠ルイス・カーンの美しいディテールと崇高な空間の織りなす建築。それを産み出すフィロソフィを伝える10篇のステイトメントをまとめたオリジナル・アンソロジー。

14 メガロポリスを超えて

J.ゴットマン、R.A.ハーバー 共編 宮川泰夫 訳
352頁 本体5,700円+税

今日、高度情報化社会・テレコミュニケーションの発達に伴う巨大都市の再編成について論述し、未来都市の軌道修正を提言。中でも新しいキーワードによる、都市の地球規模での相互作用を全面的に留意しながら分析する。

15 18世紀の建築 バロックと新古典主義

J.サマーソン 著 堀内正昭 訳
208頁 本体3,400円+税

ヨーロッパの18世紀は、バロックとロココによって幕を開けた。諸都市では多くの教会堂や宮殿が建てられ、黄金期を迎える。後半になると新古典主義への転向がみられ、病院、刑務所、銀行などの世俗建築が建てられていった。

16 デザイン・ドリームス 映画に見る近代建築

D.アルブレヒト 著 萩正勝 訳
272頁 本体3,900円+税

美しい映画の演出は、20世紀初頭より近代建築の表現、セット・デザインの効果を重視。160余点のスケッチで、ミース、コルビュジエ、ライト他のモダニズムを検証。ヨーロッパからハリウッドにいたる映画界の躍進を「建築」で展覧。

17 アダムの家 建築の原型とその展開

J.リクワート 著 黒石いずみ 訳
296頁 本体4,000円+税

本書は、建築の原型という理念が建築史の中でどのように変化し実現されていったかを、ギリシャ、ローマの時代から現代に至るまでの主要な建築理論と建築作品を対象に考察した建築論の古典的名著。磯崎新氏も絶賛。

18 圏外からの建築 映画・写真・鏡・身体

D.アグレスト 著 大島哲蔵 訳
240頁 本体3,600円+税

著者アグレストは、本書の9つの章を通して、映画・写真・鏡・身体を参照しながら、機能主義に代表される硬直化したモダニズム都市イデオロギーを批判する。現代の問題の根幹をなす論点が縦横に展開される。

19 建築と非建築のはざままで

R.ハービンソン 著 浜田邦裕 訳
208頁 本体3,100円+税

本書は、建築を分析していくための新しいシンタックスを「建築の意味性」「虚構性」に見いだそうという視点から建築を語る建築論である。庭園、モニュメント、要塞、廃墟、絵画空間、イマジナリーな建築に言及する。

20 空間を生きる

R.ポフィール 著 太田泰人 訳
192頁 本体2,900円+税

バルセロナの現代建築家R.ポフィールが語る建築論。全体は権力、創造、建設の三部構成となっておりバルセロナ、パリ、ニューヨーク、モスクワと駆け巡る建築家の活動スタイルとその過程での様々な条件についての思索を通して建築理念を語る。

21 古典主義建築 オーダーの詩学

A.ツォニス 他著 藤井博巳、丸山洋志、藤山哲朗 訳
224頁 本体3,400円+税

古典主義建築を概観することにより、形の構造から古典的建築物を捉え直す方法を探るもの。多彩な凡例とその構成規則に対する分析により、建築のみならず音楽、絵画、演劇が共有する古典主義の生成規則を明らかにする。

SD選書

本選書は、高度に細分化し、専門化した現代文明のあらゆる課題をあつかいながら、新鮮でダイナミックな視点を提供し、各領域をつなぐかけ橋となるものです。

写真・図版を豊富にとり入れて、ヴィジュアルに編集し、

今日の造形文化に関心のあるすべての人々の感性と知性に鋭く訴えかける、新しいタイプの選書です。

建築思潮(建築家の建築論)

15 ユルバニズム

ル・コルビュジエ 著 樋口清 訳 本体1,800円

17 私と日本建築

A.レーモンド 著 三沢浩 訳 本体2,000円

21 建築をめざして

ル・コルビュジエ 著 吉阪隆正 訳 本体1,800円

33 輝く都市

ル・コルビュジエ 著 坂倉準三 訳 本体1,800円

49 住宅論

篠原一男 著 本体1,800円

95 建築とは何か

B.タウト 著 篠田英雄 訳 本体1,800円

96 続・住宅論

篠原一男 著 本体1,800円

111 モデュロール I

ル・コルビュジエ 著 吉阪隆正 訳 本体1,800円

112 モデュロール II

ル・コルビュジエ 著 吉阪隆正 訳 本体1,800円

120 人間の家

ル・コルビュジエ 他共著 西沢信弥 訳 本体1,800円

128 オレゴン大学の実験

C.アレグザンダー 著 宮本雅明 訳 本体1,800円

138 三つの人間機構

ル・コルビュジエ 著 山口知之 訳 本体980円

141 続建築とは何か

B.タウト 著 篠田英雄 訳 本体980円

142 四つの交通路

ル・コルビュジエ 著 井田安弘 訳 本体980円

143 ラスベガス

R.ヴェンチュリー 他共著 石井和雄 他共訳 本体1,800円

148 東方への旅

ル・コルビュジエ 著 石井勉 他訳 本体980円

154 住宅と宮殿

ル・コルビュジエ 著 井田安弘 訳 本体1,200円

157 エスプリ・ヌーヴォー

ル・コルビュジエ 著 山口知之 訳 本体1,200円

158 建築について(上)

F.L.ライト 著 谷川睦子 他共訳 本体1,800円

159 建築について(下)

F.L.ライト 著 谷川睦子 他共訳 本体1,200円

172 建築家の発想

石井和雄 著 本体1,800円

174 建築の多様性と対立性

R.ヴェンチュリー 著 伊藤公文 訳 本体1,800円

185 プレシジョン(上)

ル・コルビュジエ 著 井田安弘 他共訳 本体1,500円

186 プレシジョン(下)

ル・コルビュジエ 著 井田安弘 他共訳 本体1,500円

191 アルド・ロッシ自伝

A.ロッシ 著 三宅理一 訳 本体1,800円

204 ミース・ファン・デル・ローエ

D.スペース 著 平野哲行 訳 本体1,800円

205 表現主義の建築(上)

W.ベント 著 長谷川章 訳 本体1,500円

206 表現主義の建築(下)

W.ベント 著 長谷川章 訳 本体1,500円

207 カルロ・スカルパ

A.F.マルチアノ 著 浜口オサム 訳 本体1,800円

評論(現代建築)

63 近代建築

V.スカーリー 著 長尾重武 訳 本体1,500円

82 アメリカの建築とアーバニズム(上)

V.スカーリー 著 香山壽夫 訳 本体980円

83 アメリカの建築とアーバニズム(下)

V.スカーリー 著 香山壽夫 訳 本体980円

97 建築の現在

長谷川章 著 本体980円

131 アメリカ住宅論

V.スカーリー 著 長尾重武 訳 本体980円

139 インターナショナル・スタイル

H.R.ヒッチコック 他共著 武沢秀一 訳 本体1,800円

144 ル・コルビュジエ

C.ジェンクス 著 佐々木宏 訳 本体1,800円

150 近代建築の失敗

P.ブレイク 著 星野郁美 訳 本体1,800円

155 イタリアの現代建築

V.グレッグティ 著 松井宏方 訳 本体1,200円

212 建築計画の展開

W.M.ベニヤ 著 本田邦夫 訳 本体1,500円

建築家論

7 フランク・ロイド・ライト

谷川正己 著 本体1,800円

34 アルヴァ・アアルト

武蔵章 著 本体1,800円

123 ライトと日本

谷川正己 著 本体1,800円

132 タリアセンへの道

谷川正己 著 本体980円

165 アドルフ・ロース

伊藤哲夫 著 本体1,200円

170 ブルネッレスキ

G.C.アルガン 著 浅井朋子 訳 本体1,500円

181 ジュゼッペ・テッラーニ

B.ゼーヴィ 著 越沢隆 訳 本体1,500円

187 オットー・ワーグナー

H.グレッツェガー 他共著 伊藤哲夫 他共訳 本体1,800円

189 ルイス・マンフォード

木原武一 著 本体1,500円

196 オーギュスト・ペレ

吉田綱市 著 本体1,500円

197 アントニオ・ガウディ

鳥居徳敏 著 本体1,800円

217 ボッロミーニ

G.C.アルガン 著 長谷川正允 訳 本体1,800円

218 ヴィオレ・ル・デュク

羽生修二 著 本体1,800円

219 トニー・ガルニエ

吉田綱市 著 本体1,800円

222 パラディオへの招待

長尾重武 著 本体1,800円

226 ウィリアム・モリス

藤田治彦 著 本体1,800円

227 エーロ・サーリネン

穂積信夫 著 本体1,800円

建築論

78 実存・空間・建築

C.ノルベルグ=シュルツ 著 加藤邦男 訳 本体1,800円

124 空間として建築(上)

B.ゼーヴィ 著 栗田勇 訳 本体1,800円

125 空間として建築(下)

B.ゼーヴィ 著 栗田勇 訳 本体1,800円

130 建築空間…尺度

P.ブドン 著 中村貴志 訳 本体980円

134 思想としての建築

栗田勇 著 本体980円

168 モラルティと建築

D.ワトキン 著 榎本弘之 訳 本体1,200円

SD選書

221 古典建築の失われた意味

G.ハーシー 著 白井秀和 訳 本体1,800円

224 芸術としての建築

S.アバークロンビー 著 白井秀和 訳 本体1,800円

都市論

22 メガロポリス

J.ゴットマン 著 木内信蔵 訳 本体1,500円

58 新しい都市の人間像

R.イールズ 他共編 木内信蔵 監訳 本体780円

81 爆発するメトロポリス

W.H.ホワイト Jr. 他共著 小島得志 訳 本体980円

85 アーバン・ゲーム

M.ケンツレン 著 北原理雄 訳 本体980円

162 見えがくれする都市

横文彦 他共著 本体1,800円

164 環境計画論

田村明 著 本体1,800円

171 装置としての都市

月尾嘉男 著 本体1,500円

208 都市の街割

材野博司 著 本体1,500円

210 まちづくりの新しい理論

C.アレグザンダー 他著 難波和彦 監訳 本体1,800円

228 都市デザインの系譜

相田武文、土屋和男 共著 本体1,800円

232 都市・住宅論

東孝光 著 本体1,800円

デザイン

1 現代デザイン入門

勝見勝 著 本体1,800円

5 日本デザイン論

伊藤ていじ 著 本体1,800円

42 道具考

榮久庵憲司 著 本体1,500円

56 環境とデザイン

G.エクボ 著 久保真 訳 本体2,000円

149 建築鑑賞入門

W.W.コーディル 他共著 六鹿正治 訳 本体1,800円

156 バウハウス

杉本俊多 著 本体1,800円

167 水空間の演出

鈴木信宏 著 本体1,800円

178 木のこころ

G.ナカシマ 著 神代雄一郎 他共訳 本体1,800円

182 水のデザイン

D.ベミングハウス 著 鈴木信宏 訳 本体1,800円

188 環境照明のデザイン

石井幹子 著 本体1,800円

192 屋外彫刻

M.A.ロビネット 著 千葉成夫 訳 本体1,800円

194 トーネット曲木家具

K.マンク 著 宿輪吉之典 訳 本体1,500円

198 インテリアデザインとは何か

三輪正弘 著 本体1,800円

202 椅子のデザイン小史

大廣保行 著 本体1,800円

203 都市の道具

GK研究所、榮久庵祥二 著 本体1,500円

209 日本の伝統工具

土田一郎 著 秋山実 写真 本体1,800円

215 行動・文化とデザイン

清水忠男 著 本体1,800円

216 環境デザインの思想

三輪正弘 著 本体1,800円

223 ディスプレイデザイン

魚成祥一郎 監修 清水清 序文 本体1,800円

225 フラクタル造形

三井秀樹 著 本体1,800円

素材・技術

9 素材と造形の歴史

山本学治 著 本体1,800円

36 カテドラルを建てた人びと

J.ジャンペル 著 飯田喜四郎 訳 本体1,800円

67 木の文化

小原二郎 著 本体1,800円

72 ヴィラール・オヌクルの画帖

藤本康雄 著 本体780円

89 江戸建築と本途帳

西和夫 著 本体980円

183 ゴシック建築の構造

R.マーク 著 飯田喜四郎 訳 本体1,500円

201 自然な構造体

F.オットー 著 岩村和夫 訳 本体1,800円

日本建築史

4 江戸と江戸城

内藤昌 著 本体1,800円

12 新桂離宮論

内藤昌 著 本体2,000円

37 日本建築の空間

井上充夫 著 本体1,800円

53 茶匠と建築

中村昌生 著 本体1,800円

152 日本の近代建築(上)

稲垣栄三 著 本体1,800円

153 日本の近代建築(下)

稲垣栄三 著 本体1,500円

173 日本の空間構造

吉村貞司 著 本体1,800円

235 間(ま) 日本建築の意匠

神代雄一郎 著 本体2,400円

世界建築史

25 都市形成の歴史

A.コーン 著 星野芳久 訳 本体1,800円

66 天上の館

J.サマーソン 著 鈴木博之 訳 本体2,000円

140 北欧の建築

S.E.ラスムッセン 著 吉田哲郎 訳 本体980円

169 ペルシア建築

A.U.ポーブ 著 石井昭 訳 本体1,500円

175 広場の造形

C.ジッテ 著 大石敏雄 訳 本体1,800円

176 西洋建築様式史(上)

F.バウムガルト 著 杉本俊多 訳 本体1,800円

177 西洋建築様式史(下)

F.バウムガルト 著 杉本俊多 訳 本体1,800円

195 劇場の構図

清水裕之 著 本体1,800円

200 ヴェネツィア

陣内秀信 著 本体1,800円

213 スペイン建築の特質

F.チュエッカ 著 鳥居徳敏 訳 本体1,500円

214 アメリカの巨匠たち

P.ブレイク他 著 小林克弘 他共訳 本体1,800円

SD選書

美術・文化論

- 8 きもの文化史**
河野美英 著 本体1,800円
- 14 現代絵画の解剖**
木村重信 著 本体2,000円
- 19 芸術空間の系譜**
高階秀爾 著 本体1,800円
- 20 日本美の特質**
吉村貞司 著 本体1,800円
- 27 イタリアの美術**
A.プラント 著 中森義宗 訳 本体2,000円
- 35 幻想の建築**
坂崎乙郎 著 本体1,500円
- 46 キュビズムへの道**
D.H.カーンワイル 著 千足伸行 訳 本体1,800円
- 55 空間の生命**
坂崎乙郎 著 本体1,500円
- 75 部族社会の芸術家**
M.W.スミス 編 木村重信 他共訳 本体780円
- 106 光の死**
H.ゼーデルマイヤ 著 森洋子 訳 本体980円
- 114 ロマネスク 上**
H.フォション 著 神沢栄三 他共訳 本体1,800円
- 115 ロマネスク 下**
H.フォション 著 神沢栄三 他共訳 本体1,800円
- 116 ゴシック 上**
H.フォション 著 神沢栄三 他共訳 本体1,800円
- 117 ゴシック 下**
H.フォション 著 神沢栄三 他共訳 本体1,800円
- 146 鏡:虚構の空間**
由水常雄 著 本体980円
- 234 さあ横になって食べよう**
バーナード・ルドフスキー 著 奥野卓司 訳 本体1,800円

環境・アメニティ・都市

- 28 明日の田園都市**
E.ハワード 著 長素連 訳 本体1,800円
- 103 プライド・オブ・プレイス**
シヴィック・トラスト 著 井出久登 他共訳 本体980円
- 118 アメリカ大都市の死と生**
J.ジェコプス 著 黒川紀章 訳 本体1,800円
- 119 遊び場の計画**
R.ダットナー 著 神谷五男 他共訳 本体1,800円

- 129 都市はふるさとか**
F.レンツローマイス 著 武基雄 他共訳 本体980円
- 135 人間のための都市**
H.ペーターズ 著 河合正一 訳 本体980円
- 136 都市憲章**
磯村英一 著 本体980円
- 147 イタリア都市再生の論理**
陣内秀信 著 本体1,800円
- 220 住環境の都市形態**
P.バヌレ 他共著 佐藤方俊 訳 本体1,800円
- 233 ふれあい空間のデザイン**
清水忠男 著 本体1,800円

住宅

- 111 プライバシーとコミュニティー**
S.シャマイエフ 他共著 岡田新一 訳 本体1,800円
- 110 現代のコートハウス**
D.マッキントッシュ 著 北原理雄 訳 本体980円
- 133 建築VSハウジング**
M.ボウリー 著 山下和正 訳 本体980円
- 190 いえとまち**
鈴木成文 他共著 本体1,800円
- 211 建築環境論**
岩村和夫 著 本体1,800円

庭・ランドスケープ

- 23 日本の庭園**
田中正大 著 本体1,800円
- 43 ヨーロッパの造園**
岡崎文彬 著 本体1,800円
- 87 日本の公園**
田中正大 著 本体1,800円
- 98 都市の景観**
G.カレン 著 北原理雄 訳 本体1,800円
- 163 街の景観**
G.バーク 著 長素連 他共訳 本体1,200円
- 193 作庭記からみた造園**
飛田範夫 著 本体1,800円
- 229 サウンドスケープ**
鳥越けい子 著 本体1,800円
- 230 風景のコスモロジー**
吉村元男 著 本体1,800円

庭園から都市へ

材野博司 著 本体1,800円

心理学

- 145 デザインの認識**
R.ソマー 著 加藤常雄 訳 本体980円
- 161 建築形態のダイナミクス (下)**
R.アルンハイム 著 乾正雄 訳 本体1,200円
- 166 空間と情緒**
箱崎純一 著 本体1,500円

フィールドワーク (デザインサーベイ・人類学)

- 54 住居空間の人類学**
石毛直道 著 本体1,500円
- 59 京の町家**
島村昇他 編 本体1,800円
- 61 住まいの原型 I**
泉靖一 編 本体1,500円
- 76 キモノ・マインド**
B.ルドフスキー 著 新庄哲夫 訳 本体2,000円
- 77 住まいの原型 II**
吉阪隆正他 共著 本体2,000円
- 126 かいわい**
材野博司 著 本体1,800円
- 184 建築家なしの建築**
B.ルドフスキー 著 渡辺武信 訳 本体1,800円

情報

- 71 現代建築事典**
W.ベアント 編 浜口隆一 他監修 本体1,900円
- 91 イギリス建築の新傾向**
R.ランダウ 著 鈴木博之 訳 本体980円

建築関連雑誌

ARCHITECTURAL MAGAZINES' BACK NUMBER FAIR

バックナンバーフェア'99

'99.10/2(土)～11/14(日)

※一部の書店では開催期間が異なります。

全国37書店
同時開催

建築関連雑誌
出版9社の
協賛により、

バックナンバー
21誌を一堂に出品。

全国主要都市の
37書店で同時開催。

(一部の書店では開催期間が異なります。)

■出品出版社・出品予定誌

(株)エー・アンド・ユー [a+u]

(株)鹿島出版会 [SD]

(株)建築技術 [建築技術]

(株)建築資料研究社 [住宅建築・confort・造景]

(株)建築知識 [建築知識・パドマガ・CAD&CG・スーパームック]

(株)彰国社 [建築文化・施工・ディテール]

(株)商店建築社 [商店建築・Wind・SKブックス]

(株)新建築社 [新建築・住宅特集・JA]

(株)マルモ出版 [ランドスケープデザイン・マイガーデン]

※増刊・別冊・ムック含む

札幌市 丸善 札幌南一条店

(TEL 011-241-7254)

旭川市 ブックセンター富貴堂MEGA

(TEL 0166-29-2888)

仙台市 ジュンク堂書店 仙台店

(TEL 022-265-5656)

郡山市 岩瀬書店 富久山店

(TEL 024-936-2220)

宇都宮市 宇都宮ブックセンター

(TEL 028-627-7700)

前橋市 煥乎堂

(TEL 027-235-8111)

浦和市 須原屋

(TEL 048-822-5321)

習志野市 丸善 津田沼店

(TEL 047-470-8312)

(東京)

千代田区 三省堂書店 神田本店

(TEL 03-3233-3312)

中央区 八重洲ブックセンター 本店

(TEL 03-3281-8203)

新宿区 紀伊國屋書店 本店

(TEL 03-3354-0131)

渋谷区 大盛堂書店

(TEL 03-3463-0511)

豊島区 ジュンク堂書店 池袋店

(TEL 03-5956-6111)

横浜市 有隣堂 本店書籍館

(TEL 045-261-1231)

川崎市 紀伊國屋書店 川崎店

(TEL 044-245-0801)

富山市 BOOKSなかだ 本店

(TEL 076-492-1192)

金沢市 ブック宮丸 金沢南店

(TEL 076-244-3211)

長野市 平安堂 新長野店

(TEL 026-224-4545)

静岡市 静岡谷島屋 本店

(TEL 054-254-1301)

浜松市 浜松谷島屋

(TEL 053-453-9121)

名古屋市 丸善 名古屋栄店

(TEL 052-261-2251)

豊橋市 精文館書店

(TEL 0532-54-2345)

京都市 丸善 京都河原町店

(TEL 075-241-2168)

大阪市 旭屋書店 本店

(TEL 06-6313-1191)

大阪市 丸善 なんばOCAT店

(TEL 06-6635-3225)

大阪市 柳々堂書店

(TEL 06-6443-0167)

神戸市 ジュンク堂書店 三宮店

(TEL 078-392-1001)

松江市 松江今井書店 本店

(TEL 0852-24-2230)

岡山市 丸善 岡山シンフォニービル店

(TEL 086-233-4640)

広島市 丸善 広島本通店

(TEL 082-247-8763)

高松市 宮脇書店 本店

(TEL 087-851-3733)

松山市 紀伊國屋書店 松山店

(TEL 089-932-0005)

北九州市 井筒屋ブックセンタークエスト 小倉店

(TEL 093-522-3924)

福岡市 紀伊國屋書店 福岡天神店

(TEL 092-721-7755)

熊本市 紀伊國屋書店 熊本店

(TEL 096-322-5531)

大分市 晃星堂書店

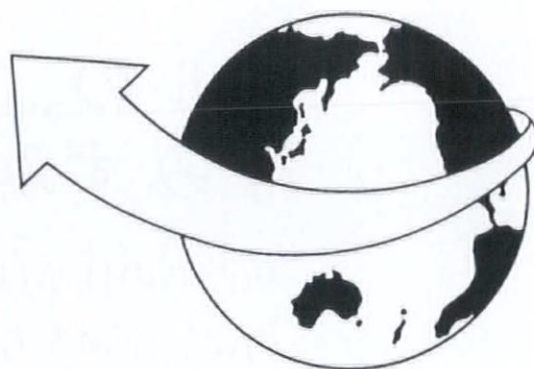
(TEL 097-533-0231)

鹿児島市 ジュンク堂書店 鹿児島店

(TEL 099-239-1221)

未来に向って…

限りある資源
限りある空間の中で
より快適な環境づくりの
ために努力しています。



●営業品目

空気調和・冷暖房・給排水・衛生設備・設計施工



株式会社朝日工業社

本社・東京支社 〒105-0013 東京都港区浜松町1-25-7 電話 03(3434)5711
大 阪 支 社 〒532-0031 大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(6302)2273
支 店 北海道／東北／北関東／横浜／名古屋／中国／九州

最先端のハーモニー。

さまざまな先端技術が調和して、「快適」という名のハーモニーを奏でる。トーエネックのエンジニアリングは、まさにそんなイメージです。電気設備をはじめ、情報通信・冷暖房・空調・防災設備など…。システム設計から施工・保守まで、高度で総合的な技術力を活かし、全国主要都市を拠点に幅広いネットワークでみなさまにお応えしています。オフィスビルやマンション、ホテル、工場、さらにはコミュニティ施設。あらゆるスペースを、心地よい技術のハーモニーで包み込みたい。インテリジェント&ヒューマン。私たちは、トーエネックです。

いろいろな技術を結んで、トータルに考える。
トーエネック エンジニアリング

先端技術で、システムする。
TOENEC

株式会社 トーエネック

本 店/名古屋市中区栄1-20-31 〒460-0008 ☎(052)221-1111
東京本店/東京都豊島区高島1-3-11 〒170-0002 ☎(03)5395-7111
大阪本店/大阪市淀川区新北野3-8-2 〒532-0025 ☎(06)6305-2181

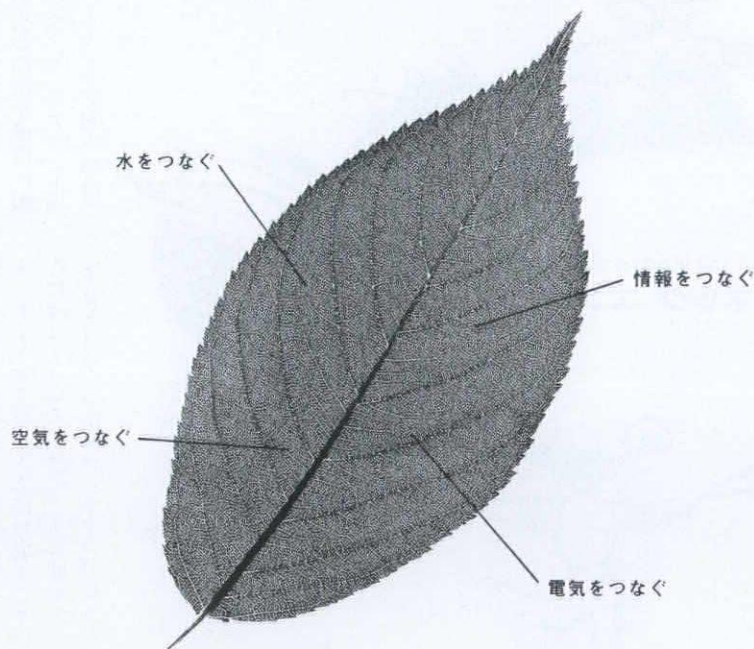
ビルの、工場の、街の、 すみずみに、つながろう。

私たちの仕事は、ビルに、工場に、
街に、生命を与える葉脈として、
そのすみずみにつながっています。
もっと、人が快適になる環境へ。

総合設備業の

リーディング・カンパニーとして、
先端の技術で、高度な未来を
提案し続けます。

あなたと快適をむすびます。



住友電設株式会社

大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 Tel 06(6537)3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 Tel 03(3454)7311

営業種目：電気設備／空調・給排水・衛生設備／
プラント設備／情報通信設備／電力流通設備／その他

SD誌に広告をお申込みの際は下記広告代理店にご用命下さい(五十音順)

東京——東京都中央区銀座8-2-1
新田ビル (3572) 3381
FAX (3572) 3590
大阪——大阪市北区西天満3-6-8
笹屋ビル06 (6362) 6515
FAX06 (6362) 6052

東京——東京都文京区湯島2-30-8
(3818) 1961
FAX (3818) 1968
大阪——大阪市中央区淡路町1-4-9
昭栄ビル 06 (6231) 4548
FAX06 (6227) 0268

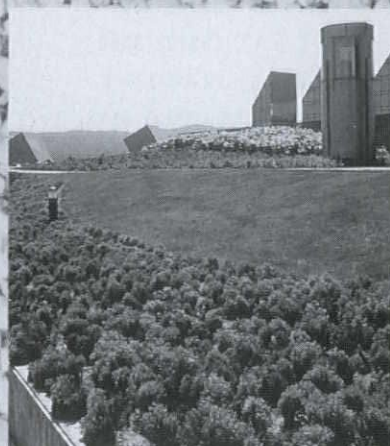
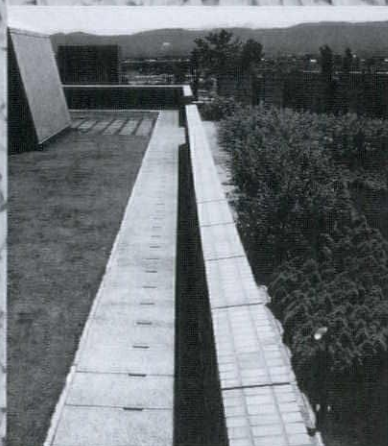
神奈川県三浦郡葉山町堀内533
0468-77-1207
FAX0468-77-1208

大阪——大阪市北区浪花町14-25
日本生命天六ビル06 (6379) 1791
東京——東京都千代田区神田須田町2-5-2
須田町佐志田ビル (3255) 8411
名古屋——名古屋市中区錦2-2-13
名古屋センタービル052 (221) 7641(代)

ア	(株)朝日工業社	A11
カ	鹿島	A4・A5
	軽井沢ホテル鹿島ノ森	A6
	川崎電気(株)	A9
	(株)関電工	A10
サ	三機工業(株)	109
シ	昭和アステック(株)	118
ス	住友電設(株)	A12
タ	高砂熱学工業(株)	表3
	大興物産(株)	A8
チ	(株)中電工	A9
ト	東光電気工事(株)	A1
	東洋熱工業(株)	120
	(株)トーエネック	A11
ニ	(株)西原衛生工業所	A3
	日新工業(株)	A14
ヒ	(株)日立製作所	表4
ホ	ホテルイースト21東京	A7
マ	松下電器産業(株)	A2
ミ	三菱電機(株)	115
ヤ	矢崎総業(株)	表2
	(株)ヤナセ	116



スタンダードへ



緑化を中心に、
潤いある都市空間づくりを。

快適な都市空間に、
自然の持つ潤いをプラスすることで、
私たちの空間はさらに豊かになります。
だから、緑化防水工法「カナート」。
インテリジェントと緑化を、
高次元で融合させ、新しいスタイルの
空間演出を可能にしています。
そして、働く、暮らす全ての人々に、
生き生きとしたコミュニケーションを
提供していきます。

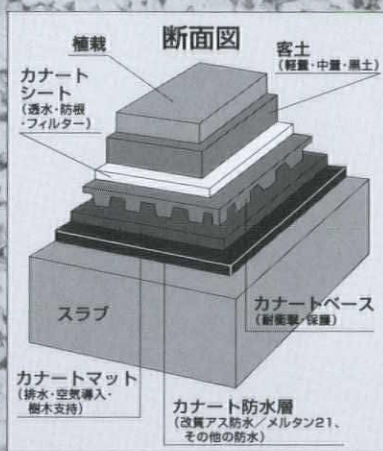
高度な建築技術でさらに広がる空間に、
緑を。未来の快適な都市空間づくりの
指針を「カナート」は示していきます。



カナート

緑化防水工法

- 信頼性を高めた防根・排水性。
- 快適性を向上した断熱・遮音効果。
- 従来の保護コンクリート施工は不要。
- あらゆる施工現場に対応する優れた防水力。
- 計画に合わせて選べる3種類の客土設定。
- 荷重の低減、工期の短縮、低予算等、
優れたコストパフォーマンスを実現。



日新工業株式会社



営業本部 ■ 〒103-0005 / 東京都中央区日本橋久松町9-2 TEL.03 (5644) 7211 (大代) <http://www.nisshinkogyo.co.jp>

横 浜 ■ TEL.045 (316) 7885 (代表)
千 葉 ■ TEL.043 (227) 9971 (代表)
春日部 ■ TEL.048 (761) 1201 (代表)

大 阪 ■ TEL.06 (6533) 3191 (代表)
名古屋 ■ TEL.052 (933) 4761 (代表)
福 岡 ■ TEL.092 (451) 1095 (代表)

札 幌 ■ TEL.011 (281) 6328 (代表)
仙 台 ■ TEL.022 (263) 0315 (代表)
広 島 ■ TEL.082 (294) 6006 (代表)

高 松 ■ TEL.087 (834) 0336 (代表)
金 沢 ■ TEL.076 (222) 3321 (代表)
本 社 ■ TEL.03 (3882) 2424 (大代)